

医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投 薬の実態調査並びにかかりつけ薬剤師・薬局の 評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況 調査報告書(案)＜結果概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 平成28年度診療報酬改定では、残薬解消や多剤・重複投薬の防止等に係る評価などの充実が図られたほか、湿布薬の処方に関して新たなルールが導入された。また、かかりつけ薬剤師・薬局の評価やいわゆる門前薬局の評価の見直し等が行われた。こうした改定の内容を踏まえ、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師・薬局の連携推進方策も含め、医薬品の適正使用や患者本位の医薬分業のさらなる推進を図るため、残薬や多剤・重複投薬の実態調査と薬局における調剤報酬改定の影響及び実施状況について調査を行い、診療報酬改定の効果・影響等を検証することを目的とする。

2 調査の対象及び調査方法

(1) 保険薬局調査

かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局及びかかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局から、それぞれ無作為抽出した1,000施設、計2,000施設に対し、平成29年7月に調査票を配布。

(2) 診療所調査・病院調査

診療所：①地域包括診療料の届出施設（全て）、②地域包括診療加算の届出施設の中から無作為抽出した診療所、③小児かかりつけ診療料の届出施設の中から無作為抽出した診療所、①～③合わせて1,000施設に対し、平成29年7月に調査票を配布。

病院：①地域包括診療料の届出施設（全て）、②①を除く病院の中から無作為抽出した施設、合わせて1,000施設に対し、平成29年7月に調査票を配布。

(3) 患者調査

上記(1)の保険薬局に調査期間中に来局した患者2名に対し、保険薬局を通じて調査票を配布。かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者がいる場合、優先的に2名、同意している患者がいない場合、来局順に患者2名を調査対象とした。

調査の概要②

3 回収結果

- 保険薬局調査の有効回答数は1,149件、有効回答率は57.4%であった。
- 診療所調査の有効回答数は467件、有効回答率は46.7%、病院調査の有効回答数は449件、有効回答率は44.9%であった。
- 患者調査の有効回答数は1,424件であった。

図表 1 回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査	2,000	1,149	57.4%
②診療所調査	1,000	467	46.7%
③病院調査	1,000	449	44.9%
④患者調査	—	1,424	—

4 薬局の属性

- 保険薬局調査では、平成29年6月末時点でかかりつけ薬剤師指導料等の届出をしている施設を「届出施設」(650施設、56.6%)、届出をしていない施設を「未届出施設」(499施設、43.4%)として分析を行った。

図表 2 本調査の回答薬局数と構成割合(かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別)

	施設数(件)	構成割合(%)
届出施設	650	56.6
未届出施設	499	43.4
全体	1,149	100.0

保険薬局調査の結果①

＜薬剤服用歴管理指導料の算定回数＞（報告書p36）

平成29年6月1か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定回数は次のとおりである。

図表 57 薬剤服用歴管理指導料の算定回数(全体、n=1,019) (単位:回)

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	600.8	483.6	539.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	137.1	211.9	70.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	384.8	611.5	206.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	15.5	78.2	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 58 薬剤服用歴管理指導料の算定回数(届出施設、n=590) (単位:回)

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	672.8	517.8	593.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	142.1	237.0	71.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	417.8	607.0	237.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	19.8	92.4	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった590施設を集計対象とした。

図表 59 薬剤服用歴管理指導料の算定回数(未届出施設、n=429) (単位:回)

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	501.7	412.7	473.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	130.2	171.7	68.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	339.3	615.5	166.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	9.7	52.2	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった429施設を集計対象とした。

保険薬局調査の結果②

＜重複投薬・相互作用等防止加算等の算定回数＞（報告書p37、39）

平成29年6月1か月間の重複投薬・相互作用等防止加算、在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料、外来服薬支援料、服薬情報等提供料の算定回数は次のとおりである。

図表 60 重複投薬・相互作用等防止加算の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	7.3	14.5	3.0
届出施設	590	9.5	17.6	4.0
未届出施設	429	4.2	7.9	1.0

（注）平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 63 外来服薬支援料の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.1	0.7	0.0
届出施設	590	0.1	0.7	0.0
未届出施設	429	0.1	0.6	0.0

（注）平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 61 在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.2	1.3	0.0
届出施設	590	0.3	1.4	0.0
未届出施設	429	0.1	1.0	0.0

（注）平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 65 服薬情報等提供料の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	1.2	21.3	0.0
届出施設	590	2.0	27.9	0.0
未届出施設	429	0.1	1.6	0.0

（注）平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

保険薬局調査の結果③

＜在宅患者訪問薬剤管理指導料、居宅療養管理指導費の算定回数＞（報告書p40）

平成29年6月1か月間の在宅患者訪問薬剤管理指導料、居宅療養管理指導費の算定回数は次のとおりである。

図表 67 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.9	6.5	0.0
届出施設	590	1.4	8.5	0.0
未届出施設	429	0.2	1.0	0.0

（注）平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 68 居宅療養管理指導費の算定回数

（単位：回）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	9.8	40.8	0.0
届出施設	590	14.4	50.7	1.0
未届出施設	429	3.5	18.6	0.0

（注）・平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。
・介護保険。介護予防を含む。

保険薬局調査の結果④

＜疑義照会の状況＞（報告書p43、44）

平成29年6月1か月間にかかりつけ薬剤師指導料等及び薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳は次のとおりである。

図表 73、74に基づき作成
かかりつけ薬剤師指導料等及び薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳（平成29年6月1か月間）
（かかりつけ薬剤師指導料等 届出施設、n=388 薬剤服用歴管理指導料 全体、n=715）
（単位：件）

		かかりつけ薬剤師指導料等				薬剤服用歴管理指導料			
		平均値		標準 偏差	中央値	平均値		標準 偏差	中央値
		件数 (件)	構成割合 (%)			件数 (件)	構成割合 (%)		
算定件数		40.9	100.0	90.2	9.5	1,136.9	100.0	799.5	979.0
1) 疑義照会を行った件数		3.8	9.2	12.3	0.0	33.6	3.0	49.5	18.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	0.9	2.2	4.3	0.0	6.7	0.6	14.3	2.0
	4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	1.3	3.1	4.5	0.0	11.5	1.0	22.6	4.0
	5) 重複投薬に関する件数	0.3	0.6	0.9	0.0	2.4	0.2	6.2	1.0
	6) 相互作用に関する件数	0.1	0.2	0.4	0.0	0.9	0.1	3.6	0.0
	7) 残薬の処方日数調整に関する件数	1.0	2.4	4.3	0.0	5.3	0.5	10.4	2.0
	8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	0.1	0.3	0.4	0.0	1.1	0.1	3.0	0.0
	9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	0.4	1.0	1.5	0.0	8.4	0.7	18.0	2.0
	10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	1.6	3.9	9.3	0.0	15.4	1.4	35.2	4.0

(注)・かかりつけ薬剤師指導料等は、届出施設のうち、平成29年6月1か月間のかかりつけ薬剤師指導料等の算定実績があり、平成29年6月1か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった388施設を集計対象とした。
・薬剤服用歴管理指導料は、平成29年6月1か月間の算定実績があり、平成29年6月1か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった715施設を集計対象とした。
・構成割合は「かかりつけ薬剤師指導料等の算定件数」及び「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」それぞれに対する各項目の割合。

保険薬局調査の結果⑤

＜かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等＞（報告書p48）

平成29年6月に処方せんを持参した患者のうち、平成29年5月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数及び平成29年6月に新規に同意を取得した患者数は次のとおりである。

図表 80 かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等（届出施設、n=606）

	平均値	標準偏差	中央値
1) 平成29年6月1か月間の処方せん受付回数(回)	1,169.7	929.0	1,035.0
2) 平成29年6月に処方せんを持参した患者のうち、平成29年5月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数(人)	28.2	73.2	4.0
3) 平成29年6月に処方せんを持参した患者のうち、平成29年6月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数(人)	3.0	16.1	0.0

（注）届出施設のうち、全ての項目について回答のあった606施設を集計対象とした。

保険薬局調査の結果⑥

＜かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と年齢構成割合＞（報告書p50）

平成29年6月1か月間にかかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者数と年齢構成割合は次のとおりである。

図表 87 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と年齢構成割合（届出施設、n=601）

（単位：人）

	平均値		標準偏差	中央値
	患者数(人)	構成割合(%)		
0～14歳	2.4	12.2	15.6	0.0
15～64歳	4.0	19.9	14.7	0.0
65～74歳	4.4	22.2	15.3	0.0
75歳以上	8.7	43.4	23.2	1.0
年齢不明	0.4	2.2	7.7	0.0
合計	20.0	100.0	51.7	3.0

（注）届出施設のうち、算定患者の年齢構成別人数について回答のあった601施設を集計対象とした。

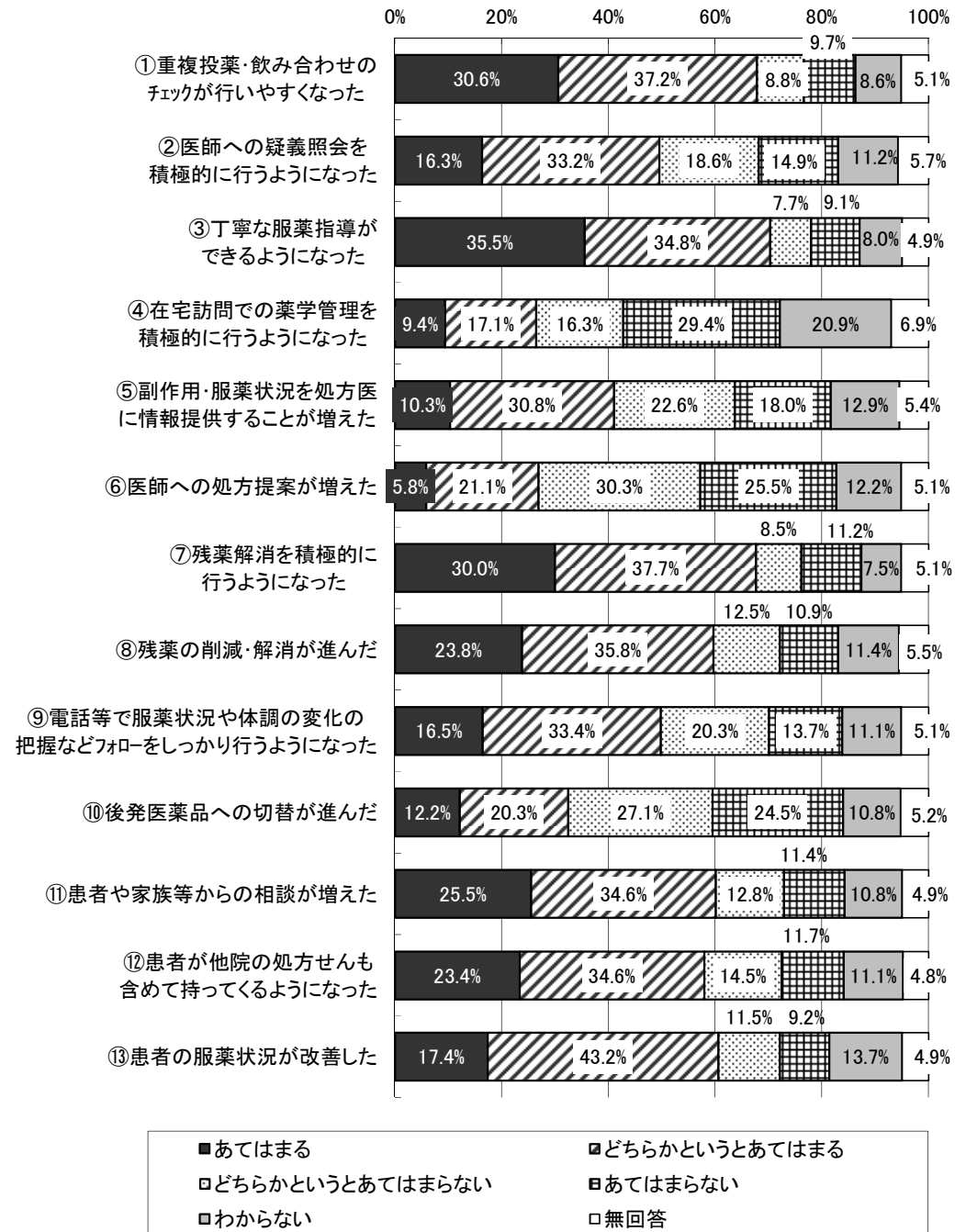
保険薬局調査の結果⑦

＜かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等＞（報告書p55）

届出施設を対象にかかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等を尋ねたところ、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「③丁寧な服薬指導ができるようになった」(70.3%)、「①重複投薬・飲み合わせのチェックが行いやすくなった」(67.8%)、「⑦残薬解消を積極的に行うようになった」(67.7%)、「⑬患者の服薬状況が改善した」(60.6%)「⑪患者や家族等からの相談が増えた」(60.1%)という順であり、いずれも6割以上となった。

他に「⑧残薬の削減・解消が進んだ」(59.6%)、「⑫患者が他院の処方せんも含めて持ってくるようになった」(58.0%)が6割近くとなった。

図表 96 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等
(届出施設、n=650)



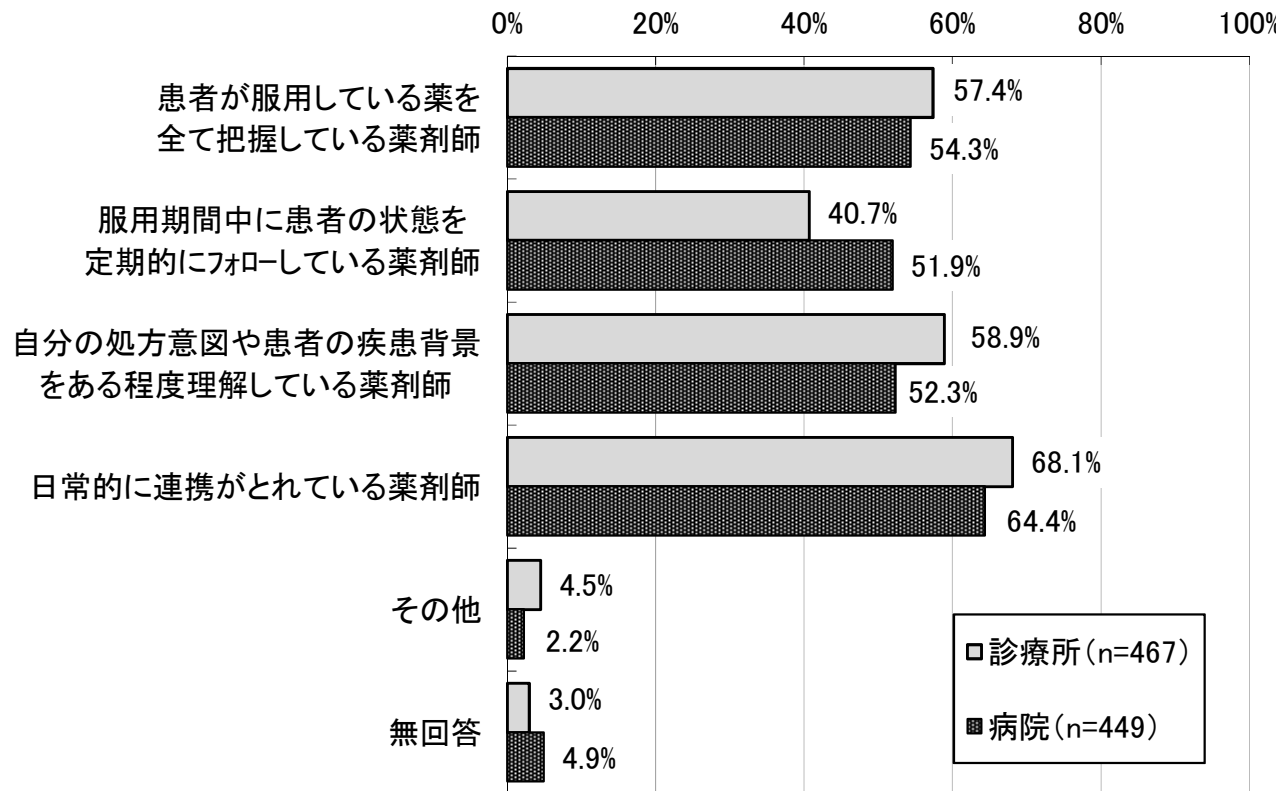
診療所・病院調査の結果①

＜薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師＞（報告書p81）

残薬、重複投薬・多剤投薬の改善など薬剤の適正使用を進めるにあたり、どのような薬局薬剤師であれば連携を図りたいと考えるか尋ねたところ、診療所、病院ともに「日常的に連携がとれている薬剤師」が最も多かった。

次いで、診療所では「自分の処方意図や患者の疾患背景をある程度理解している薬剤師」が、病院では「患者が服用している薬を全て把握している薬剤師」が多かった。

図表 162 薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師（複数回答）



（注）「その他」の内容として、以下の内容が挙げられた。

診療所：「生活指導や地域包括ケアシステムに明るい薬剤師」、「認知症の患者等にきちんと内服するよう指導できる薬剤師」、「訪問してチェックしてくれる薬剤師」等。

病院：「信頼関係が築けている薬剤師」、「精神疾患を有する患者、家族への理解が深い薬剤師」、「患者と信頼関係のある薬剤師」、「近い存在でコミュニケーションが十分にとれる薬剤師」、「連携システムが導入されている薬局の薬剤師」、「残薬調整をしっかりと行っている薬剤師」、「服薬アドヒアランスの把握ができている薬剤師」、「患者にきっちりと指導できる薬剤師」等。

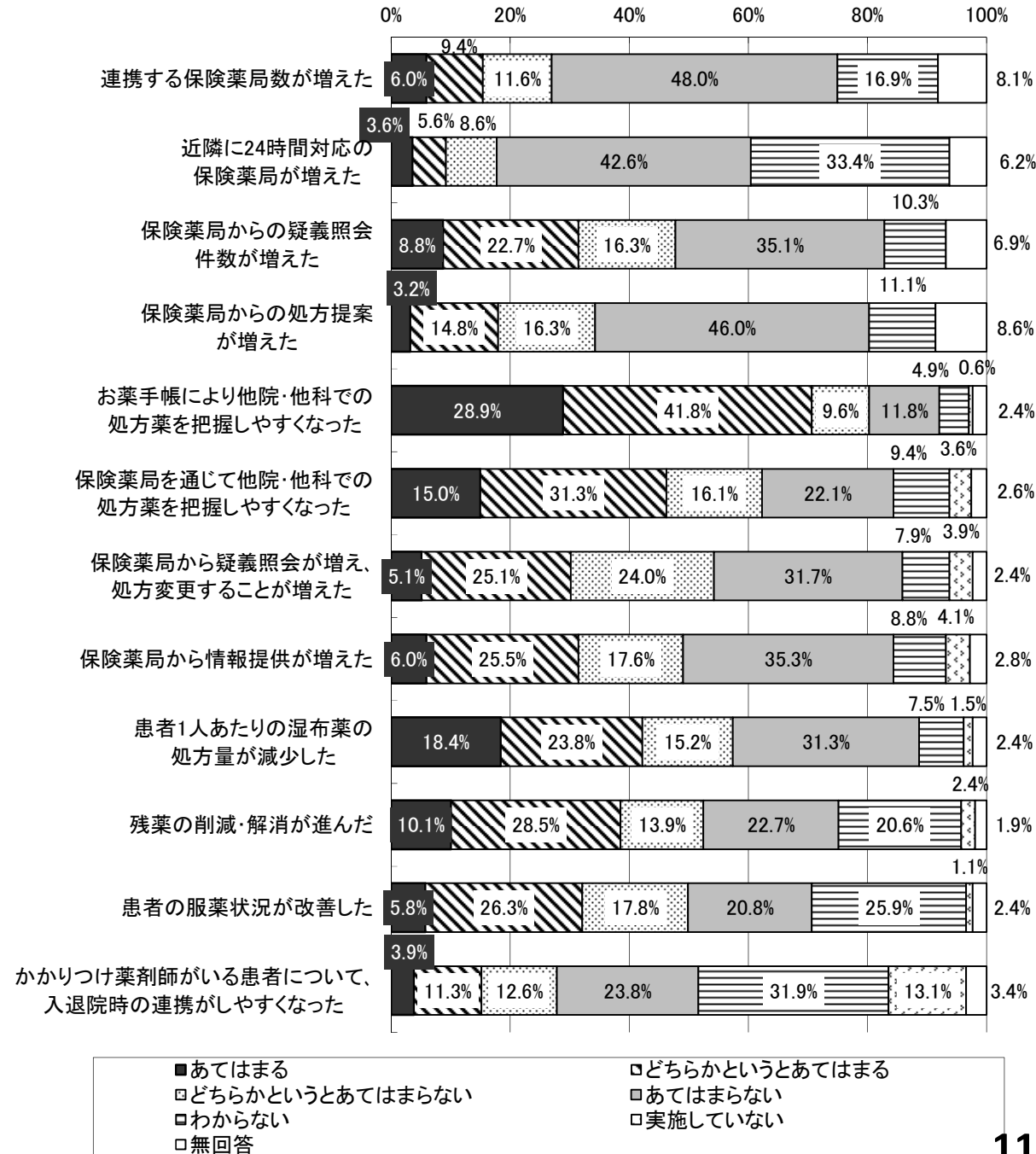
診療所・病院調査の結果②

＜平成28年度診療報酬改定の影響・効果等（診療所）＞（報告書p82）

診療所に対して、平成28年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねたところ、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(70.7%)、「保険薬局を通じて他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(46.3%)、「患者1人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(42.2%)であった。

一方で、「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の合計割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(62.3%)、「連携する保険薬局数が増えた」(59.6%)であった。

図表 163 平成28年度診療報酬改定の影響・効果等（診療所、n=467）

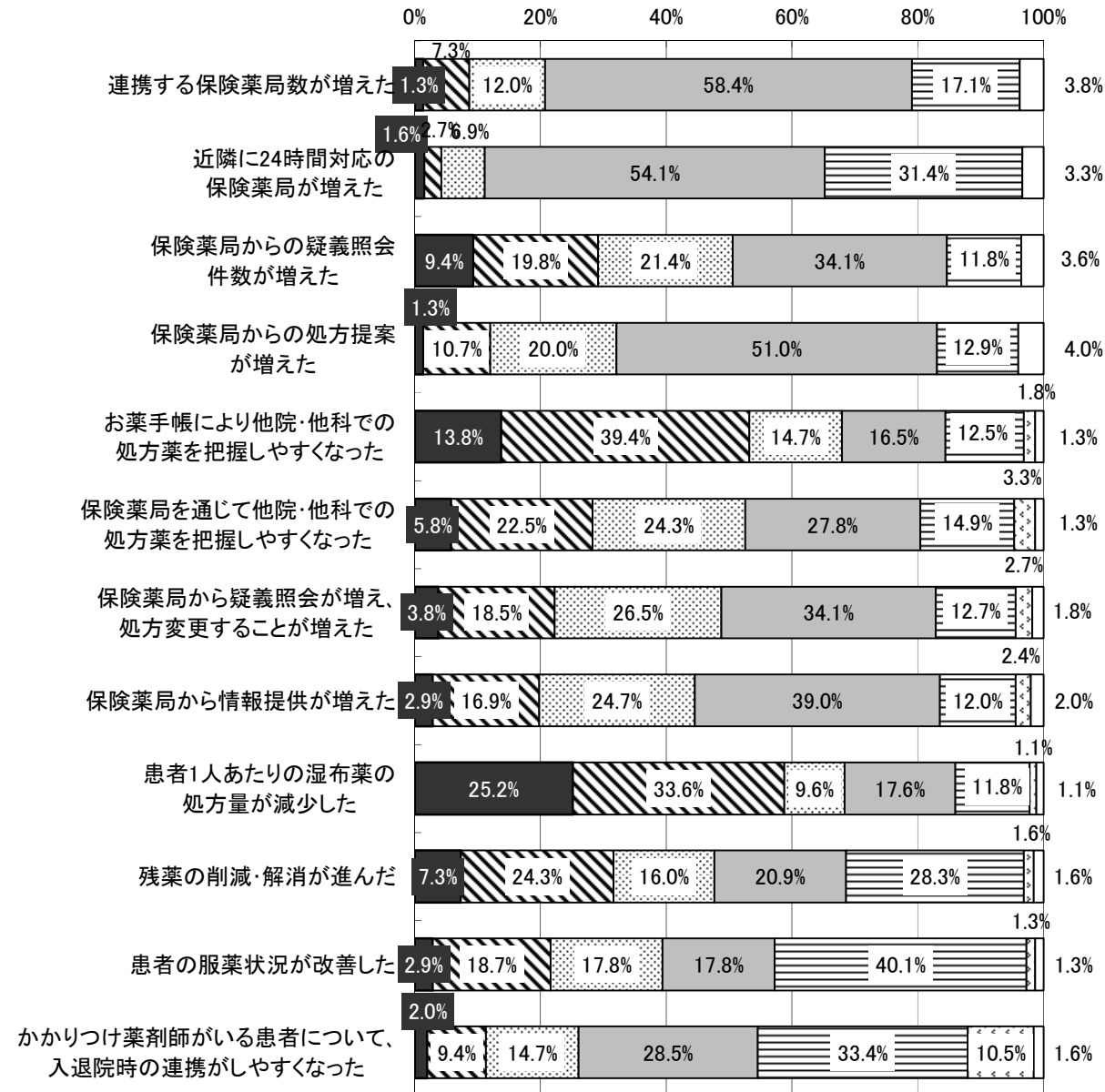


診療所・病院調査の結果③

＜平成28年度診療報酬改定の影響・効果等(病院)＞(報告書p84)

病院に対して、平成28年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねたところ、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「患者1人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(58.8%)、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(53.2%)であった。

一方で、「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(71.0%)、「連携する保険薬局数が増えた」(70.4%)であった。



図表 165 平成28年度診療報酬改定の影響・効果等(病院、n=449)

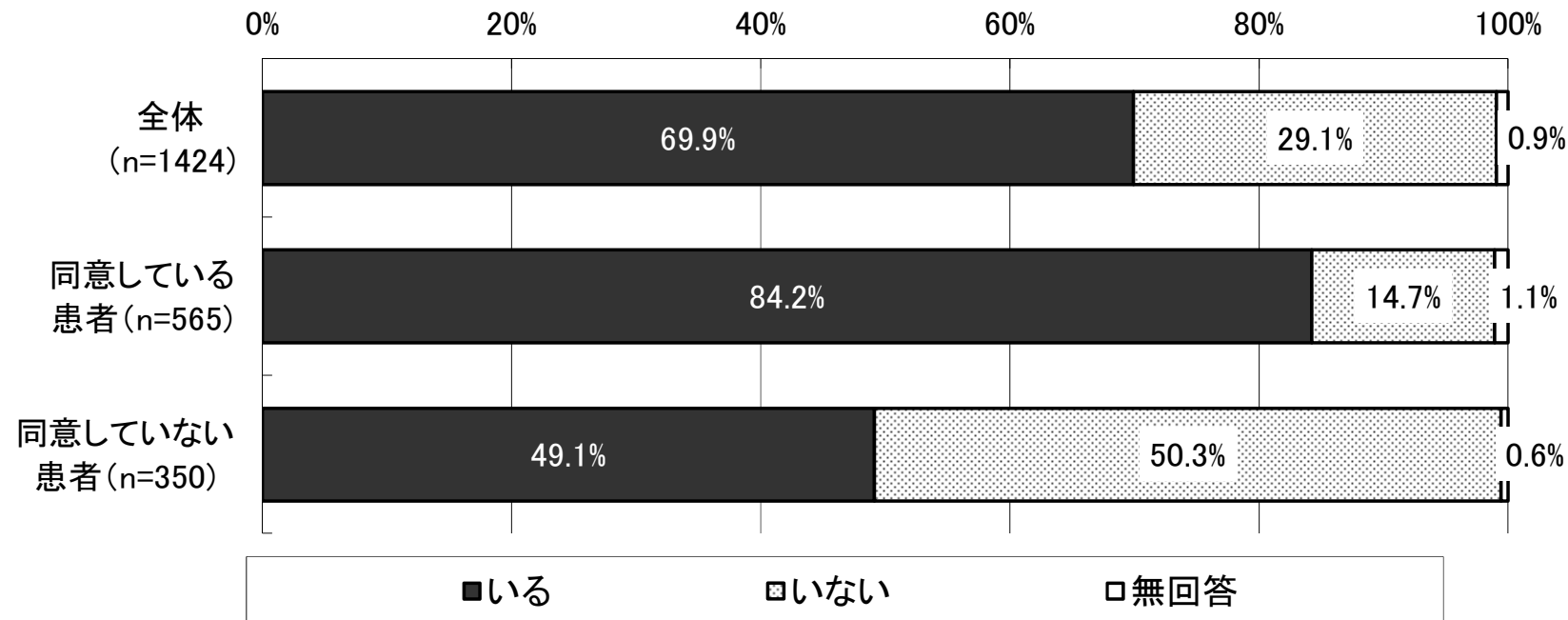
■あてはまる
 □どちらかというにあてはまらない
 □わからない
 □無回答
 ■どちらかというにあてはまる
 □あてはまらない
 □実施していない

患者調査の結果①

＜かかりつけ医の有無＞（報告書p99）

かかりつけ医の有無をみると、かかりつけ医が「いる」という回答が69.9%、「いない」が29.1%であった。

図表 190 かかりつけ医の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



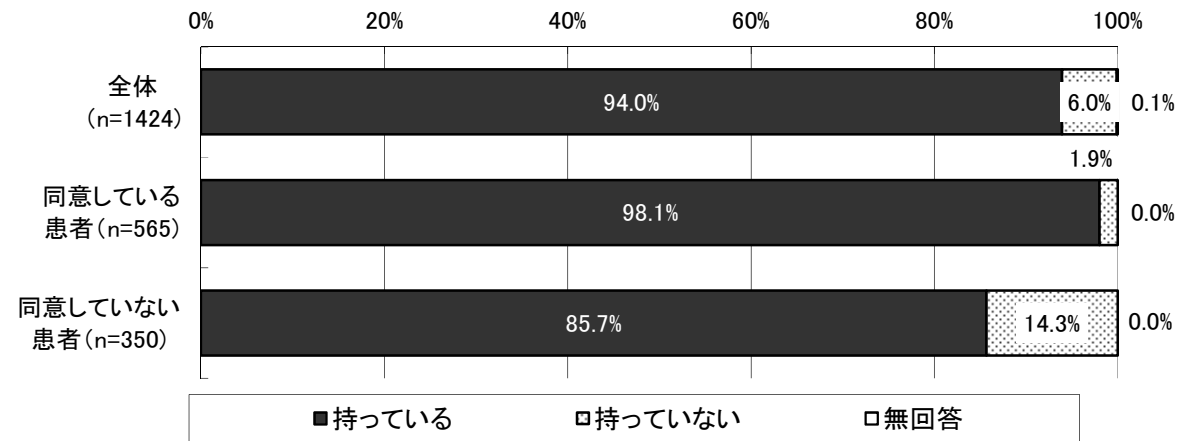
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

患者調査の結果②

＜お薬手帳の保有状況等＞（報告書p101、107）

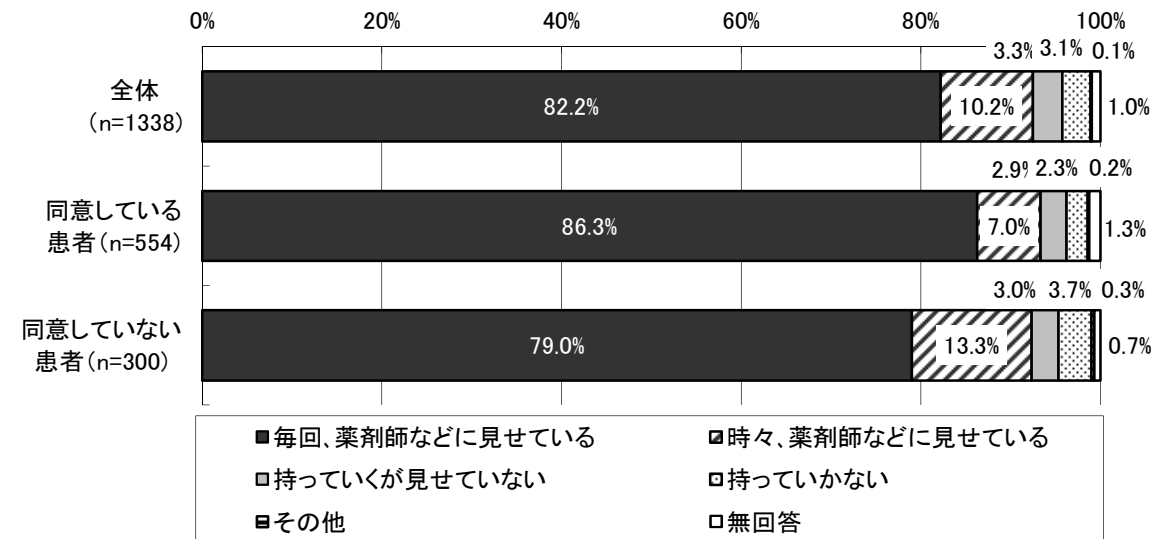
お薬手帳の保有状況は次のとおりである。また、薬局におけるお薬手帳の活用状況をみると、「毎回、薬剤師などに見せている」が82.2%、「時々、薬剤師などに見せている」が10.2%、「持っていくが見せていない」が3.3%、「持っていない」が3.1%であった。

図表 193 お薬手帳の保有状況
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

図表 205 薬局におけるお薬手帳の活用状況
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、
お薬手帳を保有している患者）



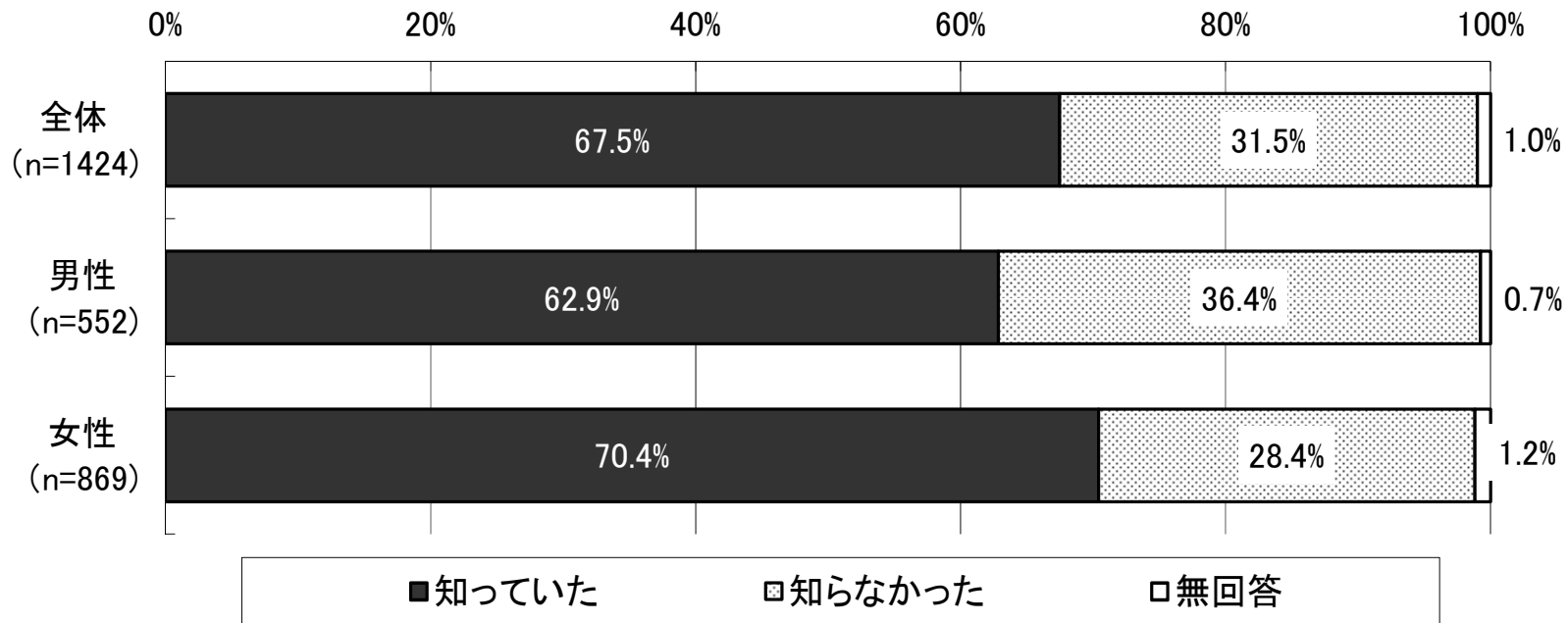
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者484人が含まれる。

患者調査の結果③

＜お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況＞（報告書p108）

お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況をみると、「知っていた」が67.5%、「知らなかった」が31.5%であった。

図表 206 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況（男女別）



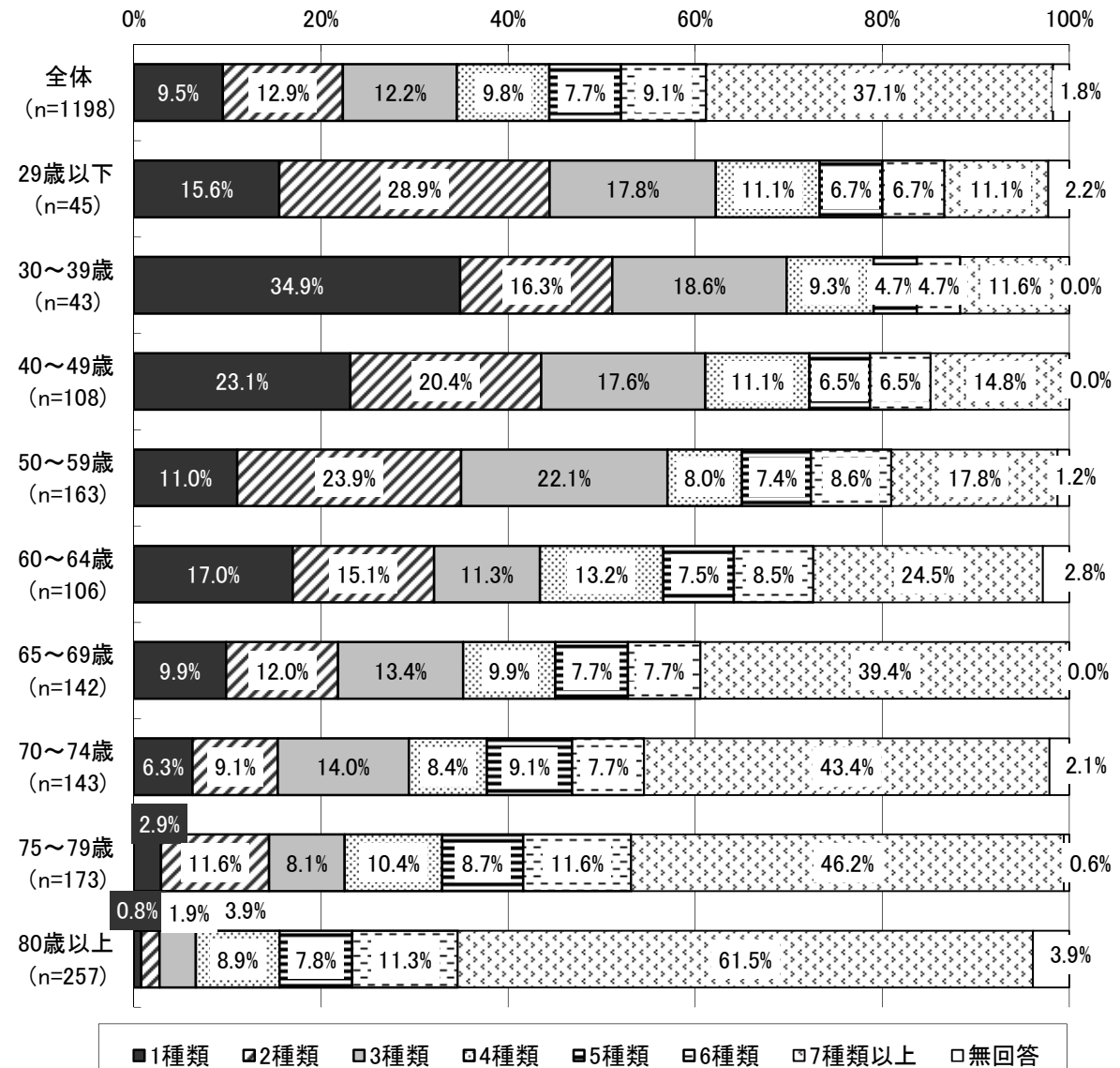
（注）「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

患者調査の結果④

＜現在、1日あたり使用している薬の種類＞（報告書p120）

現在、1日あたり使用している薬（飲み薬及び飲み薬以外の薬）の種類をみると、「7種類以上」が4割近くを占め、最も多かった。

図表 229 現在、1日あたり使用している薬
（年齢階級別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）



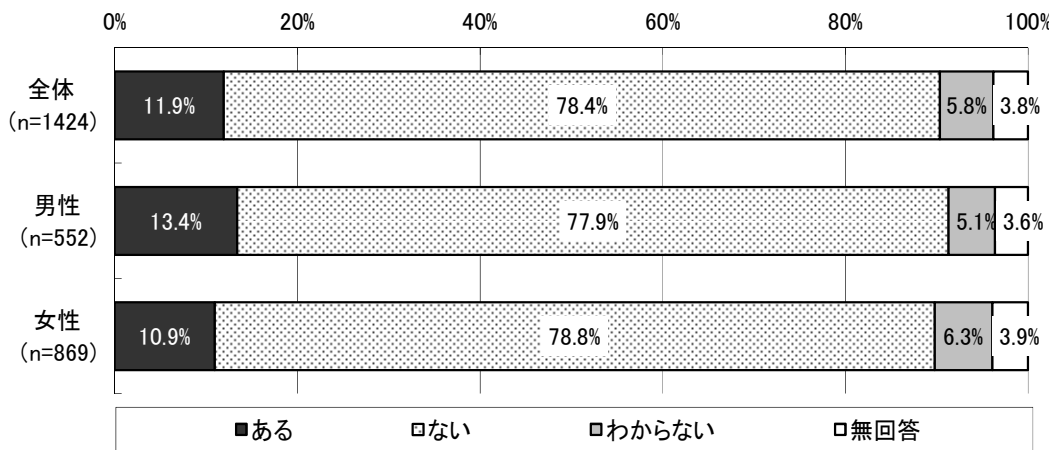
（注）「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

患者調査の結果⑤

＜薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無＞（報告書p139,140）

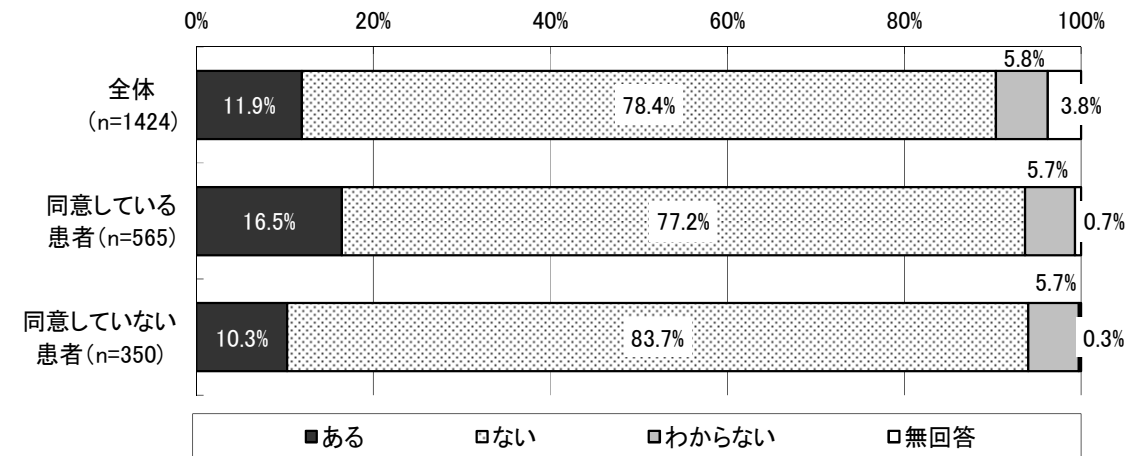
この1年くらいの間に、本日利用した薬局で、投与されている薬の重複や飲み合わせが悪いこと等がわかって、医師に薬を変更してもらったことがあるか尋ねたところ、「ある」という回答が11.9%、「ない」が78.4%、「わからない」が5.8%であった。

図表 256 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 258 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



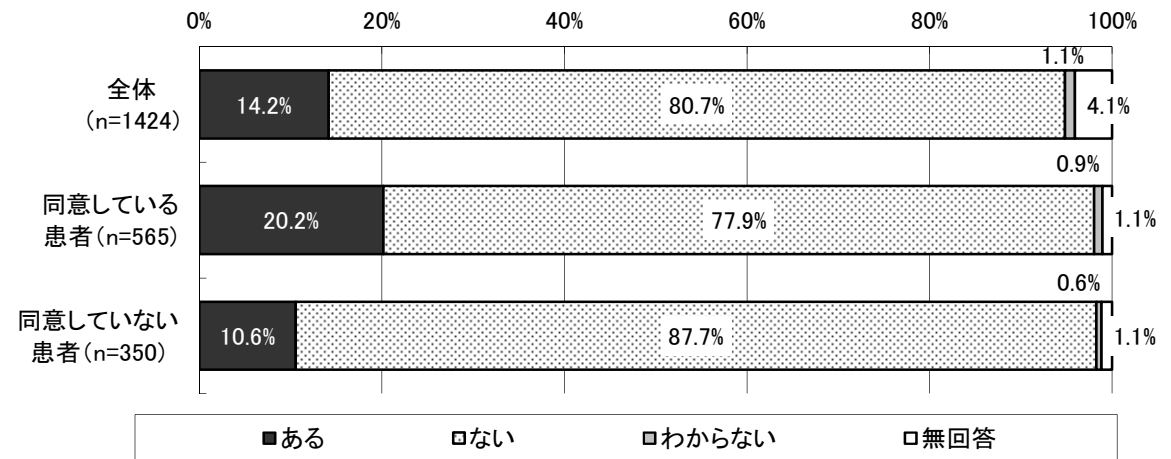
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

患者調査の結果⑥

＜残薬について薬局に相談した経験の有無等＞（報告書p142、143）

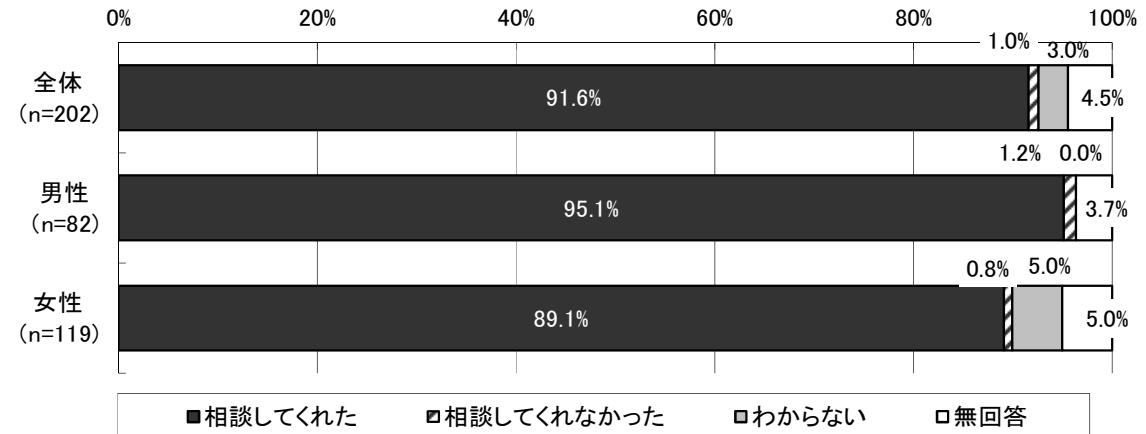
平成29年4月以降の、残薬について薬局に相談した経験の有無についてみると、「ある」が14.2%、「ない」が80.7%であった。また、残薬について薬局に相談したことが「ある」と回答した人に、残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたかを尋ねたところ、「相談してくれた」が91.6%、「相談してくれなかった」が1.0%、「わからない」が3.0%であった。

図表 261 残薬について薬局に相談した経験の有無
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

図表 262 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか（男女別、残薬について薬局に相談した経験がある患者）



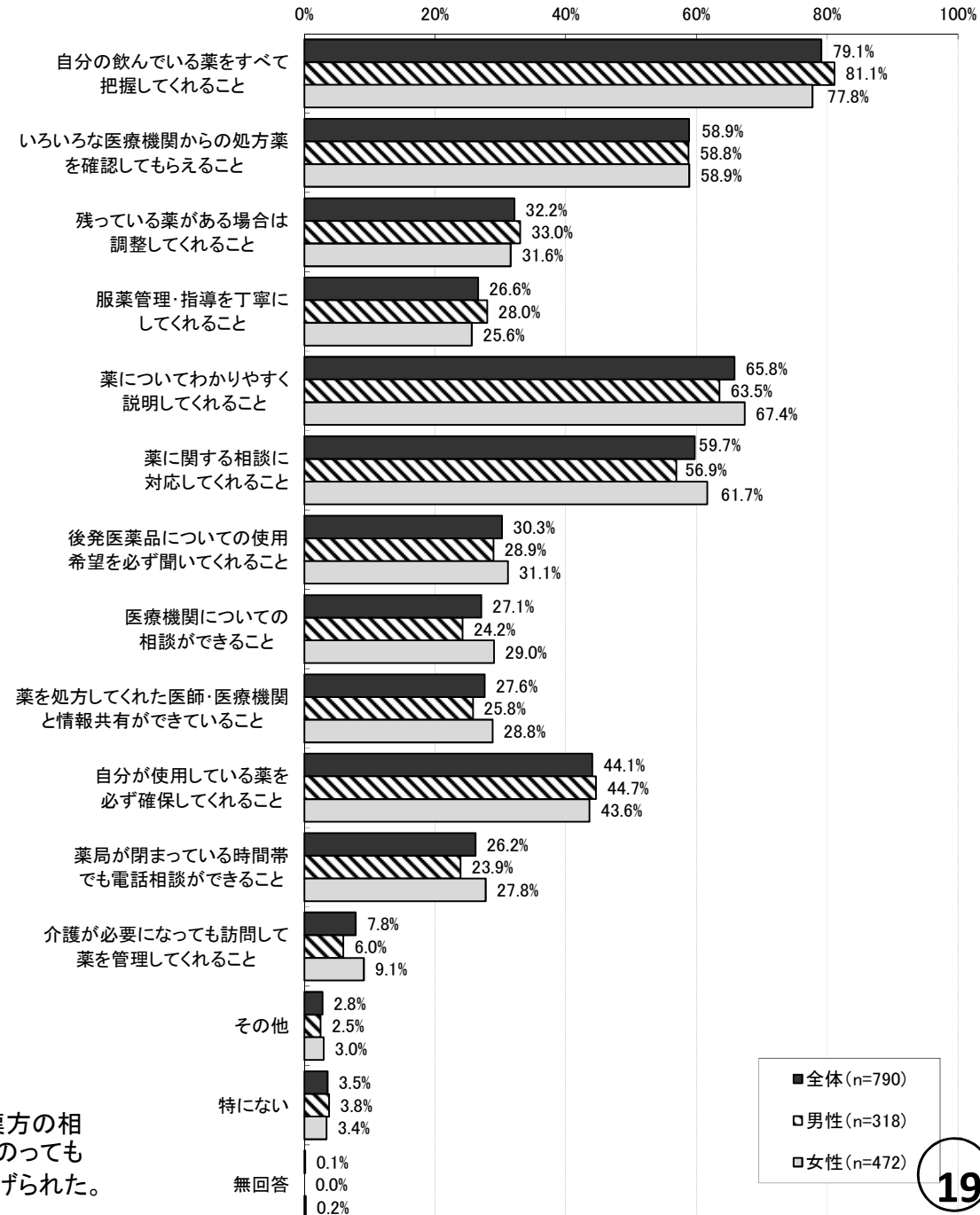
（注）「全体」には、性別について無回答の1人が含まれる。

患者調査の結果⑦

＜かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験＞（報告書p149）

「かかりつけ薬剤師」が「いる」と回答した人に対して、かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験について尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が79.1%で最も高く、次いで「薬についてわかりやすく説明してくれること」(65.8%)、「薬に関する相談に対応してくれること」(59.7%)、「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(58.9%)であった。

図表 271 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験（男女別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答）



(注)「その他」の内容として、「自宅まで来て対応してくれる」、「相談にのってもらえる」、「漢方の相談もできる」、「OTC薬についてもアドバイスをしてくれる」、「副作用が出た時に相談にのってもらい、同じ系統の薬を教えてくれる」、「医師の出した薬の量を確認してくれる」等が挙げられた。

平成２８年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２９年度調査）の
報告案について

○ 医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査並びにかかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査

・ 報告書（案）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ 頁
・ NDBデータ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ ６ ９ 頁
・ 調査票	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ ７ ０ 頁
・ 結果概要		※検－３－１と同様のため添付省略

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）

医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査
並びにかかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の
影響及び実施状況調査報告書（案）

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 保険薬局調査の結果	8
(1) 薬局の属性（平成 29 年 6 月末現在）	8
①かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況	8
②組織形態	9
③開設年	9
④同一法人等による薬局店舗数	10
⑤チェーン薬局の状況	11
⑥処方せんの応需状況	11
⑦売上高に占める保険調剤売上の割合	12
⑧調剤用医薬品の備蓄医薬品目数	13
⑨医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況	14
⑩患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無	14
(2) 調剤の状況等（平成 29 年 6 月末現在）	15
①調剤基本料	15
②処方せんの受付回数	16
③主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合	17
④特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無	18
⑤調剤基本料の注 1 ただし書きの該当状況	18
⑥1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況	19
⑦基準調剤加算	20
⑧後発医薬品調剤体制加算の算定状況	21
⑨後発医薬品調剤数量割合	22
(3) 薬局の体制等（平成 29 年 6 月末現在）	23
①管理薬剤師の状況	23
②職員数	24
③かかりつけ薬剤師の人数等	27
④土日の開局状況	29
⑤開局時間	31
⑥24 時間対応が可能な体制の整備方法	33
⑦地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況	35
(4) 薬学管理の取組状況等	36
①薬剤服用歴管理指導料等の算定回数（平成 29 年 6 月 1 か月間）	36

②在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数.....	41
③居宅療養管理指導費の1年間の算定回数.....	42
④疑義照会の状況.....	43
⑤平成28年4月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無.....	45
⑥重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組.....	47
(5) かかりつけ薬剤師に関する取組状況等.....	48
①かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等.....	48
②かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数等.....	49
③かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と年齢構成割合.....	50
④かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数.....	51
⑤かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無とその理由.....	52
⑥かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由.....	53
⑦かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向.....	54
⑧かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等.....	54
3. 診療所・病院調査の結果.....	58
(1) 施設の概要等.....	58
①開設者.....	58
②標榜診療科.....	59
③診療所の種別.....	59
④許可病床数.....	59
⑤職員数.....	61
⑥研修の受講状況.....	62
⑦在宅療養支援診療所・病院の状況.....	63
⑧地域包括診療料等の施設基準の届出状況.....	63
⑨診療所における時間外対応加算の種類.....	64
⑩救急医療体制等.....	64
⑪病院における承認等の状況.....	65
⑫診療所における在宅医療の実施状況.....	66
⑬診療所における診療報酬1,000点以上の手術の有無.....	67
(2) 外来診療の状況.....	68
①外来患者数.....	68
②各診療報酬の算定患者数と算定回数.....	68
(3) 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等.....	73
①外来における院外処方率.....	73
②いわゆる門前薬局の有無.....	73
③地域における24時間対応の薬局の有無.....	74
④連携している24時間対応の薬局の状況.....	74

⑤診療時間外の外来患者に対する処方状況.....	76
⑥院外処方せんにおける残薬確認のチェック状況	77
⑦院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況等.....	78
⑧湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響	80
⑨薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師	81
(4) 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等.....	82
①診療所	82
②病院.....	84
4. 患者調査の結果	86
(0) 記入者の属性等	86
①記入者と患者の関係	86
(1) 回答者の属性等	87
①かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況	87
②性別	89
③年齢.....	90
④公的医療保険の種類	91
⑤自己負担額の有無	93
(2) 医療機関や保険薬局の連携状況等.....	95
①定期的に受診している医療機関数	95
②かかりつけ医の有無	98
③お薬手帳の保有状況	100
④保有しているお薬手帳の数	101
⑤医療機関におけるお薬手帳の活用状況	104
⑥薬局におけるお薬手帳の活用状況	106
⑦お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況.....	108
⑧電子お薬手帳の利用意向	110
⑨定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無.....	112
⑩現在、1 日あたり使用している薬の種類	113
⑪処方せんを持っていく薬局の決め方.....	122
(3) 調査日に利用した薬局との関係等.....	125
①調査日に利用した薬局の利用期間	125
②平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況	127
③本日利用した薬局を選んだ理由	131
④本日利用した薬局を選んだ最大の理由	135
⑤薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無	139
⑥残薬について薬局に相談した経験の有無	141
⑦残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか.....	143
⑧結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか	145

(4) かかりつけ薬剤師についてのお考え等	147
①かかりつけ薬剤師の有無	147
②かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験.....	149
③かかりつけ薬剤師について重視すること	153
④かかりつけ薬剤師について最も重視すること	157
⑤かかりつけ薬剤師についての意向	161

I. 調査の概要

1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、残薬解消や多剤・重複投薬の防止等に係る取組として、①医療機関において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設や、②薬局において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設、③薬局において処方内容の疑義照会を行い処方変更した場合の評価などの充実が図られたほか、④医薬品の適正給付の観点から、湿布薬の処方に関して新たなルールが導入された。また、患者本位の医薬分業を進めるため、⑤患者の服薬状況を一元的かつ継続的に把握することを目的とした、かかりつけ薬剤師・薬局の評価やいわゆる門前薬局の評価の見直し等が行われた。

こうした改定の内容を踏まえ、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師・薬局の連携推進方策も含め、医薬品の適正使用や患者本位の医薬分業のさらなる推進を図るため、残薬や多剤・重複投薬の実態調査と薬局における調剤報酬改定の影響及び実施状況について調査を行い、診療報酬改定の効果・影響等を検証することを目的としている。

<主なねらい>

- ・ 残薬、重複・多剤処方の実態とこれらの削減に向けた保険医療機関や保険薬局の取組と効果の把握
- ・ 湿布薬の処方状況の把握
- ・ かかりつけ薬剤師指導料の算定状況とその効果の把握
- ・ かかりつけ薬剤師・薬局に関しての患者の意識の把握
- ・ お薬手帳の活用も含む薬剤服用歴管理指導料の算定状況とその効果の把握 / 等

2. 調査対象

本調査では、「保険薬局調査」、「診療所調査」、「病院調査」、「患者調査」の4つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

①保険薬局調査

- ・ 1) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局の中から無作為抽出した 1,000 施設、2) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,000 施設、1) 2) 合わせて 2,000 施設を対象とする。

②診療所調査

- ・ 1) 地域包括診療料の届出施設（悉皆）、2) 地域包括診療加算の届出施設の中から無作為抽出した診療所、3) 小児かかりつけ診療料の届出施設の中から無作為抽出した診療所、1) ～3) 合わせて 1,000 施設。

③病院調査

- ・ 1) 地域包括診療料の届出施設（悉皆）、2) 1) を除く病院の中から無作為抽出した施設、1) 2) 合わせて 1,000 施設。

④患者調査

- ・ 上記①の対象施設に調査期間中に来局した患者 2 名。
- ・ 患者の抽出方法は、1) かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者がいる場合、優先的に 2 名、2) 1) の該当患者がいない場合、来局順に患者 2 名を調査対象とする。

3. 調査方法

- ・ 施設調査（上記①②③）は、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 「①保険薬局調査」については「保険薬局票」を配布した。
- ・ 「②診療所調査」については「診療所票」を配布した。
- ・ 「③病院調査」については「病院票」を配布した。
- ・ 「④患者調査」については、保険薬局を通じて対象患者に「患者票」を配布した。
- ・ 患者調査の回収は、各患者から、事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。
- ・ 調査実施時期は、平成 29 年 7 月 20 日～平成 29 年 9 月 15 日である。

4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

区分	主な調査項目
(1)保険薬局調査	○薬局の概要 ・ 開設者、同一法人等による薬局店舗数、開設年、チェーン薬局、処方せんの応需状況、売上高に占める保険調剤売上の割合、調剤用医薬品の備蓄医薬品目数、後発医薬品調剤体制加算、後発医薬品調剤数量割合 ・ 調剤基本料の種類、全処方せんの受付回数、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合、特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無、同一グループにおける処方せんの受付回数の合計が 1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局かどうか、基準調剤加算の算定状況 ・ 医薬品医療機器情報配信サービスへの登録の有無、患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無 ○薬局の体制等について（平成 29 年 6 月現在） ・ 管理薬剤師について勤続年数、このうち当該店舗での勤続年数、保険薬剤師としての薬局勤務総年数、当該店舗における 1 週間の平均勤務時間 ・ 職員数と平均勤務時間 ・ 当該店舗に勤務する薬剤師数、このうち保険薬剤師として 3 年以上

	の薬局勤務経験がある薬剤師数、6 月以上在籍している薬剤師数、週 32 時間以上勤務している薬剤師数、薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数、「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数、「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数 ・ 土日の開設状況、平日（月～金）の 5 日間における開局時間、6 月の土曜日の総開局時間、6 月の日曜日の総開局時間、6 月の 1 か月間の開局日数等 ・ 24 時間対応が可能な体制の整備方法、24 時間対応が可能な体制を整えていない理由 ・ 地域薬剤師会等による当番制の実施の有無 ○調剤状況等について ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料、重複投与・相互作用等防止管理料、外来服薬支援料、ブラウンバッグ運動の取組によるもの、服薬情報等提供料、患者の服薬期間中に新たに知り得た安全性情報や服薬状況の確認及び必要な指導を患者に提供した場合、在宅患者訪問薬剤管理指導料、居宅療養管理指導費（介護予防を含む）の算定回数等 ・ 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少した、またはなかった最大の理由 ・ 平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日の 1 年間の在宅患者訪問薬剤管理指導料及び居宅療養管理指導費の算定回数 ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間に行った疑義照会の件数 ・ 平成 28 年 4 月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い「服薬情報提供料」を算定した経験の有無、情報提供を行った内容等 ・ 重複投薬や残薬を確認・削減するための取組 ○かかりつけ薬剤師に関する取組状況等について ・ かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の届出の有無 ・ 処方せんの受付回数、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済みの患者数、新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数 ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間におけるかかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と算定回数、年齢別患者数 ・ かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数 ・ かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしている
--	--

	にもかかわらず届出をしていない薬剤師の有無、届出をしていない薬剤師がいる場合の理由 ・ かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等 ・ かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない施設における理由、今後の届出意向等 ○「かかりつけ薬剤師」としての機能を強化する上での課題等
(2)診療所調査	○施設の概要 ・ 開設者、標榜診療科、(有床診療所の場合)許可病床数、全職員数 ・ 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無 ・ 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無 ・ 慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無 ・ 在宅療養支援診療所の届出状況 ・ 各種施設基準の届出状況 ・ 時間外対応加算の種類 ・ 現在の夜間救急対応の可否 ・ 在宅医療の実施状況 ・ 診療報酬 1,000 点以上の手術の有無 ○医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等 ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における外来患者数のうち、初診患者数及び再診延べ患者数等 ・ 外来の院内・院外処方の割合 ・ いわゆる門前薬局の有無 ・ 地域における 24 時間対応の薬局の有無、また連携している 24 時間対応の薬局の有無 ・ 診療時間外の外来患者に対する処方についての対応 ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における、地域包括診療料、地域包括診療加算、認知症地域包括診療料、認知症地域包括診療加算、小児かかりつけ診療料、薬剤総合評価調整加算、薬剤総合評価調整管理料、連携管理加算、在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定患者数と算定回数 ・ 院外処方せんにおける残薬確認にチェックをした処方せんの発行の有無、その枚数、処方日数調整を行った処方せん枚数 ・ 院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無、発行枚数、分割指示を行った処方せんの有無、分割調剤を行ってよかったこと、問題の有無、問題発生の内容等 ・ 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響の有無 ・ 薬剤の適正使用を進めるにあたり、連携を図りたい薬剤師

	平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等の状況
(3)病院調査	○施設の概要 - 医療機関名、所在地、開設者、標榜診療科、許可病床数、全職員数 - 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無 - 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無 - 慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無 - 承認等の状況 - 在宅療養支援病院の届出状況 - 地域包括診療料の施設基準の届出状況 - 救急医療体制 ○医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等 - 平成 29 年 6 月 1 か月間における外来患者数のうち、初診患者数及び再診延べ患者数等 - 外来の院内・院外処方の割合 - いわゆる門前薬局の有無 - 地域における 24 時間対応の薬局の有無 - 連携している 24 時間対応の薬局の有無 - 診療時間外の外来患者に対する処方についての対応 - 平成 29 年 6 月 1 か月間における、地域包括診療料、認知症地域包括診療料、薬剤総合評価調整加算、薬剤総合評価調整管理料、連携管理加算、在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定患者数と算定回数 - 院外処方せんにおける残薬確認にチェックをした処方せんの発行の有無、その枚数、処方日数調整を行った処方せん枚数 - 院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無、発行枚数、分割指示を行った処方せんの有無、分割調剤を行ってよかったこと、問題の有無、問題発生の内容等 - 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響の有無 - 薬剤の適正使用を進めるにあたり、連携を図りたい薬剤師 - 平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等の状況
(4)患者調査	○記入者の属性 - 記入者と患者との関係 ○属性等 - 性別、年齢、居住地（都道府県） - 加入している公的医療保険の種類、医療費の自己負担額の有無 ○医療機関や保険薬局の利用状況等 - 定期的に受診している医療機関の数

	・ かかりつけ医の有無 ・ お薬手帳の有無、保有しているお薬手帳の数、医療機関または薬局におけるそれぞれのお薬手帳の活用状況 ・ 電子お薬手帳の利用意向等 ・ 定期的に処方してもらっている薬の有無とその種類 ・ 処方せんを持っていく薬局の決定方法 ○調査日に利用した薬局について ・ 調査日に利用した薬局の利用年数 ・ 平成 29 年 4 月以降に処方せんを持って行った薬局の有無とその数 ・ 薬局を選んだ理由（薬局のサービス、薬剤師、立地等） ・ 1 年くらいの間に、投与されている薬の重複や飲み合わせが悪いこと等が薬局でわかり、医師に薬の変更を願い出た経験の有無 ・ 薬局に残っている薬を持っていき相談した経験の有無、その時の薬剤師の対応と結果 ○かかりつけ薬剤師についての考え ・ かかりつけ薬剤師の有無 ・ かかりつけ薬剤師がいることでよかったと思った経験等 ・ かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況 ・ かかりつけ薬剤師について重視していること ・ かかりつけ薬剤師を持つことの意向 ・ かかりつけ薬剤師・薬局についての意見等
--	--

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

川上 純一	国立大学法人浜松医科大学 教授 医学部附属病院 薬剤部長
坂巻 弘之	東京理科大学経営学部 教授
○ 関 ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授
中井 眞由美	株式会社メディカルマネッジ・ケン 統括業務部長
羽鳥 裕	公益社団法人日本医師会 常任理事
松原 由美	早稲田大学人間科学学術院 准教授
森 昌平	公益社団法人日本薬剤師会 副会長

Ⅱ．調査の結果

1．回収結果

保険薬局調査の有効回答数（施設数）は 1,149 件、有効回答率は 57.4%であった。

診療所調査の有効回答数（施設数）は 467 件、有効回答率は 46.7%で、病院調査の有効回答数（施設数）は 449 件、有効回答率は 44.9%であった。

患者調査の有効回答数は 1,424 件であった。

図表 1 回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査	2,000	1,149	57.4%
②診療所調査	1,000	467	46.7%
③病院調査	1,000	449	44.9%
④患者調査	—	1,424	—

2. 保険薬局調査の結果

【調査対象等】

調査対象：1) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局の中から無作為抽出した 1,000 施設、2) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,000 施設、1) 2) 合わせて 2,000 施設

回 答 数：1,149 施設

回 答 者：開設者・管理者

(1) 薬局の属性（平成 29 年 6 月末現在）

①かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況

本調査では、調査対象に記載したとおり、全国の保険薬局のうち、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料（以下、「かかりつけ薬剤師指導料等」とする）の届出施設の中から無作為に抽出した 1,000 施設、届出をしていない施設の中から無作為に抽出した 1,000 施設を対象施設とした。

本調査では、平成 29 年 6 月末時点のかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況を尋ねているが、その結果は以下のとおりである。

本報告書では、平成 29 年 6 月末時点でかかりつけ薬剤師指導料等の届出をしている施設を「届出施設」(650 施設、56.6%)、届出をしていない施設を「未届出施設」(499 施設、43.4%)として分析を行った。

図表 2 本調査の回答薬局数と構成割合（かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別）

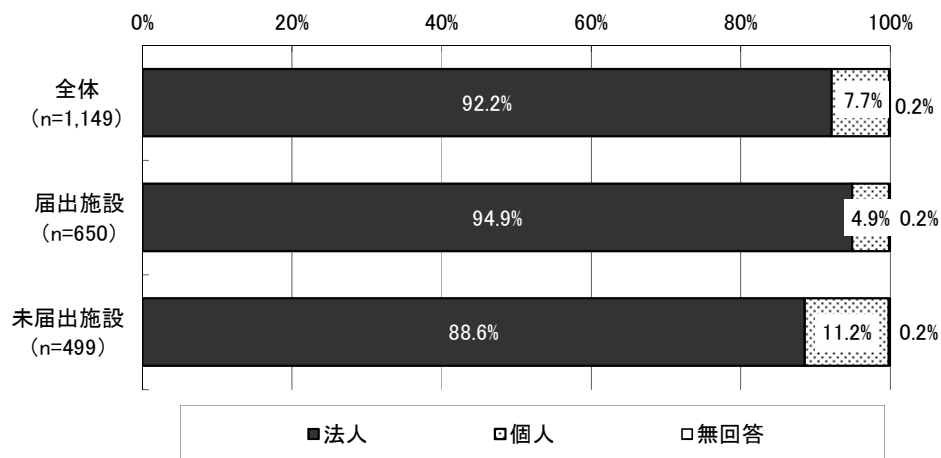
	施設数(件)	構成割合(%)
届出施設	650	56.6
未届出施設	499	43.4
全体	1,149	100.0

(参考)届出施設におけるかかりつけ薬剤師指導料等の算定状況(平成 29 年 6 月 1 か月間)

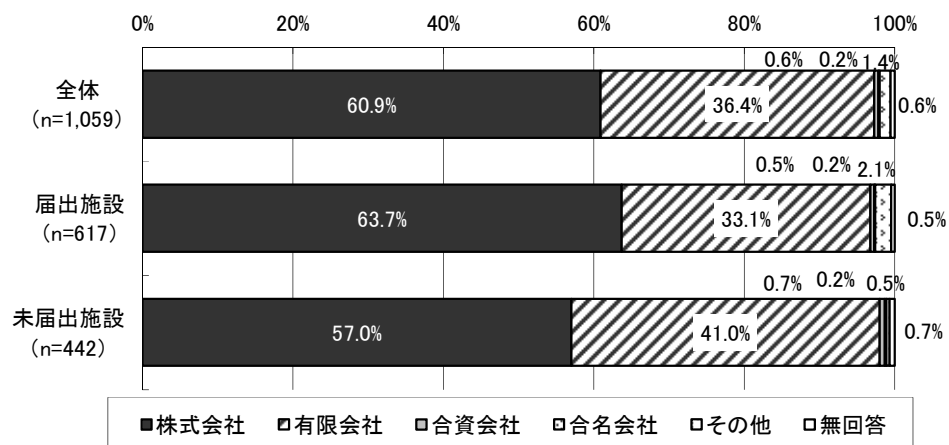
	施設数(件)	構成割合(%)
算定回数が 1 回以上の施設	473	72.8
算定回数が 0 回の施設	162	24.9
算定回数が無回答の施設	15	2.3
全体	650	100.0

②組織形態

図表 3 組織形態



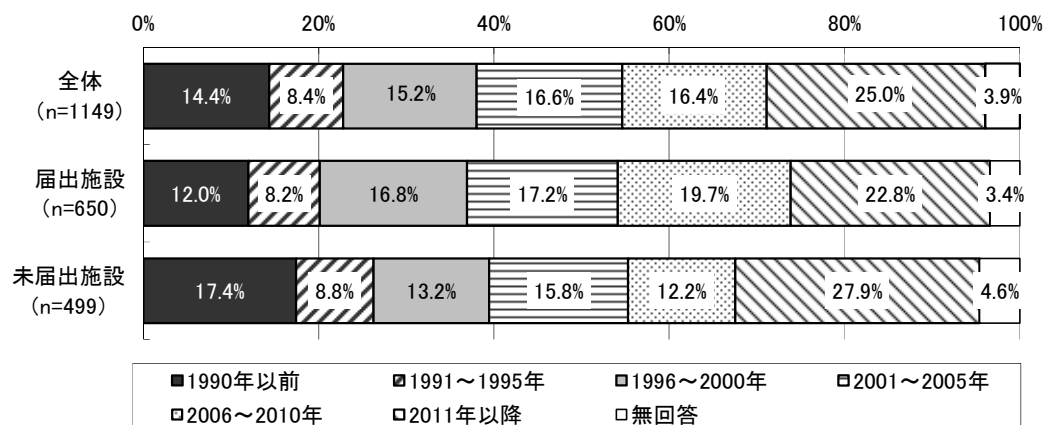
図表 4 法人立薬局の内訳（「法人」と回答した薬局）



（注）「その他」の内容として、「一般社団法人」が挙げられた。

③開設年

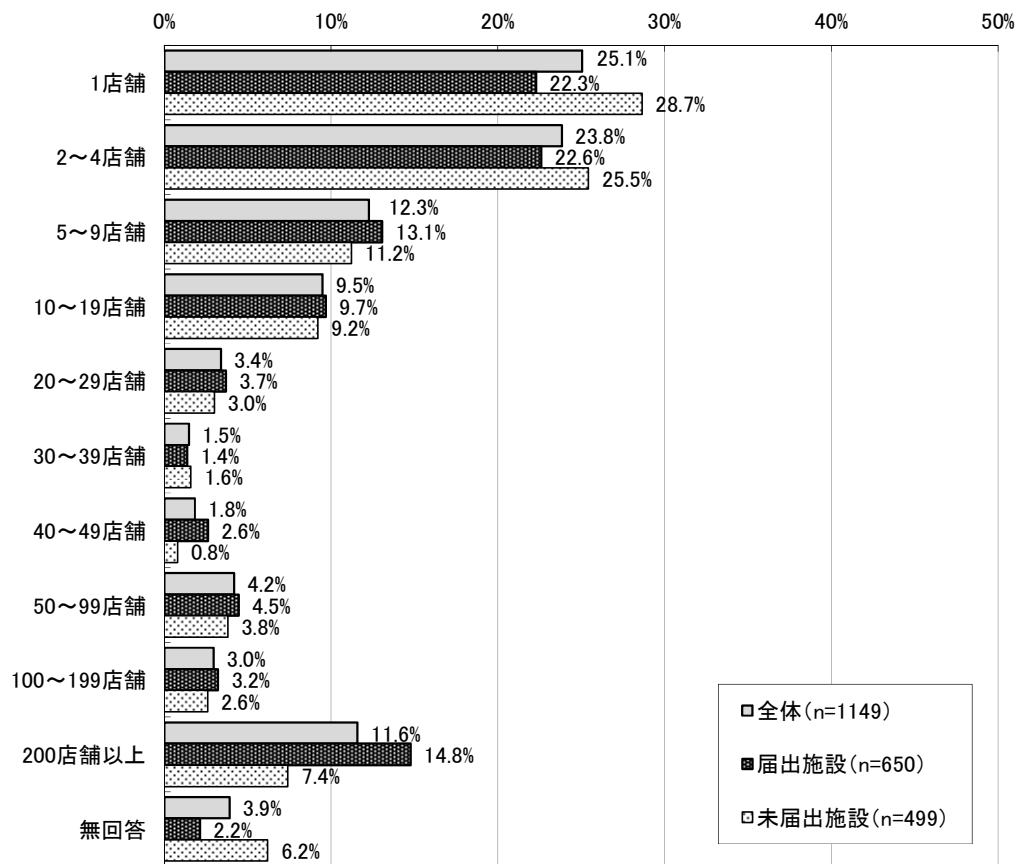
図表 5 開設年



④同一法人等による薬局店舗数

同一法人等による薬局店舗数をみると、届出施設では平均 98.3 店舗（中央値 6.0）、未届出施設では平均 64.7 店舗（中央値 3.0）であった。

図表 6 同一法人等による店舗数別の薬局分布（単数回答）



図表 7 同一法人等による店舗数

（単位：店舗）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,104	84.0	208.1	4.0
届出施設	636	98.3	212.1	6.0
未届出施設	468	64.7	201.1	3.0

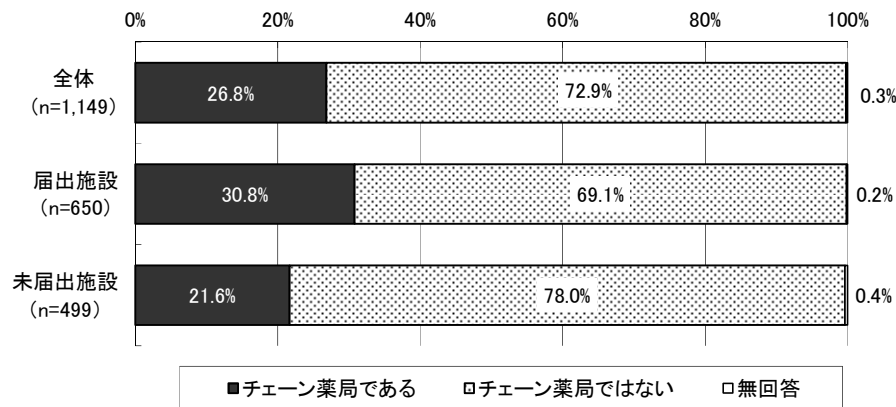
（注）・自店舗を含む薬局の店舗数。

・同一法人等による薬局店舗数について回答のあった 1,104 施設を集計対象とした。

⑤チェーン薬局の状況

チェーン薬局の状況を見ると、「チェーン薬局である」の割合は、届出施設が 30.8%、未届出施設が 21.6%であった。

図表 8 チェーン薬局の状況

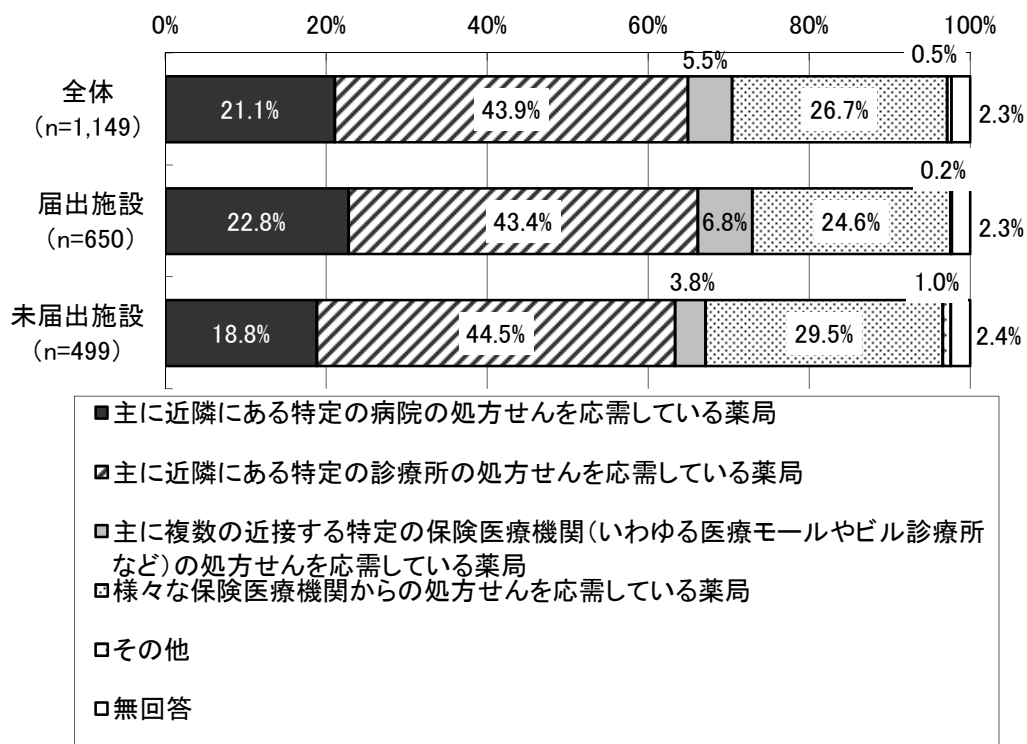


(注) 本調査では 20 店舗以上を所有する薬局を「チェーン薬局」と定義している。

⑥処方せんの応需状況

処方せんの応需状況は次のとおりである。

図表 9 処方せんの応需状況

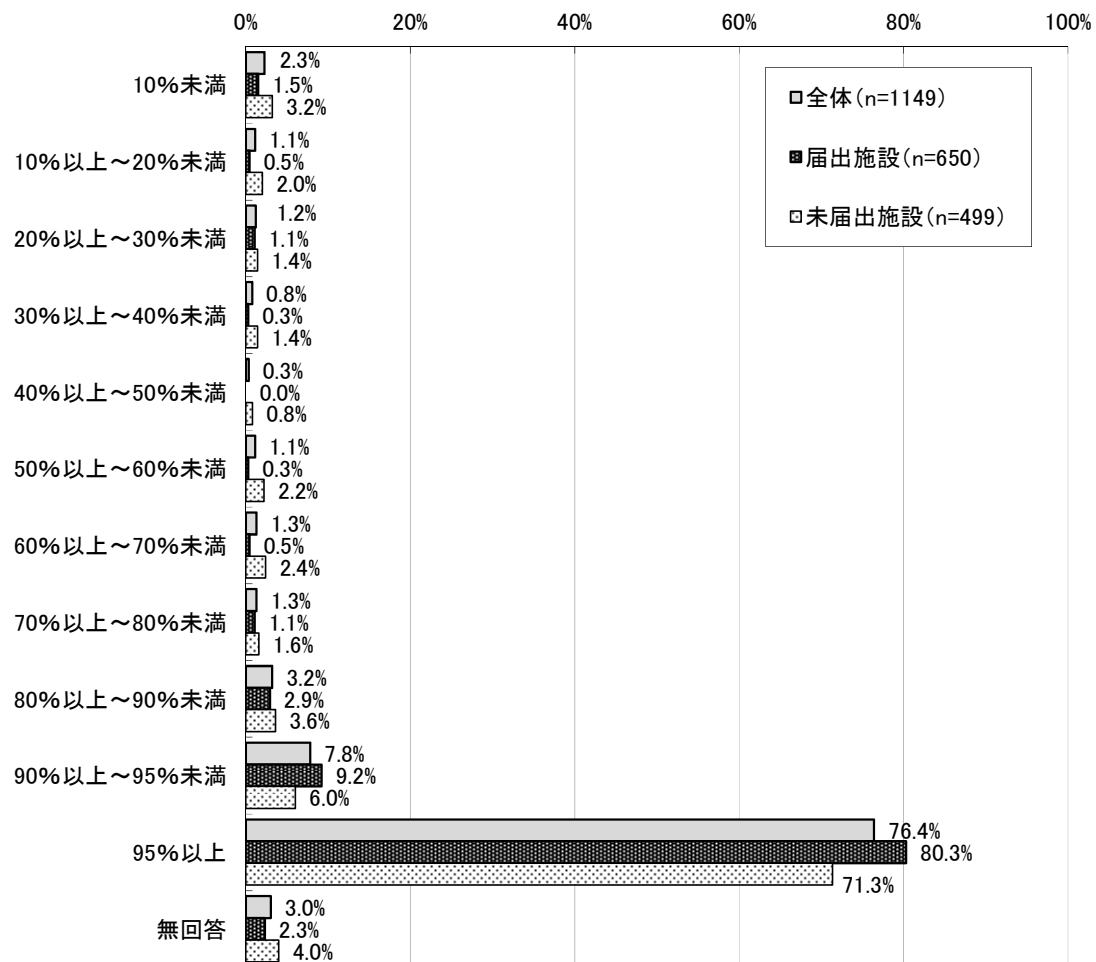


(注) 「その他」の内容として、「主に近隣にある 2 つ診療所の処方せンを応需」、「特定の病院(透析)2 施設と近所の歯科診療所の処方せンを応需」、「処方せんの受付は月 10 枚程度と少ない」等が挙げられた。

⑦売上高に占める保険調剤売上の割合

売上高に占める保険調剤売上の割合は次のとおりである。

図表 10 売上高に占める保険調剤売上の割合の薬局分布（単数回答）



図表 11 売上高に占める保険調剤売上の割合

(単位：%)

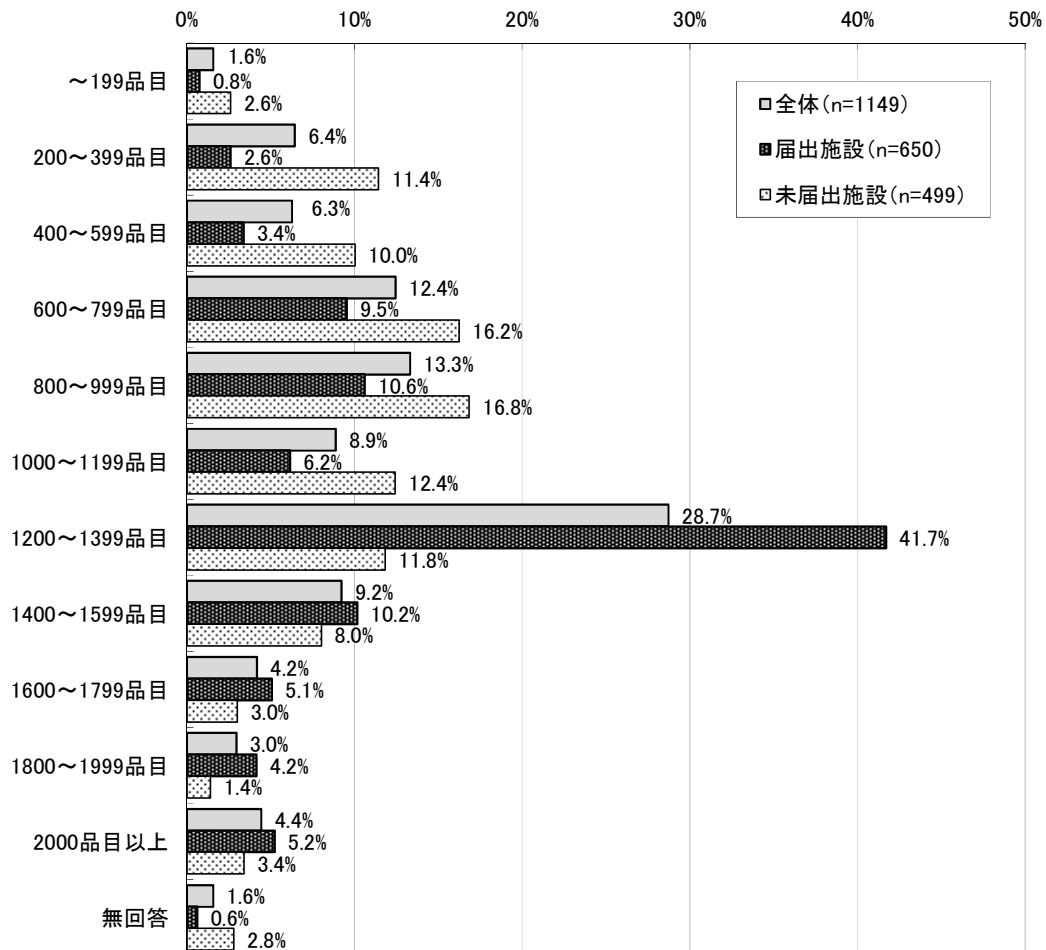
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,114	91.1	20.7	99.0
届出施設	635	93.6	16.4	99.0
未届出施設	479	87.7	24.9	99.0

(注) 売上高に占める保険調剤売上の割合について回答のあった 1,114 施設を集計対象とした。

⑧調剤用医薬品の備蓄医薬品目数

調剤用医薬品の備蓄品目数は次のとおりである。

図表 12 調剤用医薬品の備蓄品目数別の薬局分布



図表 13 調剤用医薬品の備蓄品目数

(単位：品目)

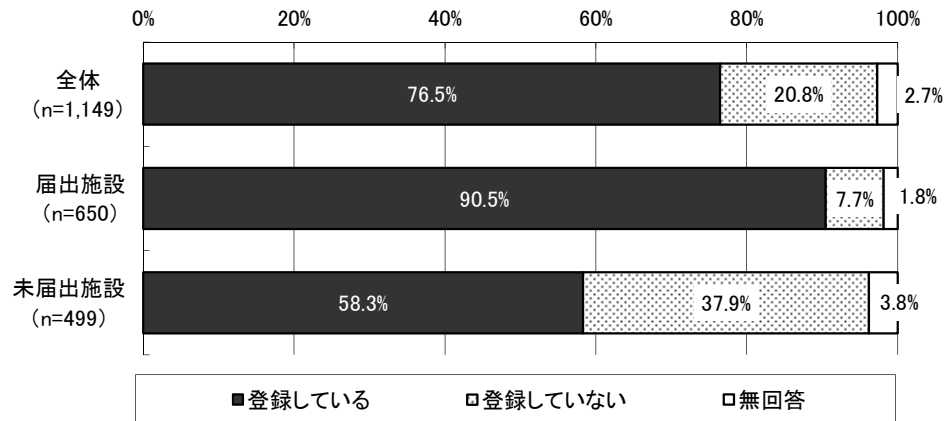
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,131	1,096.1	487.6	1,200.0
届出施設	646	1,224.5	453.2	1,238.5
未届出施設	485	925.0	479.6	880.0

(注) 調剤用医薬品の備蓄品目数について回答のあった 1,131 施設を集計対象とした。

⑨医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況

医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況をみると、「登録している」の割合は届出施設が 90.5%、未届出施設が 58.3%であった。

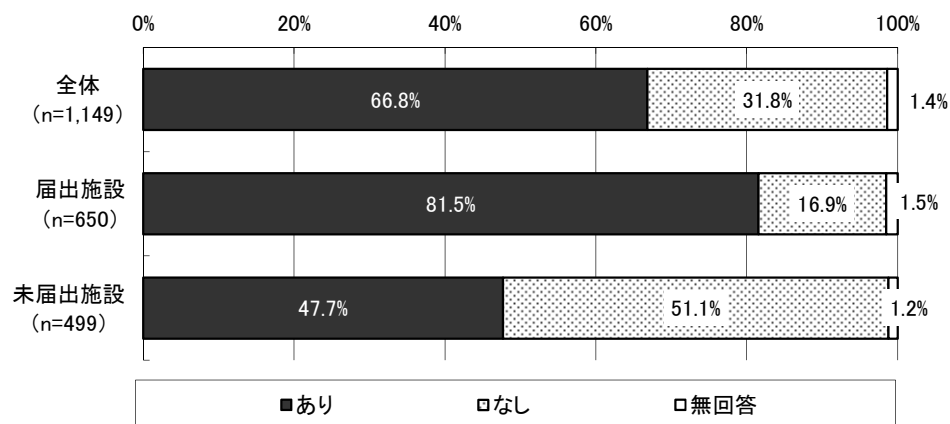
図表 14 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況



⑩患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無

患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無をみると、「あり」の割合は届出施設が 81.5%、未届出施設が 47.7%であった。

図表 15 患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無

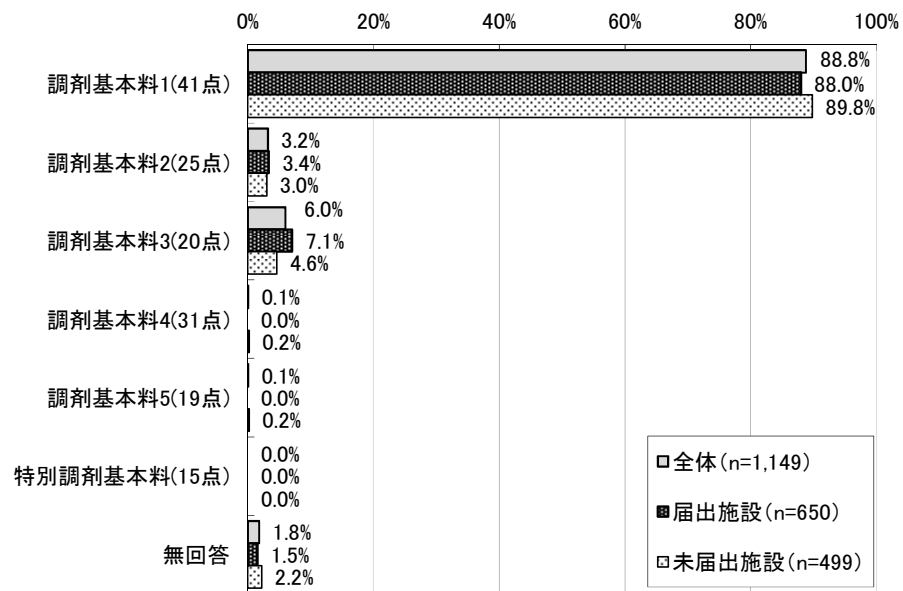


(2) 調剤の状況等（平成 29 年 6 月末現在）

①調剤基本料

調剤基本料は次のとおりである。

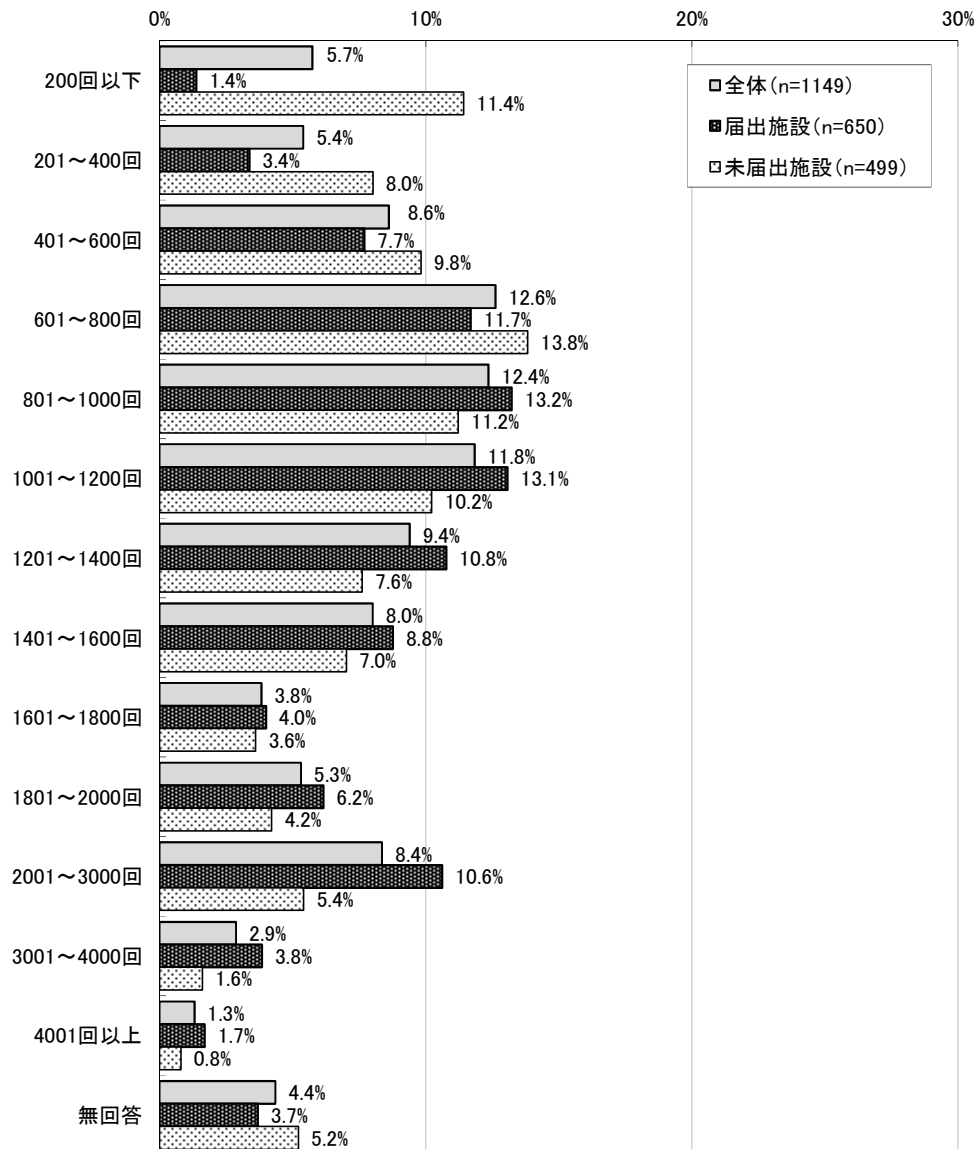
図表 16 調剤基本料（単数回答）



②処方せんの受付回数

調剤基本料の根拠となる、1 か月あたりの処方せんの受付回数は次のとおりである。

図表 17 処方せんの受付回数（1 か月あたり）



(注) 調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数 (回/月)」

図表 18 処方せんの受付回数（1 か月あたり）

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,099	1,214.0	850.8	1,044.0
届出施設	626	1,368.6	873.7	1,176.0
未届出施設	473	1,009.4	774.4	864.0

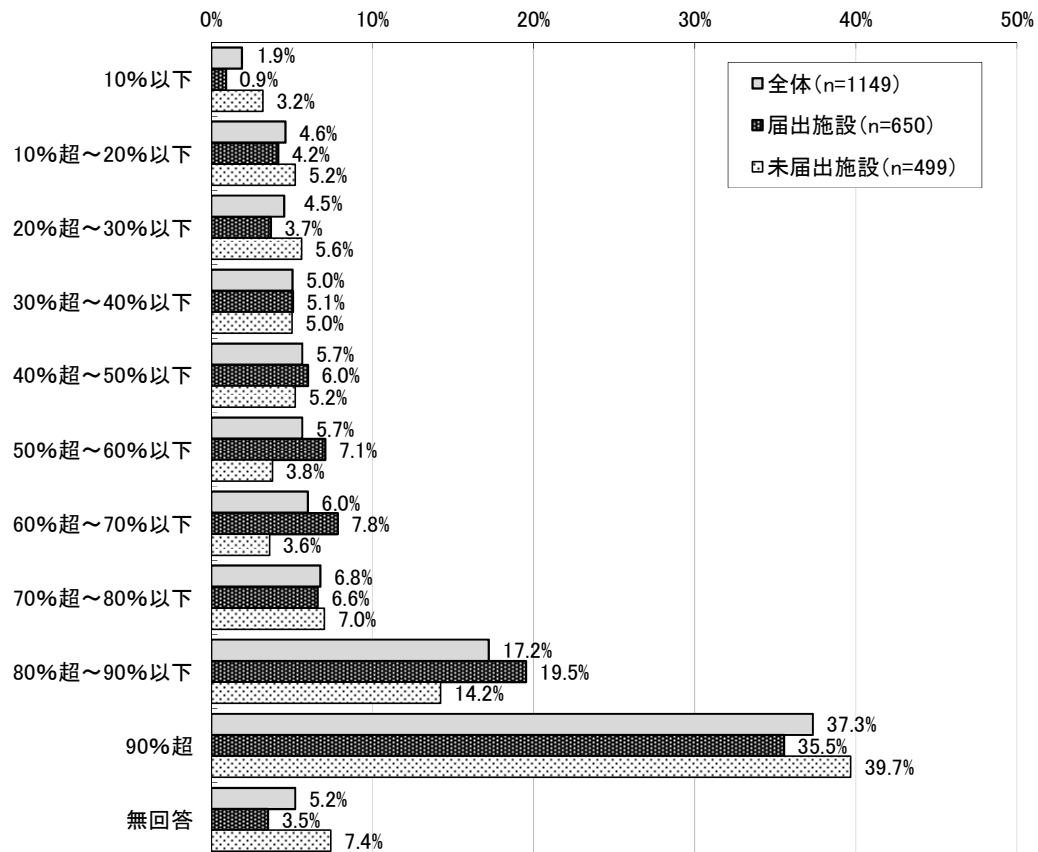
(注) ・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数 (回/月)」

・処方せんの受付回数について回答のあった 1,099 施設を集計対象とした。

③主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合

調剤基本料の根拠となる、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数は次のとおりである。

図表 19 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数割合別の薬局分布（単数回答）



（注）調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（％）」

図表 20 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合

（単位：％）

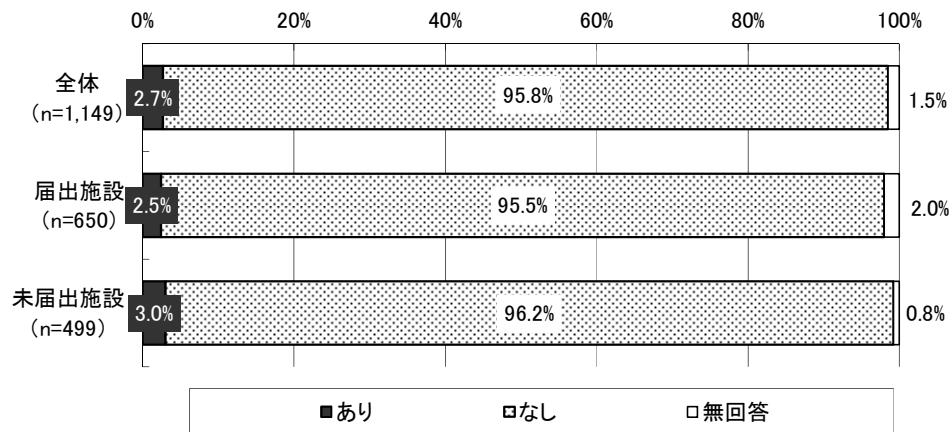
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,089	72.8	27.2	85.0
届出施設	627	73.4	25.3	84.5
未届出施設	462	72.0	29.5	86.5

（注）・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（％）」
 ・主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合について回答のあった 1,089 施設を集計対象とした。

④特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無

特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無は次のとおりである。

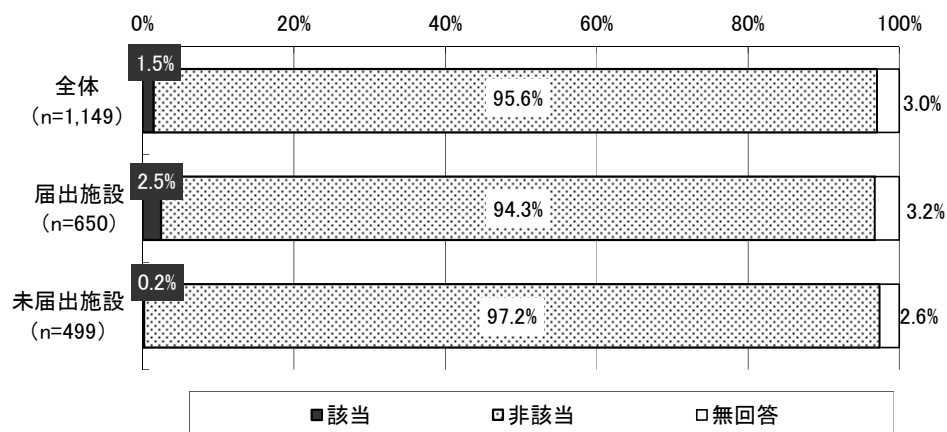
図表 21 特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無



⑤調剤基本料の注1ただし書きの該当状況

調剤基本料の注1ただし書きの該当状況は次のとおりである。

図表 22 調剤基本料の注1ただし書きの該当状況

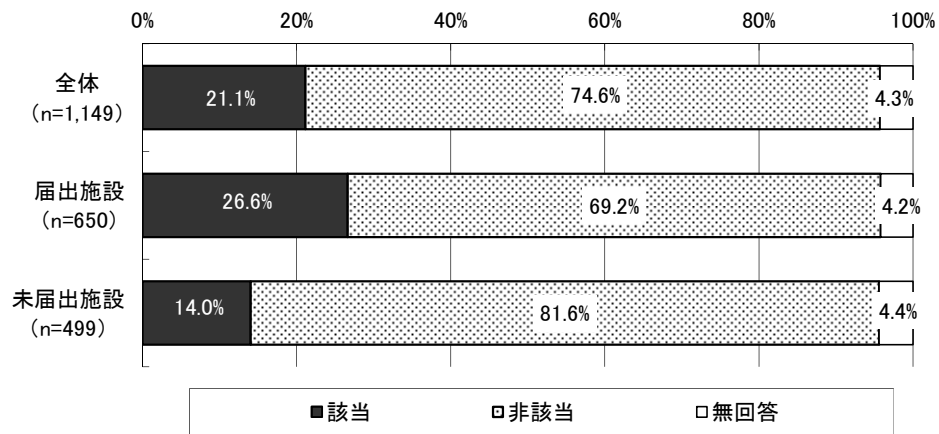


(注)「調剤基本料の注1ただし書き」とは、当該保険薬局に勤務している薬剤師の5割以上がかかりつけ薬剤師指導料等の施設基準に適合し、かつ、かかりつけ薬剤師指導料等にかかる業務について薬剤師1人あたり月100件以上算定していること。

⑥1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況

1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況は次のとおりである。

図表 23 1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況

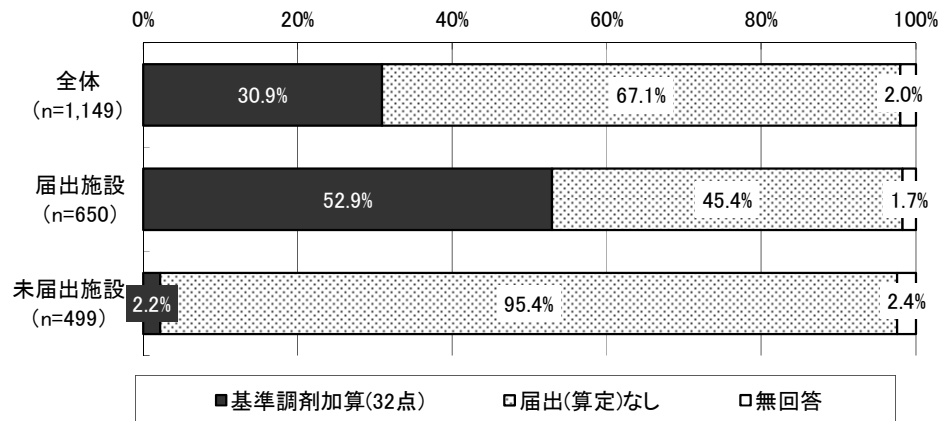


(注) 調剤基本料における、同一グループの保険薬局における処方せんの受付回数の合計が 1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局に該当するか否かを尋ねたもの。

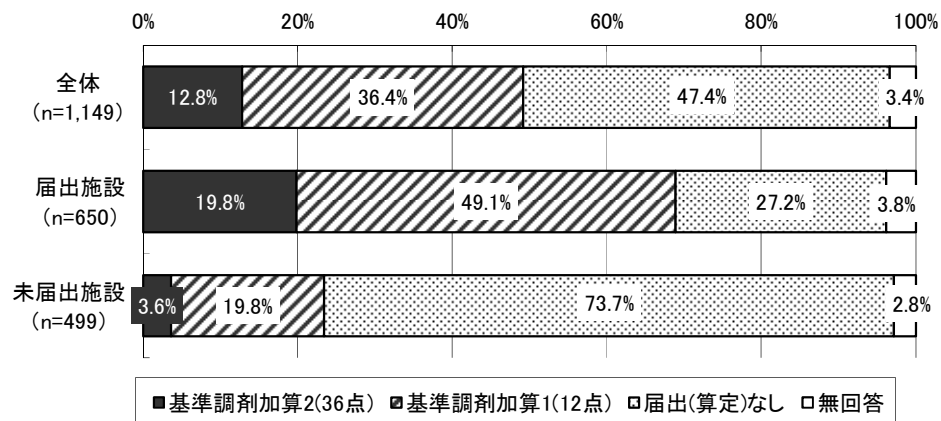
⑦基準調剤加算

平成 29 年 6 月末時点の基準調剤加算の算定状況をみると、「基準調剤加算（32 点）」を算定している薬局の割合は、届出施設が 52.9%、未届出施設が 2.2%であった。

図表 24 基準調剤加算の算定状況（平成 29 年 6 月末時点）



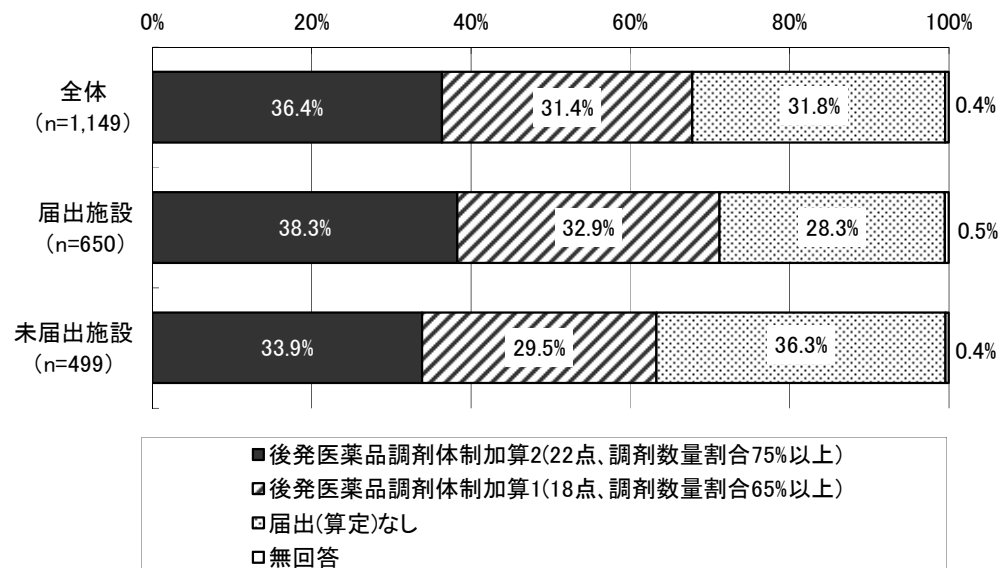
図表 25 基準調剤加算の算定状況（平成 28 年 3 月末時点）【改定前】



⑧後発医薬品調剤体制加算の算定状況

平成 29 年 6 月末時点の後発医薬品調剤体制加算の算定状況をみると、「後発医薬品調剤体制加算 2」は届出施設が 38.3%、未届出施設が 33.9%であり、「後発医薬品調剤体制加算 1」は届出施設が 32.9%、未届出施設が 29.5%であった。

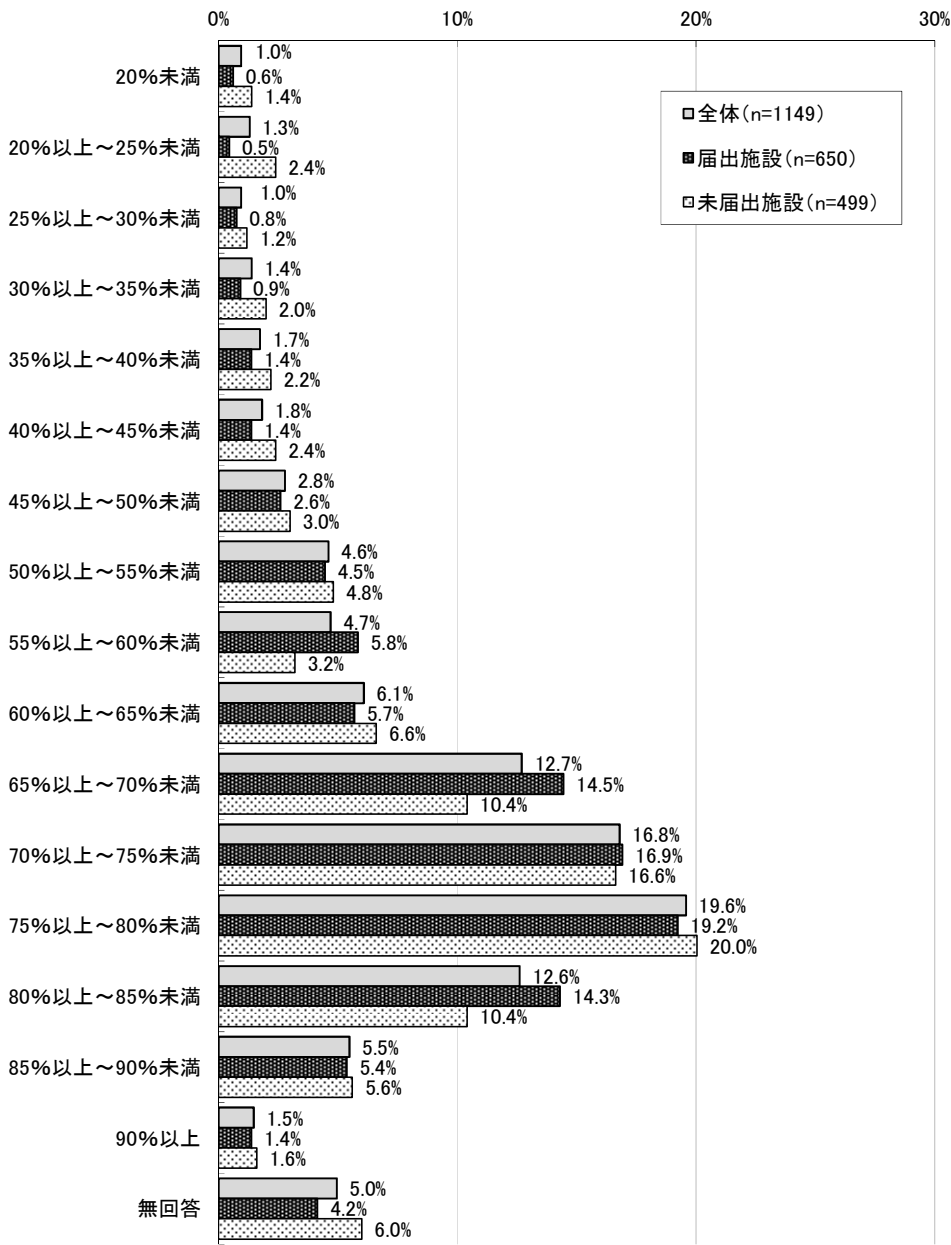
図表 26 後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 29 年 6 月末時点）



⑨後発医薬品調剤数量割合

平成29年6月末時点の後発医薬品調剤数量割合は、届出施設が平均69.8%（中央値72.3）、未届出施設が平均66.9%（中央値71.8）であった。

図表 27 後発医薬品調剤数量割合別薬局の分布（単数回答）



図表 28 後発医薬品調剤数量割合

（単位：％）

	施設数（件）	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,092	68.6	15.5	72.2
届出施設	623	69.8	13.7	72.3
未届出施設	469	66.9	17.4	71.8

（注）後発医薬品調剤数量割合について回答のあった1,092施設を集計対象とした。

(3) 薬局の体制等（平成 29 年 6 月末現在）

①管理薬剤師の状況

1) 当該店舗における勤務年数

管理薬剤師の、当該店舗における勤務年数をみると、全体では平均 10.2 年（中央値 6.8）、届出施設では平均 9.9 年（中央値 7.0）、未届出施設では平均 10.6 年（中央値 6.3）であった。

図表 29 当該店舗における勤務年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,139	10.2	10.3	6.8
届出施設	643	9.9	9.2	7.0
未届出施設	496	10.6	11.5	6.3

（注）当該店舗における勤務年数について回答のあった 1,139 施設を集計対象とした。

2) 当該店舗における管理薬剤師としての在籍年数

管理薬剤師の、当該店舗における管理薬剤師としての在籍年数をみると、全体では平均 8.4 年（中央値 4.7）、届出施設では平均 8.2 年（中央値 5.0）、未届出施設では平均 8.7 年（中央値 4.2）であった。

図表 30 当該店舗での管理薬剤師としての在籍年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,135	8.4	9.7	4.7
届出施設	641	8.2	9.0	5.0
未届出施設	494	8.7	10.5	4.2

（注）当該店舗での管理薬剤師としての在籍年数について回答のあった 1,135 施設を集計対象とした。

3) 保険薬剤師としての薬局勤務総年数

管理薬剤師の、保険薬剤師としての薬局勤務総年数をみると、全体では平均 18.0 年（中央値 17.0）、届出施設では平均 17.7 年（中央値 16.5）、未届出施設では平均 18.4 年（中央値 17.5）であった。

図表 31 保険薬剤師としての薬局勤務総年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,127	18.0	10.4	17.0
届出施設	640	17.7	9.6	16.5
未届出施設	487	18.4	11.4	17.5

（注）保険薬剤師としての薬局勤務総年数について回答のあった 1,127 施設を集計対象とした。

4) 当該店舗における 1 週間の平均勤務時間

管理薬剤師の、当該店舗における 1 週間の平均勤務時間をみると、全体では平均 43.1 時間（中央値 40.0）、届出施設では平均 43.2 時間（中央値 40.0）、未届出施設では平均 42.8 時間（中央値 40.0）であった。

図表 32 当該店舗における 1 週間の平均勤務時間

（単位：時間）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,071	43.1	7.5	40.0
届出施設	614	43.2	7.4	40.0
未届出施設	457	42.8	7.6	40.0

（注）当該店舗における 1 週間の平均勤務時間について回答のあった 1,071 施設を集計対象とした。

②職員数

1) 薬剤師の人数

1 施設あたりの薬剤師数（実人数）は次のとおりである。

図表 33 1 施設あたりの薬剤師数（実人数）

（単位：人）

		全体 (n=1,143)	届出施設 (n=647)	未届出施設 (n=496)
常 勤	平均値	2.2	2.4	1.9
	標準偏差	1.6	1.7	1.6
	中央値	2.0	2.0	1.0
非常勤	平均値	1.7	1.9	1.4
	標準偏差	2.3	2.5	1.8
	中央値	1.0	1.0	1.0

（注）薬剤師、その他の職員について全て回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

2) 薬剤師以外の職員の人数

1 施設あたりの薬剤師以外の職員（事務職員等）の人数（実人数）は次のとおりである。

図表 34 1 施設あたりの薬剤師以外の職員（事務職員等）の人数（実人数）

（単位：人）

		全体 (n=1,143)	届出施設 (n=647)	未届出施設 (n=496)
常 勤	平均値	1.7	1.8	1.4
	標準偏差	1.3	1.3	1.3
	中央値	1.0	2.0	1.0
非常勤	平均値	0.9	1.0	0.9
	標準偏差	1.4	1.6	1.2
	中央値	0.0	0.0	0.0

（注）薬剤師、その他の職員について全て回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

3) 1 施設あたりの職員数

図表 35 1 施設あたりの職員数（全体、n=1, 143）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.2	1.6	2.0	1.7	2.3	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.7	1.3	1.0	0.9	1.4	0.0

（注）薬剤師、その他の職員について全て回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

図表 36 1 施設あたりの職員数（届出施設、n=647）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.4	1.7	2.0	1.9	2.5	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.8	1.3	2.0	1.0	1.6	0.0

（注）薬剤師、その他の職員について全て回答のあった 647 施設を集計対象とした。

図表 37 1 施設あたりの職員数（未届出施設、n=496）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	1.9	1.6	1.0	1.4	1.8	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.4	1.3	1.0	0.9	1.2	0.0

（注）薬剤師、その他の職員について全て回答のあった 496 施設を集計対象とした。

4) 非常勤職員 1 人あたりの週平均勤務時間

図表 38 非常勤職員における 1 人あたりの週平均勤務時間【薬剤師】

(単位：時間)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	672	14.5	10.5	12.0
届出施設	408	15.0	10.8	12.0
未届出施設	264	13.7	10.0	10.2

(注)・非常勤の薬剤師のいる施設で、週平均勤務時間について回答のあった 672 施設を集計対象とした。

・非常勤職員の 1 週間の合計勤務時間÷非常勤職員数により算出。

図表 39 非常勤職員における 1 人あたりの週平均勤務時間【その他の職員（事務職員等）】

(単位：時間)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	471	18.2	10.9	19.0
届出施設	277	18.8	11.0	18.0
未届出施設	194	17.4	10.7	19.0

(注)・非常勤の薬剤師以外の職員（事務職員等）のいる施設で、週平均勤務時間について回答のあった 471 施設を集計対象とした。

・非常勤職員の 1 週間の合計勤務時間÷非常勤職員数により算出。

③かかりつけ薬剤師の人数等

1 施設あたりの薬剤師数の内訳は次のとおりである。

図表 40 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（全体、n=1,118）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数（休職中の者も含む）	2.2	1.7	2.0	1.7	2.3	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	1.9	1.3	2.0	1.5	2.0	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	1.9	1.4	2.0	1.4	2.0	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	2.0	1.5	2.0	0.2	0.6	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	1.2	1.1	1.0	0.4	1.2	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	1.0	1.0	1.0	0.1	0.7	0.0
7) 上記 6) のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	0.8	1.0	1.0	0.1	0.7	0.0

（注）・すべての該当者数について回答のあった 1,118 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

図表 41 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（届出施設、n=638）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数（休職中の者も含む）	2.4	1.7	2.0	1.9	2.6	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	2.1	1.3	2.0	1.7	2.2	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	2.1	1.4	2.0	1.6	2.3	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	2.2	1.6	2.0	0.3	0.7	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	1.7	1.0	1.0	0.6	1.4	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	1.5	0.9	1.0	0.2	0.9	0.0
7) 上記 6) のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	1.4	0.9	1.0	0.1	0.9	0.0

（注）・すべての該当者数について回答のあった 638 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

図表 42 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（未届出施設、n=480）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数（休職中の者も含む）	1.9	1.6	1.0	1.4	1.8	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	1.7	1.2	1.0	1.3	1.6	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	1.6	1.4	1.0	1.2	1.6	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	1.7	1.3	1.0	0.2	0.6	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	0.6	0.8	0.0	0.3	0.7	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	0.3	0.6	0.0	0.0	0.3	0.0
7) 上記 6) のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	0.0	－	0.0	0.0	－	0.0

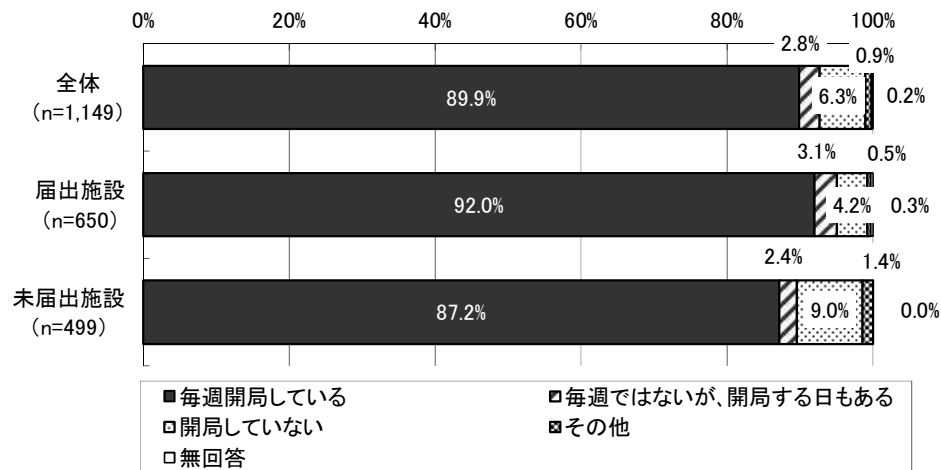
（注）・すべての該当者数について回答のあった 480 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

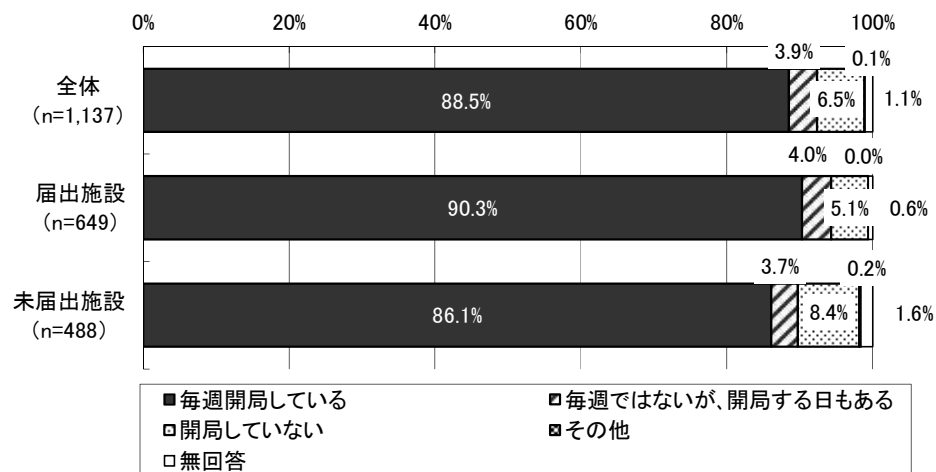
④土日の開局状況

1) 土曜日の開局状況

図表 43 土曜日の開局状況（平成 29 年 6 月）【今年度】



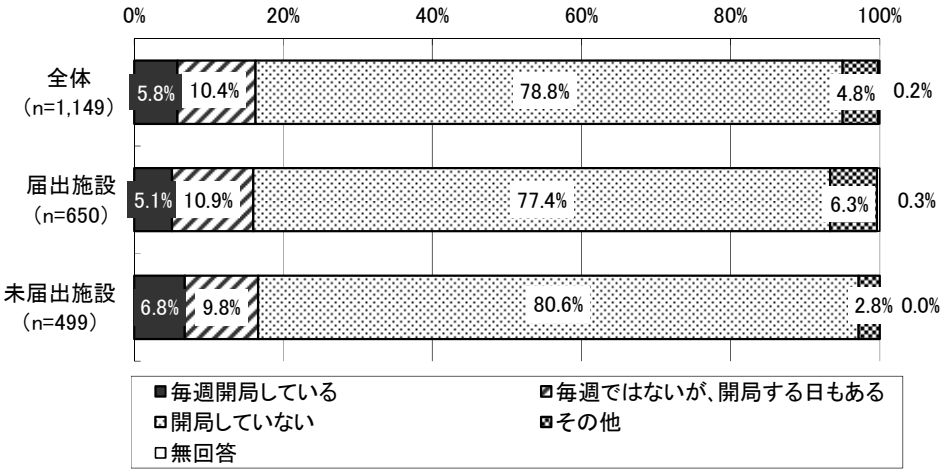
図表 44 土曜日の開局状況（平成 28 年 6 月）【昨年度】



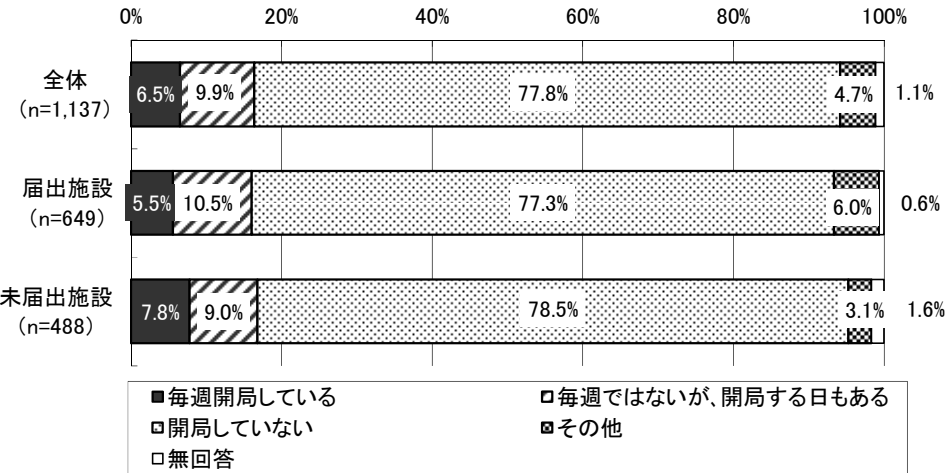
（注）平成 28 年 6 月時点では開局前であった 12 施設を除外して集計対象とした。

2) 日曜日の開局状況

図表 45 日曜日の開局状況（平成 29 年 6 月）【今年度】



図表 46 日曜日の開局状況（平成 28 年 6 月）【昨年度】



(注) 平成 28 年 6 月時点では開局前であった 12 施設を除外して集計対象とした。

⑤開局時間

1) 平日 5 日間の開局時間

図表 47 平日 5 日間の開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	45.7	8.0	45.0	45.8	7.9	45.0
届出施設	492	46.5	6.9	45.0	46.8	6.7	46.8
未届出施設	359	44.6	9.2	45.0	44.5	9.1	45.0

(注)・平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設を集計対象とした。
・平日 5 日間とは、月曜日～金曜日を指す。

2) 1 か月間の土曜日の総開局時間

図表 48 1 か月間の土曜日の総開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	22.3	11.8	18.5	22.2	11.4	18.0
届出施設	492	22.1	11.1	18.0	22.2	10.7	18.0
未届出施設	359	22.5	12.6	20.0	22.3	12.3	20.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設を集計対象とした。

図表 49 1 か月間の土曜日の総開局時間（「0」除く）

(単位：時間)

	平成 28 年 6 月				平成 29 年 6 月			
	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	796	23.8	10.5	20.0	802	23.6	10.3	20.0
届出施設	467	23.3	10.2	20.0	473	23.1	9.9	18.0
未届出施設	329	24.6	11.0	20.0	329	24.4	10.8	20.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設のうち、土曜日の総開局時間が「0」であった施設を除外して集計対象とした。

3) 1 か月間の日曜日の総開局時間

図表 50 1 か月間の日曜日の総開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	2.9	9.3	0.0	2.9	9.3	0.0
届出施設	492	2.4	8.0	0.0	2.4	8.0	0.0
未届出施設	359	3.8	10.9	0.0	3.8	10.9	0.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設を集計対象とした。

図表 51 1 か月間の日曜日の総開局時間（「0」除く）

(単位：時間)

	平成 28 年 6 月				平成 29 年 6 月			
	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	123	22.4	16.4	16.0	118	21.3	15.5	15.0
届出施設	62	20.2	15.7	14.0	62	18.7	14.3	11.5
未届出施設	61	24.6	17.0	20.0	56	24.1	16.4	16.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設のうち、日曜日の総開局時間が「0」であった施設を除外して集計対象とした。

4) 1 か月間の開局日数

図表 52 1 か月間の開局日数

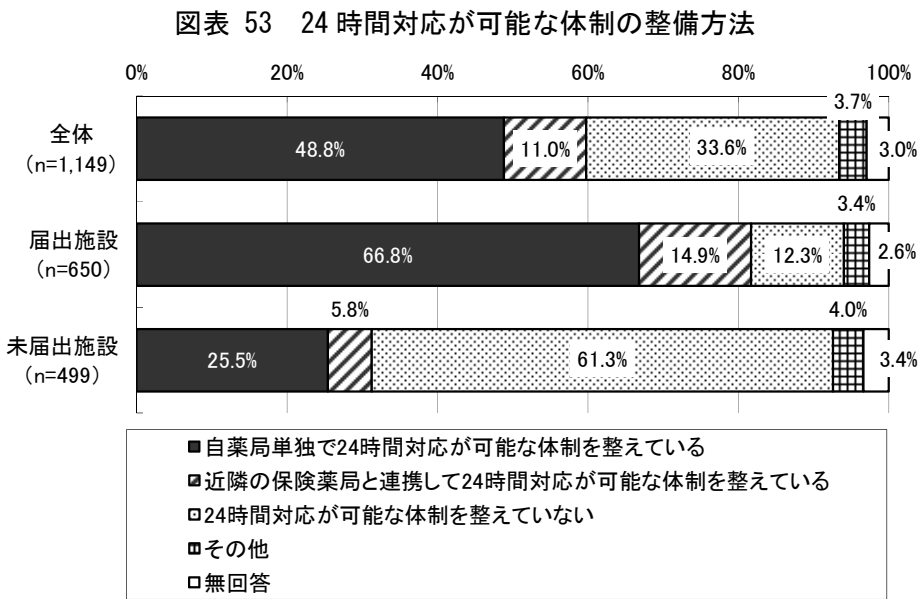
(単位：日)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	23.8	2.6	24.0	23.9	2.5	24.0
届出施設	492	24.0	2.4	24.0	24.2	2.2	24.0
未届出施設	359	23.6	2.9	24.0	23.5	2.8	24.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数全てについて回答のあった施設を集計対象とした。

⑥24 時間対応が可能な体制の整備方法

24 時間対応が可能な体制の整備方法をみると、届出施設では「自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている」が 66.8%で最も多く、「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」（14.9%）と合わせると、およそ 8 割の薬局が 24 時間対応が可能な体制を整えている。一方、未届出施設では「24 時間対応が可能な体制を整えていない」が 61.3%で最も多く、「自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている」（25.5%）、「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」（5.8%）を合わせた割合はおよそ 3 割であった。



(注)「その他」の内容として、「グループ内の近隣薬局で連携」、「時間外でも連絡のとれる連絡先を患者に伝えている」、「他店での電話対応のみ」、「地域薬剤師会の協力に参加」等が挙げられた。

図表 54 24 時間対応のために連携している薬局数
(「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」と回答した薬局)

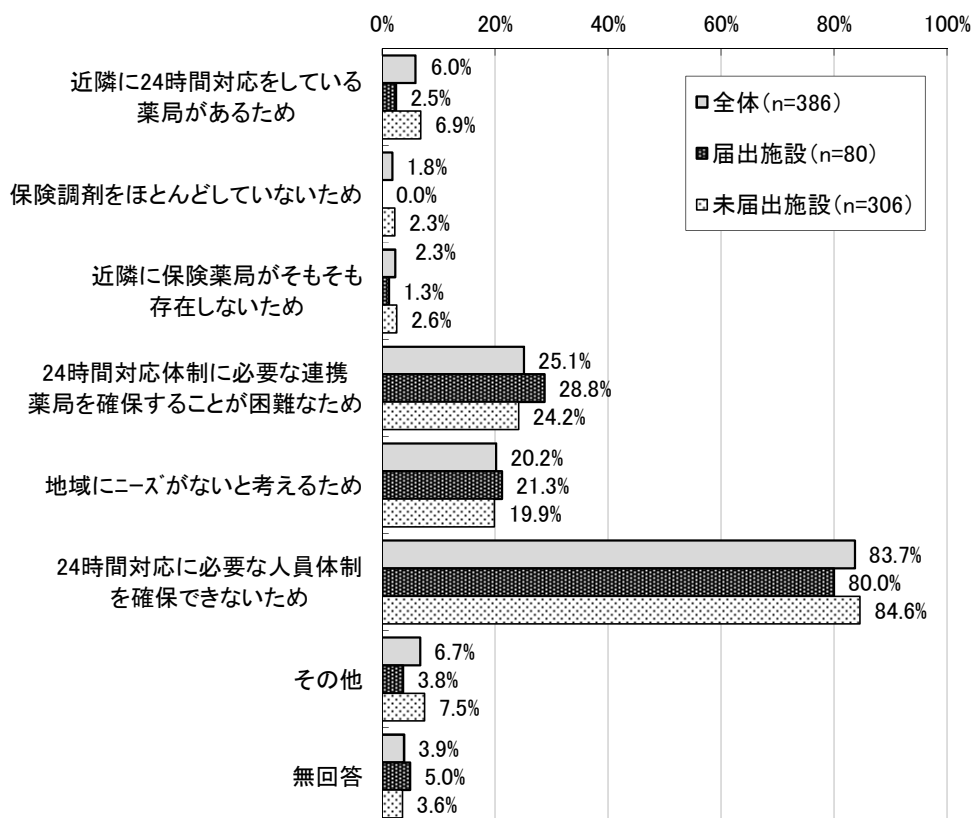
(単位：薬局)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	103	2.5	2.7	2.0
届出施設	82	2.2	1.2	2.0
未届出施設	21	3.8	5.4	2.0

(注)「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」と回答した施設のうち、連携している薬局数について回答のあった施設を集計対象とした。

「24 時間対応が可能な体制を整えていない」と回答した薬局に対してその理由を尋ねたところ、「24 時間対応に必要な人員体制を確保できないため」が全体、届出施設、未届出施設のいずれも 8 割以上となった。次いで「24 時間対応体制に必要な連携薬局を確保することが困難なため」、「地域にニーズがないと考えるため」が続いた。

図表 55 24 時間対応が可能な体制を整えていない理由
(「24 時間対応が可能な体制を整えていない」と回答した薬局、複数回答)

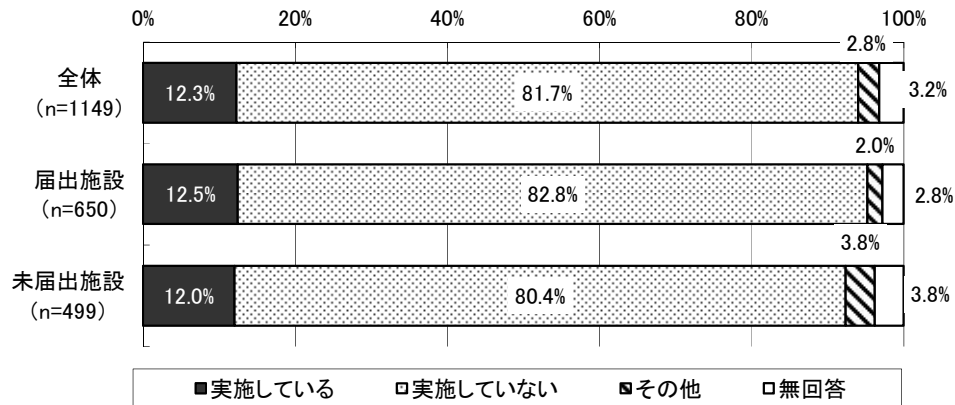


(注) 「その他」の内容として、「電話対応はしている」、「本部が決定している」、「夜間診療所が対応」、「コストに見合わない」、「高齢のため」、「1 人薬剤師で、職場と住宅が遠いため」、「24 時間対応するには法が不整備と感じる」、「協力していた保険薬局 2 軒が閉店したため」、「近隣に大病院が多数あり、夜間対応が充分」等が挙げられた。

⑦地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況

地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況は次のとおりである。

図表 56 地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況



(注) 「その他」の内容として、「23 時までの輪番制」、「医師会の休日診療日に会営薬局で対応」、「お薬休日夜間電話相談で対応」、「薬剤師会未加入のためわからない」等が挙げられた。

(4) 薬学管理の取組状況等

①薬剤服用歴管理指導料等の算定回数（平成29年6月1か月間）

1) 薬剤服用歴管理指導料の算定回数

平成29年6月1か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定回数は次のとおりである。

図表 57 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（全体、n=1,019）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	600.8	483.6	539.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	137.1	211.9	70.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	384.8	611.5	206.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	15.5	78.2	0.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 58 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（届出施設、n=590）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	672.8	517.8	593.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	142.1	237.0	71.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	417.8	607.0	237.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	19.8	92.4	0.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった590施設を集計対象とした。

図表 59 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（未届出施設、n=429）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	501.7	412.7	473.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	130.2	171.7	68.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	339.3	615.5	166.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	9.7	52.2	0.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった429施設を集計対象とした。

2) 重複投薬・相互作用等防止加算等の算定回数

平成29年6月1か月間の重複投薬・相互作用等防止加算の算定回数は次のとおりである。

図表 60 重複投薬・相互作用等防止加算の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	7.3	14.5	3.0
届出施設	590	9.5	17.6	4.0
未届出施設	429	4.2	7.9	1.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 61 在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の算定回数

(単位：回)

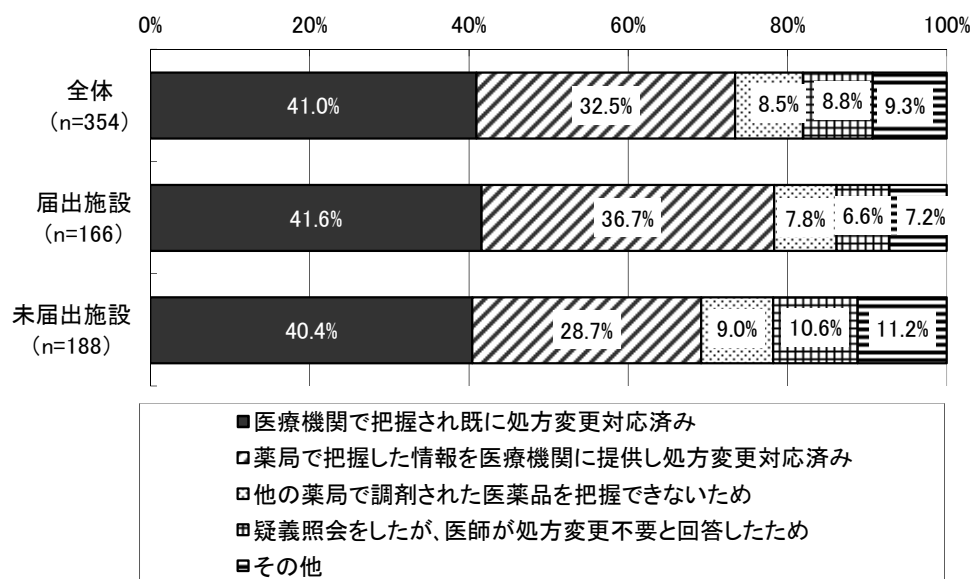
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.2	1.3	0.0
届出施設	590	0.3	1.4	0.0
未届出施設	429	0.1	1.0	0.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

3) 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった最大の理由

重複投薬・相互作用等防止加算、在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の算定回数の実績が減少した、または、なかった薬局に対して、その最大の理由を尋ねたところ、届出施設、未届出施設のいずれも「医療機関で把握され既に処方変更対応済み」が4割を占めており、最も多かった。次いで「薬局で把握した情報を医療機関に提供し処方変更対応済み」であった。

図表 62 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった最大の理由
(重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった薬局)



(注)・上記の設問に回答のあった354施設を集計対象とした。

- ・「その他」の内容として、「該当者がいなかった」、「たまたまなかった」、「訂正した処方せんと差し替えになり証拠となる処方せんがないので算定できないと考えた」、「疑義照会をして処方変更された際、病院が処方せんを訂正して再発行するため」、「算定忘れが多い」、「医師のミスなのに患者の負担増になるため」、「薬剤服用歴管理指導料を算定しているため」等が挙げられた。

4) 外来服薬支援料等の算定回数

図表 63 外来服薬支援料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.1	0.7	0.0
届出施設	590	0.1	0.7	0.0
未届出施設	429	0.1	0.6	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

図表 64 ブラウンバッグ運動の取組による外来服薬支援料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.0	0.1	0.0
届出施設	590	0.0	0.1	0.0
未届出施設	429	0.0	0.1	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

5) 服薬情報等提供料等の算定回数

図表 65 服薬情報等提供料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	1.2	21.3	0.0
届出施設	590	2.0	27.9	0.0
未届出施設	429	0.1	1.6	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

図表 66 患者の服薬期間中に新たに知り得た安全性情報や服薬状況の確認及び必要な指導を患者に提供した場合の、服薬情報等提供料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.4	6.4	0.0
届出施設	590	0.6	8.4	0.0
未届出施設	429	0.1	0.5	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

6) 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数

図表 67 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.9	6.5	0.0
届出施設	590	1.4	8.5	0.0
未届出施設	429	0.2	1.0	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

7) 居宅療養管理指導費の算定回数

図表 68 居宅療養管理指導費の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	9.8	40.8	0.0
届出施設	590	14.4	50.7	1.0
未届出施設	429	3.5	18.6	0.0

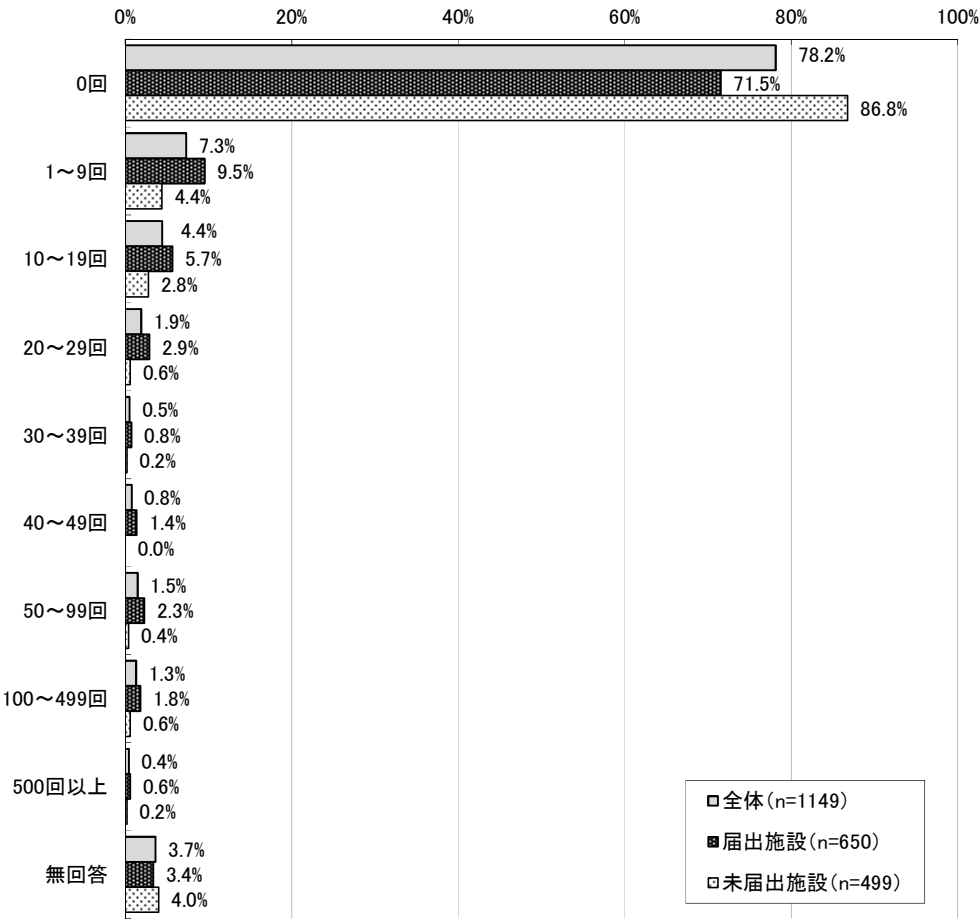
(注) ・平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

・介護保険。介護予防を含む。

②在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数

在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数は次のとおりである。

図表 69 在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数別薬局分布



図表 70 在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数

(単位：回)

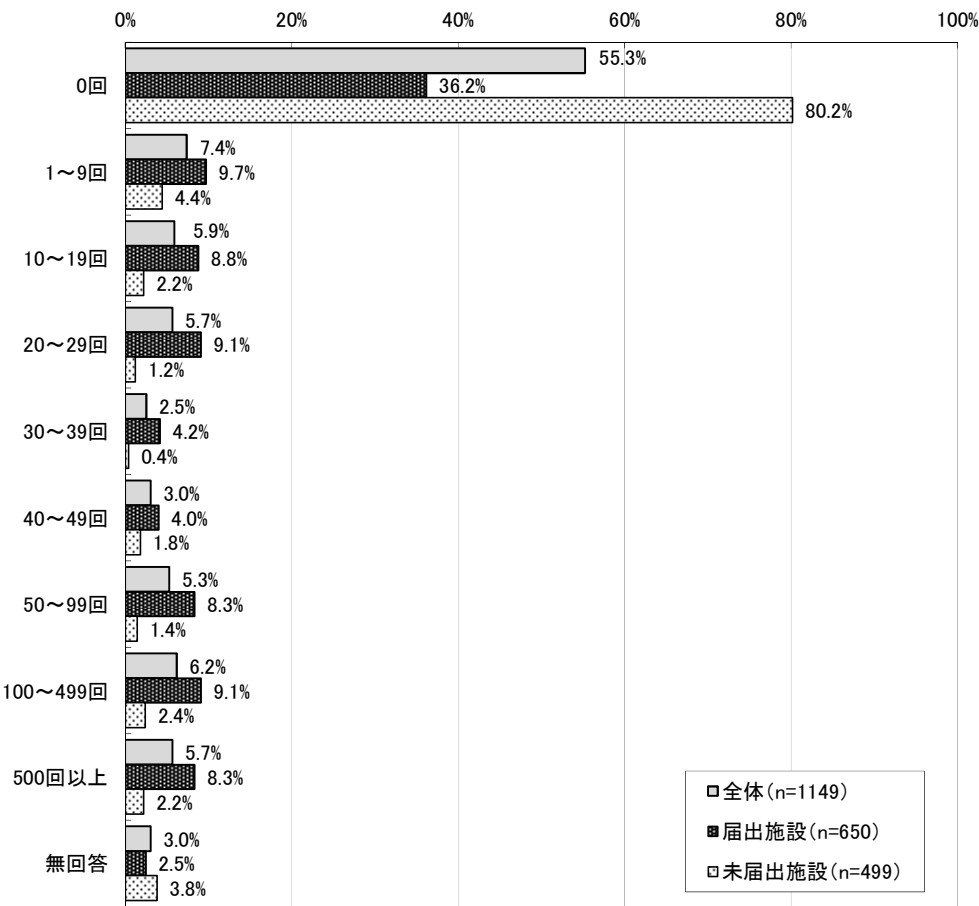
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	25.3	435.9	0.0
届出施設	628	38.7	569.7	0.0
未届出施設	479	7.9	116.1	0.0

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日の1年間の算定回数について回答のあった1,107施設を集計対象とした。

③居宅療養管理指導費の１年間の算定回数

居宅療養管理指導費の１年間の算定回数は次のとおりである。

図表 71 居宅療養管理指導費の１年間の算定回数別薬局分布



図表 72 居宅療養管理指導費の１年間の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,114	100.8	418.2	0.0
届出施設	634	152.3	527.2	12.0
未届出施設	480	32.9	175.9	0.0

(注) 平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日の 1 年間の算定回数について回答のあった 1,114 施設を集計対象とした。

④疑義照会の状況

1) かかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳は次のとおりである。

図表 73 かかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (届出施設、n=388)

(単位：件)

	平均値		標準 偏差	中央値
	件数 (件)	構成割 合(%)		
かかりつけ薬剤師指導料等の算定件数	40.9	100.0	90.2	9.5
1) 疑義照会を行った件数	3.8	9.2	12.3	0.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	2.2	5.3	6.7	0.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	0.9	2.2	4.3	0.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	1.3	3.1	4.5	0.0
5) 重複投薬に関する件数	0.3	0.6	0.9	0.0
6) 相互作用に関する件数	0.1	0.2	0.4	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	1.0	2.4	4.3	0.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	0.1	0.3	0.4	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	0.4	1.0	1.5	0.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	1.6	3.9	9.3	0.0

(注)・かかりつけ薬剤師指導料等の届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間のかかりつけ薬剤師指導料等の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 388 施設を集計対象とした。
・構成割合は「かかりつけ薬剤師指導料等の算定件数」に対する各項目の割合。

2) 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳

平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳は次のとおりである。

図表 74 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (全体、n=715)

(単位：件)

	平均値		標準 偏差	中央値
	件数 (件)	構成割 合(%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,136.9	100.0	799.5	979.0
1) 疑義照会を行った件数	33.6	3.0	49.5	18.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	18.2	1.6	28.7	9.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	6.7	0.6	14.3	2.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	11.5	1.0	22.6	4.0
5) 重複投薬に関する件数	2.4	0.2	6.2	1.0
6) 相互作用に関する件数	0.9	0.1	3.6	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	5.3	0.5	10.4	2.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	1.1	0.1	3.0	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	8.4	0.7	18.0	2.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	15.4	1.4	35.2	4.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 715 施設を集計対象とした。
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

図表 75 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (届出施設、n=416)

(単位：件)

	平均値		標準 偏差	中央値
	件数 (件)	構成割 合(%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,231.8	100.0	806.9	1,033.0
1) 疑義照会を行った件数	39.7	3.2	54.8	20.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	21.7	1.8	32.3	12.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	8.8	0.7	17.3	3.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	12.9	1.0	24.9	5.0
5) 重複投薬に関する件数	3.0	0.2	7.5	1.0
6) 相互作用に関する件数	1.2	0.1	4.4	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	6.4	0.5	11.7	3.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	1.4	0.1	3.2	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	9.7	0.8	19.5	3.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	17.9	1.5	40.0	5.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 416 施設を集計対象とした。
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

図表 76 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (未届出施設、n=299)

(単位：件)

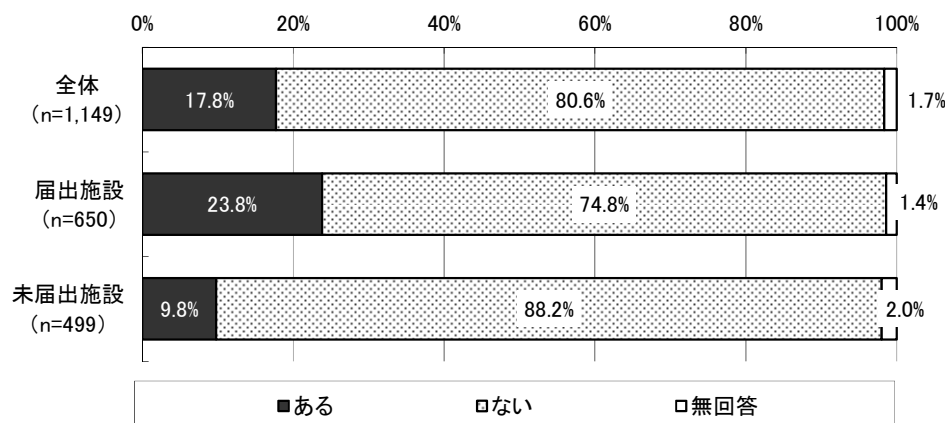
	平均値		標準 偏差	中央値
	件数 (件)	構成割 合(%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,005.0	100.0	771.2	830.0
1) 疑義照会を行った件数	25.2	2.5	39.6	11.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	13.3	1.3	21.8	6.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	3.6	0.4	7.7	1.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	9.6	1.0	18.9	3.0
5) 重複投薬に関する件数	1.6	0.2	3.4	0.0
6) 相互作用に関する件数	0.5	0.1	2.1	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	3.8	0.4	8.0	1.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	0.8	0.1	2.6	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	6.6	0.7	15.6	1.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	11.9	1.2	26.9	3.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 299 施設を集計対象とした。
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

⑤平成 28 年 4 月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無

平成 28 年 4 月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い、「服薬情報等提供料」を算定したことがあるかを尋ねたところ、「ある」という回答割合は、届出施設では 23.8%、未届出施設では 9.8%であった。

図表 77 平成 28 年 4 月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無

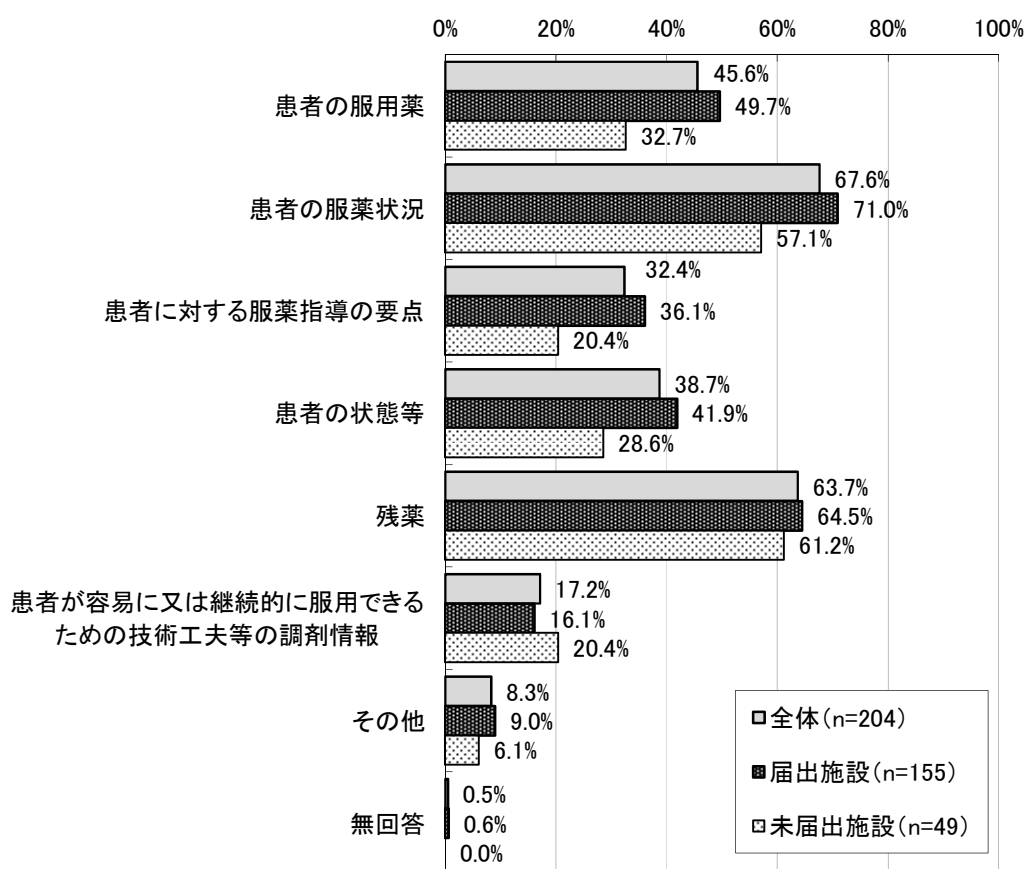


(注) 平成 28 年 4 月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い「服薬情報等提供料」を算定した実績の有無。

平成 28 年 4 月以降、服薬情報等提供料の算定実績が「ある」と回答した薬局に対して、保険医療機関に対して情報提供した内容を尋ねた結果は次のとおりである。

届出施設では「患者の服薬状況」が 71.0%で最も高く、次いで「残薬」(64.5%)であった。未届出施設では「残薬」が 61.2%で最も高く、次いで「患者の服薬状況」(57.1%)であった。

図表 78 保険医療機関に対して情報提供した内容
(服薬情報等提供料の算定実績が「ある」と回答した薬局、複数回答)



(注)・「患者が容易に又は継続的に服用できるための技術工夫等の調剤情報」の具体的な内容として、「一包化の希望」、「2 か所の医療機関の薬を一包化」、「一包化しお薬カレンダーへセット」、「曜日指定で服用が必要な薬剤についても分包に曜日を記入し、一包化」、「粉薬から錠剤への変更」、「イラスト入りの服用法の説明表の作成」、「胃ろう患者に対する OD 錠の提案」、「チューブの詰まり回避のため粉碎の提案」、「認知症貼付薬による肌あれ情報と保湿薬提案」、「高齢者のためにカプセルから OD 錠に変更提案」等が挙げられた。

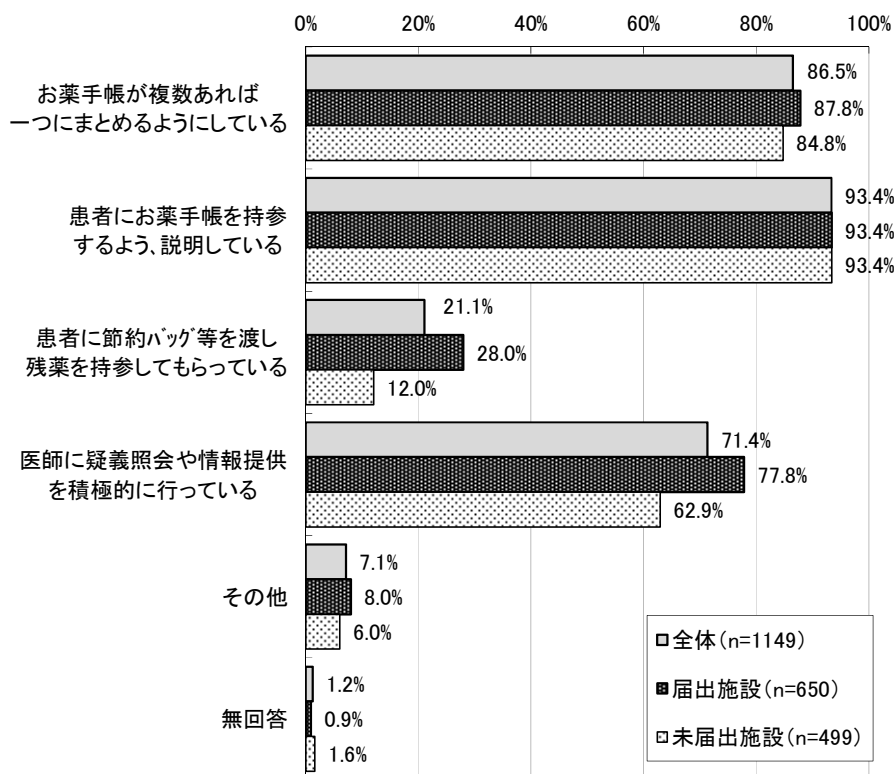
・「その他」の内容として、「吸入指導を報告」、「処方された吸入薬がうまく吸えない高齢者についてその患者に適した吸入デバイスの紹介」、「エピペンの使用期限が間近のためその報告」、「患者に現れた副作用」、「腎臓の数値の上昇で減量した方がよい薬の提案」、「生活環境や食事摂取、運動状況やその変化など」、「患者が頻繁に受診できないため処方日数の変更が必要なこと」等が挙げられた。

⑥重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組

重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組についてみると、全体、届出施設、未届出施設のいずれでも「患者にお薬手帳を持参するよう説明している」が9割を超え最も多かった。次いで「お薬手帳が複数あれば一つにまとめるようにしている」が8割強～9割近くで多かった。

「医師に疑義照会や情報提供を積極的に行っている」と回答した施設の割合は、届出施設が77.8%、未届出施設が62.9%であった。また、「患者に節約バッグ等を渡し残薬を持参してもらっている」と回答した施設の割合は、届出施設では28.0%、未届出施設では12.0%であった。

図表 79 重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組（複数回答）



(注)「その他」の内容として、「患者に残薬がある場合、申し出るように指導している」、「積極的に患者から医師に（残薬があることを）伝えるよう話している」、「一包化した包みに日付を入れ来歴に記入。残っていれば持ってきてもらう」、「残薬確認シートを作成し次回受診時に患者に持参してもらう」、「在宅訪問時に残薬を確認している」、「院内処方などでお薬手帳に貼付がないこともあるので（患者に）聞き取りを必ずするようにしている」、「残薬数量をお薬手帳に記入するように指導している」、「受診前に残薬の確認をするように患者に伝えている」、「付添いのヘルパー、ケアマネジャーにも声をかける」、「待合室に残薬関係のポスターを貼っている」等が挙げられた。

(5) かかりつけ薬剤師に関する取組状況等

①かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等

平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数及び平成 29 年 6 月に新規に同意を取得した患者数は次のとおりである。

図表 80 かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等（届出施設、n=606）

	平均値	標準偏差	中央値
1)平成 29 年 6 月 1 か月間の処方せん受付回数(回)	1,169.7	929.0	1,035.0
2)平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数(人)	28.2	73.2	4.0
3)平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 6 月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数(人)	3.0	16.1	0.0

(注) 届出施設のうち、全ての項目について回答のあった 606 施設を集計対象とした。

図表 81 平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までにかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数（届出施設、「0」除く、n=474）

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
36.1	81.0	8.0

(注) 回答のあった 606 施設のうち、同意取得済の患者が 0 人であった施設を除外して集計対象とした。

図表 82 平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 6 月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数（届出施設、「0」除く、n=163）

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
11.3	29.5	3.0

(注) 回答のあった 606 施設のうち、新規に同意を取得した患者が 0 人であった施設を除外して集計対象とした。

②かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数等

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料を算定した患者数（実人数）及び算定回数は次のとおりである。

図表 83 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と算定回数（届出施設、n=630）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	23.8	68.2	3.0
算定回数(回)	33.9	92.4	5.0

（注）届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 630 施設を集計対象とした。

図表 84 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と算定回数（届出施設、「0」除く、n=468）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	32.0	77.5	6.0
算定回数(回)	45.7	104.7	11.0

（注）回答のあった 630 施設のうち、算定患者数・算定回数が 0 であった施設を除外して集計対象とした。

図表 85 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数と算定回数（届出施設、n=642）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	642	0.0	0.1	0.0
算定回数(回)	642	0.0	0.6	0.0

（注）届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 642 施設を集計対象とした。

図表 86 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数と算定回数（届出施設、「0」除く、n=2）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	2.5	0.7	2.5
算定回数(回)	10.5	4.9	10.5

（注）回答のあった 642 施設のうち、算定患者数・算定回数が 0 であった施設を除外して集計対象とした。

③かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と年齢構成割合

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者数と年齢構成割合は次のとおりである。

図表 87 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と年齢構成割合（届出施設、n=601）

（単位：人）

	平均値		標準偏差	中央値
	患者数(人)	構成割合(%)		
0～14 歳	2.4	12.2	15.6	0.0
15～64 歳	4.0	19.9	14.7	0.0
65～74 歳	4.4	22.2	15.3	0.0
75 歳以上	8.7	43.4	23.2	1.0
年齢不明	0.4	2.2	7.7	0.0
合計	20.0	100.0	51.7	3.0

（注）届出施設のうち、算定患者の年齢構成別人数について回答のあった 601 施設を集計対象とした。

図表 88 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数（届出施設、n=642）

（単位：人）

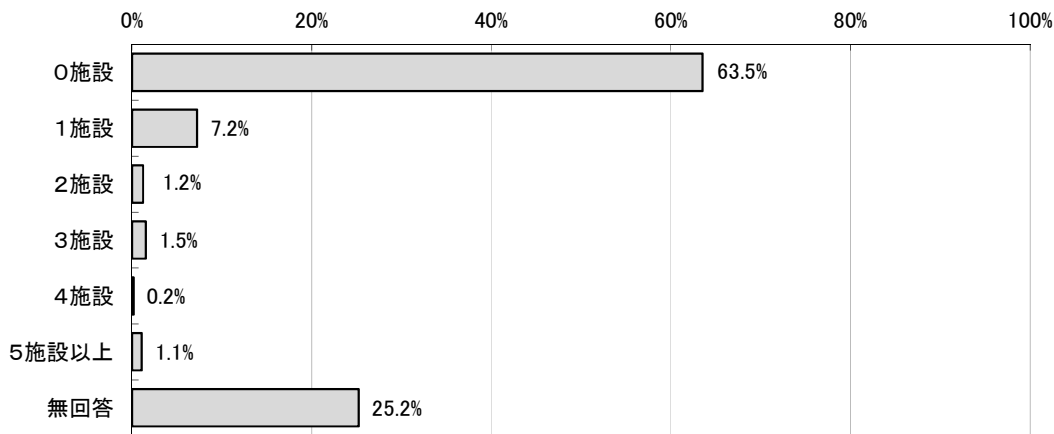
	平均値	標準偏差	中央値
0～14 歳	0.0	－	0.0
15～64 歳	0.0	－	0.0
65～74 歳	0.0	0.0	0.0
75 歳以上	0.0	0.1	0.0
年齢不明	0.0	－	0.0
合計	0.0	0.1	0.0

（注）届出施設のうち、算定患者の年齢構成別人数について回答のあった 642 施設を集計対象とした。

④かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数

かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数は次のとおりである。

図表 89 かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数
(届出施設、単数回答、n=650)



図表 90 かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数
(届出施設、n=486)

(単位：施設)

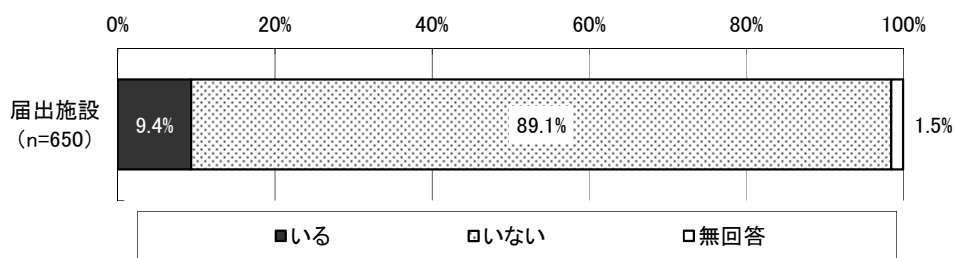
施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
486	0.3	1.0	0.0

(注) 届出施設のうち、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数（地域包括診療加算・地域包括診療料の届出医療機関）について回答のあった 486 施設を集計対象とした。

⑤かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無とその理由

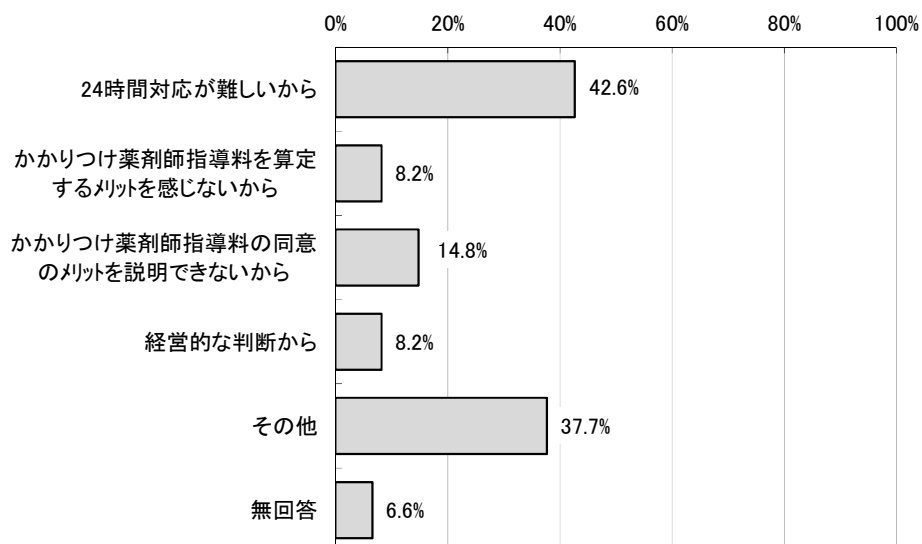
かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師がいるか尋ねたところ、「いる」が9.4%、「いない」が89.1%であった。

図表 91 かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無（届出施設）



届出施設において、かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師がいる場合、その理由を尋ねると、「24時間対応が難しいから」が42.6%で最も多かった。

図表 92 かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない理由（届出施設、該当の薬剤師が「いる」と回答した薬局、複数回答、n=61）



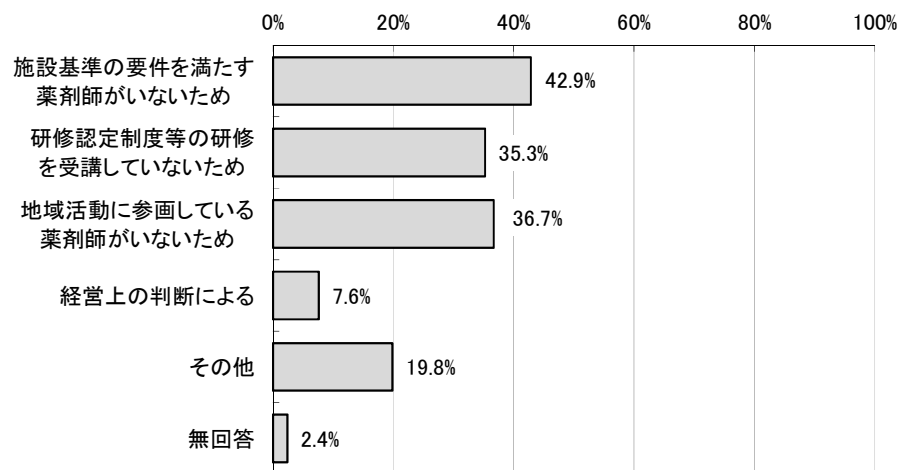
（注）「その他」の内容として、「届出が手間」、「届出をしたが不受理になった（地域活動）」、「認定薬剤師申請中」、「まもなく異動する予定」等が挙げられた。

⑥かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由

未届出施設における、かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由をみると、「施設基準の要件を満たす薬剤師がいないため」が 42.9%で最も多く、次いで「地域活動に参加している薬剤師がいないため」(36.7%)、「研修認定制度等の研修を受講していないため」(35.3%)であった。

図表 93 かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由

(未届出施設、複数回答、n=499)



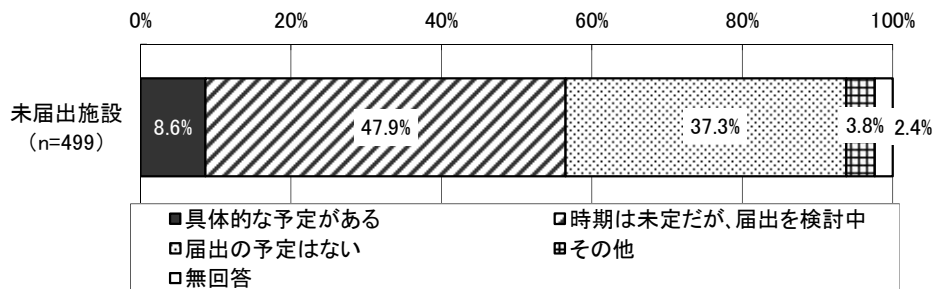
(注)・「経営上の判断による」の具体的な内容として、「昔から行っている無料の業務と同じため」、「患者負担が増える」、「OTC 専門店に移行を予定」、「人件費を確保できず、経営できなくなる」等が挙げられた。

・「その他」の内容として、「研修認定申請中」、「研修受講中」、「届出予定」、「24 時間対応が困難」、「患者から負担をもらうことに抵抗がある」、「患者の負担金が増える」、「開局時間の条件を満たせない」、「勤務表等の配布に抵抗がある（管理薬剤師以外全て女性薬剤師）」、「1 人薬剤師のため」、「意義がわからない。複数の薬剤師の目を見た方が良い場合もある」、「服薬指導、相談は当たり前のこと」、「人員不足」、「来局者すべてに同じ対応をしているのに負担金が変わる」、「地域活動の取組の内容が不明」、「現在でも特定患者からの電話回数が多く、これ以上多くなると困る」、「高齢のため」、「基準を満たす薬剤師 1 人に患者が集中し、効率が悪い」等が挙げられた。

⑦かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向

未届出施設における、かかりつけ薬剤師指導料等に関する今後の予定・意向をみると、届出について「具体的な予定がある」と回答した施設が 8.6%、「時期は未定だが、届出を検討中」が 47.9%で両者を合わせると 6 割近くを占めた。

図表 94 かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向（未届出施設）



図表 95 かかりつけ薬剤師指導料等の届出予定時期

（かかりつけ薬剤師指導料等の届出について「具体的な予定がある」と回答した施設、n=43）

	施設数(件)	構成割合(%)
平成 29 年 7 月	8	18.6
平成 29 年 8 月	7	16.3
平成 29 年 9 月	10	23.3
平成 29 年 10 月	3	7.0
平成 29 年 11 月	4	9.3
平成 29 年 12 月	4	9.3
平成 30 年 1 月以降	6	14.0
無回答	1	2.3
合計	43	100.0

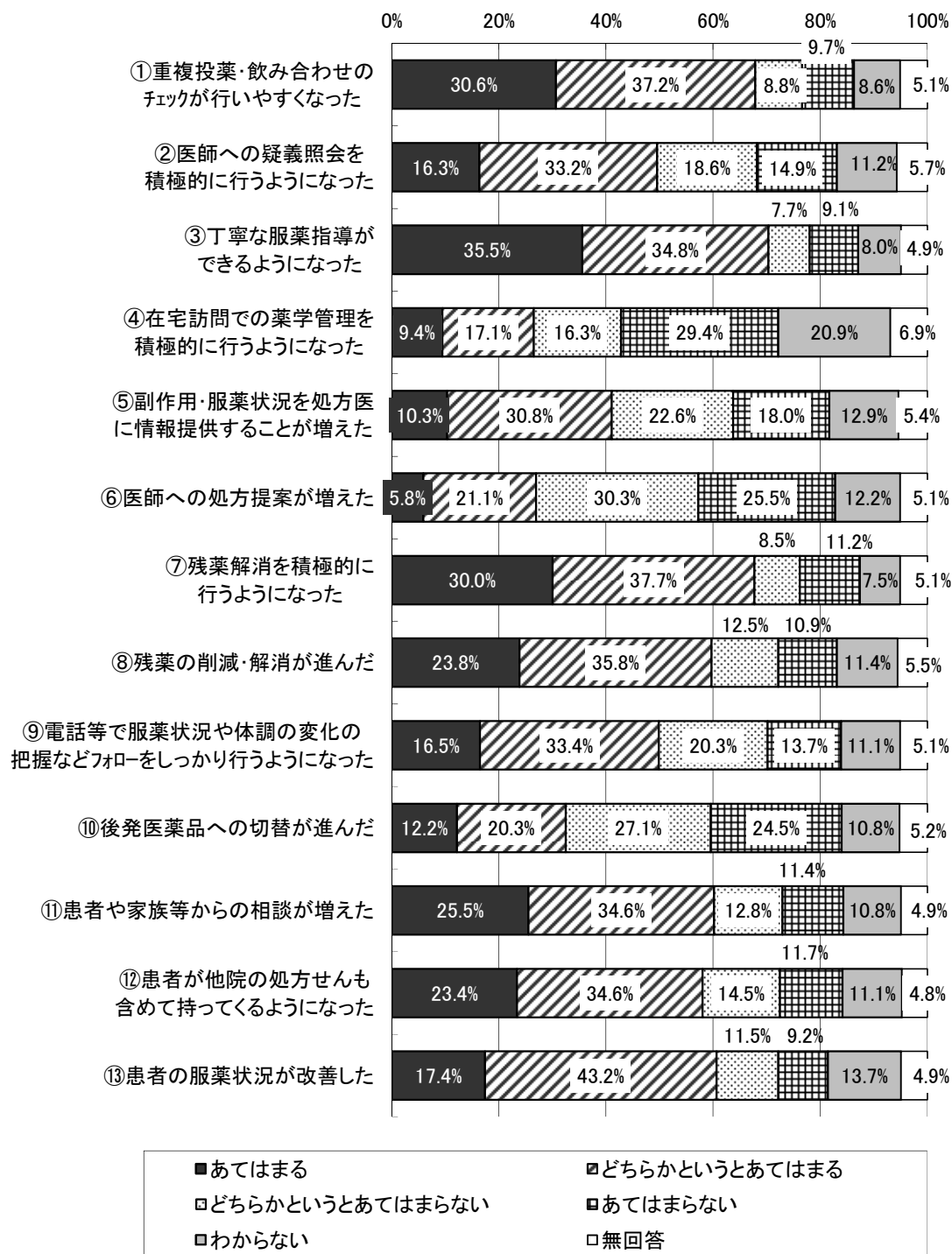
⑧かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等

届出施設を対象にかかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等を尋ねた結果が、次の図表である。

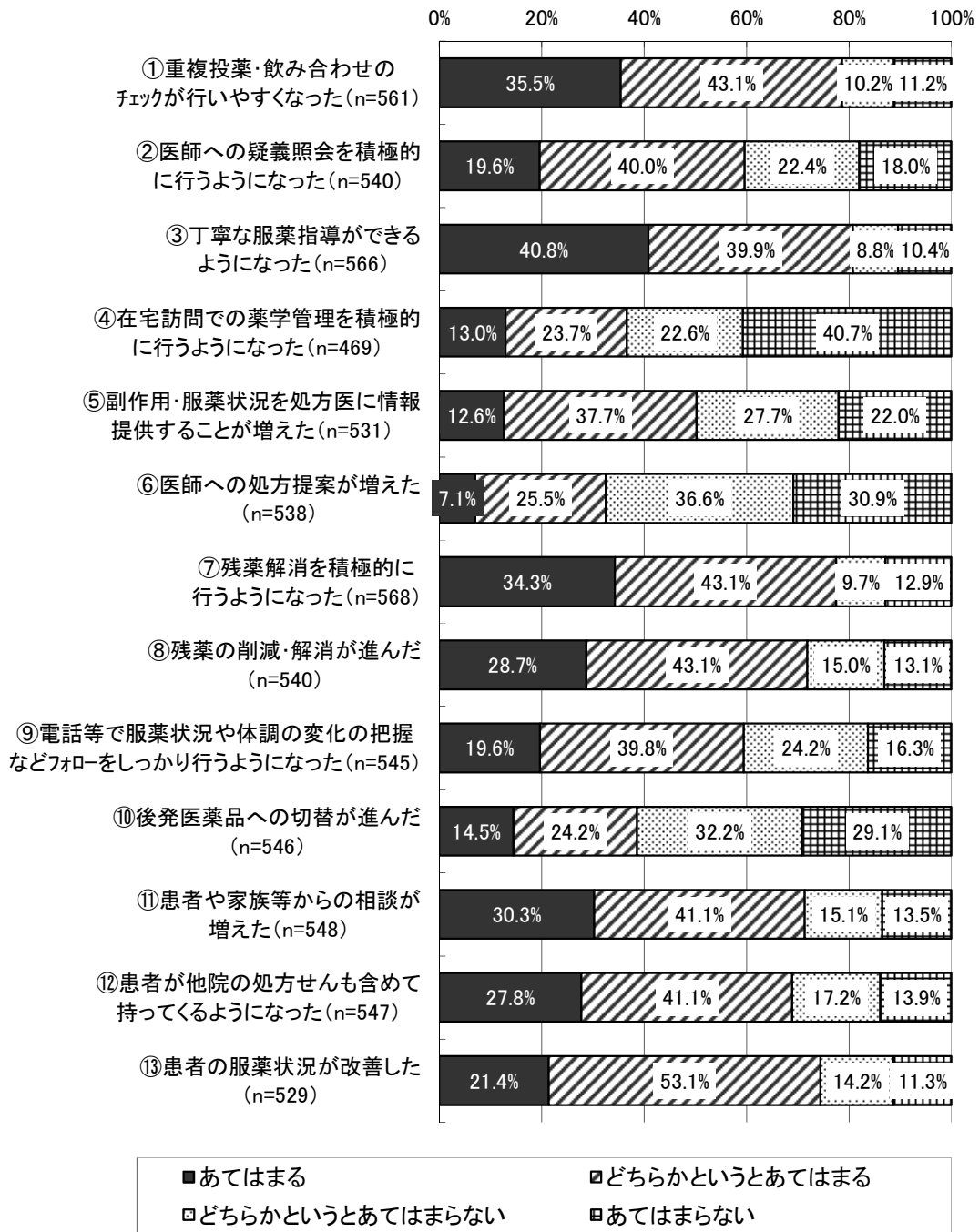
「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「③丁寧な服薬指導ができるようになった」(70.3%)、「①重複投薬・飲み合わせのチェックが行いやすくなった」(67.8%)、「⑦残薬解消を積極的に行うようになった」(67.7%)、「⑬患者の服薬状況が改善した」(60.6%)、「⑪患者や家族等からの相談が増えた」(60.1%) という順であり、いずれも 6 割以上となった。

他に「⑧残薬の削減・解消が進んだ」(59.6%)、「⑫患者が他院の処方せんも含めて持ってくるようになった」(58.0%) が 6 割近くとなった。

図表 96 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等（届出施設、n=650）



図表 97 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等
(届出施設、無回答等を除いたもの)



(注) 上記の図表は、本質問に対する選択肢で「わからない」という回答、または無回答であったものを各項目について除外して集計した結果である。

上記以外に診療報酬改定の影響・効果等があった場合にその内容を自由記述式で記載していただいた。以下は、主な内容を取りまとめたものである。

図表 98 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等（届出施設、自由記述式）

- ・患者から話しかけられることが増えた。
- ・患者側からいろいろと質問してくるようになった。
- ・患者との関係がより親密になった。
- ・患者の家庭の状況や食事内容、生活状況等について細かく訊きやすくなった。
- ・問い合わせ、相談等の電話が増えた。
- ・コミュニケーションがとりやすくなり服薬指導がしやすくなった。待ち時間や対応についてのクレームが減った。
- ・患者における残薬の削減意識が向上した。
- ・専属の薬剤師を持てたこと、及び 24 時間対応で、患者の安心感は増大した。多くのことを相談してくれるようになった。
- ・「安心して薬が飲める」と言われたり、「具体的にどういう効果・作用かがわかり、治そうと思えた」と言ってもらえた。
- ・毎回、同じ薬剤師が対応することで患者が安心感、信頼感を持ってくれるようになった。
- ・「かかりつけ薬剤師」はもとより「かかりつけ薬局」への認識が高まっていると感じる。
- ・夜間・休日の問合せが増えた。23 時～朝 5 時の深夜帯に 17 回電話があった。心身休まる時間が持てない。休暇中も電話が入る。／等

3. 診療所・病院調査の結果

【調査対象等】

○診療所調査

調査対象：1) 地域包括診療料の届出診療所（悉皆）、2) 地域包括診療加算の届出施設の中から無作為抽出した診療所、3) 小児かかりつけ診療料の届出施設の中から無作為抽出した診療所、1)～3) 合わせて1,000 施設

回 答 数：467 施設

回 答 者：開設者・管理者

○病院調査

調査対象：1) 地域包括診療料の届出病院（悉皆）、2) 1) を除く病院の中から無作為抽出した病院、1) 2) 合わせて1,000 施設

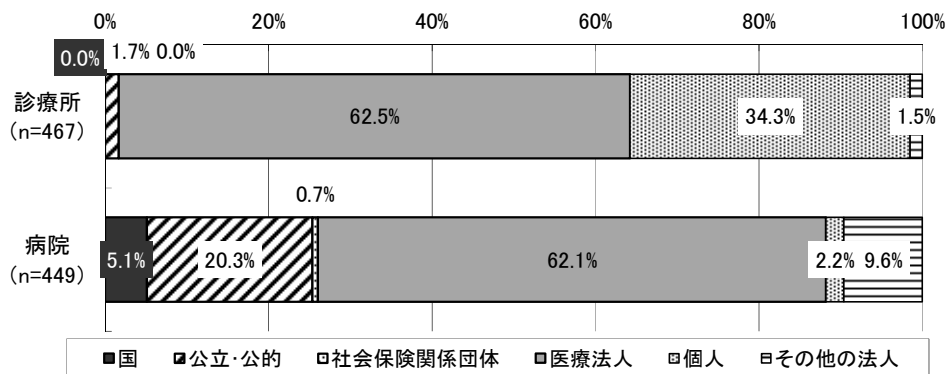
回 答 数：449 施設

回 答 者：開設者・管理者

(1) 施設の概要等

①開設者

図表 99 開設者



(注) 開設者は以下のとおり。

国 立：国、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構、独立行政法人地域医療機能推進機構、国立大学法人、国立研究開発法人

公 立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

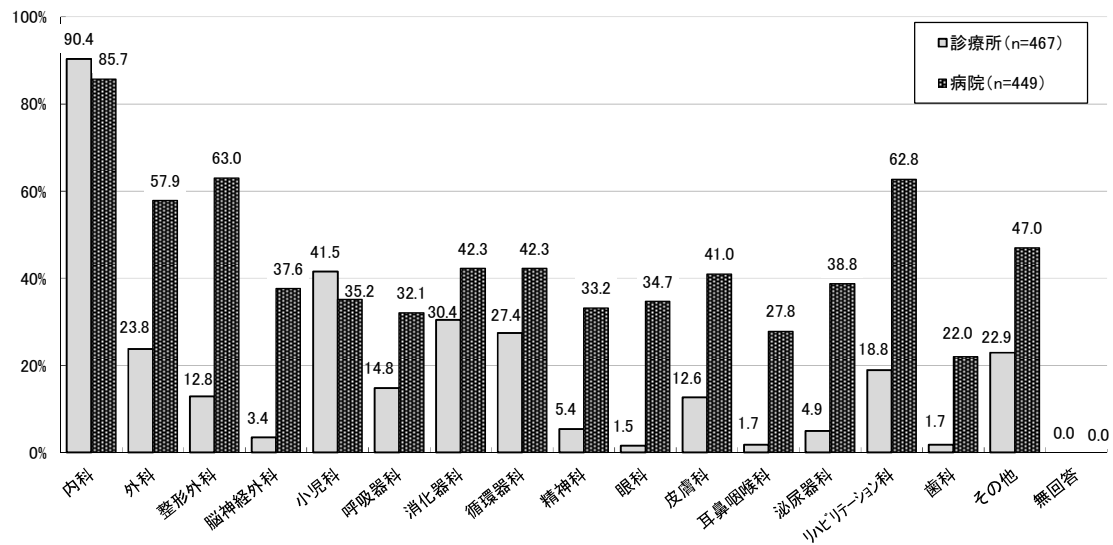
公 的：日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

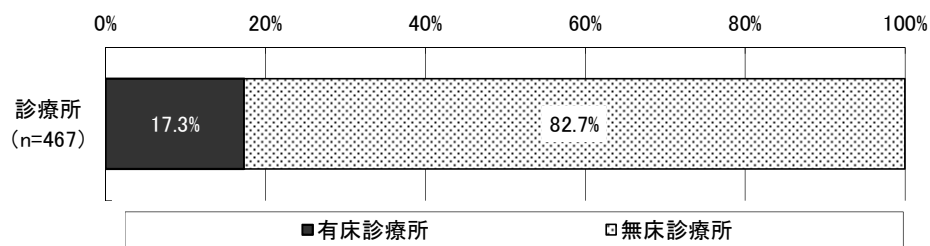
②標榜診療科

図表 100 標榜診療科（複数回答）



③診療所の種別

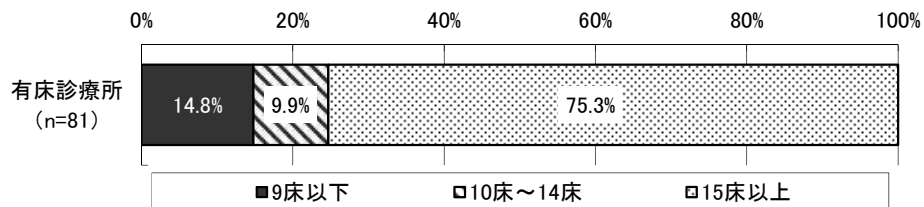
図表 101 診療所の種別



④許可病床数

1) 診療所

図表 102 有床診療所の病床規模別施設割合



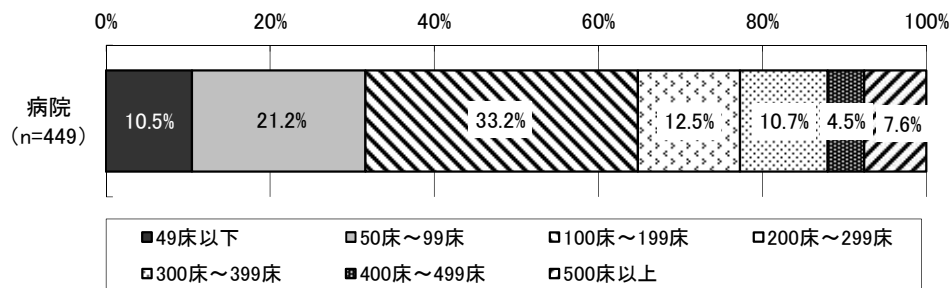
図表 103 有床診療所の許可病床数（n=81）

（単位：床）

	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	12.4	7.0	15.0
療養病床	3.4	6.0	0.0
（うち）介護療養病床	1.1	3.1	0.0
全体	15.9	5.3	19.0

2) 病院

図表 104 病院の許可病床規模別施設割合



図表 105 病院の許可病床数（n=449）

（単位：床）

	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	135.8	192.3	58.0
療養病床	37.8	54.3	0.0
（うち）介護療養病床	4.4	17.0	0.0
精神病床	32.7	87.4	0.0
感染症病床	0.3	1.3	0.0
結核病床	1.0	6.4	0.0
全体	207.6	191.1	145.0

⑤職員数

1) 診療所

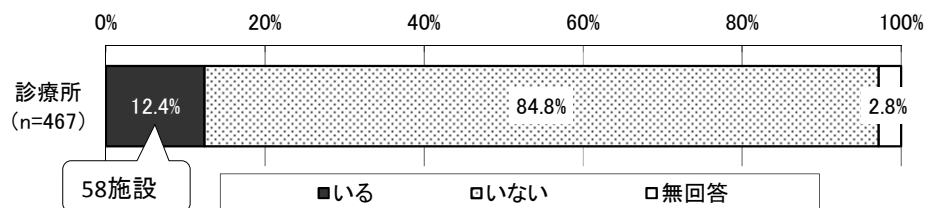
図表 106 診療所の職員数（常勤換算、n=454）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.8	2.0	1.0
歯科医師	0.1	0.8	0.0
保健師・助産師・看護師	2.5	3.9	1.3
准看護師	1.8	2.3	1.0
薬剤師	0.2	1.3	0.0
リハビリ職	0.5	2.1	0.0
管理栄養士	0.1	0.5	0.0
その他の医療職	1.0	6.4	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	4.8	11.2	2.7
合計	12.8	25.2	7.0

（注）職員数について回答のあった 454 施設を集計対象とした。

図表 107 診療所における薬剤師の有無



2) 病院

図表 108 病院の職員数（常勤換算、n=438）

（単位：人）

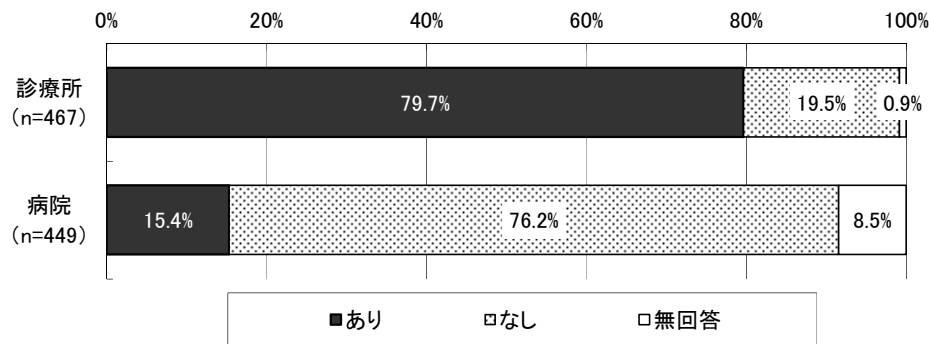
	平均値	標準偏差	中央値
医師	36.7	90.7	10.0
歯科医師	1.7	11.7	0.0
保健師・助産師・看護師	130.3	192.5	54.3
准看護師	13.3	13.5	10.0
薬剤師	7.7	12.3	3.2
リハビリ職	20.0	26.5	10.0
管理栄養士	3.1	3.3	2.0
その他の医療職	34.8	43.0	21.9
社会福祉士	2.5	3.4	1.9
その他の職員	59.7	91.1	32.1
合計	309.8	417.0	176.5

（注）職員数について回答のあった 438 施設を集計対象とした。

⑥研修の受講状況

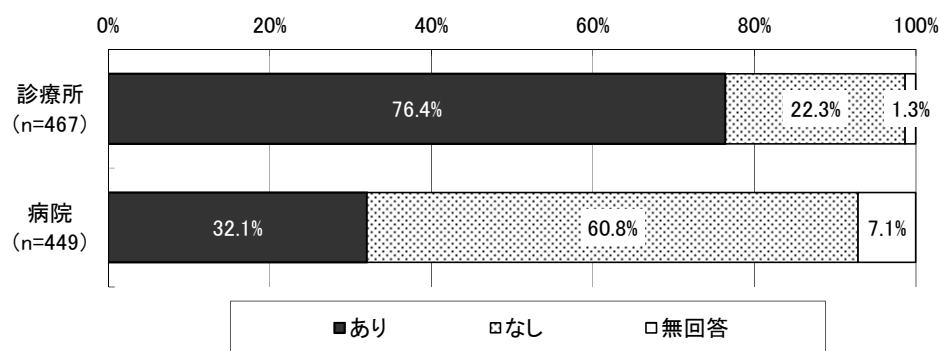
1) 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」の受講状況

図表 109 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無



2) 日本医師会の認知症に係る研修の受講状況

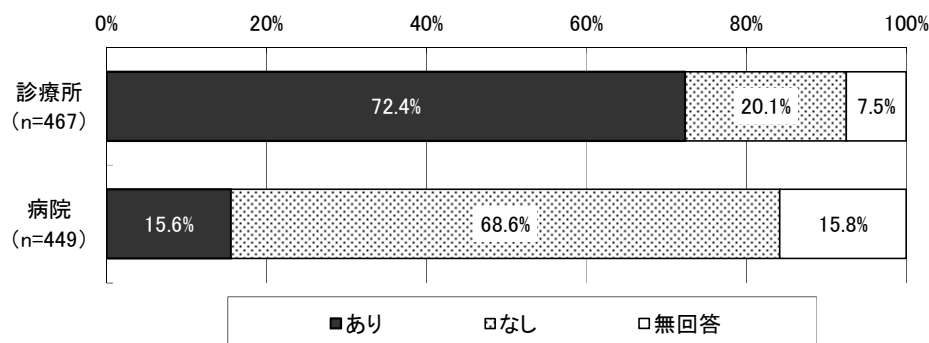
図表 110 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無



(注) 都道府県及び指定都市が認知症地域医療支援事業として実施する研修事業で「認知症サポート医養成研修事業」と「かかりつけ医認知症対応力向上研修事業」がある。

3) 慢性疾患に係る適切な研修の受講状況

図表 111 慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師の有無



図表 112 慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師数（研修を受講した医師がいる施設）

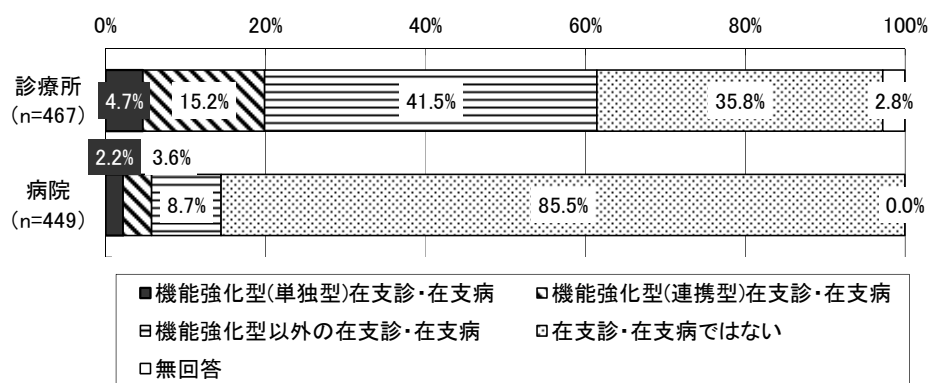
（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	310	1.3	0.8	1.0
病院	61	2.6	2.6	1.0

（注）慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師がいる施設で、受講した医師の人数について回答のあった施設を集計対象とした。

⑦在宅療養支援診療所・病院の状況

図表 113 在宅療養支援診療所・病院の状況

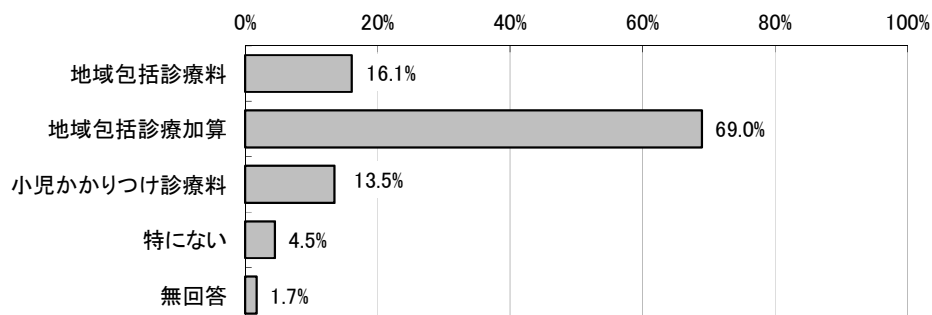


⑧地域包括診療料等の施設基準の届出状況

1) 診療所

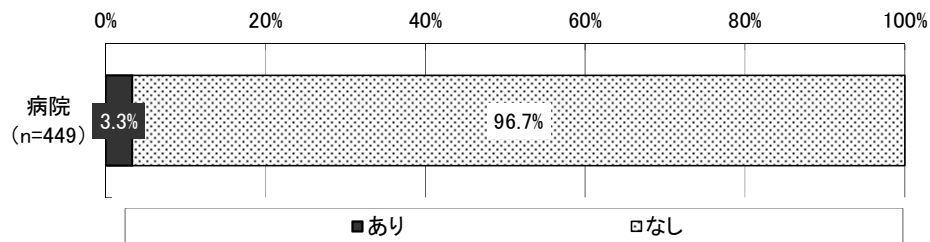
対象施設を抽出した際には、地域包括診療料、地域包括診療加算、小児かかりつけ診療料のいずれかの届出をしている診療所の中から抽出したが、各施設基準の届出施設は次のようになった。

図表 114 診療所における地域包括診療料等の施設基準の届出状況（複数回答、n=467）



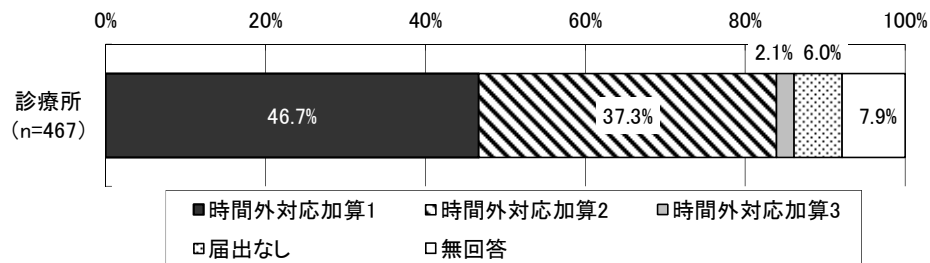
2) 病院

図表 115 病院における地域包括診療料の施設基準の届出状況



⑨診療所における時間外対応加算の種類

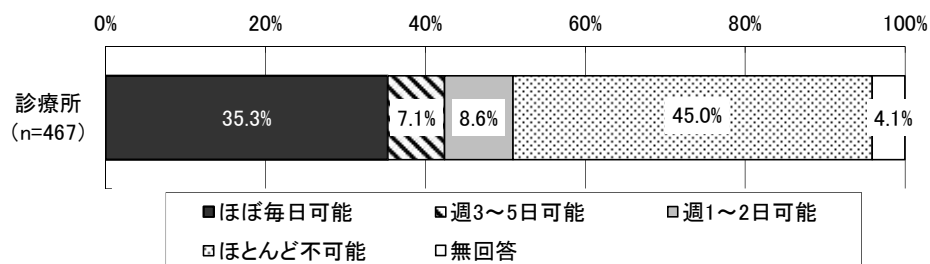
図表 116 診療所における時間外対応加算の種類



⑩救急医療体制等

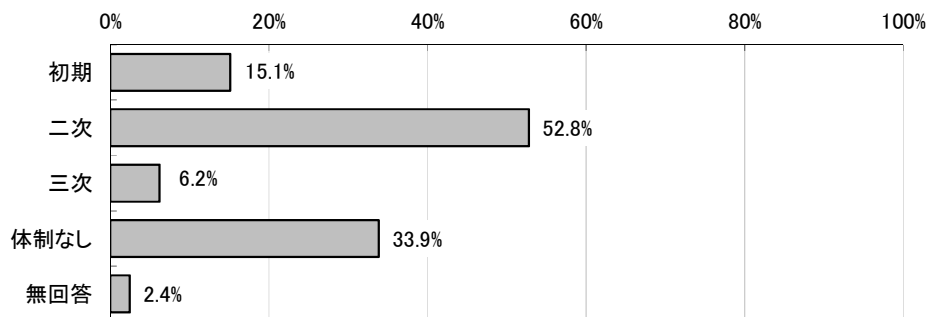
1) 診療所における現在の夜間救急対応の可否

図表 117 診療所における現在の夜間救急対応の可否



2) 病院における救急医療体制

図表 118 病院における救急医療体制（複数回答、n=449）

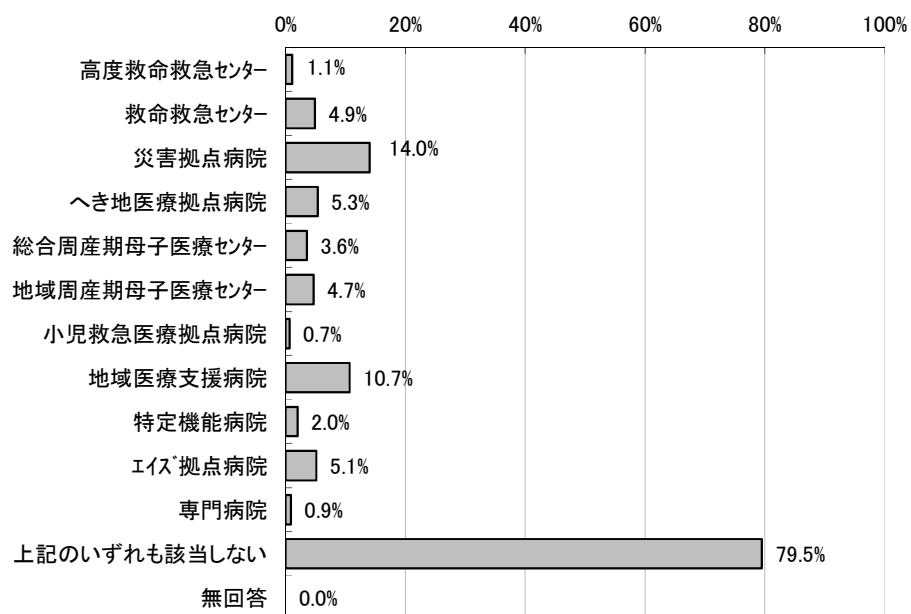


（注）定義は以下のとおり。

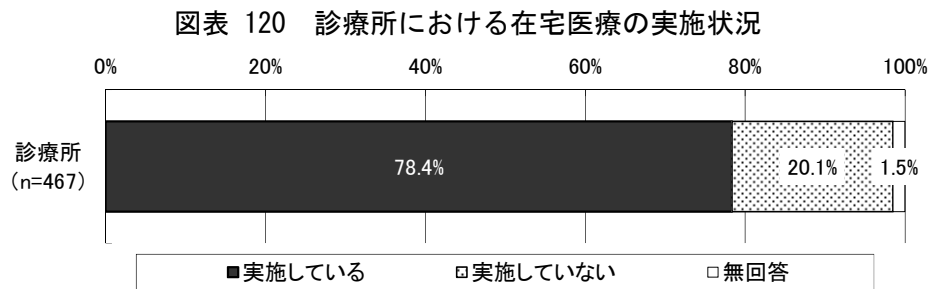
- ・ 初期：軽度の救急患者への夜間・休日における診療を行う医療施設
- ・ 二次：入院を要する救急医療施設
- ・ 三次：救命救急医療センター

⑪病院における承認等の状況

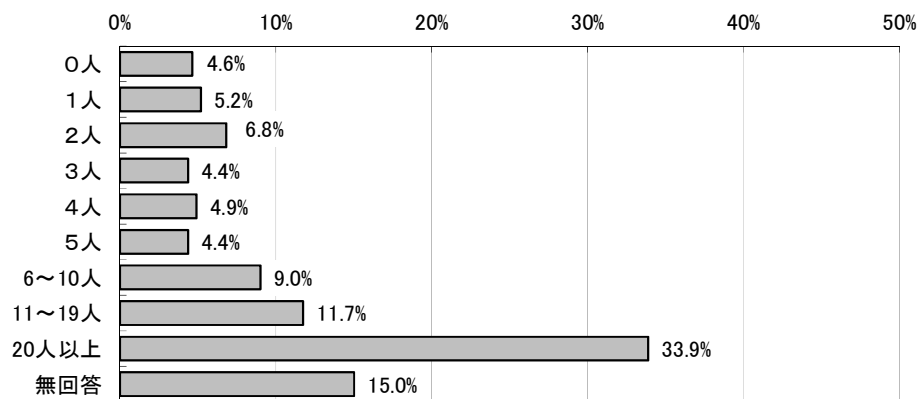
図表 119 病院における承認等の状況（複数回答、n=449）



⑫診療所における在宅医療の実施状況



図表 121 平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数）
（在宅医療を「実施している」と回答した診療所、単数回答、n=366）



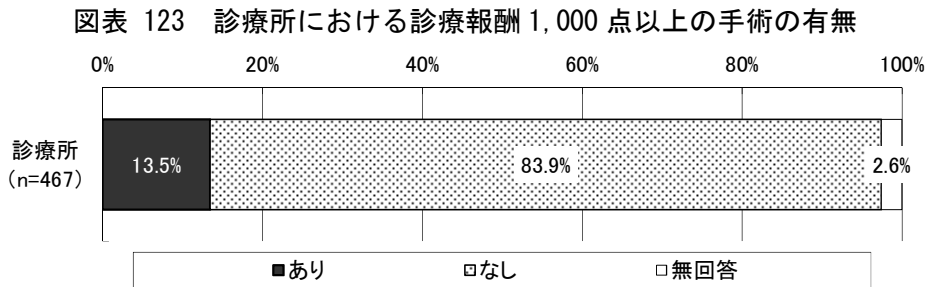
図表 122 平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数、n=311）

（単位：人）

平均値	標準偏差	中央値
43.6	88.7	12.0

（注）在宅医療を実施していると回答した 366 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数）について回答のあった 311 施設を集計対象とした。

⑬診療所における診療報酬 1,000 点以上の手術の有無



図表 124 平成 29 年 6 月 1 か月間の 1,000 点以上の手術件数
(1,000 点以上の手術件数が「有」と回答した施設、n=58)

(単位：件)

平均値	標準偏差	中央値
14.4	42.2	5.0

(注) 診療報酬 1,000 点以上の手術が「あり」と回答した 63 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の 1,000 点以上の手術件数について回答のあった 58 施設を集計対象とした。

(2) 外来診療の状況

①外来患者数

1) 診療所

図表 125 平成 29 年 6 月 1 か月間の外来患者数（診療所）

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	439	152.2	327.2	73.0
再診延べ患者数	441	1,131.1	2,705.4	821.0

（注）初診患者数、再診延べ患者数についてそれぞれ回答のあった施設を集計対象とした。

2) 病院

図表 126 平成 29 年 6 月 1 か月間の外来患者数（病院）

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	435	594.0	854.5	255.0
再診延べ患者数	435	5,685.2	8,618.6	2,677.0

（注）初診患者数、再診延べ患者数についてそれぞれ回答のあった施設を集計対象とした。

②各診療報酬の算定患者数と算定回数

1) 地域包括診療料

図表 127 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療料の算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=73）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	34.5	77.2	2.0
算定回数(回)	34.5	77.2	2.0

（注）地域包括診療料の届出施設 75 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 73 施設を集計対象とした。

図表 128 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療料の算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=14）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	12.6	32.2	0.0
算定回数(回)	12.6	32.2	0.0

（注）地域包括診療料の届出施設 15 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 14 施設を集計対象とした。

2) 地域包括診療加算

図表 129 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療加算の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=299）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	156.7	183.8	115.0
算定回数(回)	235.3	269.8	169.0

(注) 地域包括診療加算の届出施設（診療所 322 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

3) 認知症地域包括診療料

図表 130 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療料の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=73）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	9.9	53.7	0.0
算定回数(回)	9.9	53.7	0.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 75 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 73 施設を集計対象とした。

図表 131 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療料の
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=15）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	1.3	2.9	0.0
算定回数(回)	1.3	2.9	0.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 15 施設を集計対象とした。

4) 認知症地域包括診療加算

図表 132 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療加算の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=287）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	5.5	14.4	0.0
算定回数(回)	7.8	18.1	0.0

(注) 地域包括診療加算の届出施設（診療所 322 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に認知症地域包括診療加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

5) 小児かかりつけ診療料

図表 133 平成 29 年 6 月 1 か月間における小児かかりつけ診療料の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=54）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	71.3	130.8	3.5
算定回数(回)	131.5	263.6	7.5

(注) 小児かかりつけ診療料の届出施設（診療所 63 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に小児かかりつけ診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

6) 薬剤総合評価調整加算

図表 134 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の
算定患者数（実人数）と算定回数（有床診療所、n=65）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.4	0.0
算定回数(回)	0.0	0.4	0.0

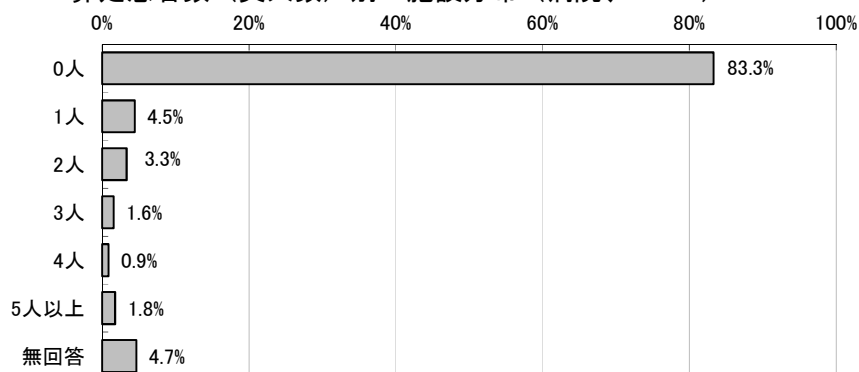
(注) 有床診療所 81 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 135 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=428）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.4	1.3	0.0
算定回数(回)	0.4	1.3	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 136 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の
算定患者数（実人数）別 施設分布（病院、n=449）



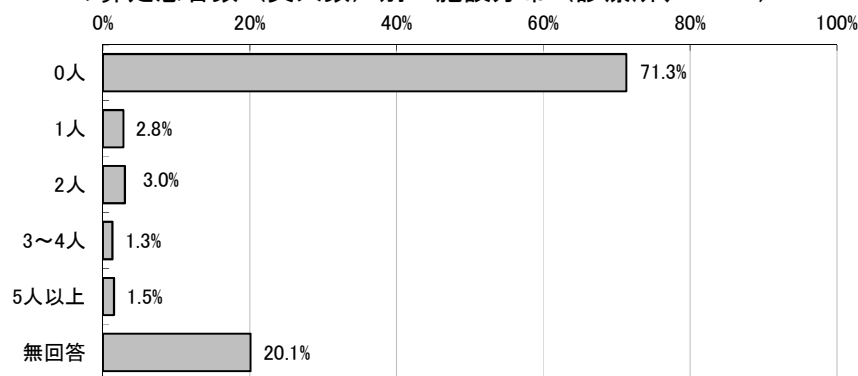
7) 薬剤総合評価調整管理料

図表 137 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=373）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.3	1.0	0.0
算定回数(回)	0.3	1.0	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整管理料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 138 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）別 施設分布（診療所、n=373）

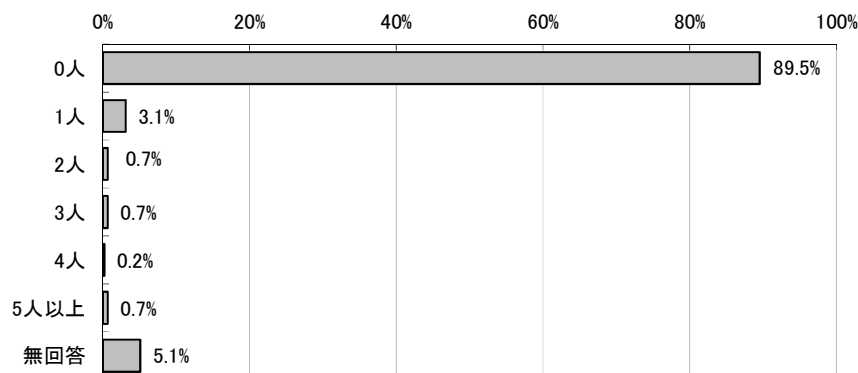


図表 139 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=426）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.1	0.6	0.0
算定回数(回)	0.1	0.6	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整管理料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 140 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）別 施設分布（病院、n=449）



8) 連携管理加算

図表 141 平成 29 年 6 月 1 か月間における連携管理加算（50 点）の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=369）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.1	0.5	0.0
算定回数(回)	0.1	0.5	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に連携管理加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 142 平成 29 年 6 月 1 か月間における連携管理加算（50 点）の
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=420）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.0	0.0
算定回数(回)	0.0	0.0	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に連携管理加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。病院における実績はなかった。

9) 在宅患者訪問薬剤管理指導料

図表 143 平成 29 年 6 月 1 か月間における在宅患者訪問薬剤管理指導料の
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=368）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	1.0	18.3	0.0
算定回数(回)	1.4	26.1	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 144 平成 29 年 6 月 1 か月間における在宅患者訪問薬剤管理指導料の
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=422）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.3	0.0
算定回数(回)	0.0	0.5	0.0

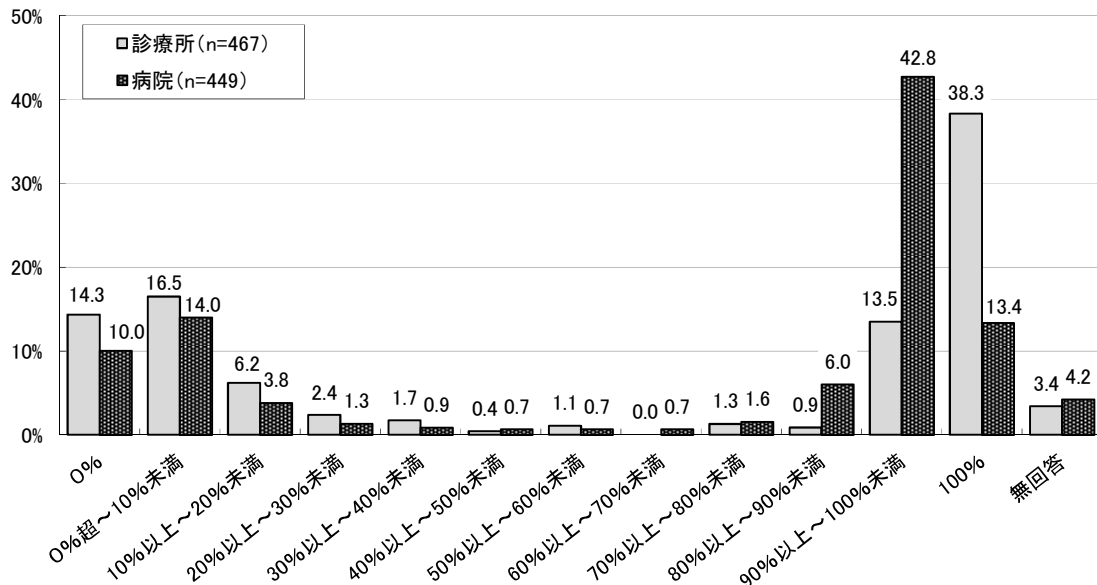
(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

(3) 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等

①外来における院外処方率

外来における院外処方率をみると、院外処方率が「100%」の施設は診療所では 38.3%、病院では 13.4%であった。これに「90%以上～100%未満」を合わせた割合（院外処方率が90%以上の施設）は、診療所では 51.8%、病院では 56.2%と 5 割以上となった。

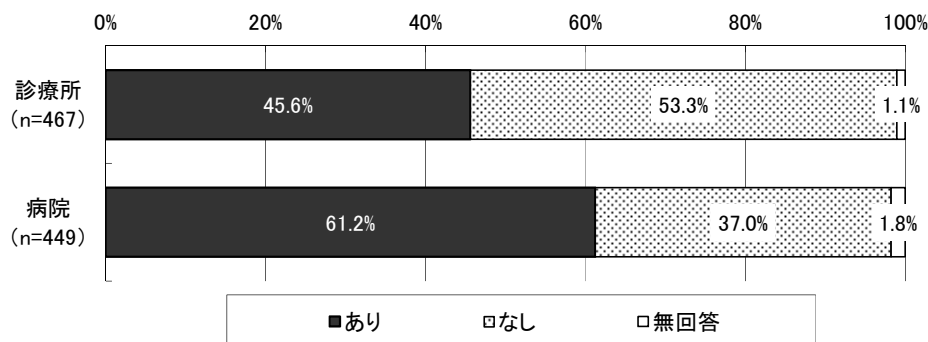
図表 145 外来における院外処方率



②いわゆる門前薬局の有無

いわゆる門前薬局の有無についてみると、「あり」の割合は診療所では 45.6%、病院では 61.2%であった。

図表 146 いわゆる門前薬局の有無

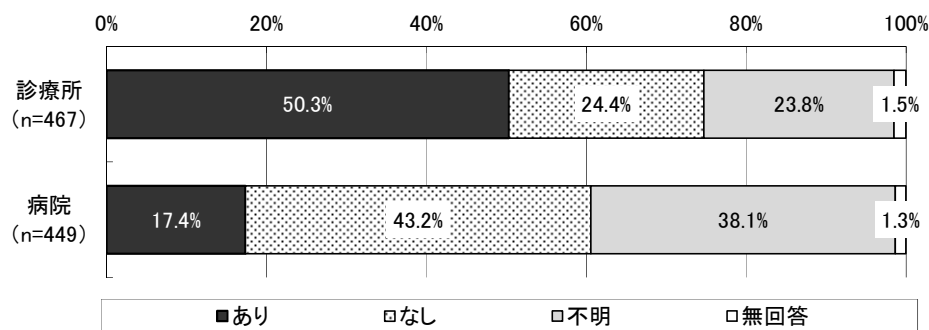


(注) いわゆる門前薬局には同一敷地内にある薬局も含む。

③地域における 24 時間対応の薬局の有無

地域における 24 時間対応の薬局の有無についてみると、「あり」の割合は診療所では 50.3%、病院では 17.4%であった。「不明」という回答も診療所では 23.8%、病院では 38.1%あった。

図表 147 地域における 24 時間対応の薬局の有無

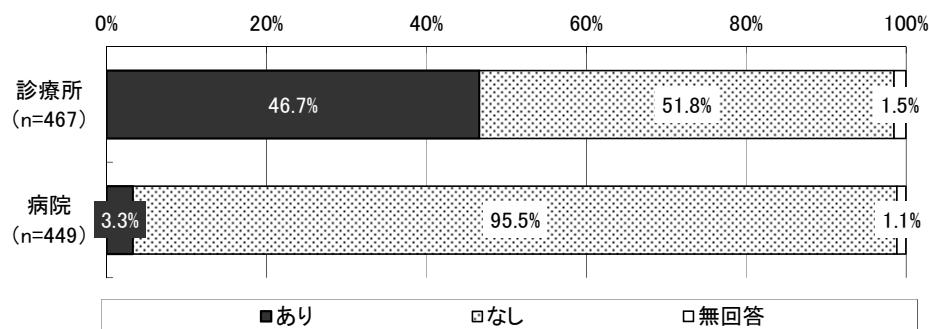


④連携している 24 時間対応の薬局の状況

連携している 24 時間対応の薬局の有無についてみると、「あり」の割合は、診療所では 46.7%、病院では 3.3%であった。

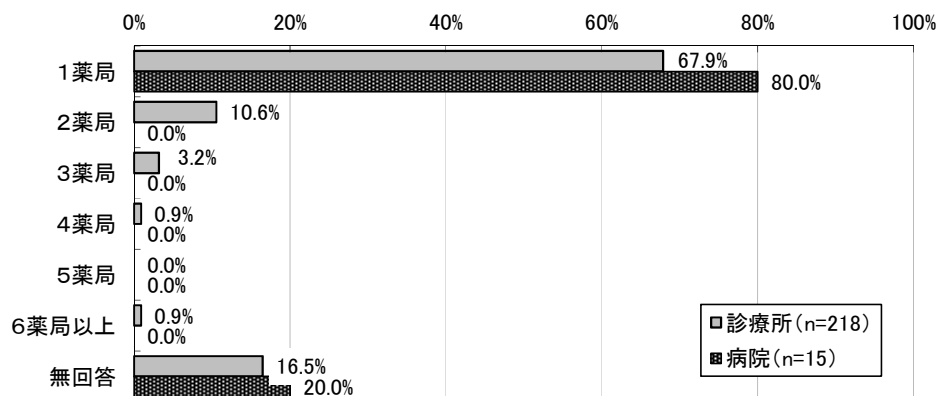
連携している薬局数をみると、「1 薬局」が診療所では 67.9%、病院では 80.0%で最も多かった。

図表 148 連携している 24 時間対応の薬局の有無



(注) ここでの「連携している薬局」とは、地域包括診療料等の算定に当たって連携している薬局を指す。

図表 149 連携している 24 時間対応の薬局数別施設分布
(連携している 24 時間対応の薬局が「あり」と回答した施設)



図表 150 連携している 24 時間対応の薬局数
(連携している 24 時間対応の薬局が「あり」と回答した施設)

(単位：薬局)

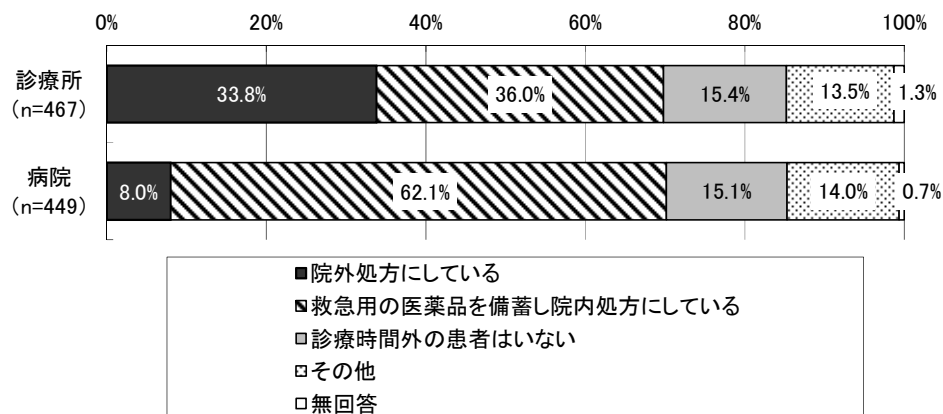
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	182	1.3	0.9	1.0
病院	12	1.0	0.0	1.0

(注) 連携している 24 時間対応の薬局があると回答した施設のうち、連携している 24 時間対応の薬局数について回答のあった施設を集計対象とした。

⑤診療時間外の外来患者に対する処方状況

診療時間外の外来患者に対する処方の状況についてみると、診療所、病院ともに「救急用の医薬品を備蓄し院内処方にしている」の割合が高かった。特に病院では 62.1%と診療所（36.0%）と比較しても高かった。一方、診療所では「院外処方にしている」の割合が 33.8%と病院（8.0%）と比べて高くなっている。

図表 151 診療時間外の外来患者に対する処方の状況



（注）「その他」の内容は以下のとおり。

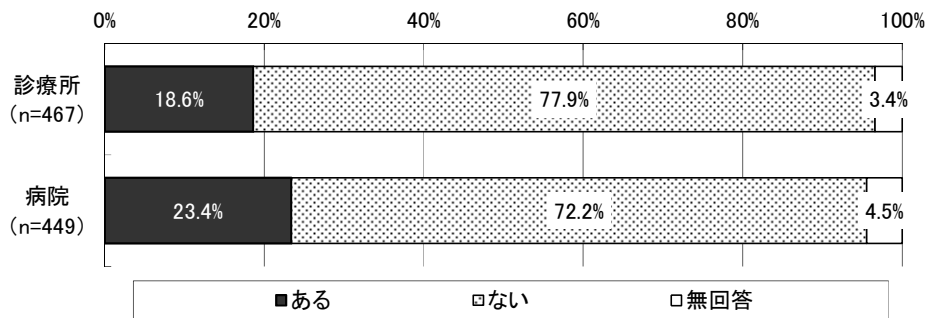
診療所：「院外処方し、開いている薬局を紹介している」、「症状・時間に合わせて院外にしたり、院内にしたりしている」等が挙げられた。

病 院：「22 時まで院外、22 時～翌日 8 時 30 分まで院内」、「準夜帯は院外、深夜は院内」、「外来患者に処方を行っていない」等が挙げられた。

⑥院外処方せんにおける残薬確認のチェック状況

平成 29 年 4 月以降の、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行した経験の有無についてみると、「ある」の割合は、診療所では 18.6%、病院では 23.4%であった。

図表 152 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした経験の有無（平成 29 年 4 月以降）



(注) 平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」または「×」を記した処方せんを発行した経験の有無を尋ねた質問。

図表 153 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした処方せんの枚数（平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、診療所、n=74）

	平均値	標準偏差	中央値
①チェックした処方せんの発行枚数(枚)	1,042.3	1,524.7	80.0
②残薬確認の結果、処方日数調整を行った処方せんの発行枚数(枚)	30.6	78.2	9.0
③②／①	2.9%	－	11.3%

(注) 平成 29 年 4 月以降、チェックした院外処方せんを発行した 87 施設のうち、該当の処方せん枚数のいずれにも回答のあった 74 施設を集計対象とした。

図表 154 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした処方せんの枚数（平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、病院、n=66）

	平均値	標準偏差	中央値
①チェックした処方せんの発行枚数(枚)	2,429.9	5,866.1	51.5
②残薬確認の結果、処方日数調整を行った処方せんの発行枚数(枚)	44.5	84.6	7.5
③②／①	1.8%	－	14.6%

(注) 平成 29 年 4 月以降、チェックした院外処方せんを発行した施設のうち、該当の処方せん枚数のいずれにも回答のあった 66 施設を集計対象とした。

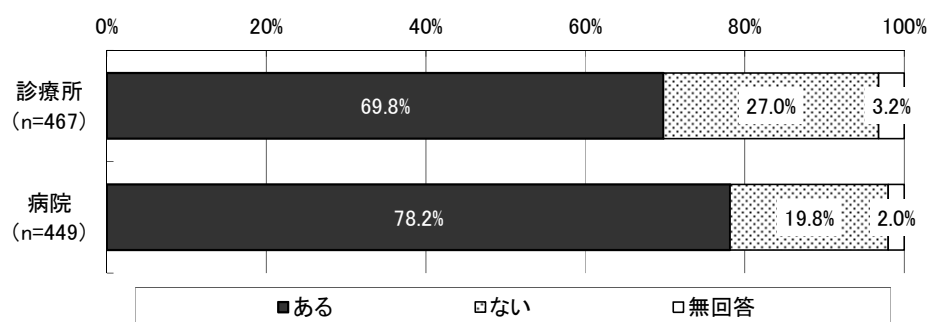
⑦院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況等

1) 院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況

平成 29 年 4 月以降の、院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無についてみると、「ある」の割合は診療所では 69.8%、病院では 78.2%であった。

平成 29 年 4 月～6 月までの 3 か月間における、30 日を超える長期投薬の処方せんの発行枚数の中央値は、診療所では 43.5 枚、病院では 700.0 枚であった。

図表 155 院外処方せんにおける 30 日を超える長期投薬の処方せんの発行経験の有無
(平成 29 年 4 月以降)



図表 156 院外処方せんにおける 30 日を超える長期投薬の処方せん発行枚数
(平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間)

(単位：枚)

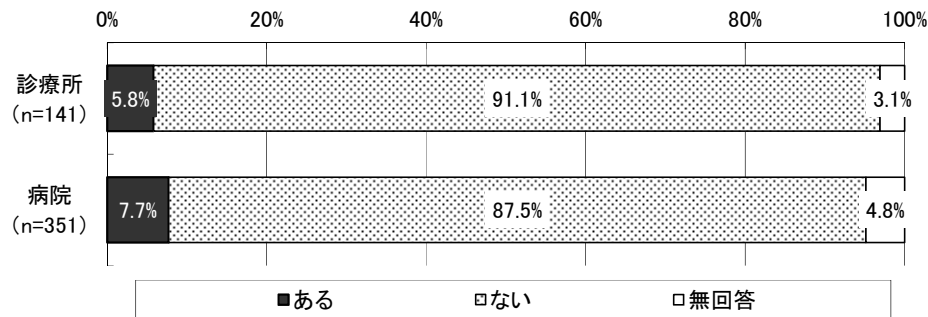
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	286	345.6	727.6	43.5
病院	257	2,461.7	4,006.9	700.0

(注) 平成 29 年 4 月以降、長期投薬の処方せんを発行した経験があると回答した施設のうち、該当処方せん枚数について回答のあった施設を集計対象とした。

2) 院外処方せんにおける分割指示を行った処方せんの発行状況

平成 29 年 4 月～6 月の 3 か月間に発行した 30 日を超える長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行った処方せんがあるか否かを尋ねたところ、「ある」という回答が診療所では 5.8%、病院では 7.7%であった。

図表 157 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行った処方せんの有無
(平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、長期投薬を行った処方せんのある施設)



図表 158 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行ってよかったこと
(分割指示を行った処方せんのある施設、自由記述式)

【診療所】

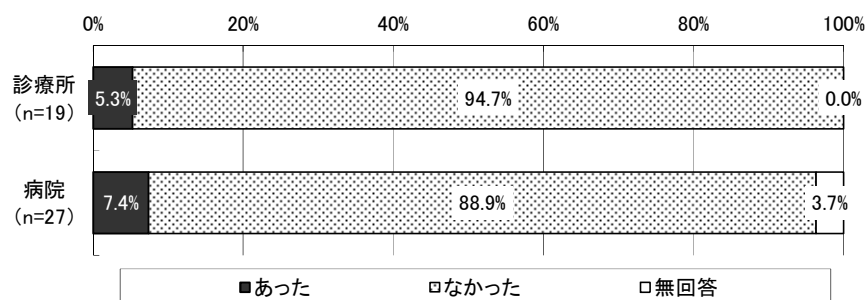
- ・飲み間違いが減った。
- ・保管するのに間違いにくかった (施設入所者)。
- ・内服が確実となり、残薬が減っている。 / 等

【病院】

- ・飲み間違いが減った。
- ・薬の紛失が減った。 / 等

分割指示を行った施設における、分割指示を行ったことによる問題の有無をみると、「あった」という回答が診療所では 5.3%、病院では 7.4%であった。これらの施設に問題点を尋ねたが、具体的な記述はなかった。

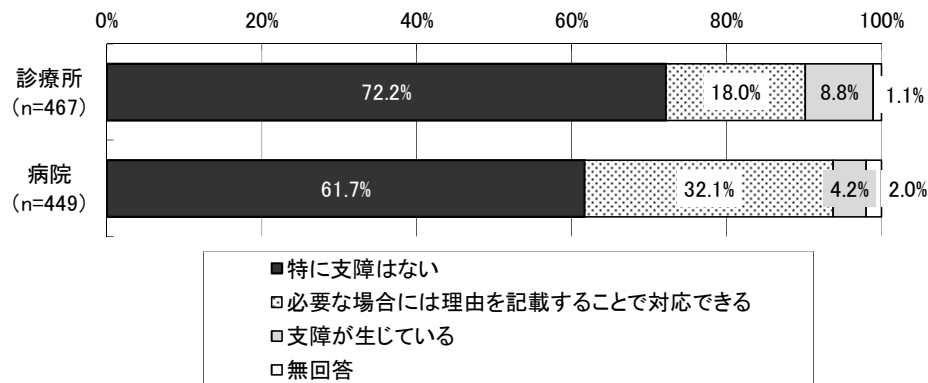
図表 159 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行ったことによる問題の有無
(分割指示を行った処方せんのある施設)



⑧湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響

湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響についてみると、「特に支障はない」が診療所では 72.2%、病院では 61.7%であり、最も多かった。次いで「必要な場合には理由を記載することで対応できる」が、診療所では 18.0%、病院では 32.1%であった。一方、「支障が生じている」が、診療所では 8.8%、病院では 4.2%であった。

図表 160 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響



図表 161 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる支障の内容
（「支障が生じている」と回答した施設、自由記述式）

【診療所】

- ・高齢者で使用枚数が多く再々の来院が困難な患者もいる。
- ・冬期間、高齢者等が受診することは困難。
- ・遠方の患者の交通費・時間等がかかる。
- ・不足分を購入していると（患者からの）不満。
- ・内服薬はあるのに湿布薬が足りなくなるとのクレームがあった。
- ・処方せんやレセプトに理由を記載しても 70 枚に査定される。／等

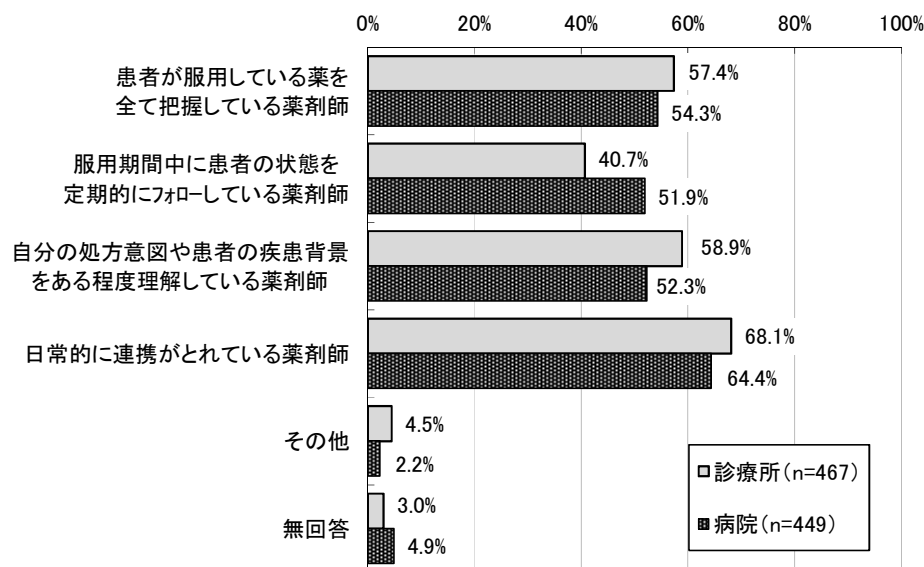
【病院】

- ・毎回、処方枚数合計や使用部位、1 日の使用量を記載しなければならないので手間。
- ・通院困難な、特に高齢者への対応。
- ・足りない患者が多い。
- ・不足分を OTC 薬等で対応し、皮膚炎を広範囲に発症した患者がいた。
- ・長期処方を進めているが、湿布薬については必要枚数が出せない。
- ・湿布薬が足りないとの訴えあり。
- ・患者から不満が出ている。／等

⑨薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師

残薬、重複投薬・多剤投薬の改善など薬剤の適正使用を進めるにあたり、どのような薬局薬剤師であれば連携を図りたいと考えるかを尋ねたところ、診療所、病院ともに「日常的に連携がとれている薬剤師」（診療所 68.1%、病院 64.4%）が最も多かった。次いで、診療所では「自分の処方意図や患者の疾患背景をある程度理解している薬剤師」（58.9%）が、病院では「患者が服用している薬を全て把握している薬剤師」（54.3%）が多かった。病院では「その他」以外のいずれの項目も5割を超えている。

図表 162 薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師（複数回答）



（注）「その他」の内容として、以下の内容が挙げられた。

診療所：「生活指導や地域包括ケアシステムに詳しい薬剤師」、「認知症の患者等にきちんと内服するよう指導できる薬剤師」、「訪問してチェックしてくれる薬剤師」等。

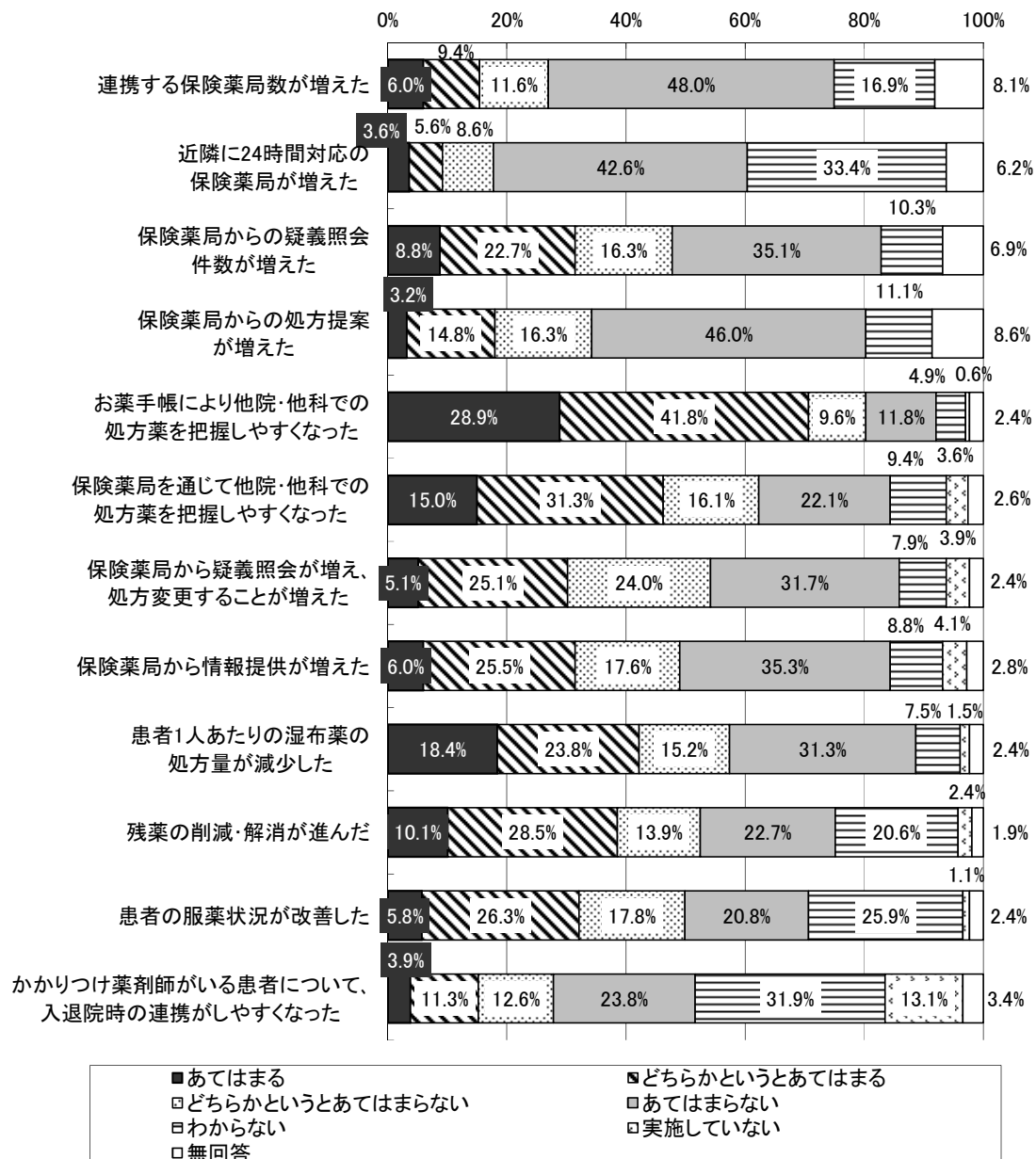
病院：「信頼関係が築けている薬剤師」、「精神疾患を有する患者、家族への理解が深い薬剤師」、「患者と信頼関係のある薬剤師」、「近い存在でコミュニケーションが十分にとれる薬剤師」、「連携システムが導入されている薬局の薬剤師」、「残薬調整をしっかりと行っている薬剤師」、「服薬アドヒアランスの把握ができていない薬剤師」、「患者にきっちりと指導できる薬剤師」等。

(4) 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等

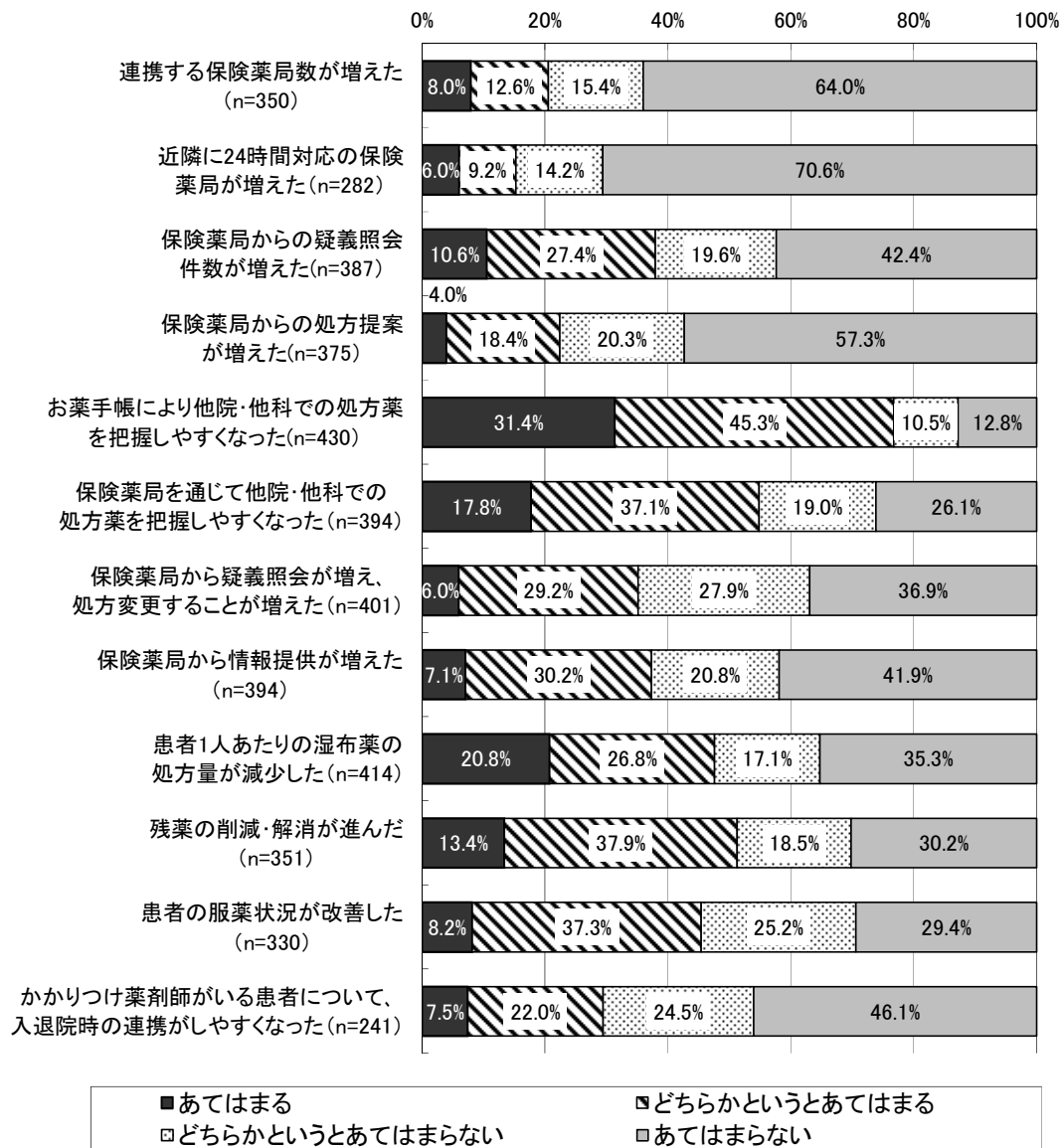
①診療所

診療所に対して、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねた結果が次の図表である。「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(70.7%)、「保険薬局を通じて他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(46.3%)、「患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(42.2%) であった。一方で、「あてはまらない」と「どちらかというにあてはまらない」の合計割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(62.3%)、「連携する保険薬局数が増えた」(59.6%) であった。

図表 163 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（診療所、n=467）



図表 164 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（診療所、無回答等を除いたもの）

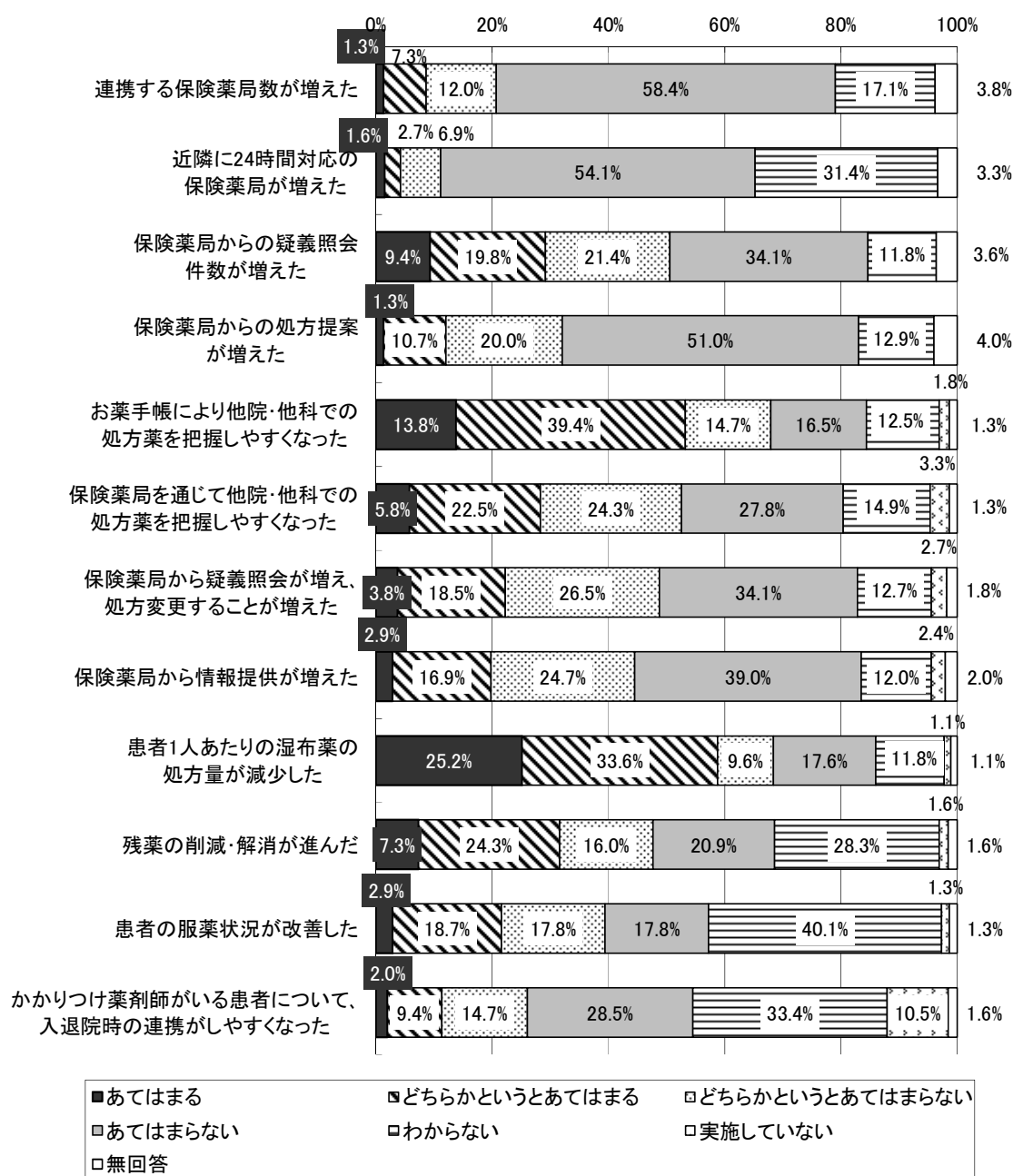


（注）上記の図表は、本質問に対する選択肢で「わからない」、「実施していない」という回答、または無回答であったものを各項目について除外して集計した結果である。

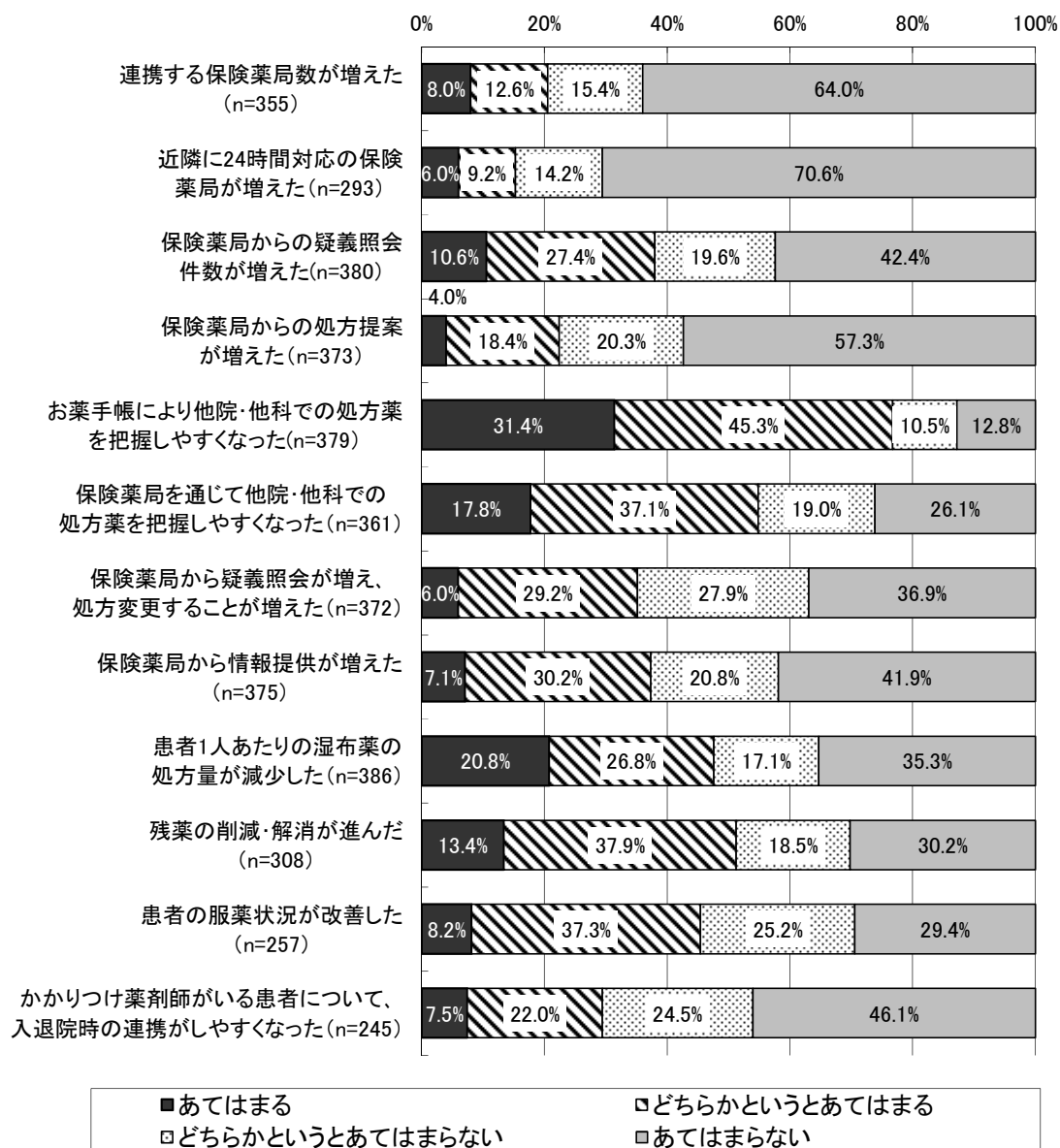
②病院

同様に病院に対して、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねた結果をみると、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(58.8%)、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(53.2%) であった。一方で、「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(71.0%)、「連携する保険薬局数が増えた」(70.4%) であった。診療所と比較して各項目で「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の割合が高かった。

図表 165 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（病院、n=449）



図表 166 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（病院、無回答等を除いたもの）



（注）上記の図表は、本質問に対する選択肢で「わからない」、「実施していない」という回答、または無回答であったものを各項目について除外して集計した結果である。

4. 患者調査の結果

【調査対象等】

調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。1 施設につき最大 2 名の患者を対象とした。なお、患者の抽出方法は、1) かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者がいる場合、優先的に 2 名、2) 1) の該当患者がいない場合、来局順に患者 2 名を調査対象とした。

回 答 数：1,424 人

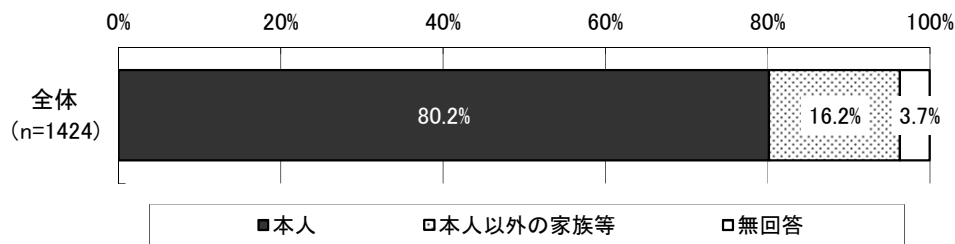
回 答 者：患者本人または家族

調査方法：調査対象薬局を通じて調査票を配布。回答した調査票の回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

(O) 記入者の属性等

①記入者と患者の関係

図表 167 記入者と患者の関係



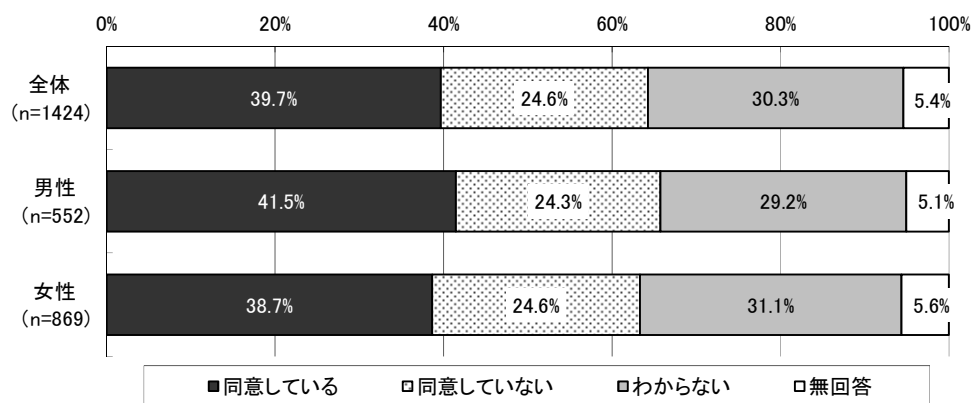
(注)「本人以外の家族」として、「母」、「妻」、「息子」、「娘」、「夫」、「孫」、「父」、「姪」、「保護者」等が挙げられた。

（１）回答者の属性等

①かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況

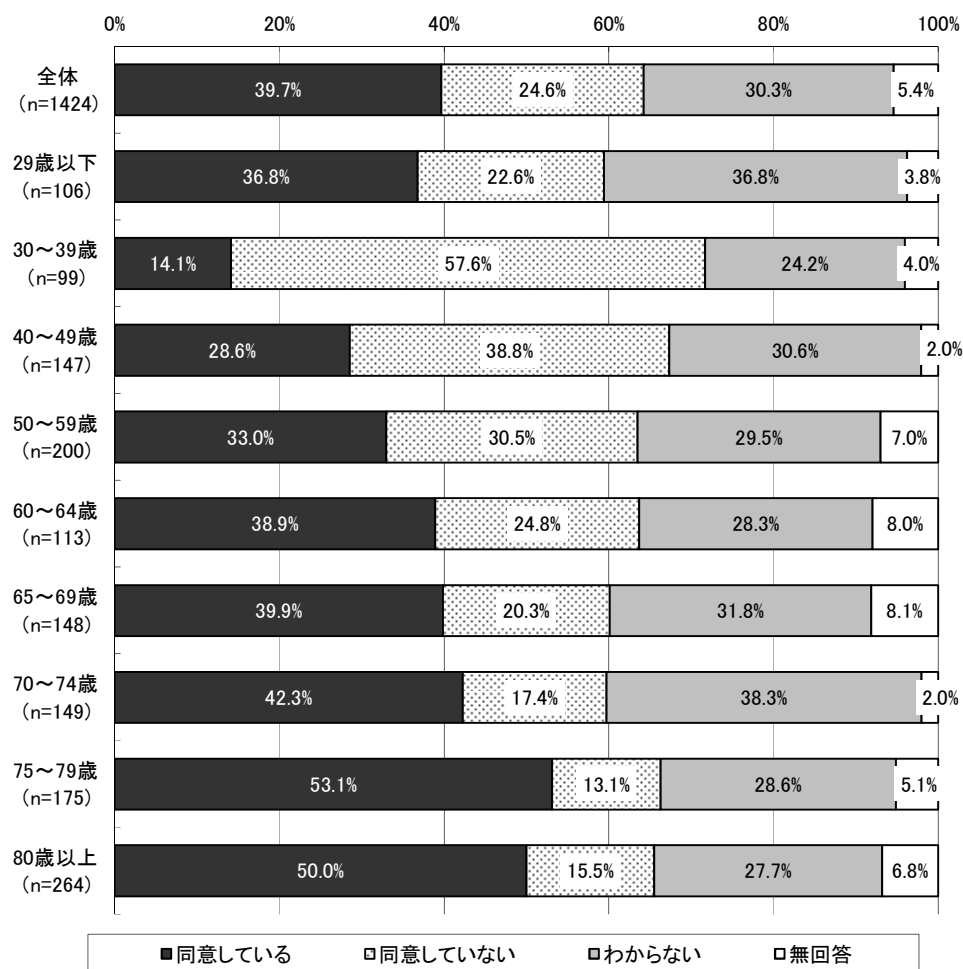
かかりつけ薬剤師指導料等（かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料）について「同意している」と回答した患者（以下、「同意している患者」）は39.7%、「同意していない」と回答した患者（以下、「同意していない患者」）は24.6%、「わからない」と回答した患者が30.3%であった。

図表 168 かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況（男女別）



（注）「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

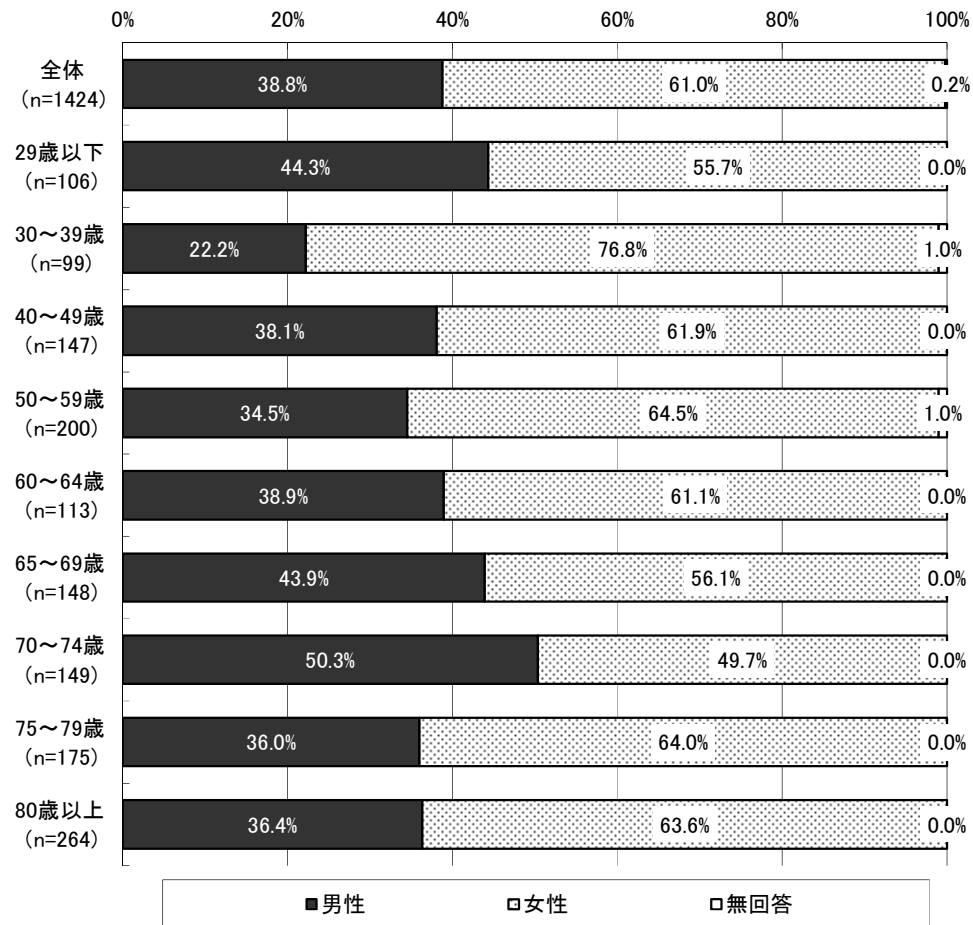
図表 169 かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の33人が含まれる。

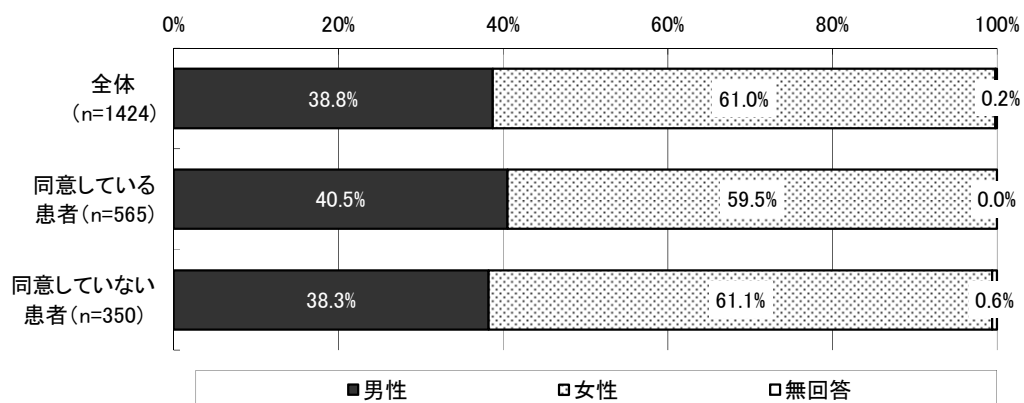
②性別

図表 170 性別



(注)「全体」には、年齢について無回答の33人が含まれる。

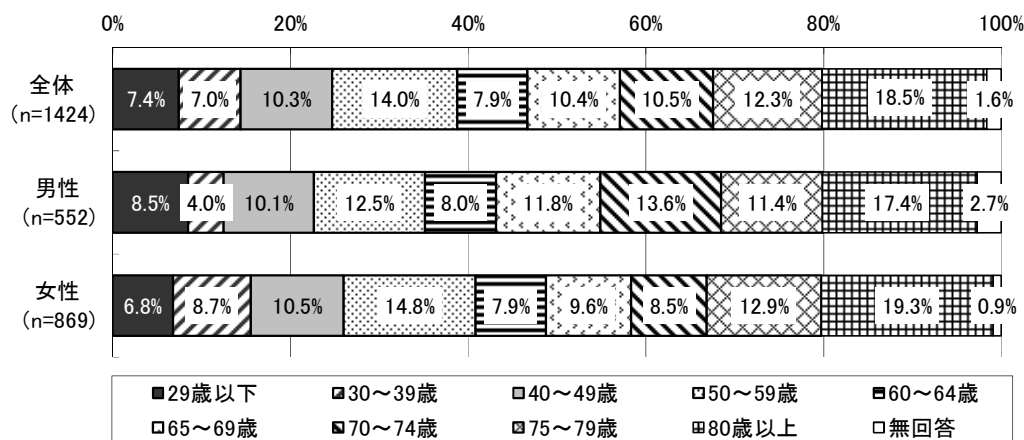
図表 171 性別（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

③年齢

図表 172 年齢分布（男女別）



(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 173 平均年齢（男女別）

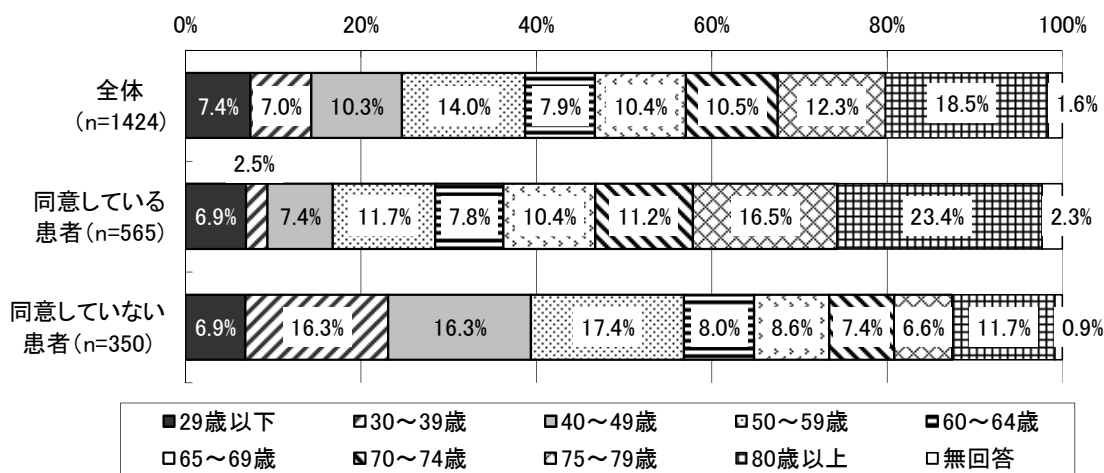
(単位：歳)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,401	61.4	20.1	66.0
男性	537	61.5	20.8	67.0
女性	861	61.4	19.7	65.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

図表 174 年齢分布（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

図表 175 平均年齢（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

（単位：歳）

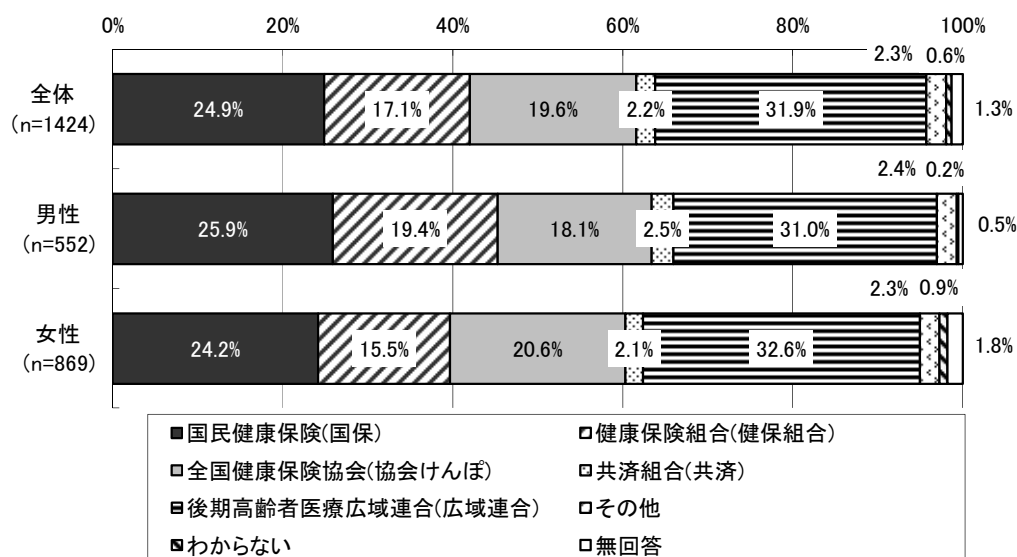
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,401	61.4	20.1	66.0
同意している患者	552	65.2	19.8	70.0
同意していない患者	347	55.3	18.9	57.0

（注）・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 502 人が含まれる。

・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

④ 公的医療保険の種類

図表 176 公的医療保険の種類（男女別）



（注）・「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

・「その他」の内容として、「生活保護」が挙げられた。

図表 177 公的医療保険の種類（年齢階級別）

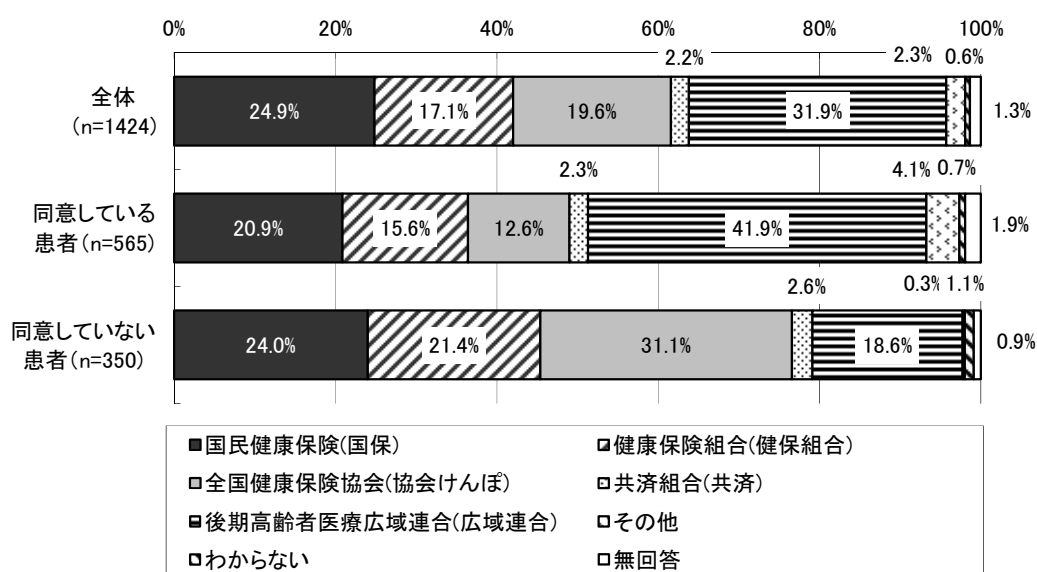
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	国民健康 保険 (国保)	健康保険 組合 (健保 組合)	全国健康 保険協会 (協会けんぽ)	共済組合 (共済)	後期高齢 者医療広 域連合 (広域連 合)	その他	わから ない	無回答
全体	1424 100.0	354 24.9	244 17.1	279 19.6	32 2.2	454 31.9	33 2.3	9 0.6	19 1.3
29 歳以下	106 100.0	14 13.2	33 31.1	46 43.4	7 6.6	0 0.0	0 0.0	1 0.9	5 4.7
30～39 歳	99 100.0	10 10.1	32 32.3	50 50.5	3 3.0	0 0.0	1 1.0	1 1.0	2 2.0
40～49 歳	147 100.0	28 19.0	50 34.0	59 40.1	3 2.0	0 0.0	4 2.7	1 0.7	2 1.4
50～59 歳	200 100.0	42 21.0	73 36.5	57 28.5	14 7.0	0 0.0	9 4.5	2 1.0	3 1.5
60～64 歳	113 100.0	50 44.2	26 23.0	28 24.8	3 2.7	0 0.0	2 1.8	2 1.8	2 1.8
65～69 歳	148 100.0	92 62.2	20 13.5	21 14.2	1 0.7	7 4.7	4 2.7	1 0.7	2 1.4
70～74 歳	149 100.0	111 74.5	7 4.7	15 10.1	0 0.0	9 6.0	4 2.7	1 0.7	2 1.3
75～79 歳	175 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	172 98.3	3 1.7	0 0.0	0 0.0
80 歳以上	264 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	260 98.5	4 1.5	0 0.0	0 0.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

・「その他」の内容として、「生活保護」が挙げられた。

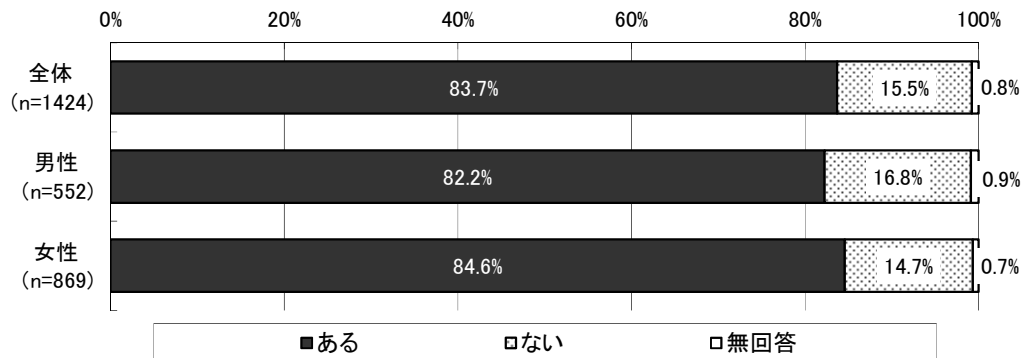
図表 178 公的医療保険の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

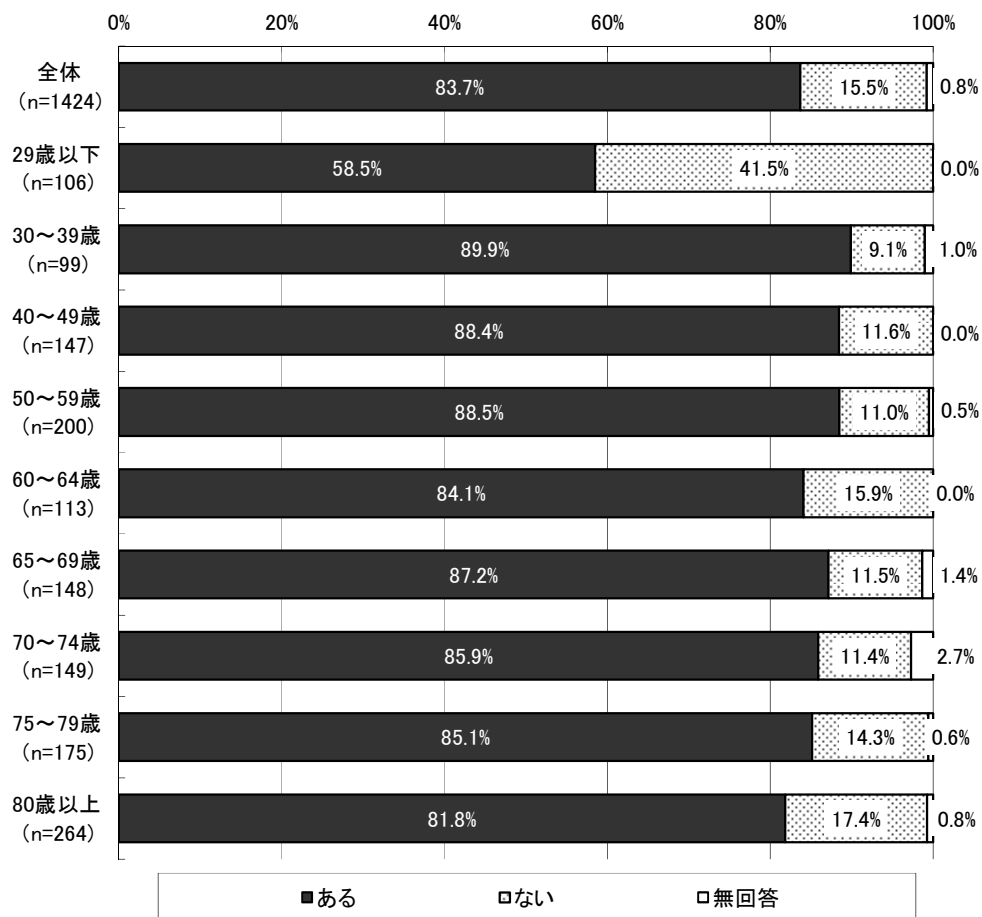
⑤自己負担額の有無

図表 179 自己負担額の有無（男女別）



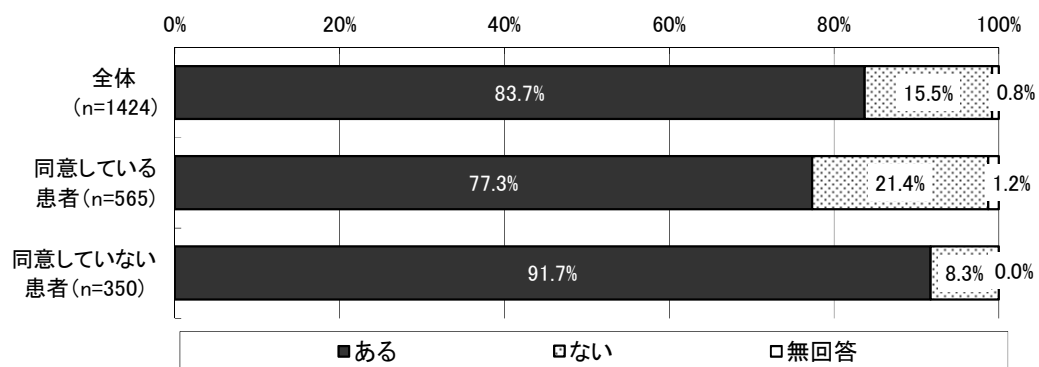
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 180 自己負担額の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 181 自己負担額の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



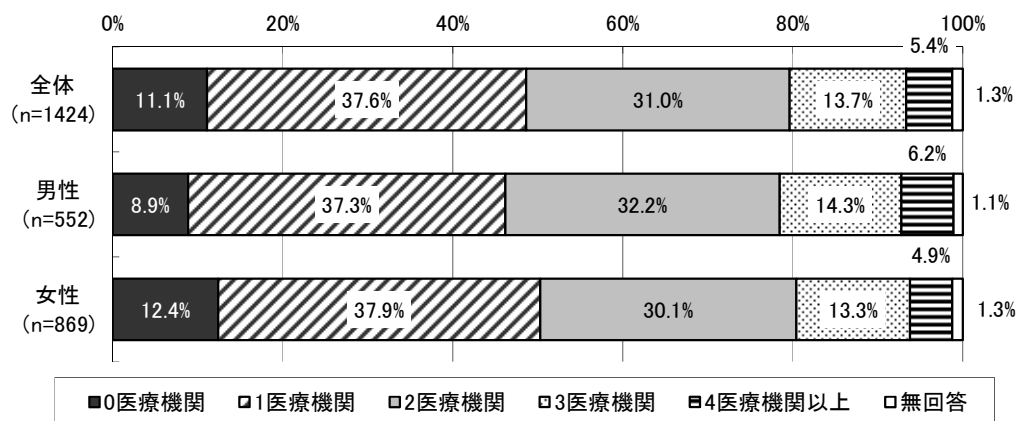
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

（２）医療機関や保険薬局の連携状況等

①定期的に受診している医療機関数

定期的に受診している医療機関をみると、「1 医療機関」が 37.6%で最も多く、次いで「2 医療機関」（31.0%）であった。

図表 182 定期的に受診している医療機関（男女別）



（注）「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 183 定期的に受診している医療機関数（男女別）

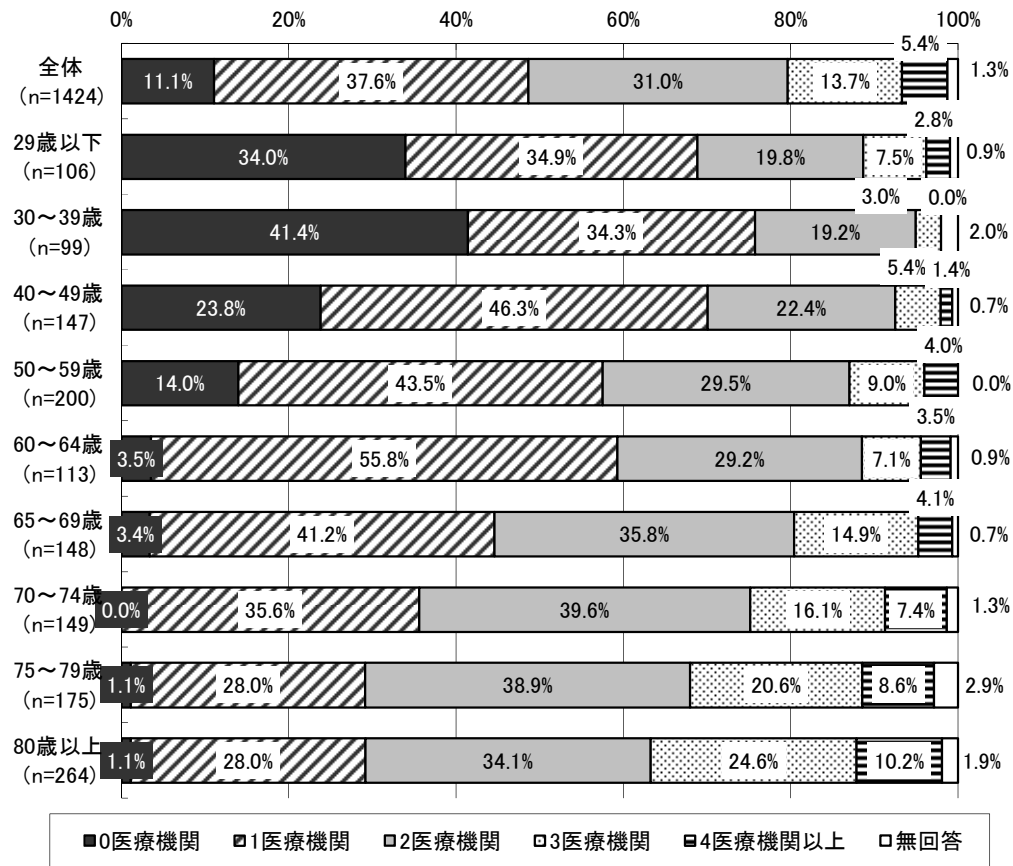
（単位：医療機関）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
男性	546	1.7	1.1	2.0
女性	858	1.6	1.1	1.0

（注）・「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

・定期的に受診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 184 定期的に受診している医療機関（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 185 定期的に受診している医療機関数（年齢階級別）

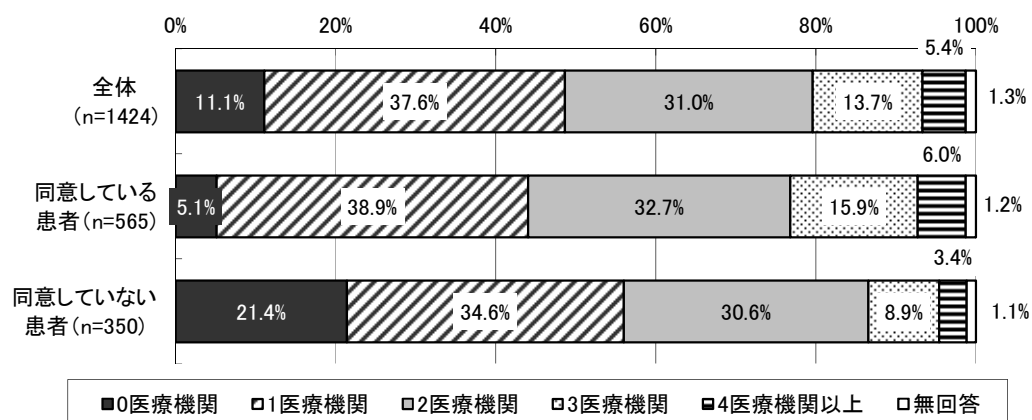
(単位：医療機関)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
29歳以下	105	1.1	1.1	1.0
30～39歳	97	0.8	0.9	1.0
40～49歳	146	1.1	0.9	1.0
50～59歳	200	1.5	1.0	1.0
60～64歳	112	1.5	0.9	1.0
65～69歳	147	1.8	1.0	2.0
70～74歳	147	2.0	0.9	2.0
75～79歳	170	2.1	1.0	2.0
80歳以上	259	2.2	1.1	2.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・定期的に受診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 186 定期的に受診している医療機関（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

図表 187 定期的に受診している医療機関数（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

(単位：医療機関)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
同意している患者	558	1.8	1.0	2.0
同意していない患者	346	1.4	1.1	1.0

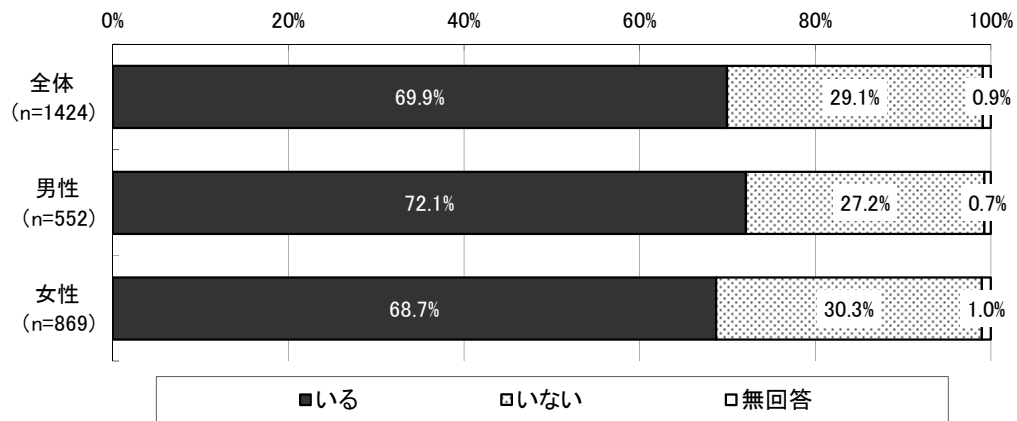
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 502 人が含まれる。

・定期的に受診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

②かかりつけ医の有無

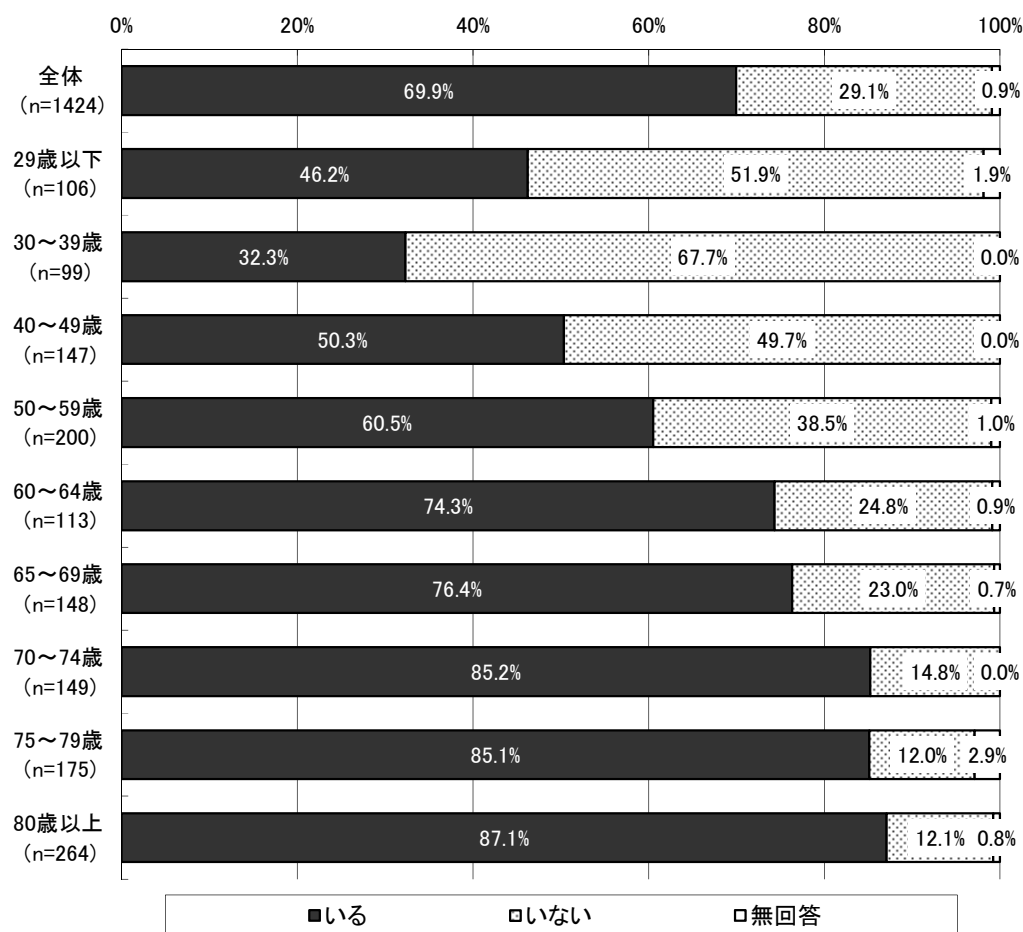
かかりつけ医の有無をみると、かかりつけ医が「いる」という回答が 69.9%、「いない」が 29.1%であった。

図表 188 かかりつけ医の有無（男女別）



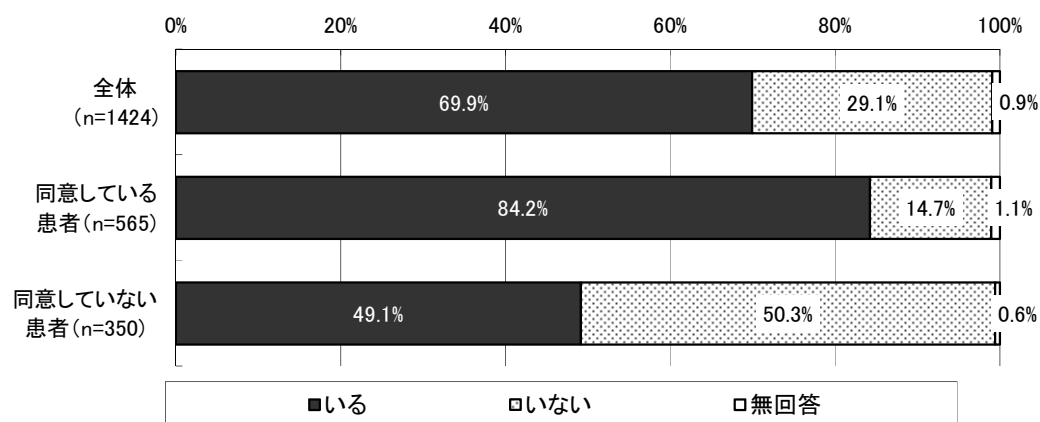
（注）「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 189 かかりつけ医の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 190 かかりつけ医の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

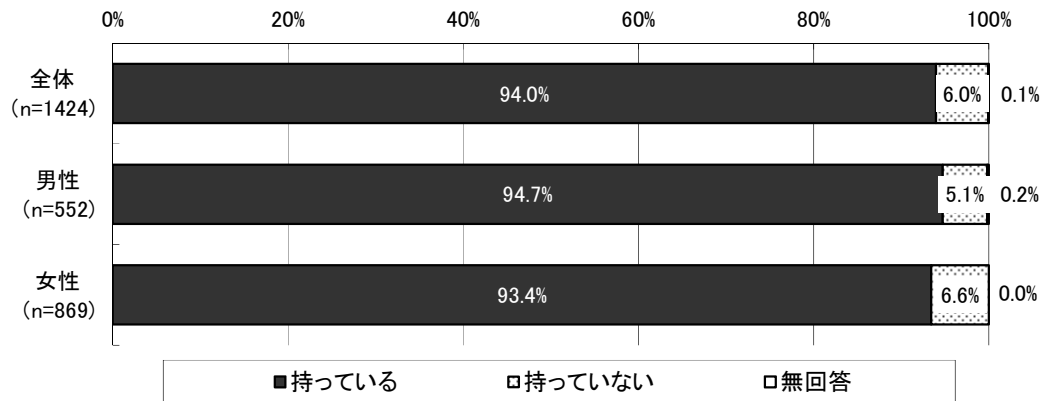


（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

③お薬手帳の保有状況

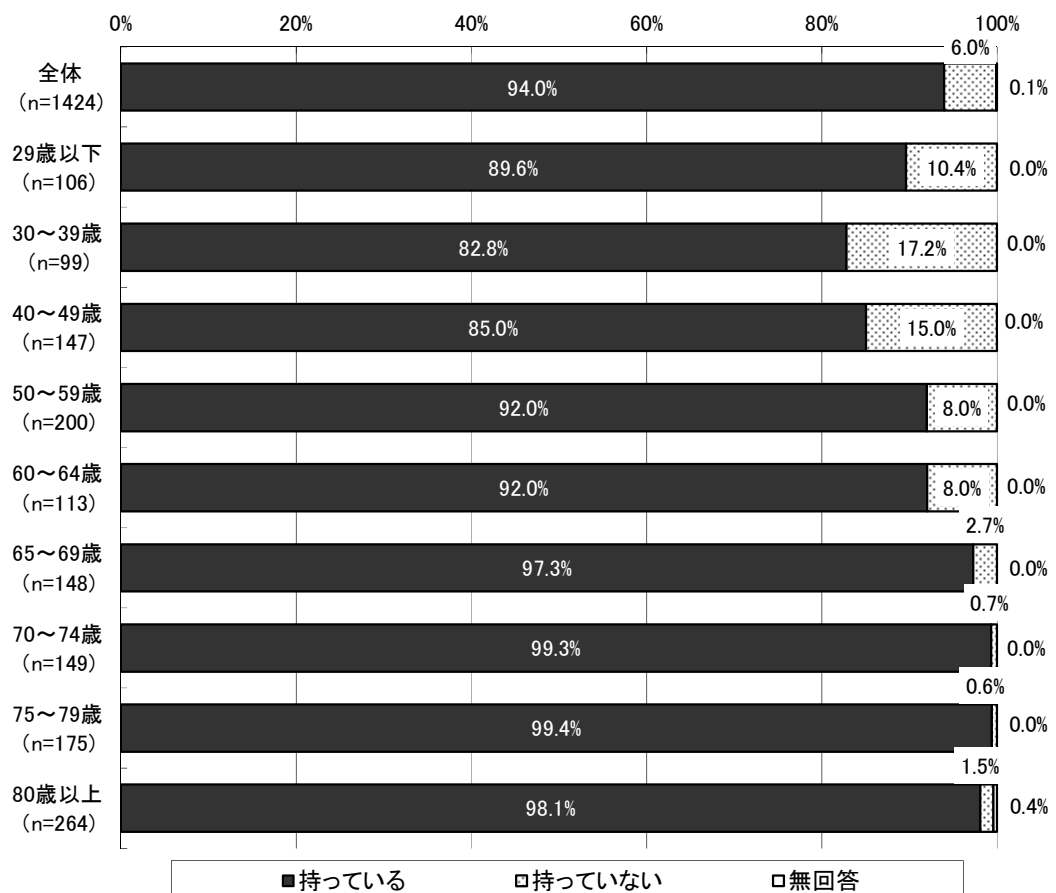
お薬手帳の保有状況を見ると、お薬手帳を「持っている」という回答が 94.0%、「持っていない」が 6.0%であった。

図表 191 お薬手帳の保有状況（男女別）



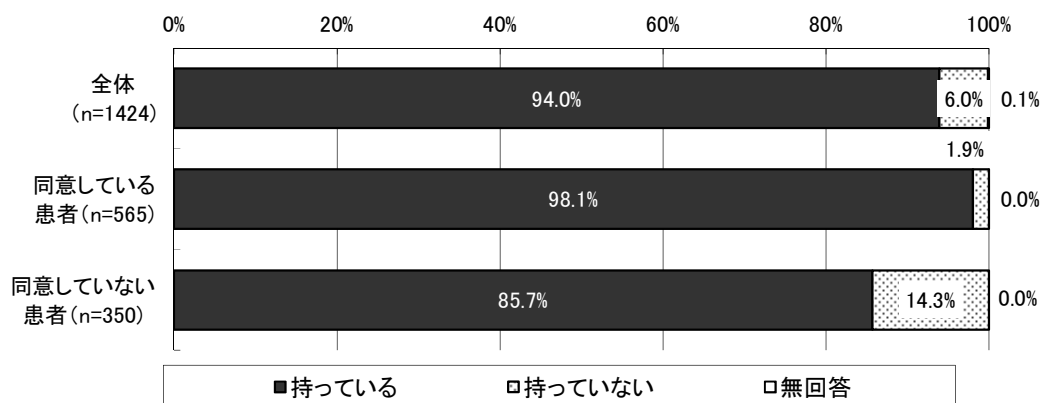
(注)「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 192 お薬手帳の保有状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 193 お薬手帳の保有状況（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

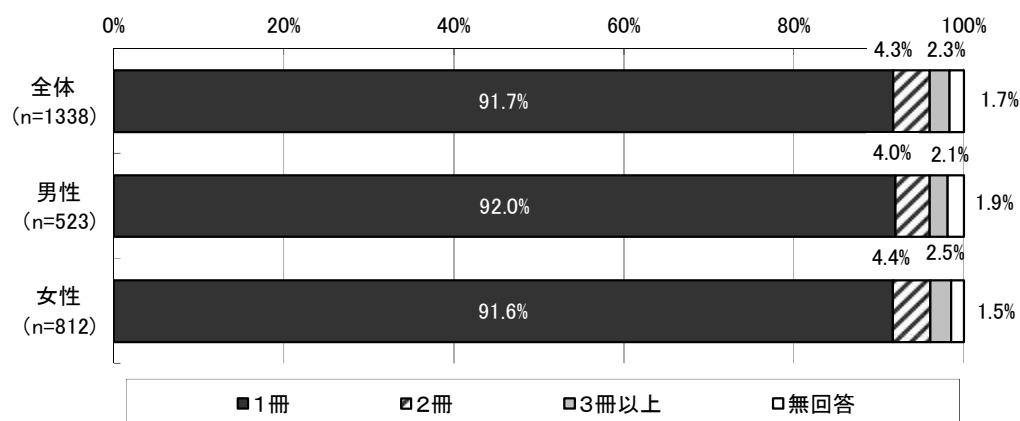


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

④保有しているお薬手帳の数

保有しているお薬手帳の数をみると、「1 冊」が 91.7%、「2 冊」が 4.3%、「3 冊以上」が 2.3%であった

図表 194 保有しているお薬手帳の数（男女別、お薬手帳を保有している患者）



(注)「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 195 保有しているお薬手帳の数（男女別、お薬手帳を保有している患者）

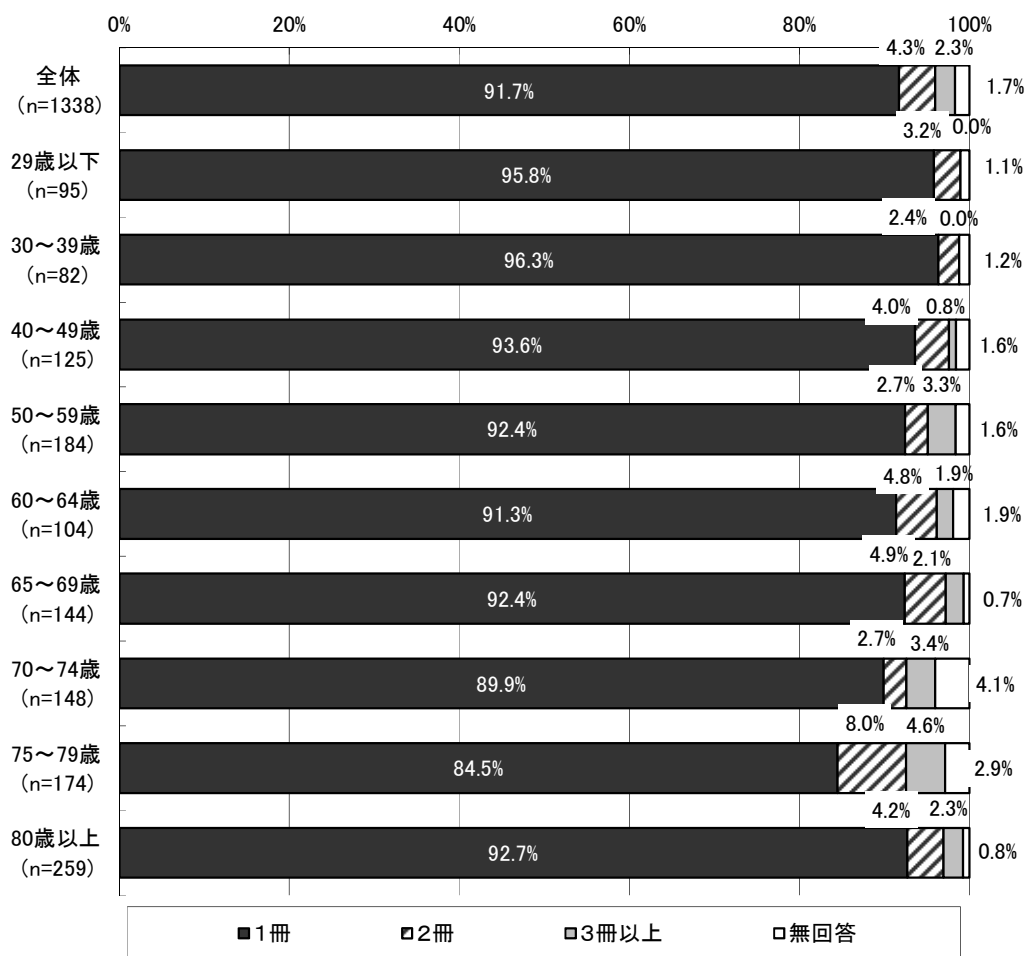
(単位：冊)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
男性	513	1.1	0.9	1.0
女性	800	1.1	0.5	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 196 保有しているお薬手帳の数（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）



（注）「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 197 保有しているお薬手帳の数（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）

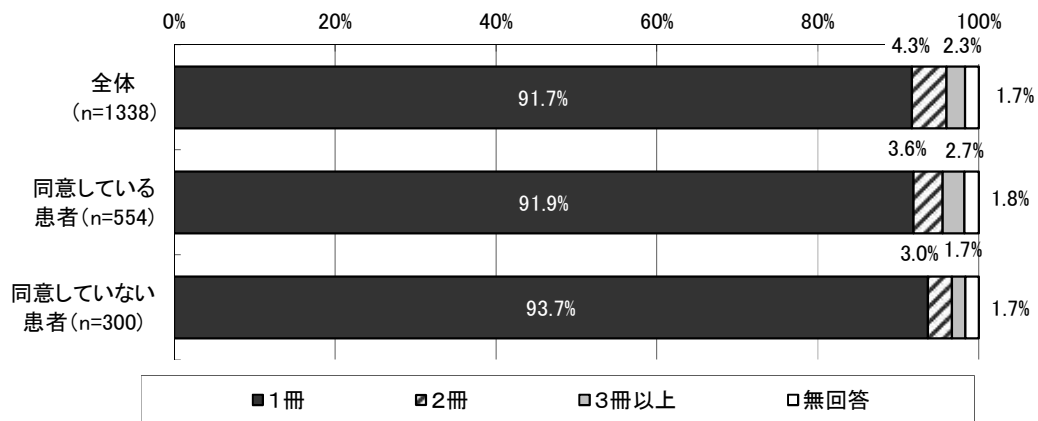
（単位：冊）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
29 歳以下	94	1.0	0.2	1.0
30～39 歳	81	1.0	0.2	1.0
40～49 歳	123	1.1	0.3	1.0
50～59 歳	181	1.1	0.5	1.0
60～64 歳	102	1.1	0.3	1.0
65～69 歳	143	1.2	0.9	1.0
70～74 歳	142	1.1	0.7	1.0
75～79 歳	169	1.3	1.3	1.0
80 歳以上	257	1.1	0.5	1.0

（注）・「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 198 保有しているお薬手帳の数
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 484 人が含まれる。

図表 199 保有しているお薬手帳の数
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)

(単位：冊)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
同意している患者	544	1.1	0.6	1.0
同意していない患者	295	1.1	0.4	1.0

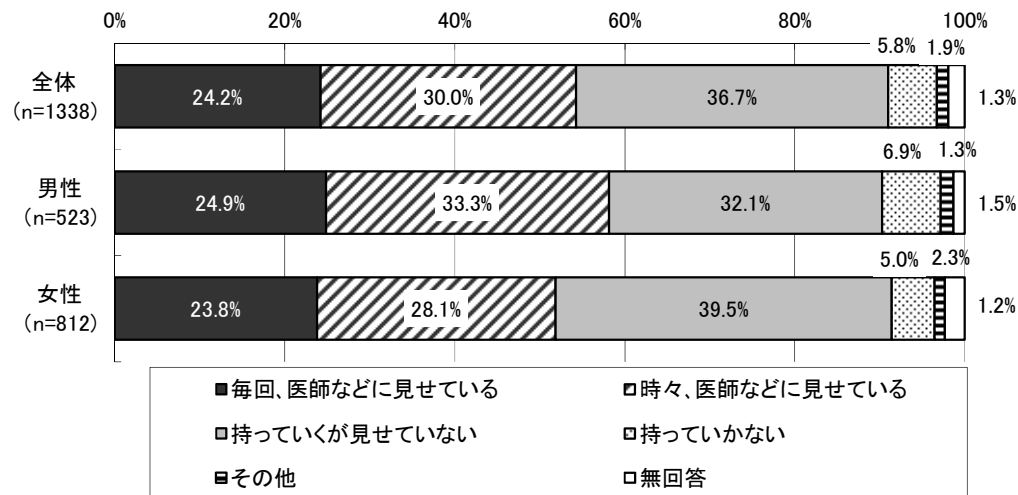
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 476 人が含まれる。

・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

⑤医療機関におけるお薬手帳の活用状況

医療機関におけるお薬手帳の活用状況をみると、「毎回、医師などに見せている」が24.2%、「時々、医師などに見せている」が30.0%で、「持っていくが見せていない」が36.7%で最も多かった。また、「持っていかない」が5.8%であった。

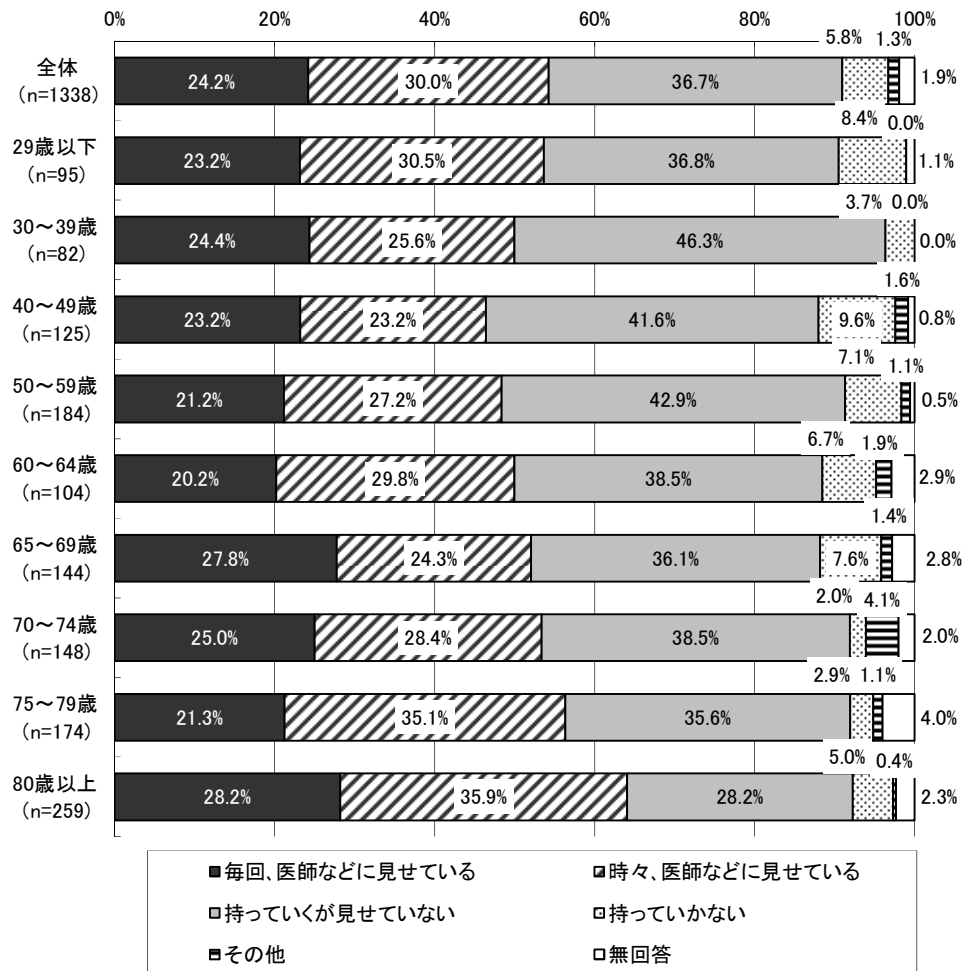
図表 200 医療機関におけるお薬手帳の活用状況（男女別、お薬手帳を保有している患者）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

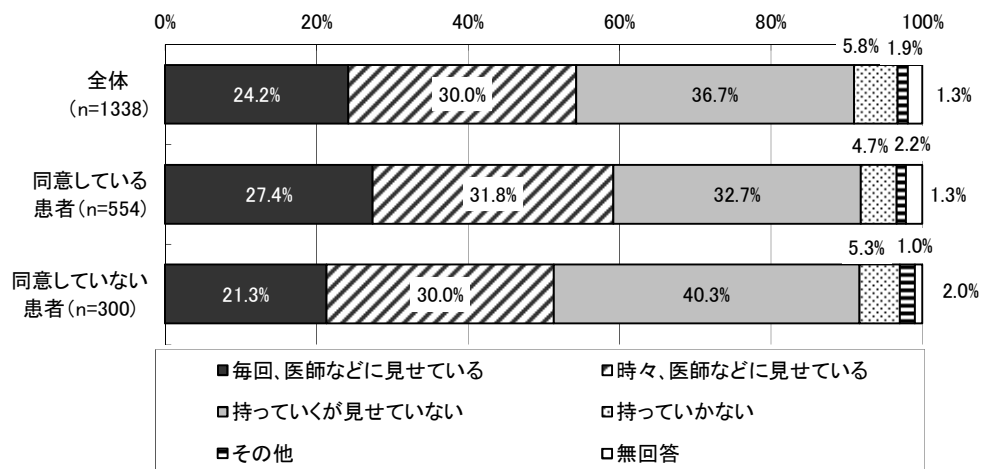
- ・「持っていかない理由」として、「忘れてしまうため」、「面倒だから」、「1 医療機関しか受診していないため全てを把握している」、「提示を要求されたことがない」、「覚えている」、「いつも同じ薬だから」、「医師に手帳を見せるという認識はなく、直接口頭で伝えている」、「定期薬を服用していない」、「受診することがほとんどない」、「必要がない、聞かれない」、「日頃持ち歩いておらず、急にかかることが多い」、「併用薬は伝えている」、「1 種類しか飲んでいない」、「持っていく認識がない」等が挙げられた。
- ・「その他」の内容として、「薬局には持っていくが医師には見せていない」、「医師から提示を求められた時に見せている」、「新しい薬を指示又は要求した場合に提示」、「新規に受診する時は見せる」、「臨時に他の医療機関を利用した時だけ見せている」等が挙げられた。

図表 201 医療機関におけるお薬手帳の活用状況
(年齢階級別、お薬手帳を保有している患者)



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 202 医療機関におけるお薬手帳の活用状況
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)

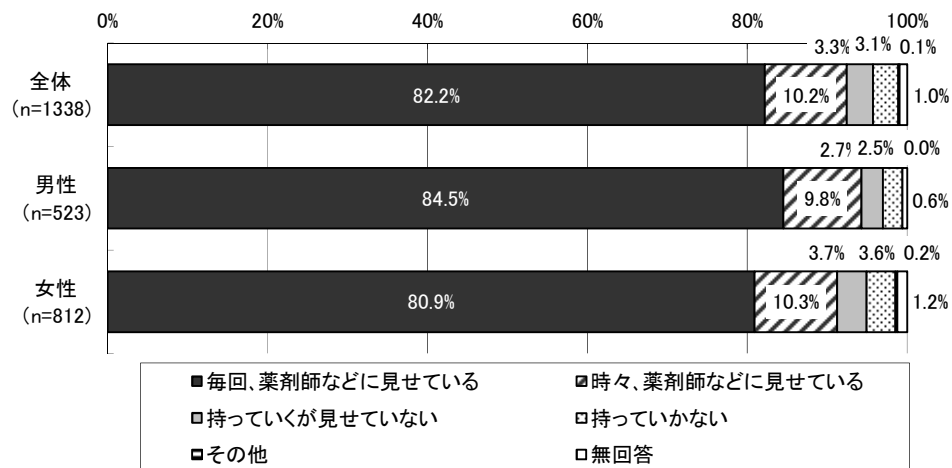


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者484人が含まれる。

⑥薬局におけるお薬手帳の活用状況

薬局におけるお薬手帳の活用状況をみると、「毎回、薬剤師などに見せている」が 82.2%、「時々、薬剤師などに見せている」が 10.2%で、「持っていくが見せていない」が 3.3%、「持っていない」が 3.1%であった。

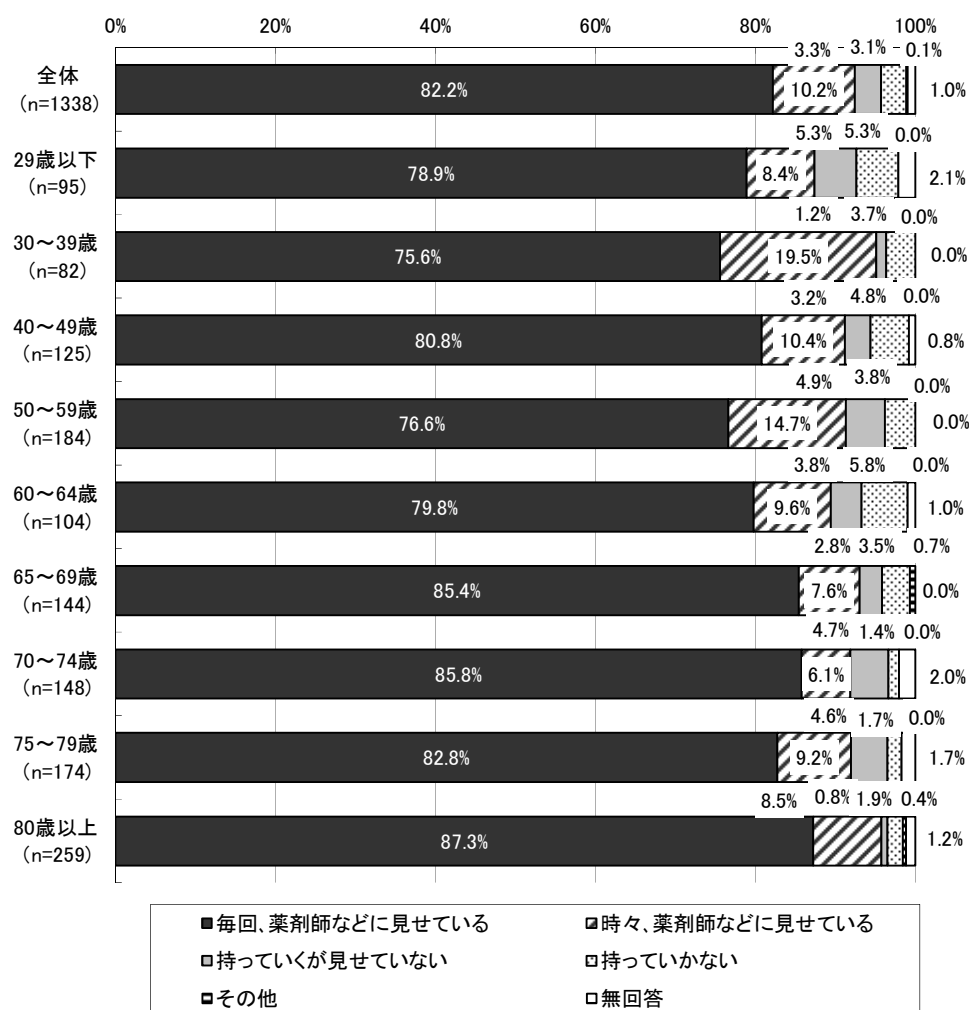
図表 203 薬局におけるお薬手帳の活用状況（男女別、お薬手帳を保有している患者）



（注）・「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

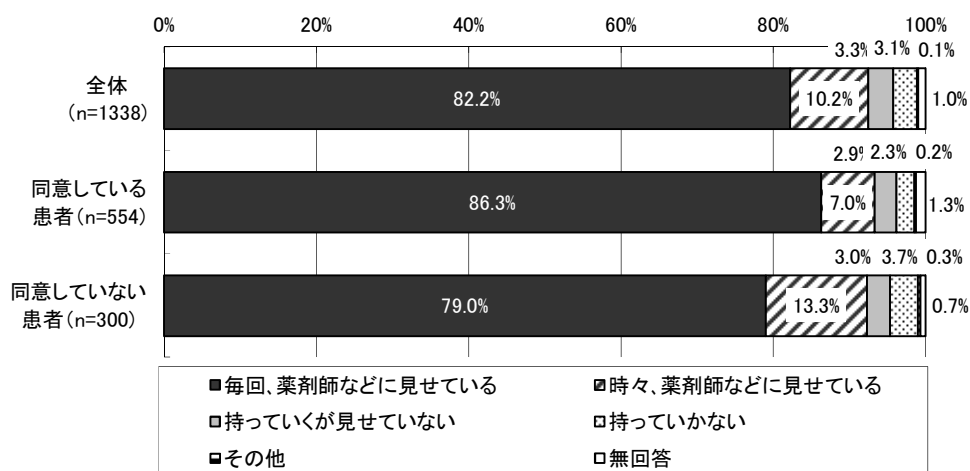
・「持っていない理由」として、「忘れてしまうため」、「面倒」、「毎回同じ薬」、「薬はヘルパーが管理」、「定期的に使用している薬がない」、「自分で貼っている」、「電子お薬手帳のため」、「専属的に依頼しており情報は共有している」、「口頭で伝える」、「見せたくない」、「毎回出るわけではなく、出ても同じ薬」等が挙げられた。

図表 204 薬局におけるお薬手帳の活用状況（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）



（注）「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 205 薬局におけるお薬手帳の活用状況
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者）

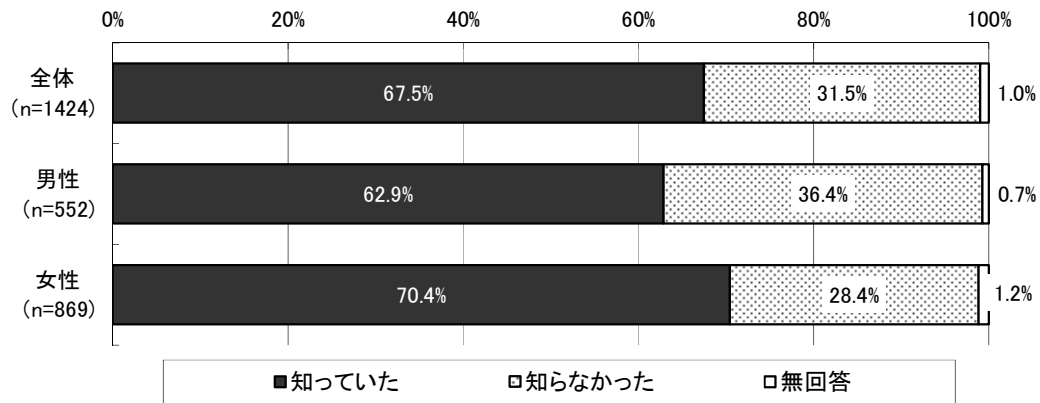


（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 484 人が含まれる。

⑦お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況

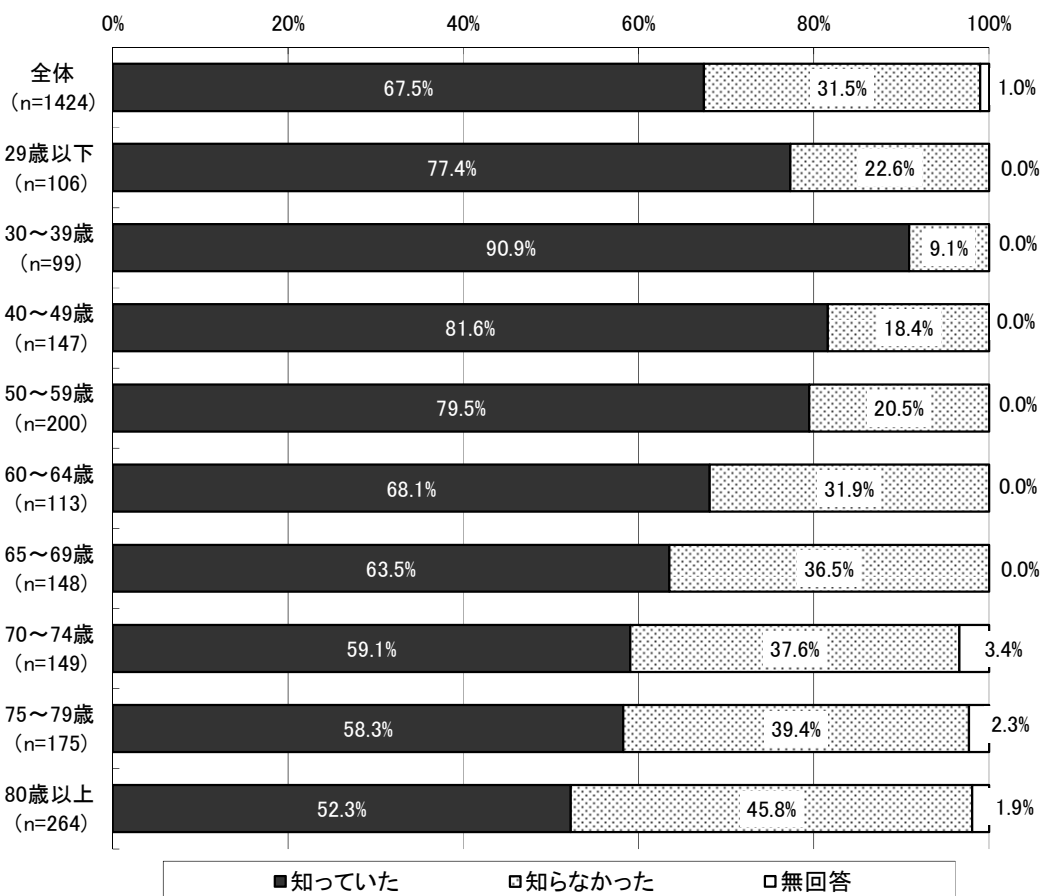
お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況をみると、「知っていた」が67.5%、「知らなかった」が31.5%であった。

図表 206 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況（男女別）



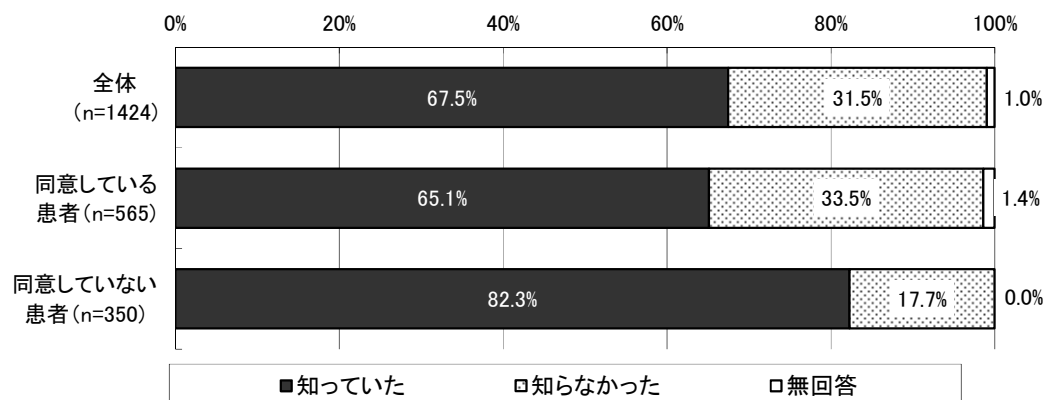
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 207 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 208 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)

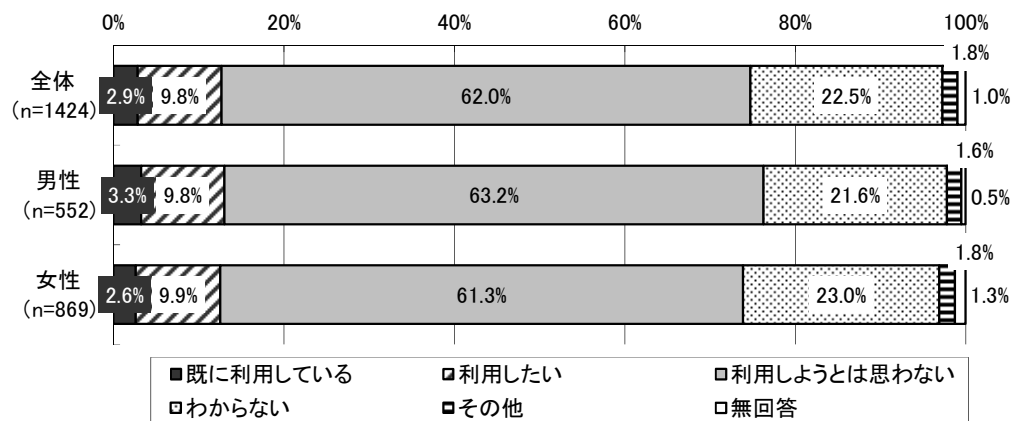


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

⑧電子お薬手帳の利用意向

スマートフォンやタブレット端末を使った「電子お薬手帳」の利用意向についてみると、「既に利用している」が2.9%、「利用したい」が9.8%、「利用しようとは思わない」が62.0%、「わからない」が22.5%であった。

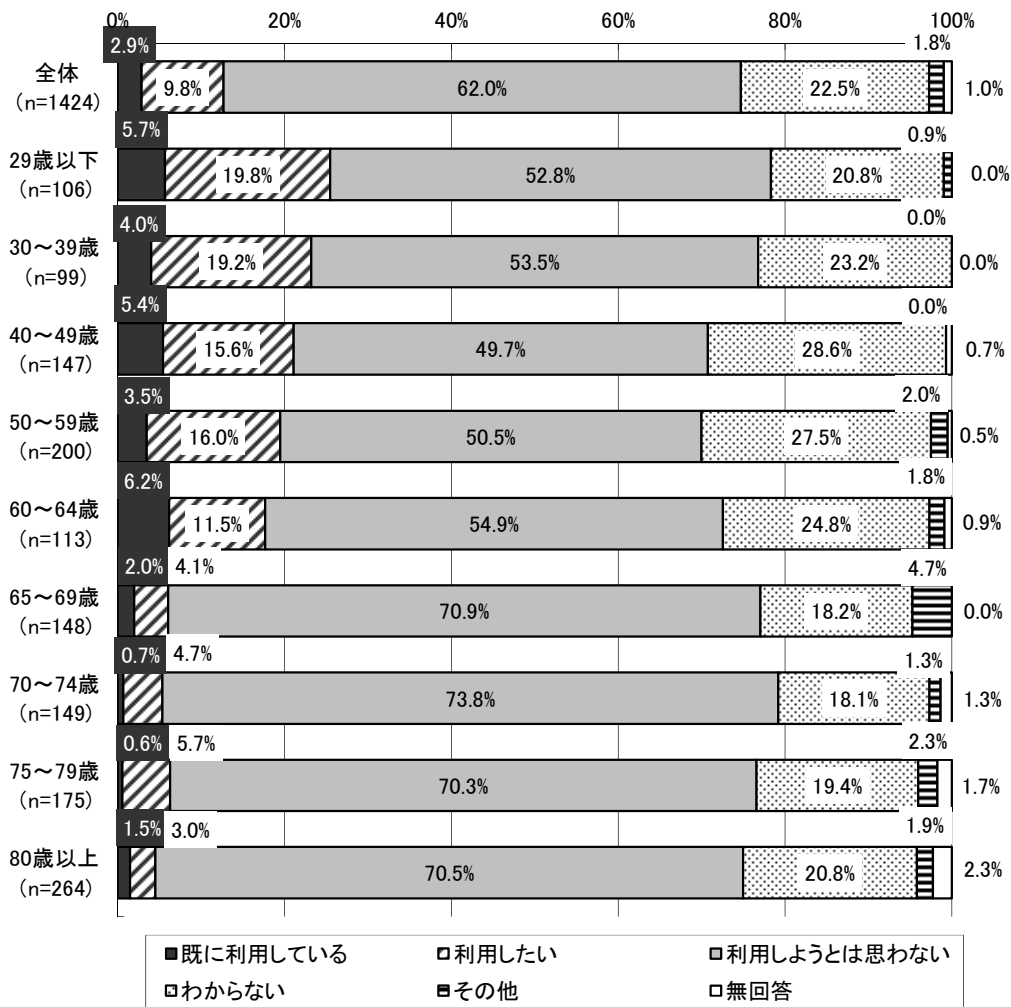
図表 209 電子お薬手帳の利用意向（男女別）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

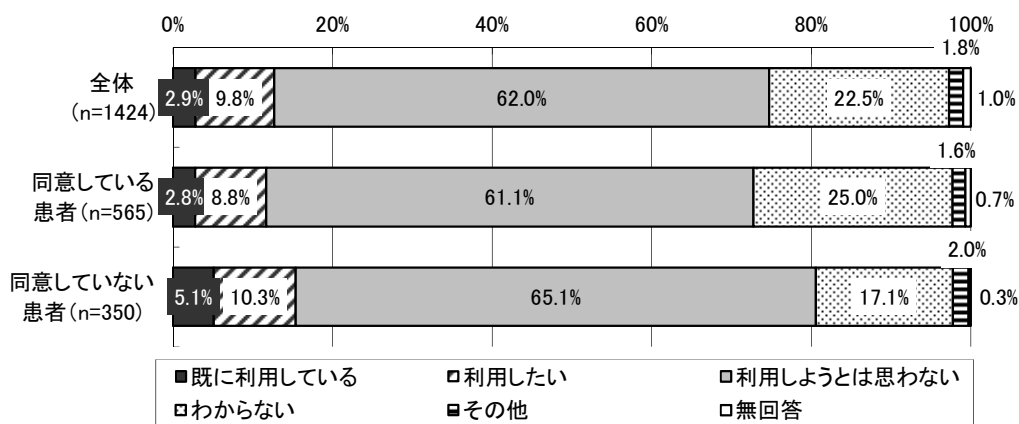
・「その他」の内容として、「スマートフォン・タブレットは持っていない」、「スマートフォンなどわからない」、「母本人は使いこなせない」、「災害時には紙の方が良いのでは」、「便利とは思うが情報管理の面で心配」等が挙げられた。

図表 210 電子お薬手帳の利用意向（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 211 電子お薬手帳の利用意向（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

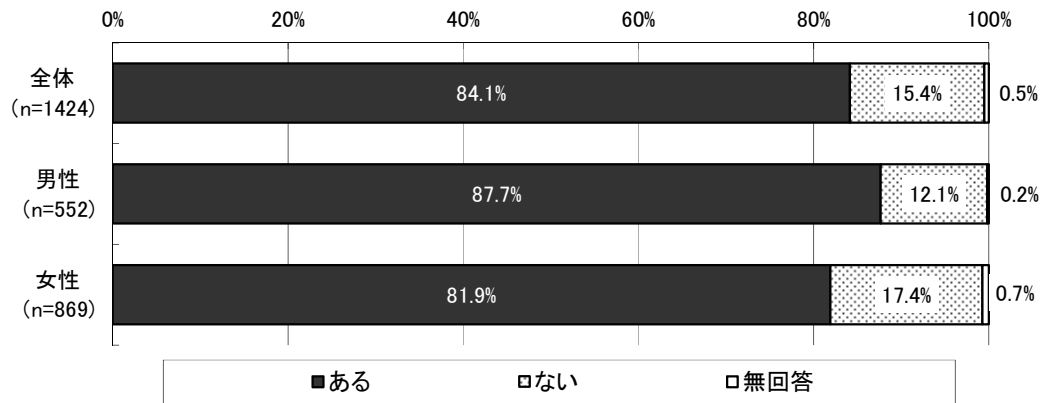


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

⑨定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無

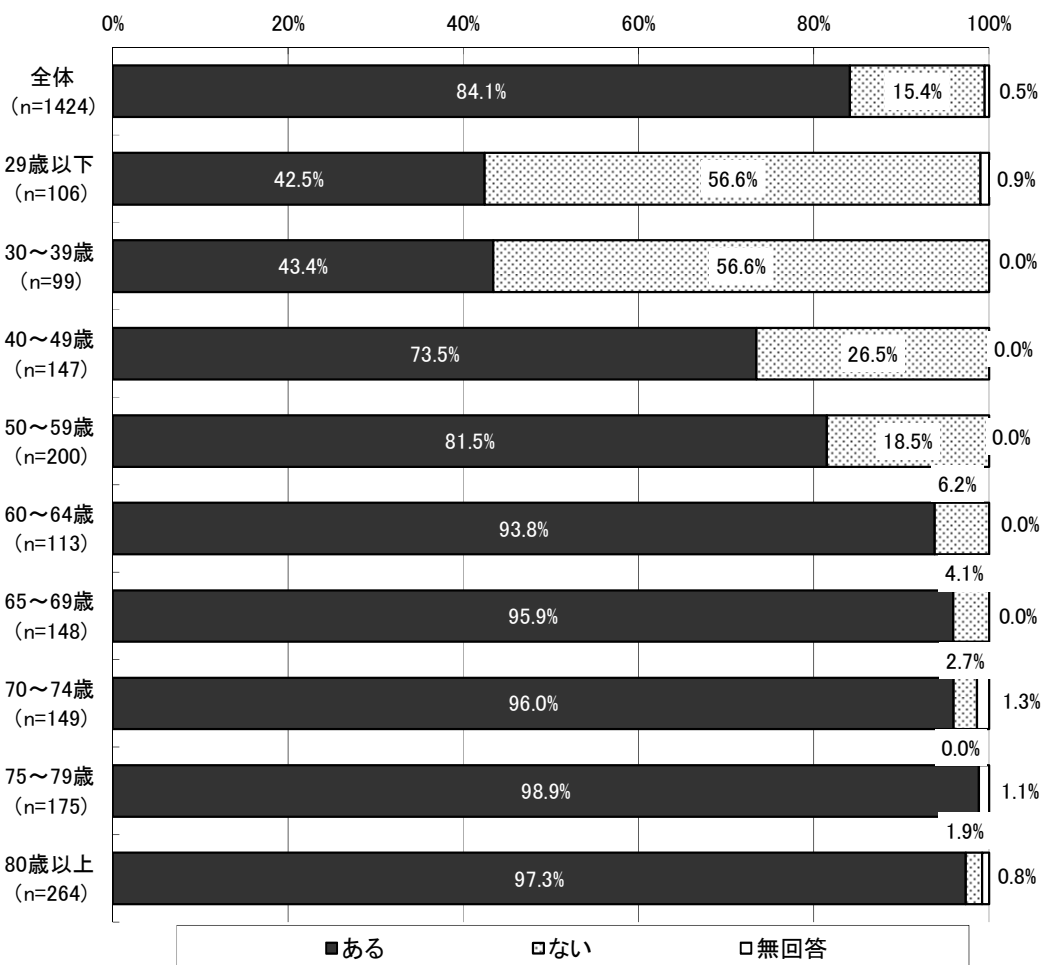
定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無についてみると、「ある」が84.1%、「ない」が15.4%であった。

図表 212 定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無（男女別）



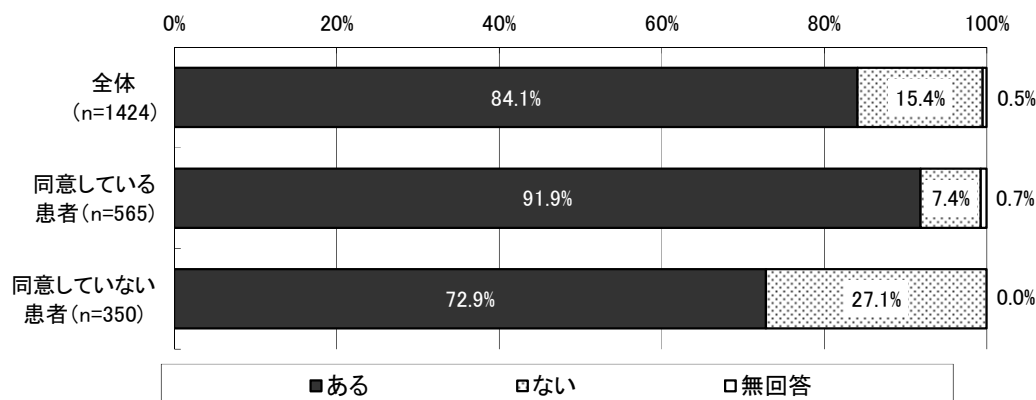
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 213 定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 214 定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)



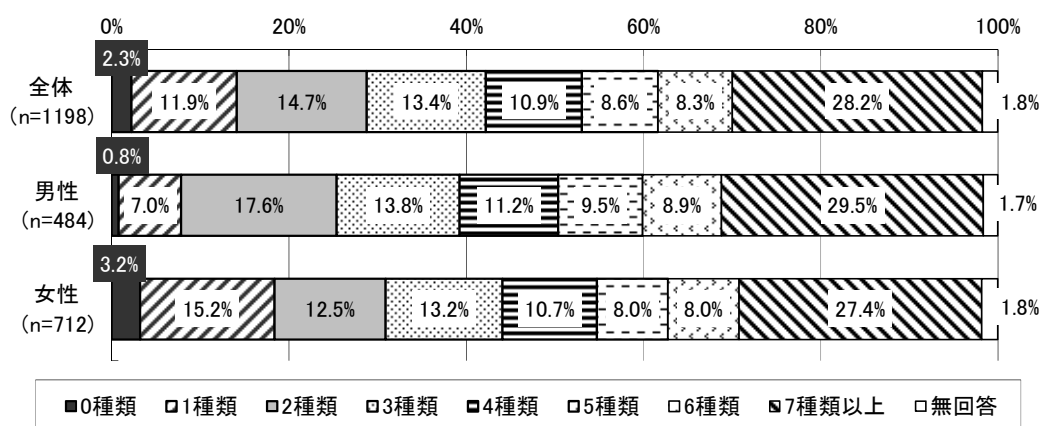
(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」だった患者 509 人が含まれる。

⑩現在、1日あたり使用している薬の種類

1) 飲み薬の種類

現在、1日あたり使用している飲み薬をみると、「7種類以上」が3割近くを占めた。平均は4.9種類（中央値4.0）であった。

図表 215 現在、1日あたり使用している飲み薬
(男女別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

図表 216 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類
(男女別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者)

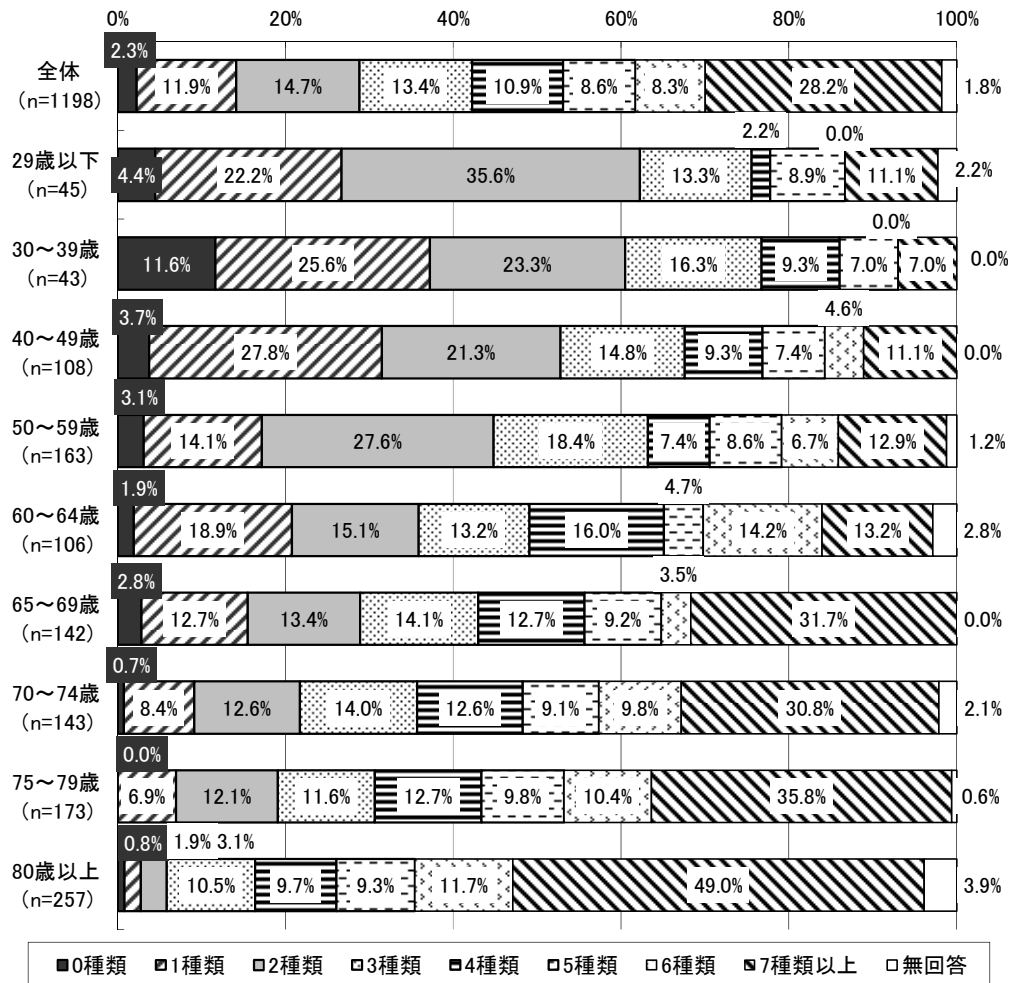
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
男性	476	5.2	3.4	4.0
女性	699	4.7	3.5	4.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 217 現在、1日あたり使用している飲み薬
(年齢階級別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)



(注)「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

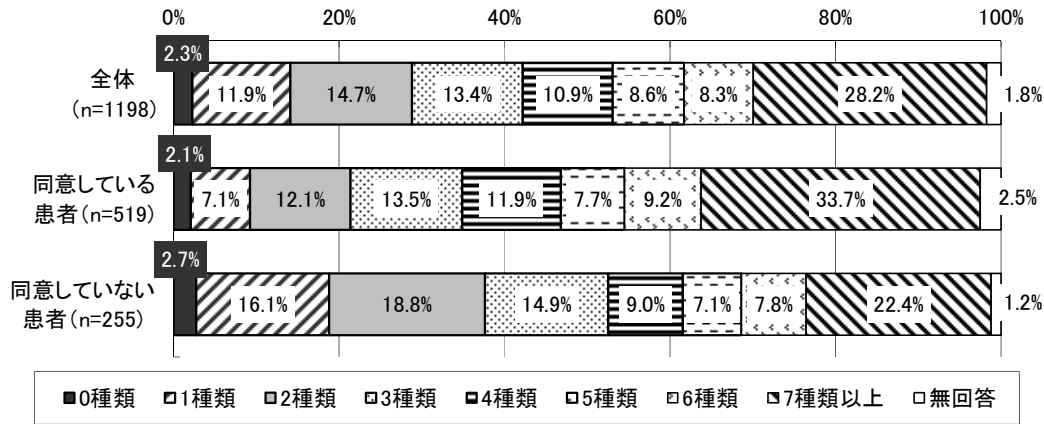
図表 218 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類
(年齢階級別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
29歳以下	44	3.0	2.8	2.0
30～39歳	43	2.6	2.4	2.0
40～49歳	108	3.2	2.8	2.0
50～59歳	161	3.7	3.1	3.0
60～64歳	103	3.8	2.8	3.0
65～69歳	142	4.9	3.5	4.0
70～74歳	140	5.2	3.2	5.0
75～79歳	172	5.8	3.6	5.0
80歳以上	247	6.8	3.4	7.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 219 現在、1日あたり使用している飲み薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 424 人が含まれる。

図表 220 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
同意している患者	506	5.5	3.7	5.0
同意していない患者	252	4.2	3.1	3.0

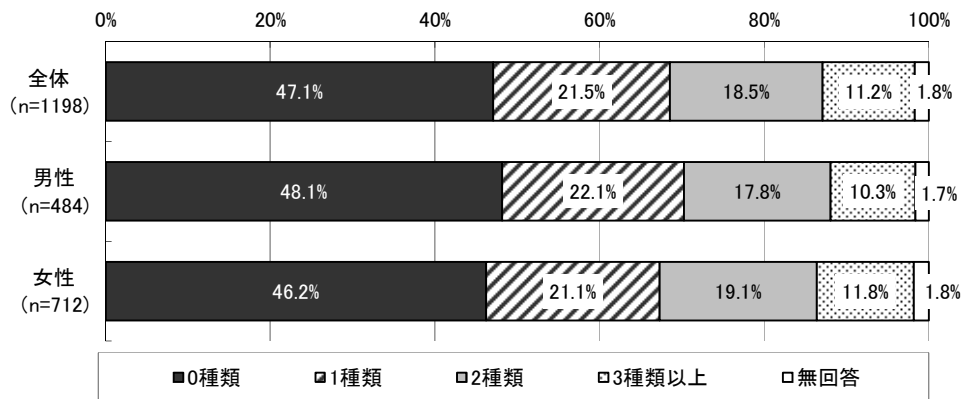
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 419 人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

2) 飲み薬以外の薬の種類

現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬など）をみると、「0種類」が5割近くで最も多く、次いで「1種類」が21.5%、「2種類」が18.5%、「3種類以上」が11.2%であった。平均は1.0種類（中央値1.0）であった。

図表 221 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（男女別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・「飲み薬以外の薬」とは、貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬などを指す（以下、同様）。

図表 222 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（男女別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

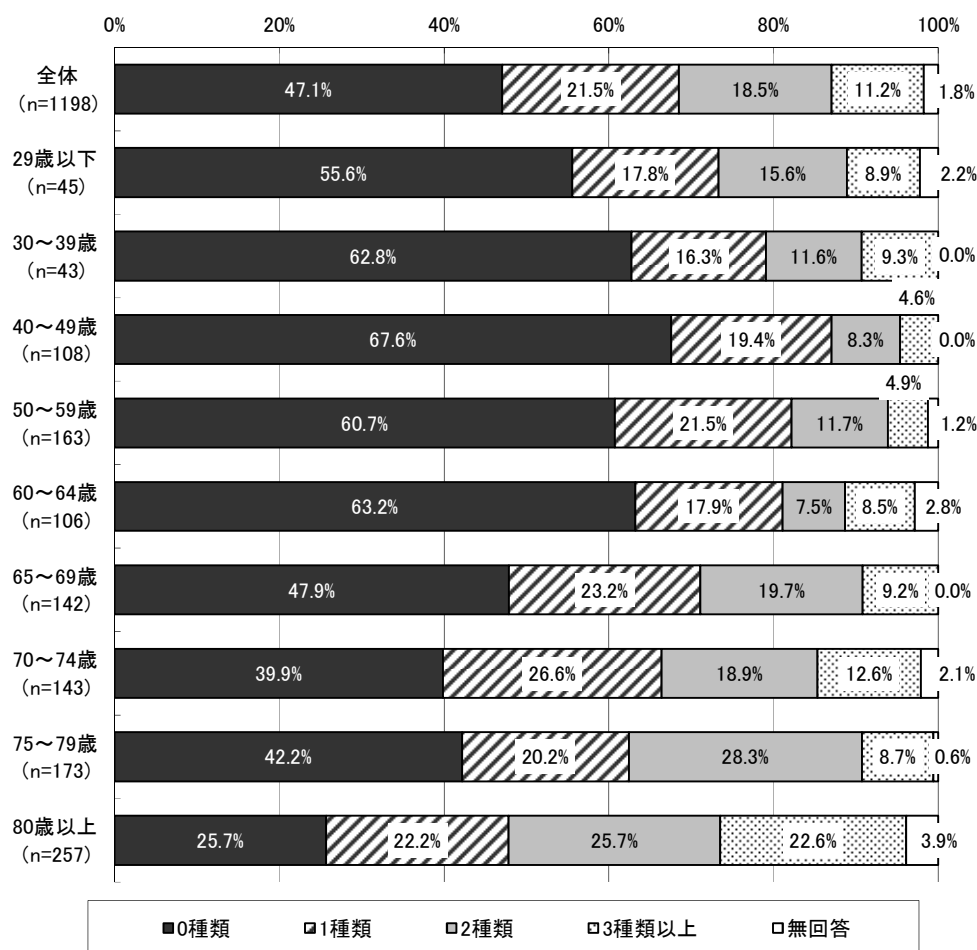
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
男性	476	1.0	1.3	1.0
女性	699	1.0	1.3	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 223 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（年齢階級別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

図表 224 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（年齢階級別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

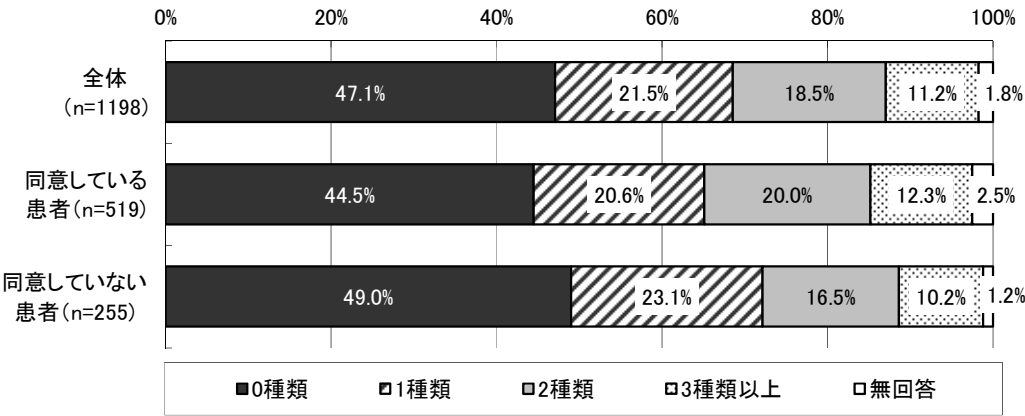
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
29歳以下	44	0.9	1.4	0.0
30～39歳	43	0.8	1.4	0.0
40～49歳	108	0.5	0.9	0.0
50～59歳	161	0.7	1.2	0.0
60～64歳	103	0.7	1.1	0.0
65～69歳	142	1.0	1.2	1.0
70～74歳	140	1.1	1.2	1.0
75～79歳	172	1.1	1.2	1.0
80歳以上	247	1.7	1.5	2.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 225 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 424 人が含まれる。

図表 226 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
同意している患者	506	1.1	1.3	1.0
同意していない患者	252	1.0	1.4	1.0

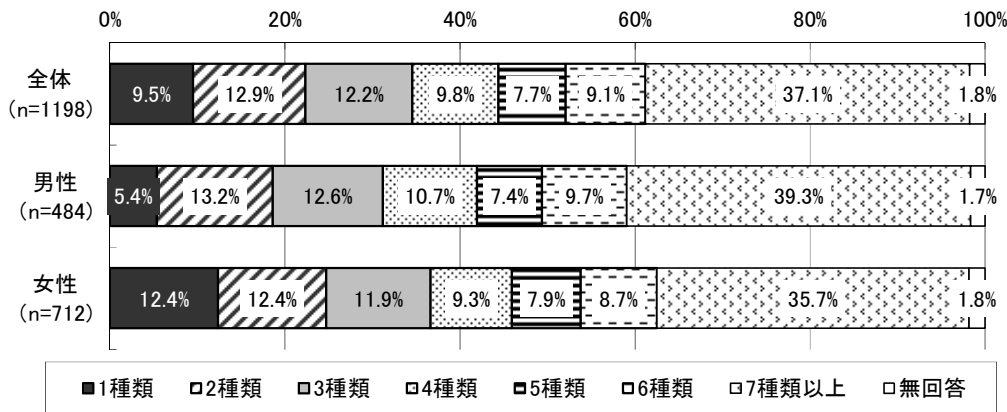
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 419 人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

3) 1日あたり使用している薬（飲み薬及び飲み薬以外の薬）

現在、1日あたり使用している薬（飲み薬及び飲み薬以外の薬）の種類をみると、「7種類以上」が4割近くを占め、最も多かった。

図表 227 現在、1日あたり使用している薬（男女別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）



（注）「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

図表 228 現在、1日あたり使用している薬の種類（男女別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）

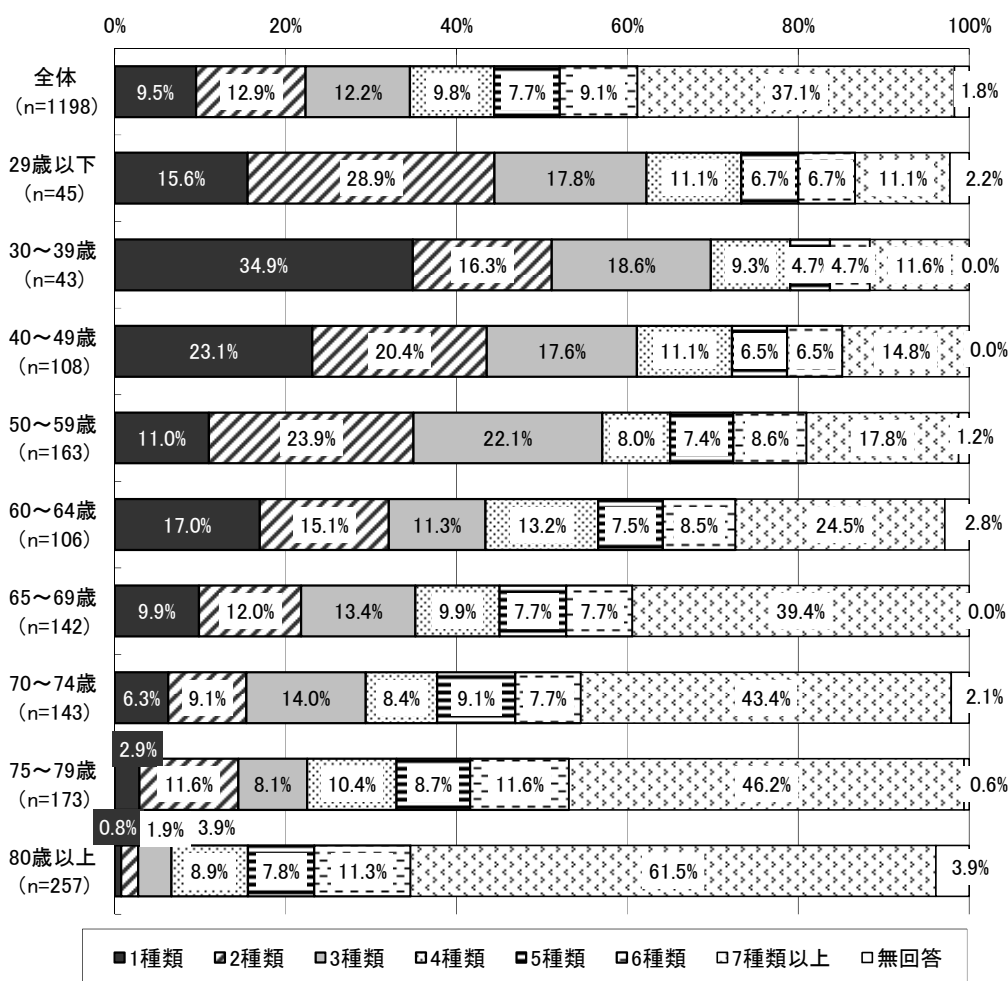
（単位：種類）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
男性	476	6.2	4.0	5.0
女性	699	5.8	4.1	5.0

（注）・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 229 現在、1日あたり使用している薬（年齢階級別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）



（注）「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

図表 230 現在、1日あたり使用している薬の種類（年齢階級別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）

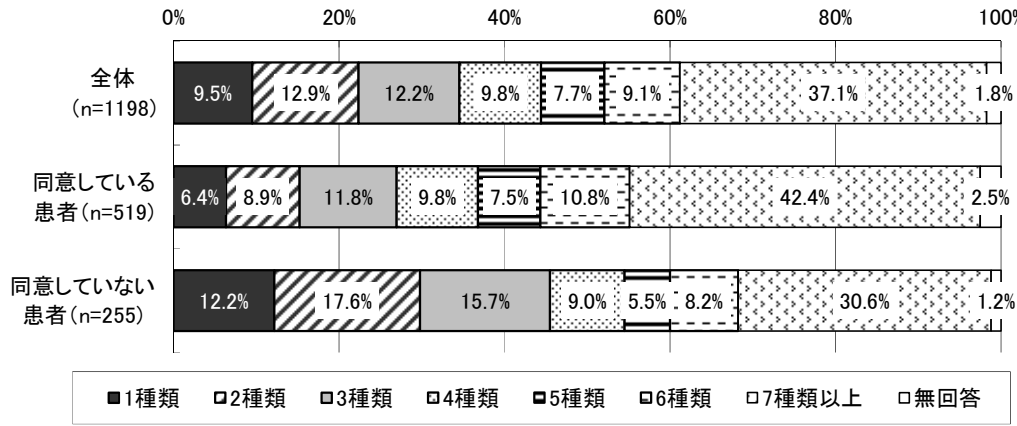
（単位：種類）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
29歳以下	44	3.9	3.5	3.0
30～39歳	43	3.4	3.3	2.0
40～49歳	108	3.7	3.0	3.0
50～59歳	161	4.4	3.6	3.0
60～64歳	103	4.5	3.2	4.0
65～69歳	142	5.9	3.9	5.0
70～74歳	140	6.3	3.9	6.0
75～79歳	172	6.8	4.0	6.0
80歳以上	247	8.5	4.1	8.0

（注）・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 231 現在、1日あたり使用している薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 424 人が含まれる。

図表 232 現在、1日あたり使用している薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
同意している患者	506	6.6	4.3	6.0
同意していない患者	252	5.2	4.0	4.0

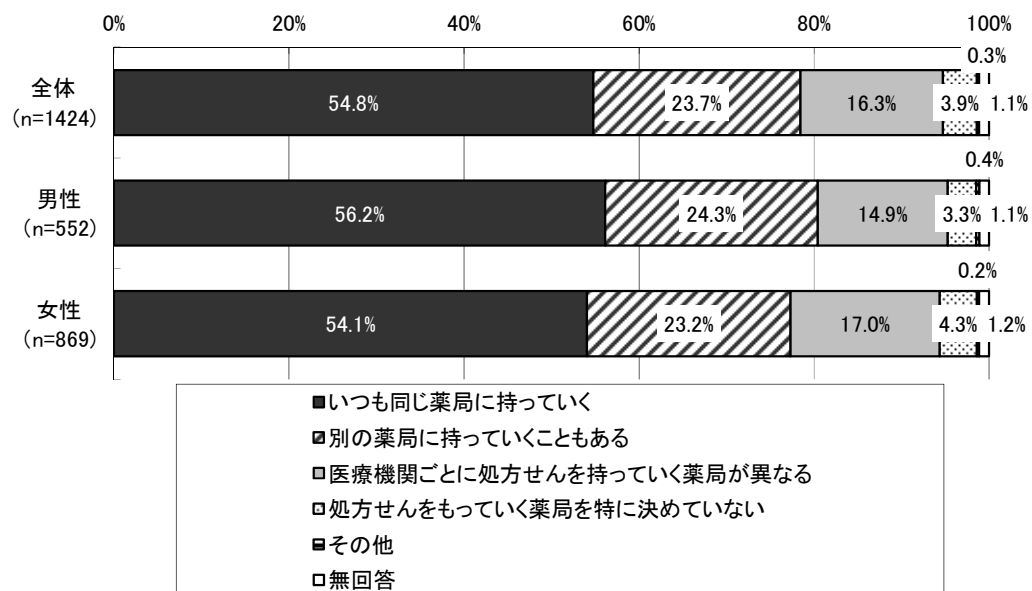
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 419 人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

⑪処方せんを持っていく薬局の決め方

処方せんを持っていく薬局の決め方についてみると、「いつも同じ薬局に持っていく」が 54.8%で最も多く、次いで「別の薬局に持っていくこともある」が 23.7%、「医療機関ごとに処方せんを持っていく薬局が異なる」が 16.3%であった。

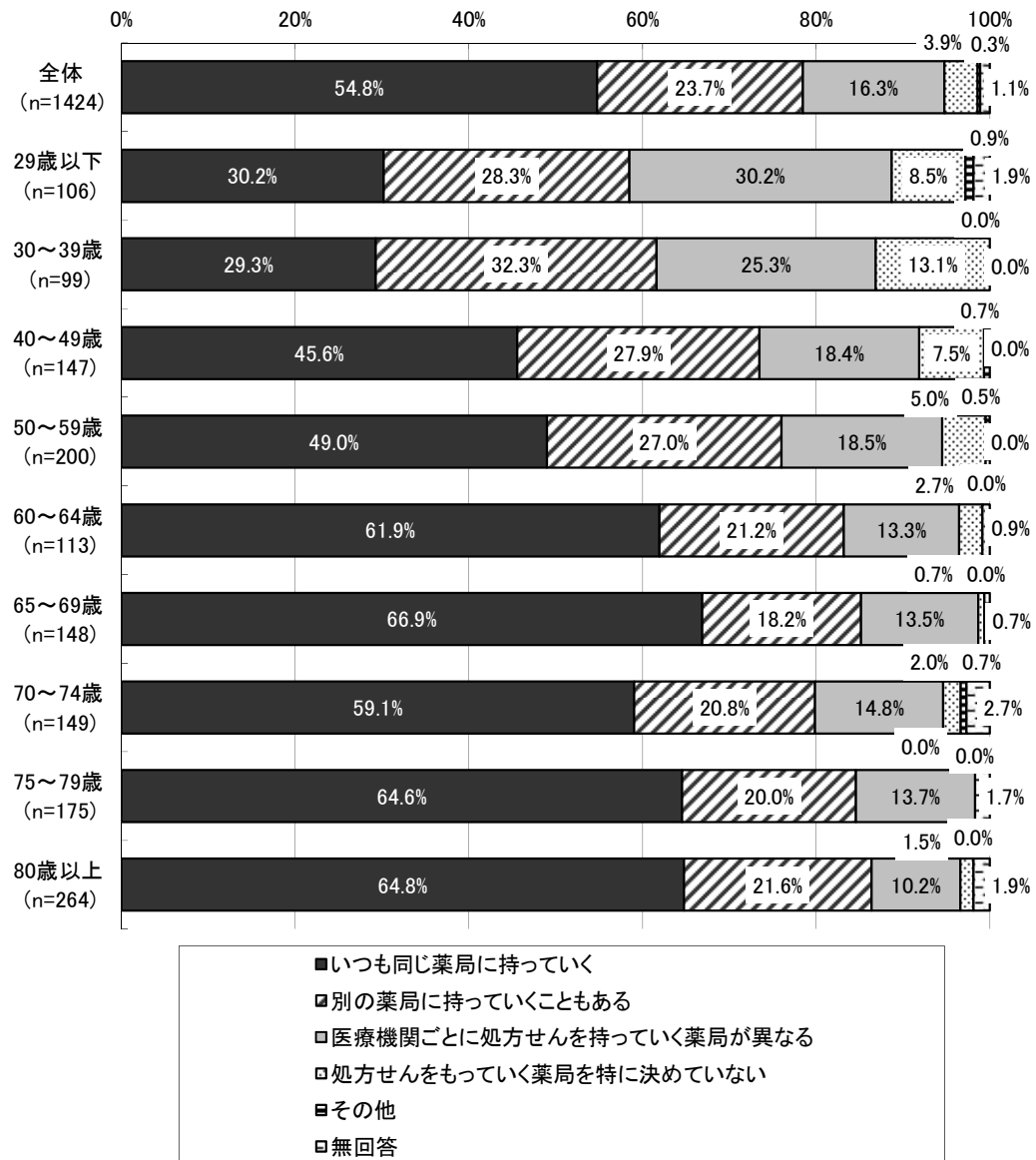
図表 233 処方せんを持っていく薬局の決め方（男女別）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

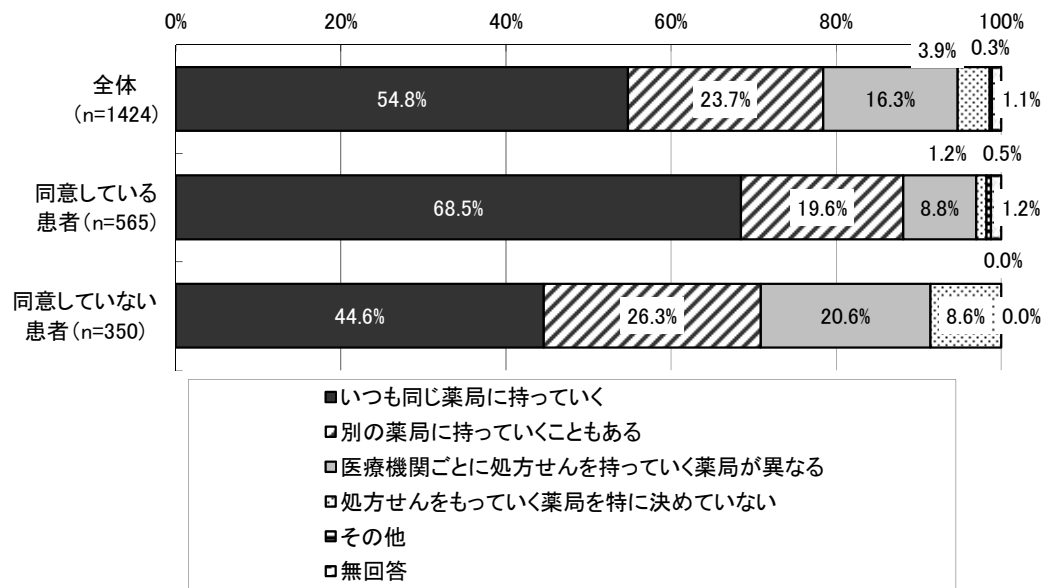
・「その他」の内容として、「助成制度の使える病院の隣の薬局」が挙げられた。

図表 234 処方せんを持っていく薬局の決め方（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 235 処方せんを持っていく薬局の決め方（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



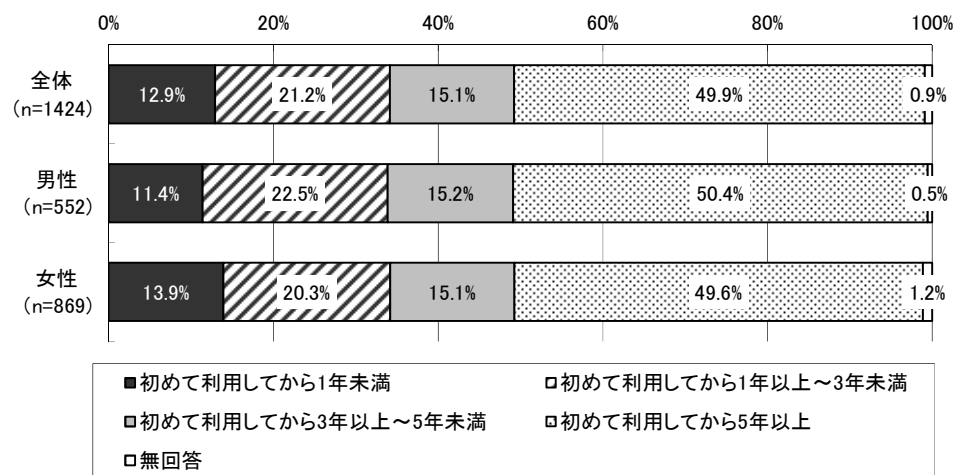
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

(3) 調査日に利用した薬局との関係等

①調査日に利用した薬局の利用期間

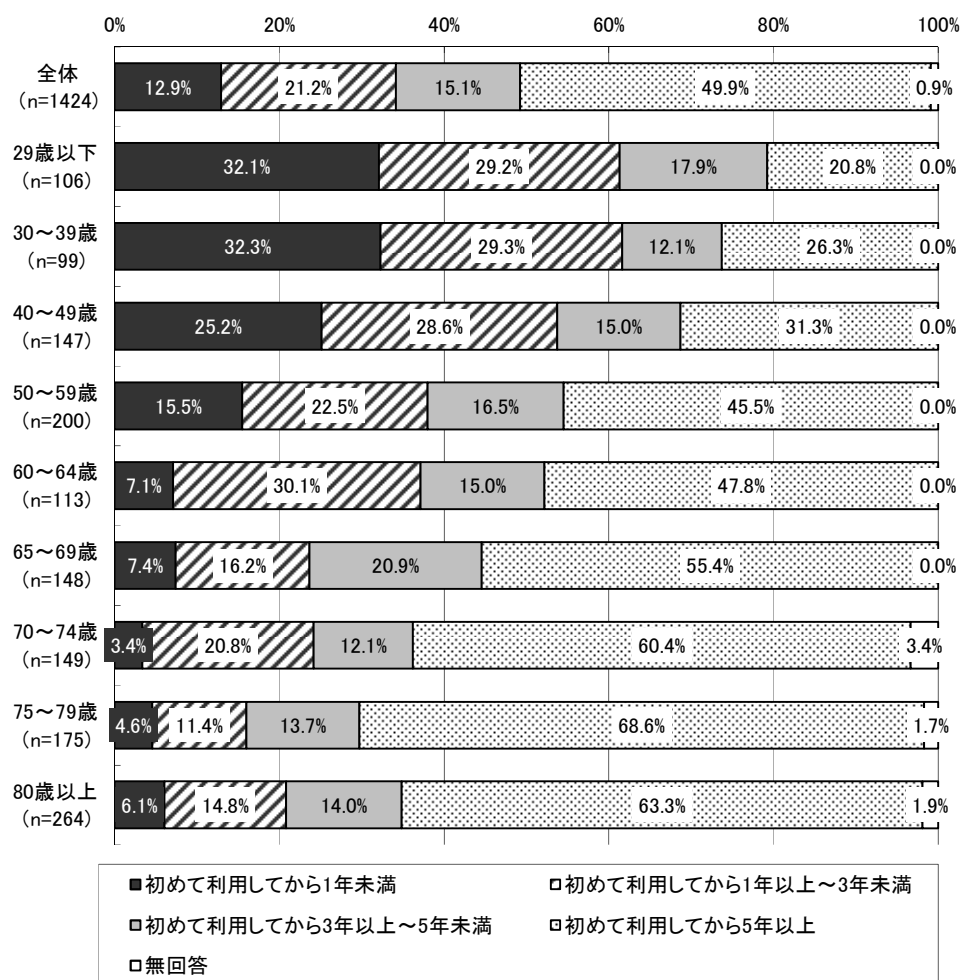
調査日に利用した薬局の利用期間についてみると、「初めて利用してから5年以上」が5割近くを占め、次いで「初めて利用してから1年以上～3年未満」が21.2%、「初めて利用してから3年以上～5年未満」が15.1%、「初めて利用してから1年未満」が12.9%であった。

図表 236 調査日に利用した薬局の利用期間（男女別）



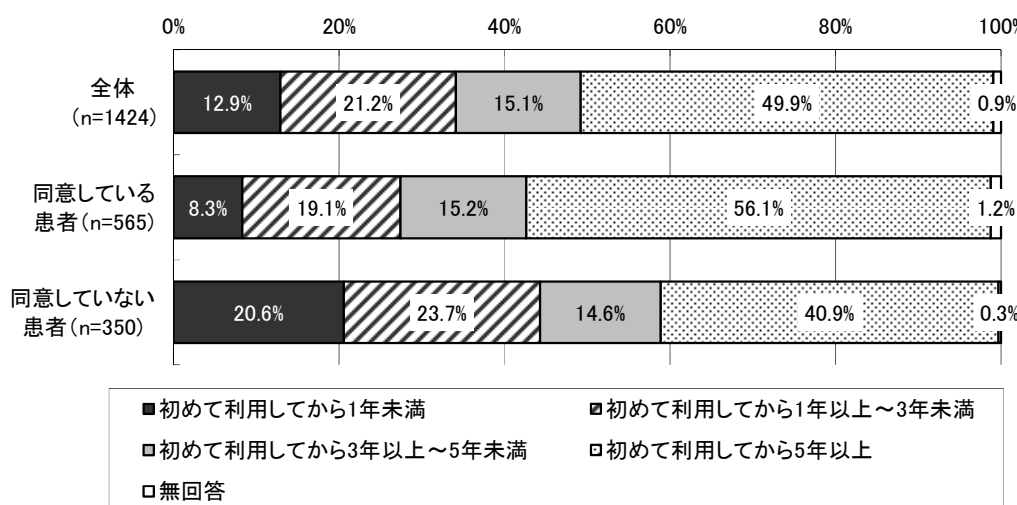
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 237 調査日に利用した薬局の利用期間（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 238 調査日に利用した薬局の利用期間（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



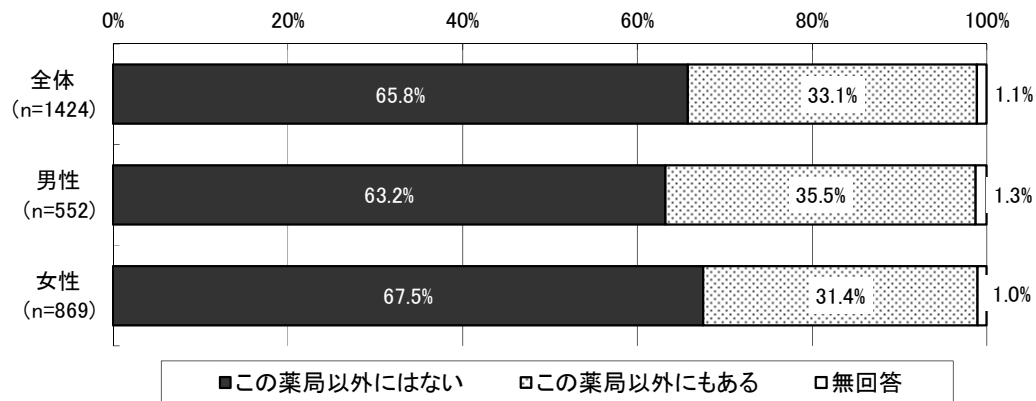
（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

②平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況

平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況についてみると、「この薬局以外にはない」が 65.8%、「この薬局以外にもある」が 33.1%であった。

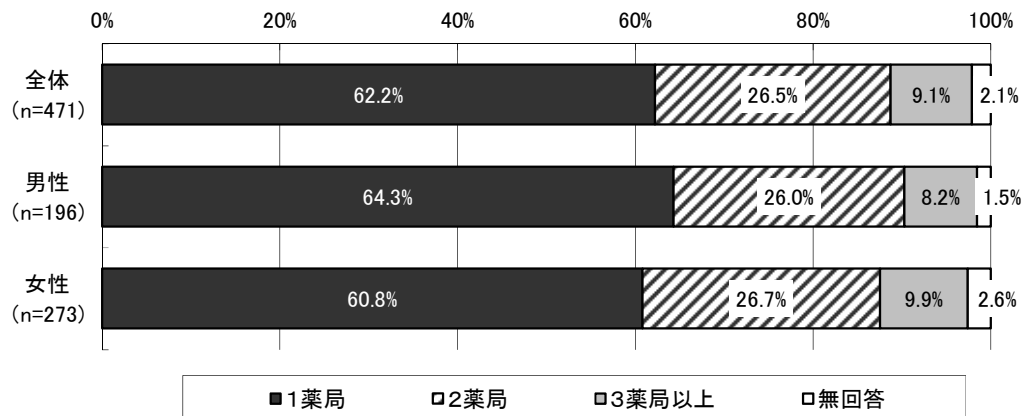
この薬局以外に処方せんを持っていた薬局の数は「1 薬局」が 62.2%で最も多く、平均は 1.5 薬局（中央値 1.0）であった。

図表 239 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況（男女別）



(注)「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 240 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(男女別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

図表 241 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(男女別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

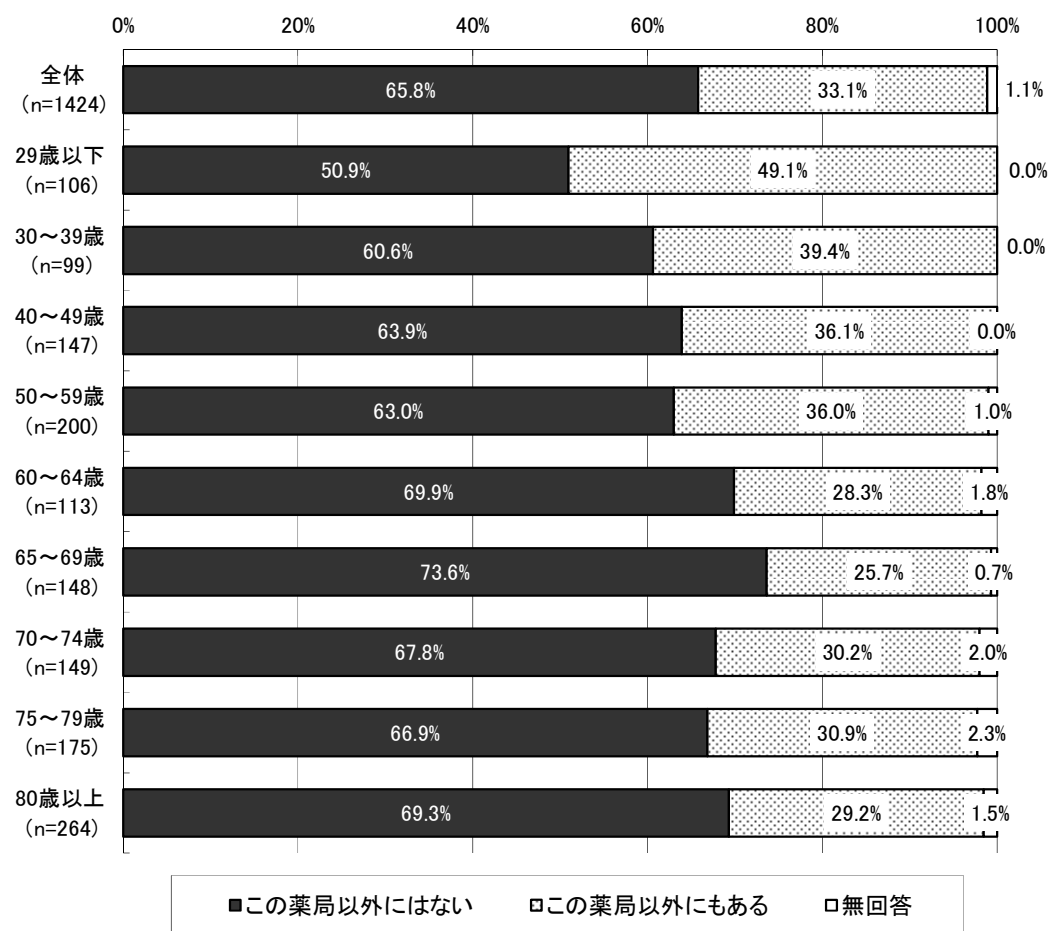
(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
男性	193	1.5	0.8	1.0
女性	266	1.5	0.7	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

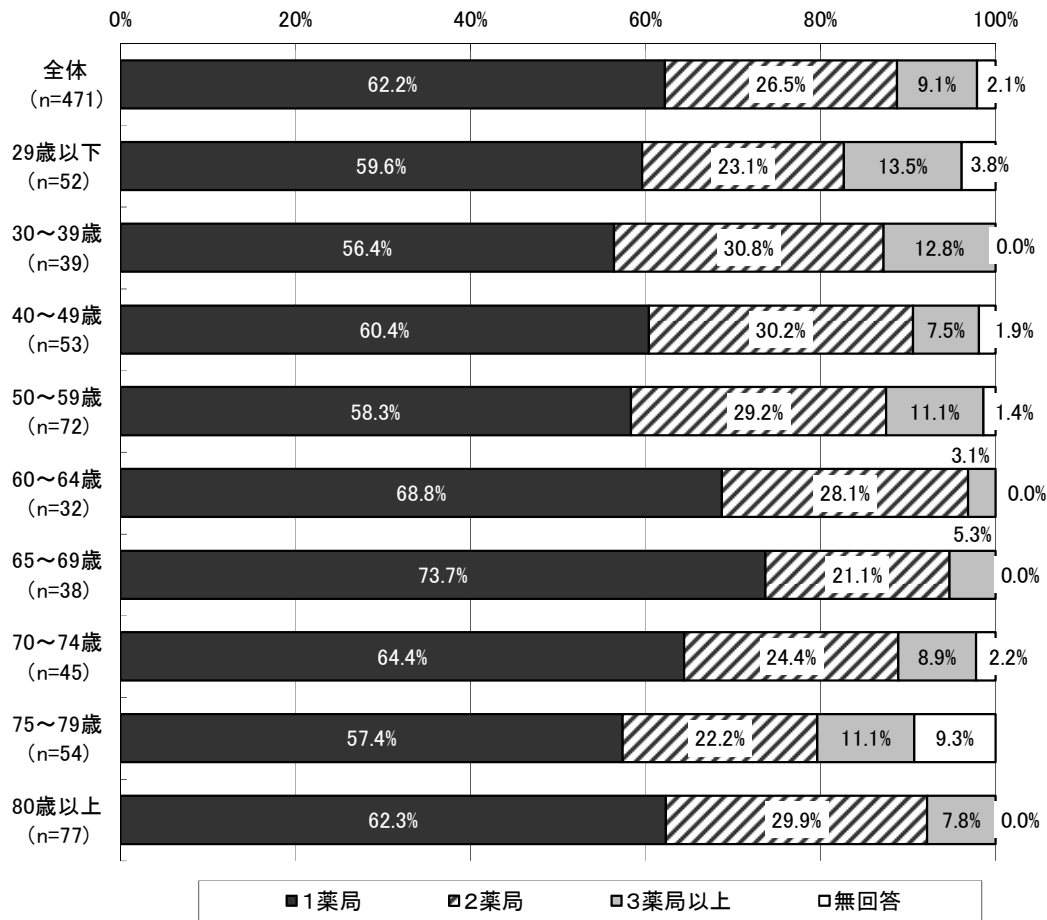
・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 242 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 243 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(年齢階級別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注)「全体」には、年齢について無回答の 9 人が含まれる。

図表 244 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(年齢階級別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

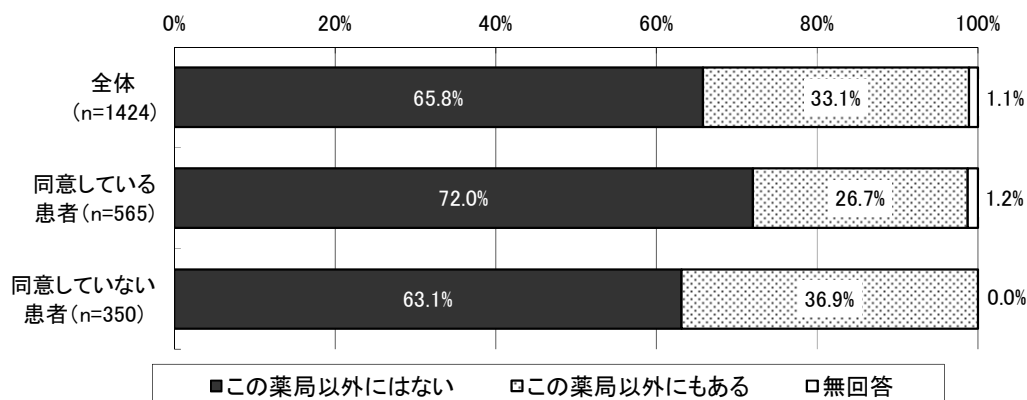
(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
29 歳以下	50	1.5	0.8	1.0
30～39 歳	39	1.6	0.8	1.0
40～49 歳	52	1.5	0.6	1.0
50～59 歳	71	1.5	0.8	1.0
60～64 歳	32	1.3	0.5	1.0
65～69 歳	38	1.4	1.1	1.0
70～74 歳	44	1.5	0.8	1.0
75～79 歳	49	1.5	0.7	1.0
80 歳以上	77	1.5	0.7	1.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の 9 人が含まれる。

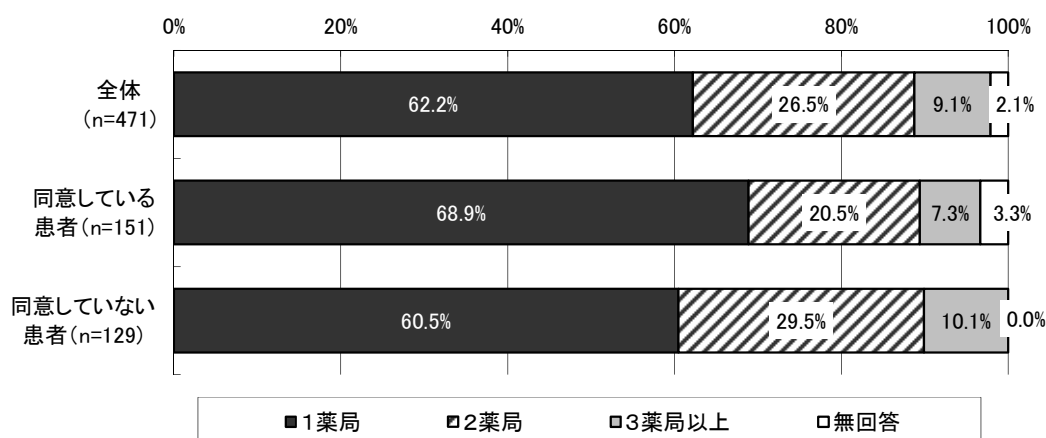
・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 245 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)



(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

図表 246 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 191 人が含まれる。

図表 247 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
同意している患者	146	1.4	0.7	1.0
同意していない患者	129	1.5	0.8	1.0

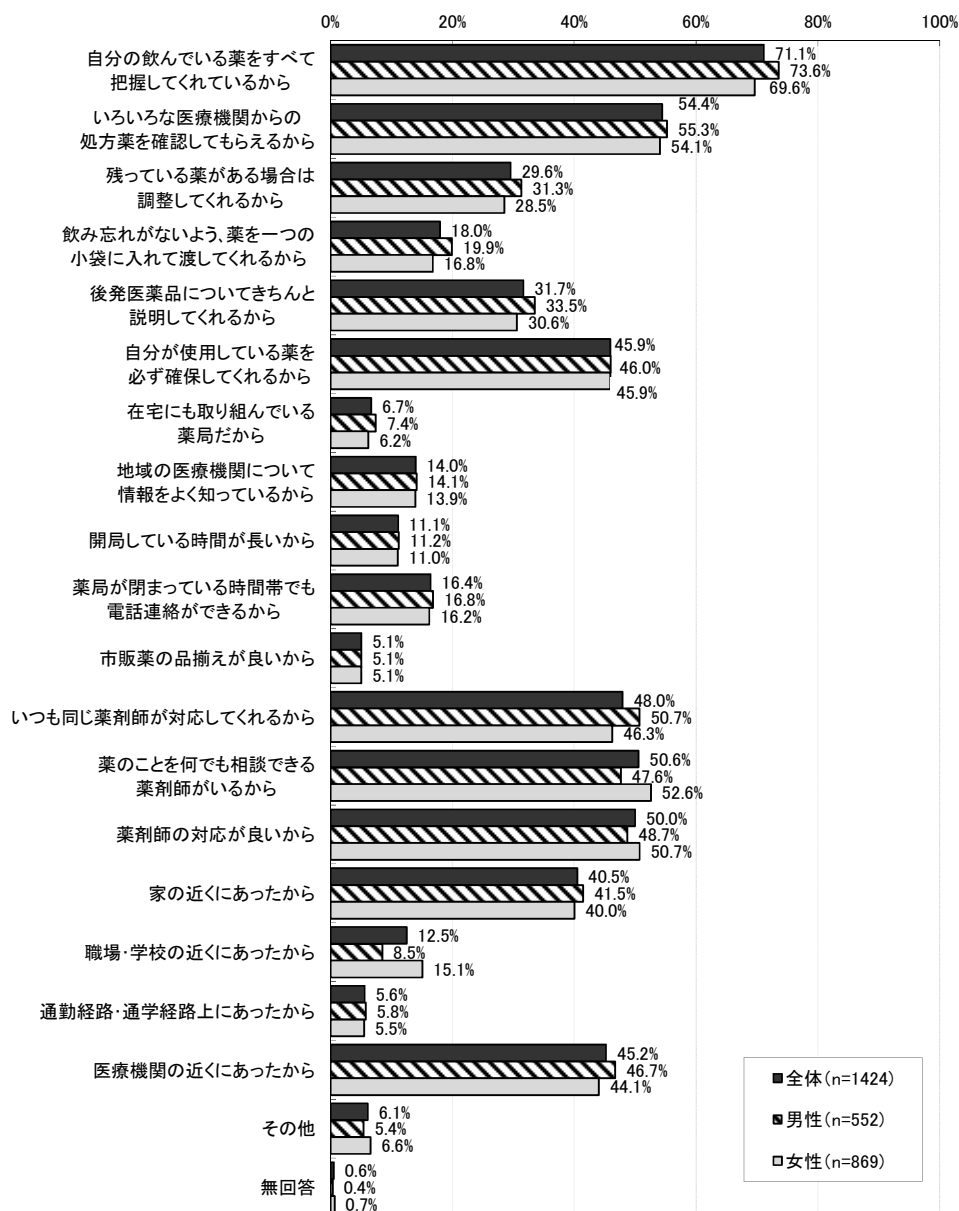
(注) ・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 191 人が含まれる。

・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

③本日利用した薬局を選んだ理由

本日利用した薬局を選んだ理由についてみると、「自分の飲んでいる薬をすべて把握しているから」が 71.1%で最も高く、次いで「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえるから」(54.4%)、「薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから」(50.6%)、「薬剤師の対応が良いから」(50.0%)、「いつも同じ薬剤師が対応してくれるから」(48.0%)であった。

図表 248 本日利用した薬局を選んだ理由（男女別、複数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・「その他」の内容として、「家族等が勤めているから」、「信頼できるから」、「相談しやすいから」、「医療機関と直接連絡をとってもらえるから」、「FAX 送信して用意してもらえるから」、「いつも行く店のそばにあるから」、「助成を受けているため指定の薬局だから」、「駅の近くにあるから」、「カード払いができるから」、「患者の状態を良くつかんで薬の整理をしてくれるから」、「スタッフの対応が丁寧で安心できるから」、「待ち時間が短いから」、「薬についても詳しく教えてもらえ、薬局の対応が良いから」等が挙げられた。

図表 249 本日利用した薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んでる薬をすべて把握してくれているから	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえらるから	残っている薬がある場合は調整してくれるから	飲み忘れないよう、薬を一つの小袋に入れて渡してくれるから	後発医薬品についてきちんと説明してくれるから	自分が使用している薬を必ず確保してくれるから	在宅にも取り組んでいる薬局だから	地域の医療機関について情報をよく知っているから	開局している時間が長いから	薬局が閉まっている時間帯でも電話連絡ができるから
全体	1424 100.0	1013 71.1	775 54.4	421 29.6	256 18.0	451 31.7	654 45.9	95 6.7	199 14.0	158 11.1	234 16.4
29 歳以下	106 100.0	54 50.9	43 40.6	22 20.8	8 7.5	27 25.5	34 32.1	2 1.9	9 8.5	23 21.7	11 10.4
30～39 歳	99 100.0	46 46.5	39 39.4	12 12.1	1 1.0	21 21.2	31 31.3	0 0.0	5 5.1	14 14.1	10 10.1
40～49 歳	147 100.0	92 62.6	77 52.4	39 26.5	17 11.6	49 33.3	63 42.9	5 3.4	17 11.6	11 7.5	21 14.3
50～59 歳	200 100.0	128 64.0	94 47.0	42 21.0	19 9.5	54 27.0	97 48.5	5 2.5	23 11.5	18 9.0	21 10.5
60～64 歳	113 100.0	88 77.9	59 52.2	31 27.4	10 8.8	40 35.4	58 51.3	6 5.3	18 15.9	19 16.8	15 13.3
65～69 歳	148 100.0	115 77.7	92 62.2	47 31.8	21 14.2	47 31.8	76 51.4	12 8.1	25 16.9	13 8.8	28 18.9
70～74 歳	149 100.0	118 79.2	86 57.7	45 30.2	27 18.1	58 38.9	72 48.3	8 5.4	17 11.4	12 8.1	22 14.8
75～79 歳	175 100.0	143 81.7	102 58.3	62 35.4	36 20.6	59 33.7	89 50.9	14 8.0	32 18.3	14 8.0	38 21.7
80 歳以上	264 100.0	212 80.3	170 64.4	115 43.6	112 42.4	89 33.7	131 49.6	43 16.3	48 18.2	31 11.7	66 25.0

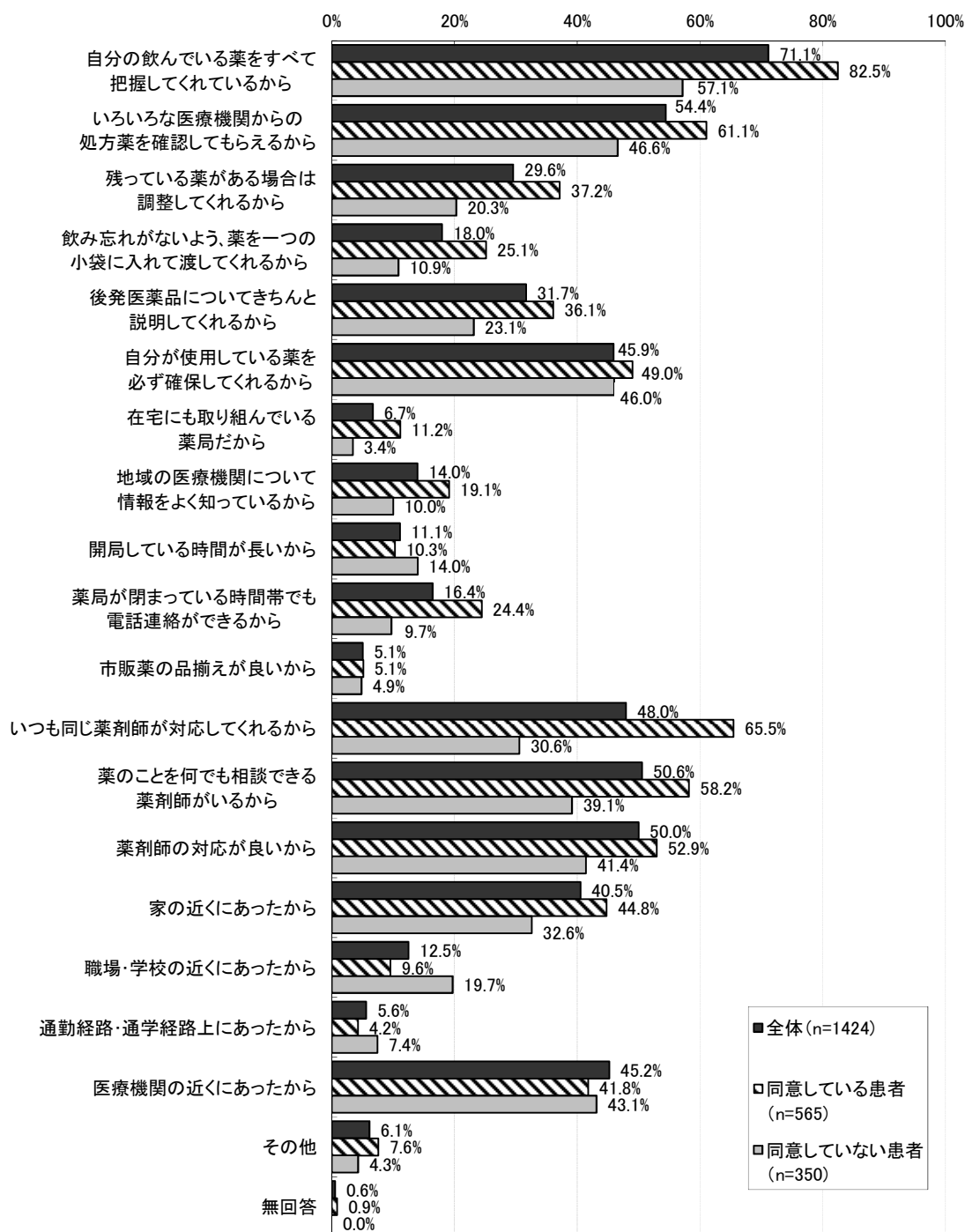
図表 250 本日利用した薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）②

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	市販薬の品揃えが良いから	いつも同じ薬剤師が対応してくれるから	薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから	薬剤師の対応が良いから	家の近くにあったから	職場・学校の近くにあったから	通勤経路・通学経路上にあったから	医療機関の近くにあったから	その他	無回答
全体	1424 100.0	72 5.1	683 48.0	720 50.6	712 50.0	577 40.5	178 12.5	80 5.6	644 45.2	87 6.1	8 0.6
29 歳以下	106 100.0	2 1.9	33 31.1	50 47.2	57 53.8	24 22.6	22 20.8	14 13.2	60 56.6	5 4.7	0 0.0
30～39 歳	99 100.0	3 3.0	26 26.3	33 33.3	47 47.5	24 24.2	28 28.3	11 11.1	56 56.6	3 3.0	0 0.0
40～49 歳	147 100.0	6 4.1	50 34.0	61 41.5	70 47.6	55 37.4	33 22.4	13 8.8	65 44.2	2 1.4	0 0.0
50～59 歳	200 100.0	6 3.0	86 43.0	92 46.0	87 43.5	53 26.5	43 21.5	13 6.5	105 52.5	7 3.5	1 0.5
60～64 歳	113 100.0	8 7.1	57 50.4	53 46.9	64 56.6	51 45.1	20 17.7	10 8.8	37 32.7	5 4.4	0 0.0
65～69 歳	148 100.0	12 8.1	83 56.1	78 52.7	71 48.0	62 41.9	6 4.1	4 2.7	68 45.9	18 12.2	0 0.0
70～74 歳	149 100.0	4 2.7	81 54.4	76 51.0	73 49.0	68 45.6	10 6.7	6 4.0	62 41.6	11 7.4	3 2.0
75～79 歳	175 100.0	9 5.1	97 55.4	103 58.9	86 49.1	97 55.4	8 4.6	3 1.7	71 40.6	8 4.6	2 1.1
80 歳以上	264 100.0	20 7.6	157 59.5	162 61.4	145 54.9	134 50.8	6 2.3	4 1.5	108 40.9	28 10.6	2 0.8

(注)「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 251 本日利用した薬局を選んだ理由
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、複数回答)

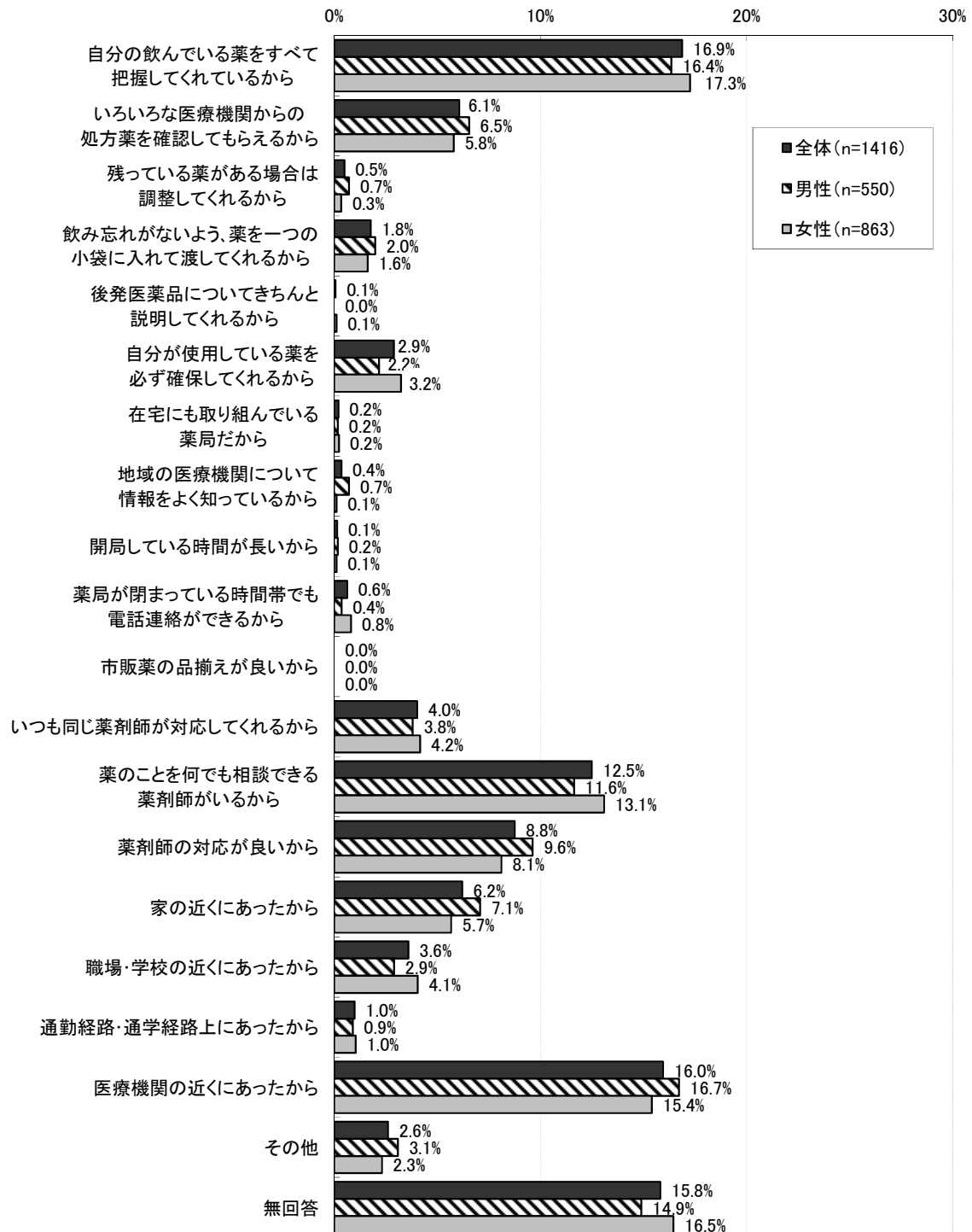


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

④本日利用した薬局を選んだ最大の理由

本日利用した薬局を選んだ最大の理由についてみると、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれているから」が 16.9%で最も高く、次いで「医療機関の近くにあったから」(16.0%)、「薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから」(12.5%)であった。

図表 252 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 253 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（年齢階級別、単数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んでる薬を すべて把握してくれて いるから	いろいろな医療機関か らの処方薬を確認して もらえるから	残っている薬がある場合 は調整してくれるから	飲み忘れがないよう、薬 を一つの小袋に入れて 渡してくれるから	後発医薬品についてきち んと説明してくれるか ら	自分が使用している薬 を必ず確保してくれる から	在宅にも取り組んでい る薬局だから	地域の医療機関について 情報をよく知っているか ら	開局している時間が長い から	薬局が閉まっている時間 帯でも電話連絡ができ るから
全体	1416 100.0	239 16.9	86 6.1	7 0.5	25 1.8	1 0.1	41 2.9	3 0.2	5 0.4	2 0.1	9 0.6
29 歳以下	106 100.0	10 9.4	6 5.7	0 0.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9
30～39 歳	99 100.0	11 11.1	1 1.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0
40～49 歳	147 100.0	24 16.3	8 5.4	1 0.7	1 0.7	0 0.0	6 4.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.7
50～59 歳	199 100.0	24 12.1	15 7.5	2 1.0	3 1.5	0 0.0	12 6.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.5
60～64 歳	113 100.0	24 21.2	8 7.1	0 0.0	1 0.9	1 0.9	3 2.7	0 0.0	2 1.8	1 0.9	0 0.0
65～69 歳	148 100.0	32 21.6	10 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 5.4	0 0.0	2 1.4	0 0.0	0 0.0
70～74 歳	146 100.0	37 25.3	9 6.2	1 0.7	4 2.7	0 0.0	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	1 0.7
75～79 歳	173 100.0	23 13.3	11 6.4	0 0.0	1 0.6	0 0.0	3 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6
80 歳以上	262 100.0	49 18.7	18 6.9	1 0.4	13 5.0	0 0.0	3 1.1	2 0.8	0 0.0	0 0.0	2 0.8

図表 254 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（年齢階級別、単数回答）②

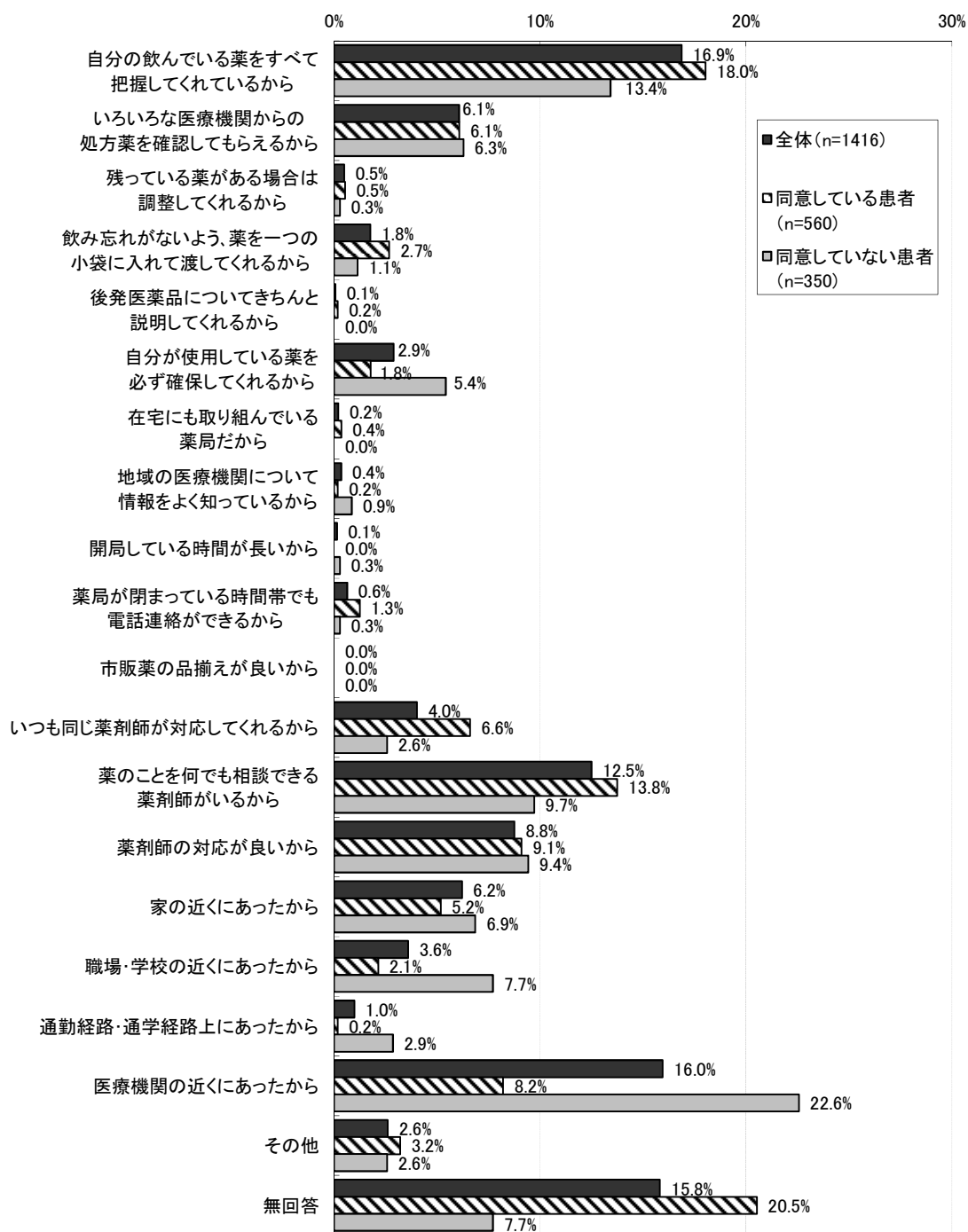
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	市販薬の品揃えが良いから	いつも同じ薬剤師が対応してくれるから	薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから	薬剤師の対応が良いから	家の近くにあったから	職場・学校の近くにあったから	通勤経路・通学経路上にあったから	医療機関の近くにあったから	その他	無回答
全体	1416 100.0	0 0.0	57 4.0	177 12.5	124 8.8	88 6.2	51 3.6	14 1.0	226 16.0	37 2.6	224 15.8
29 歳以下	106 100.0	0 0.0	4 3.8	13 12.3	16 15.1	5 4.7	5 4.7	3 2.8	29 27.4	4 3.8	8 7.5
30～39 歳	99 100.0	0 0.0	1 1.0	4 4.0	16 16.2	3 3.0	10 10.1	3 3.0	37 37.4	1 1.0	8 8.1
40～49 歳	147 100.0	0 0.0	5 3.4	13 8.8	19 12.9	15 10.2	8 5.4	2 1.4	23 15.6	0 0.0	21 14.3
50～59 歳	199 100.0	0 0.0	7 3.5	21 10.6	16 8.0	11 5.5	16 8.0	3 1.5	45 22.6	2 1.0	19 9.5
60～64 歳	113 100.0	0 0.0	7 6.2	14 12.4	9 8.0	6 5.3	5 4.4	1 0.9	11 9.7	3 2.7	17 15.0
65～69 歳	148 100.0	0 0.0	1 0.7	19 12.8	11 7.4	12 8.1	1 0.7	1 0.7	17 11.5	9 6.1	25 16.9
70～74 歳	146 100.0	0 0.0	4 2.7	20 13.7	8 5.5	7 4.8	2 1.4	1 0.7	16 11.0	5 3.4	26 17.8
75～79 歳	173 100.0	0 0.0	15 8.7	24 13.9	12 6.9	13 7.5	2 1.2	0 0.0	22 12.7	2 1.2	44 25.4
80 歳以上	262 100.0	0 0.0	11 4.2	44 16.8	16 6.1	16 6.1	2 0.8	0 0.0	21 8.0	11 4.2	53 20.2

(注)・「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 255 本日利用した薬局を選んだ最大の理由
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、単数回答)



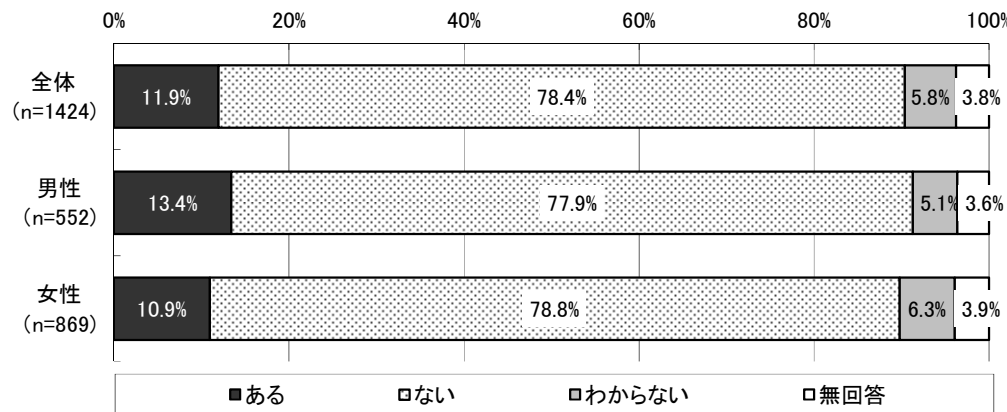
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」だった患者506人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

⑤薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無

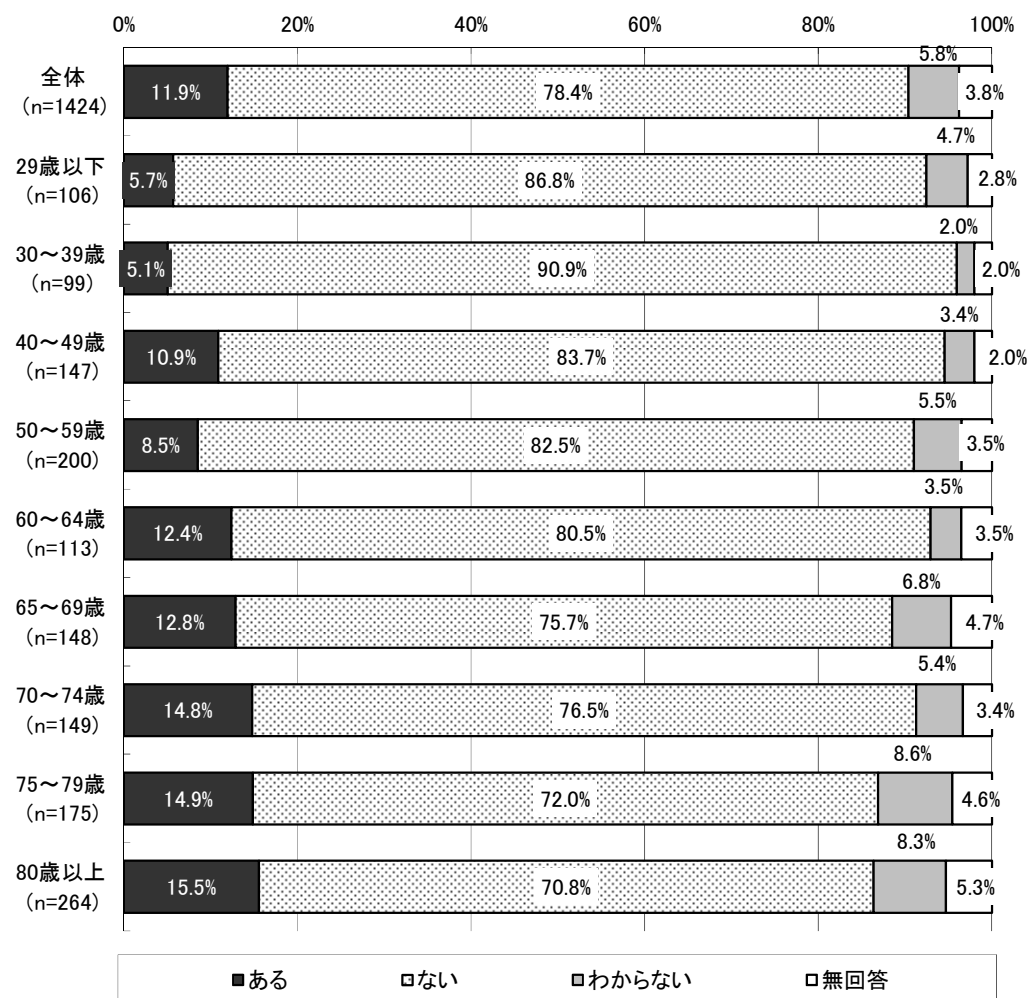
この1年くらいの間に、本日利用した薬局で、投与されている薬の重複や飲み合わせが悪いこと等がわかって、医師に薬を変更してもらったことがあるか尋ねたところ、「ある」という回答が11.9%、「ない」が78.4%、「わからない」が5.8%であった。

図表 256 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無
(男女別)



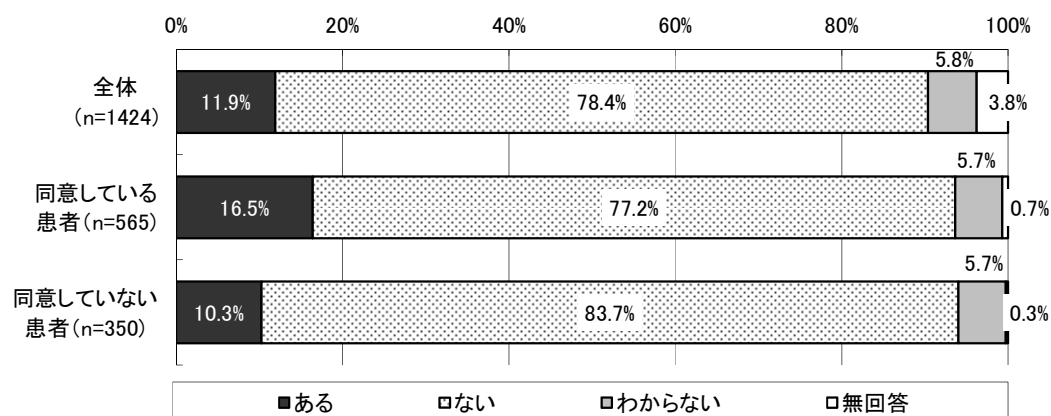
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 257 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無
(年齢階級別)



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 258 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)

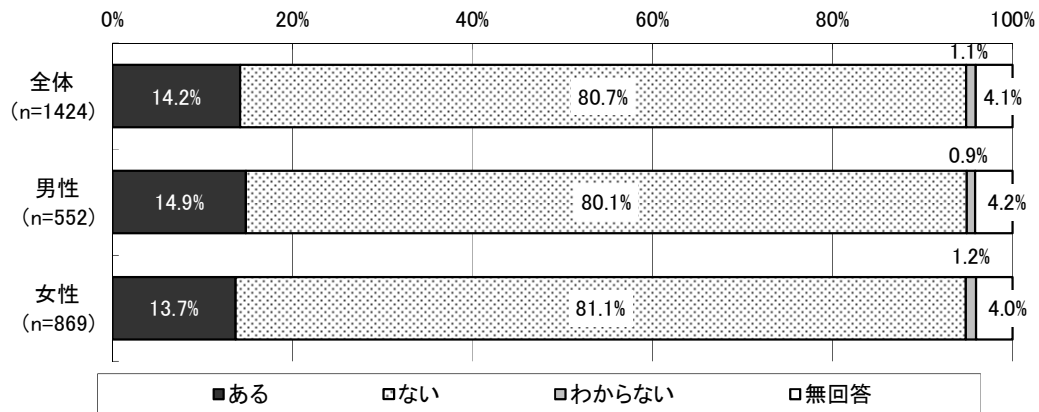


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

⑥残薬について薬局に相談した経験の有無

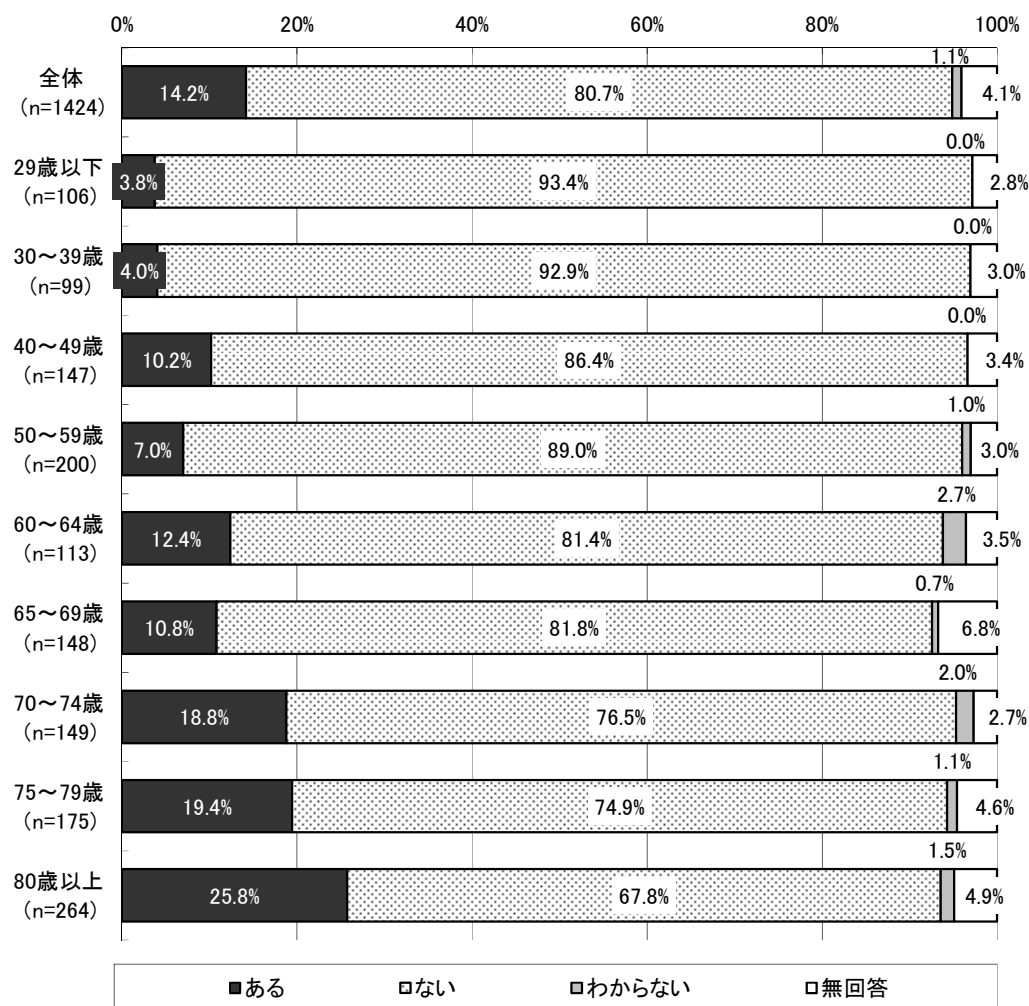
平成 29 年 4 月以降の、残薬について薬局に相談した経験の有無についてみると、「ある」が 14.2%、「ない」が 80.7%であった。

図表 259 残薬について薬局に相談した経験の有無（男女別）



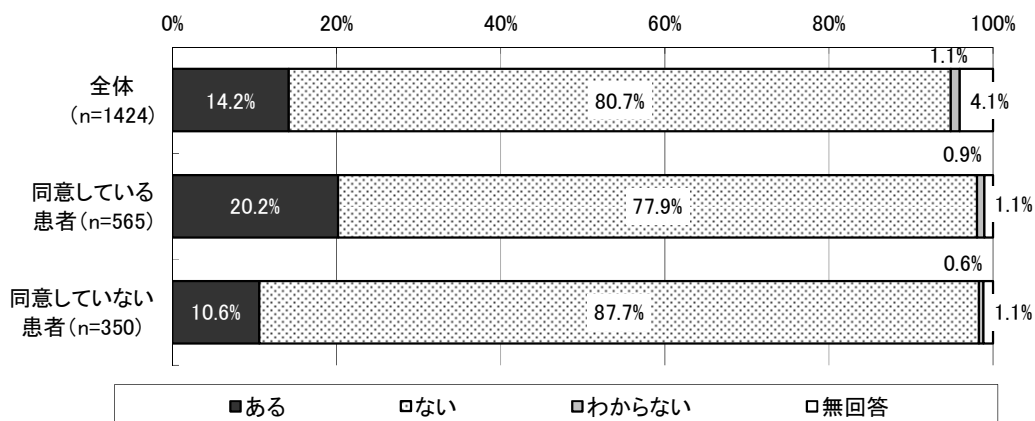
（注）「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 260 残薬について薬局に相談した経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 261 残薬について薬局に相談した経験の有無
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

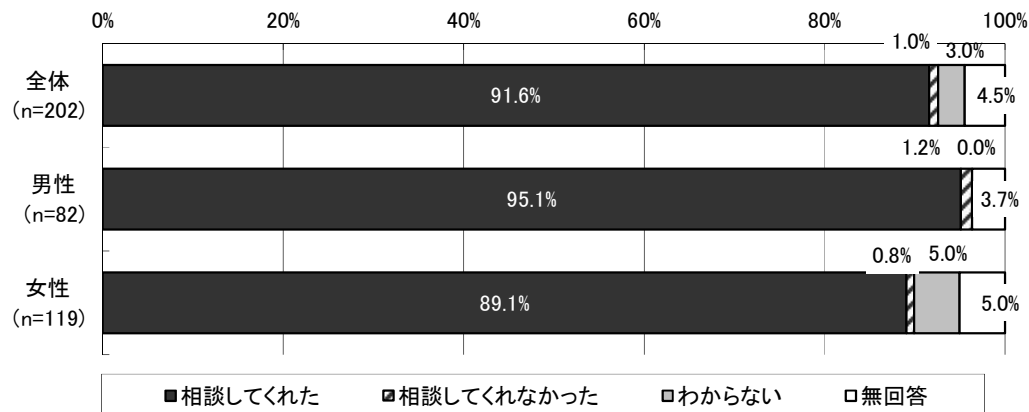


（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

⑦残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか

残薬について薬局に相談したことが「ある」と回答した人に、残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたかを尋ねたところ、「相談してくれた」が91.6%、「相談してくれなかった」が1.0%、「わからない」が3.0%であった。

図表 262 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか
(男女別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の1人が含まれる。

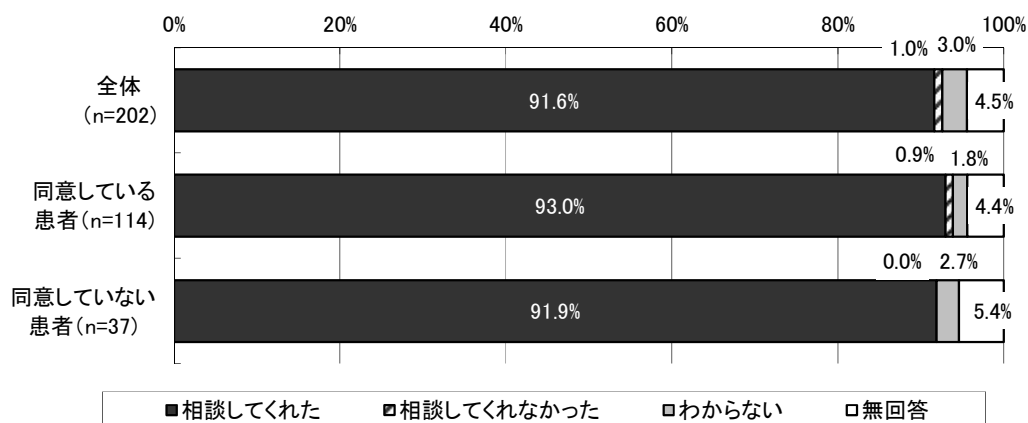
図表 263 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか
(年齢階級別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	相談して くれた	相談してくれ なかった	わからない	無回答
全体	202 100.0	185 91.6	2 1.0	6 3.0	9 4.5
29 歳以下	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0
30～39 歳	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
40～49 歳	15 100.0	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50～59 歳	14 100.0	11 78.6	0 0.0	2 14.3	1 7.1
60～64 歳	14 100.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～69 歳	16 100.0	14 87.5	0 0.0	1 6.3	1 6.3
70～74 歳	28 100.0	26 92.9	1 3.6	1 3.6	0 0.0
75～79 歳	34 100.0	34 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80 歳以上	68 100.0	63 92.6	0 0.0	0 0.0	5 7.4

(注)「全体」には、年齢について無回答の 5 人が含まれる。

図表 264 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

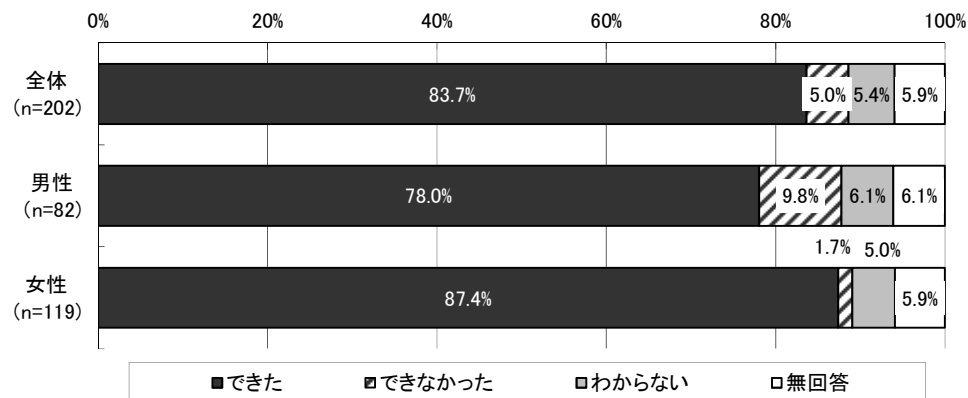


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 51 人が含まれる。

⑧結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか

残薬について薬局に相談したことが「ある」と回答した人に、結果的に調剤してもらった薬を減らすことができたかを尋ねたところ、「できた」が83.7%、「できなかった」が5.0%、「わからない」が5.4%であった。

図表 265 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか
(男女別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の1人が含まれる。

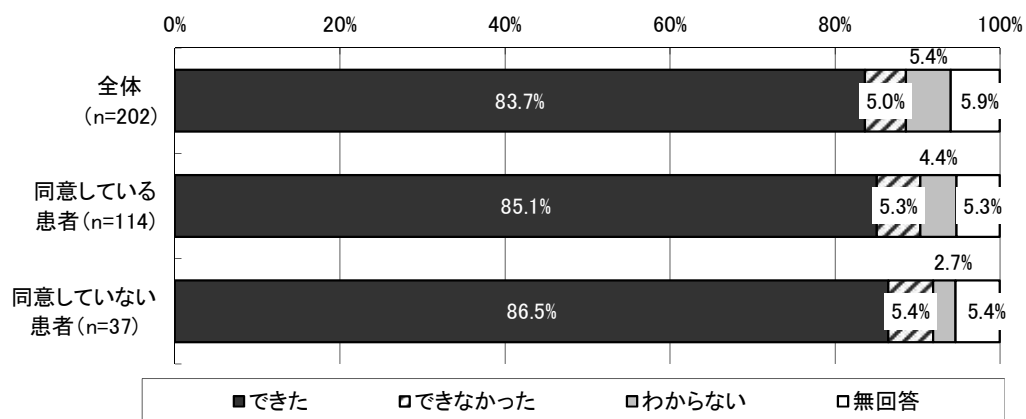
図表 266 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか
(年齢階級別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	できた	できなかった	わからない	無回答
全体	202 100.0	169 83.7	10 5.0	11 5.4	12 5.9
29歳以下	4 100.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
30～39歳	4 100.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
40～49歳	15 100.0	12 80.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7
50～59歳	14 100.0	11 78.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1
60～64歳	14 100.0	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0
65～69歳	16 100.0	13 81.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3
70～74歳	28 100.0	22 78.6	2 7.1	2 7.1	2 7.1
75～79歳	34 100.0	30 88.2	0 0.0	2 5.9	2 5.9
80歳以上	68 100.0	59 86.8	1 1.5	4 5.9	4 5.9

(注)「全体」には、年齢について無回答の5人が含まれる。

図表 267 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



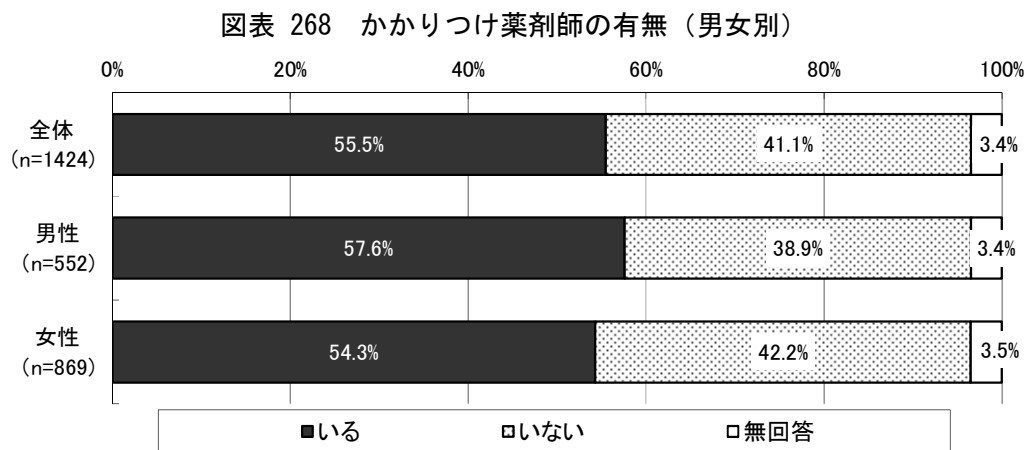
(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 51 人が含まれる。

(4) かかりつけ薬剤師についてのお考え等

①かかりつけ薬剤師の有無

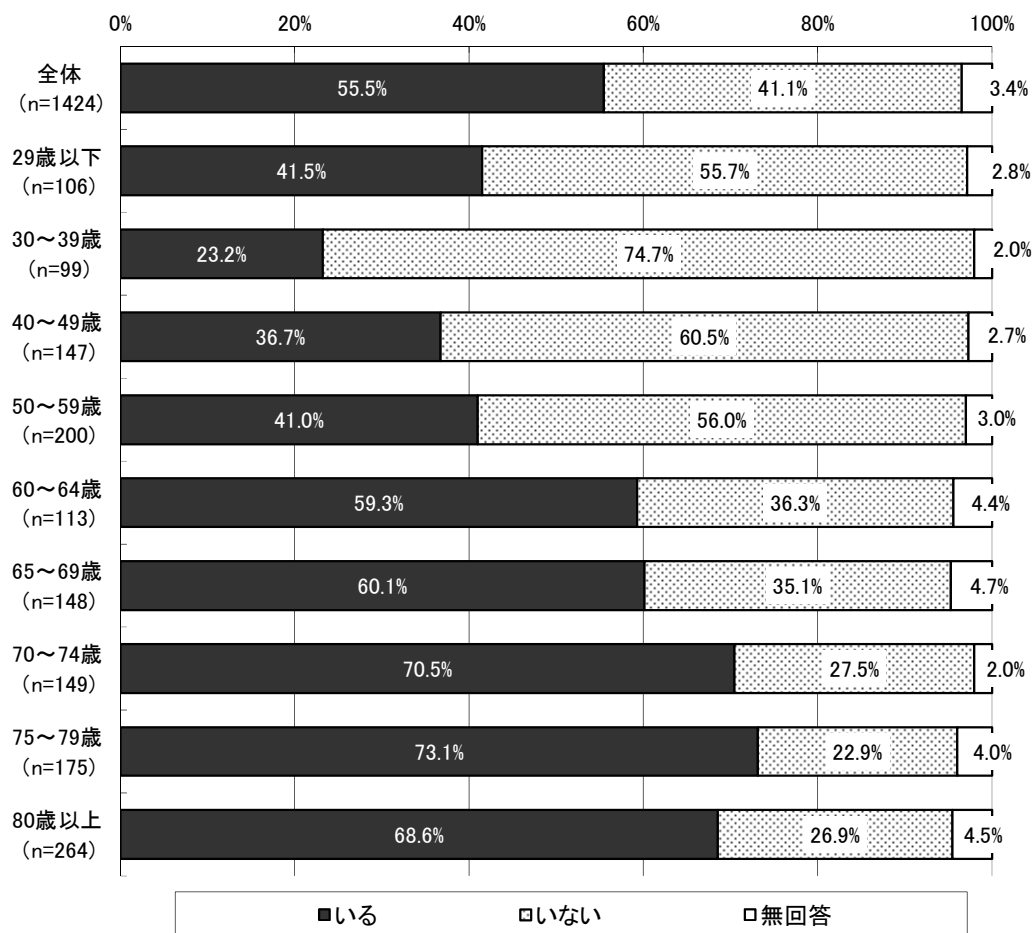
ここでは「かかりつけ薬剤師」について、「患者が服用している薬をすべて知っていて、薬の飲み忘れがないか、複数の医療機関からの薬で重複しているものがないかなどをチェックしてくれる、薬のことをなんでも相談できる薬剤師」と定義した上で、かかりつけ薬剤師がいるかを尋ねた。

この結果、かかりつけ薬剤師が「いる」という回答は55.5%、「いない」が41.1%であった。



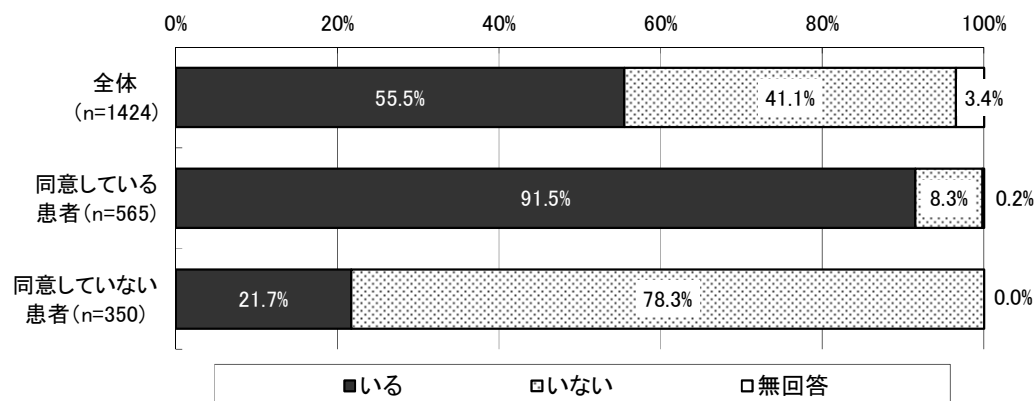
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 269 かかりつけ薬剤師の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 270 かかりつけ薬剤師の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

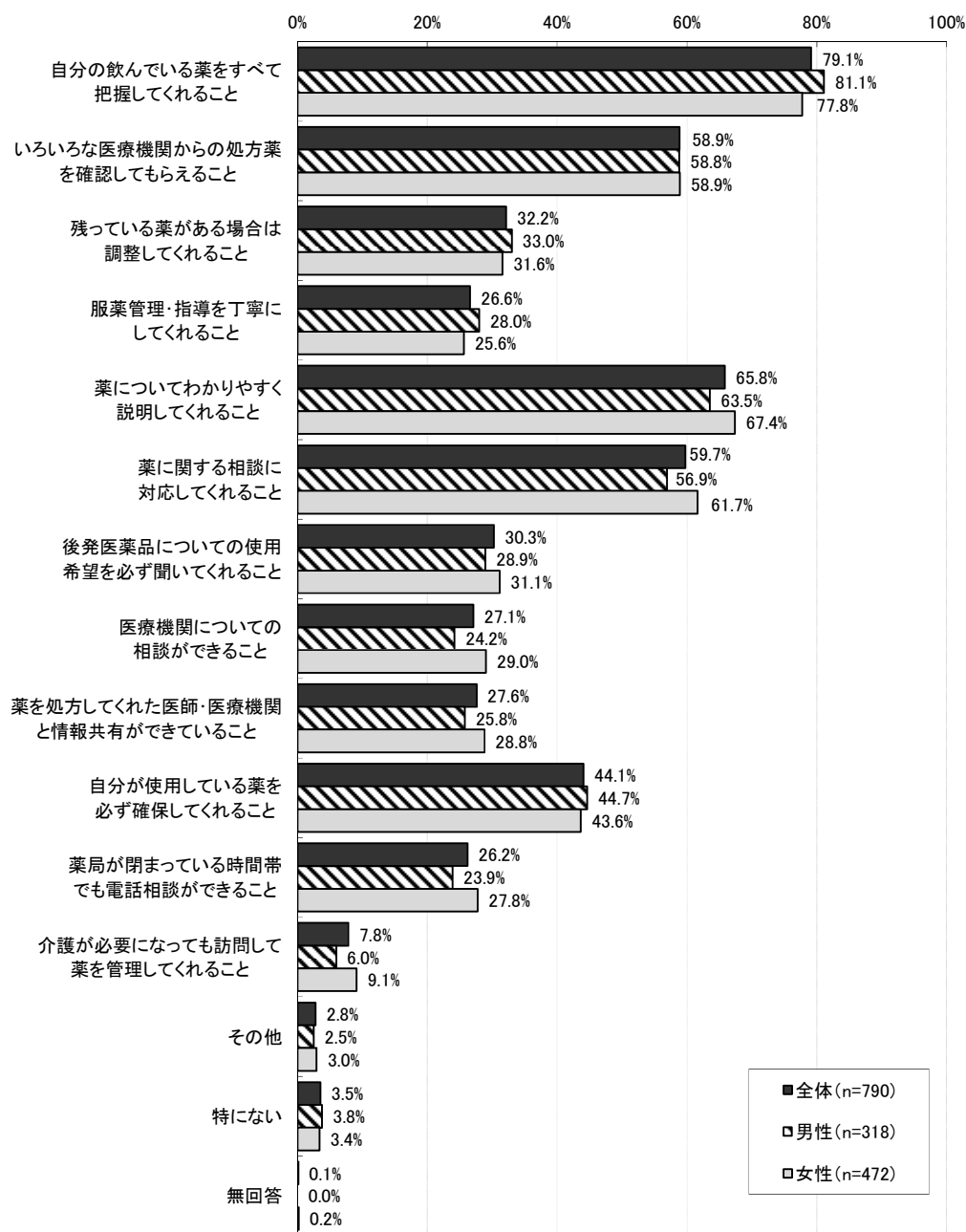


（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

②かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験

ここでは「かかりつけ薬剤師」が「いる」と回答した人に対して、かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験について尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が 79.1%で最も高く、次いで「薬についてわかりやすく説明してくれること」(65.8%)、「薬に関する相談に対応してくれること」(59.7%)、「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(58.9%)であった。

図表 271 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験
(男女別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答)



(注)「その他」の内容として、「自宅まで来て対応してくれる」、「相談にのってもらえる」、「漢方の相談もできる」、「OTC 薬についてもアドバイスをしてくれる」、「副作用が出た時に相談にのってもらい、同じ系統の薬を教えてくれる」、「医師の出した薬の量を確認してくれる」等が挙げられた。

図表 272 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験
(年齢階級別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答) ① (次表に続く)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること	残っている薬がある場合は調整してくれること	服薬管理・指導を丁寧に行ってくれること	薬についてわかりやすく説明してくれること	薬に関する相談に対応してくれること	後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること	医療機関についての相談ができること
全体	790 100.0	625 79.1	465 58.9	254 32.2	210 26.6	520 65.8	472 59.7	239 30.3	214 27.1
29 歳以下	44 100.0	31 70.5	28 63.6	14 31.8	8 18.2	28 63.6	30 68.2	12 27.3	8 18.2
30～39 歳	23 100.0	14 60.9	11 47.8	3 13.0	0 0.0	11 47.8	15 65.2	5 21.7	5 21.7
40～49 歳	54 100.0	46 85.2	32 59.3	16 29.6	11 20.4	38 70.4	33 61.1	22 40.7	18 33.3
50～59 歳	82 100.0	60 73.2	43 52.4	15 18.3	14 17.1	57 69.5	44 53.7	18 22.0	20 24.4
60～64 歳	67 100.0	54 80.6	39 58.2	19 28.4	8 11.9	40 59.7	43 64.2	25 37.3	16 23.9
65～69 歳	89 100.0	70 78.7	49 55.1	30 33.7	19 21.3	62 69.7	52 58.4	32 36.0	25 28.1
70～74 歳	105 100.0	84 80.0	61 58.1	33 31.4	23 21.9	69 65.7	60 57.1	30 28.6	28 26.7
75～79 歳	128 100.0	102 79.7	77 60.2	48 37.5	30 23.4	81 63.3	79 61.7	34 26.6	41 32.0
80 歳以上	181 100.0	154 85.1	118 65.2	71 39.2	93 51.4	124 68.5	109 60.2	57 31.5	50 27.6

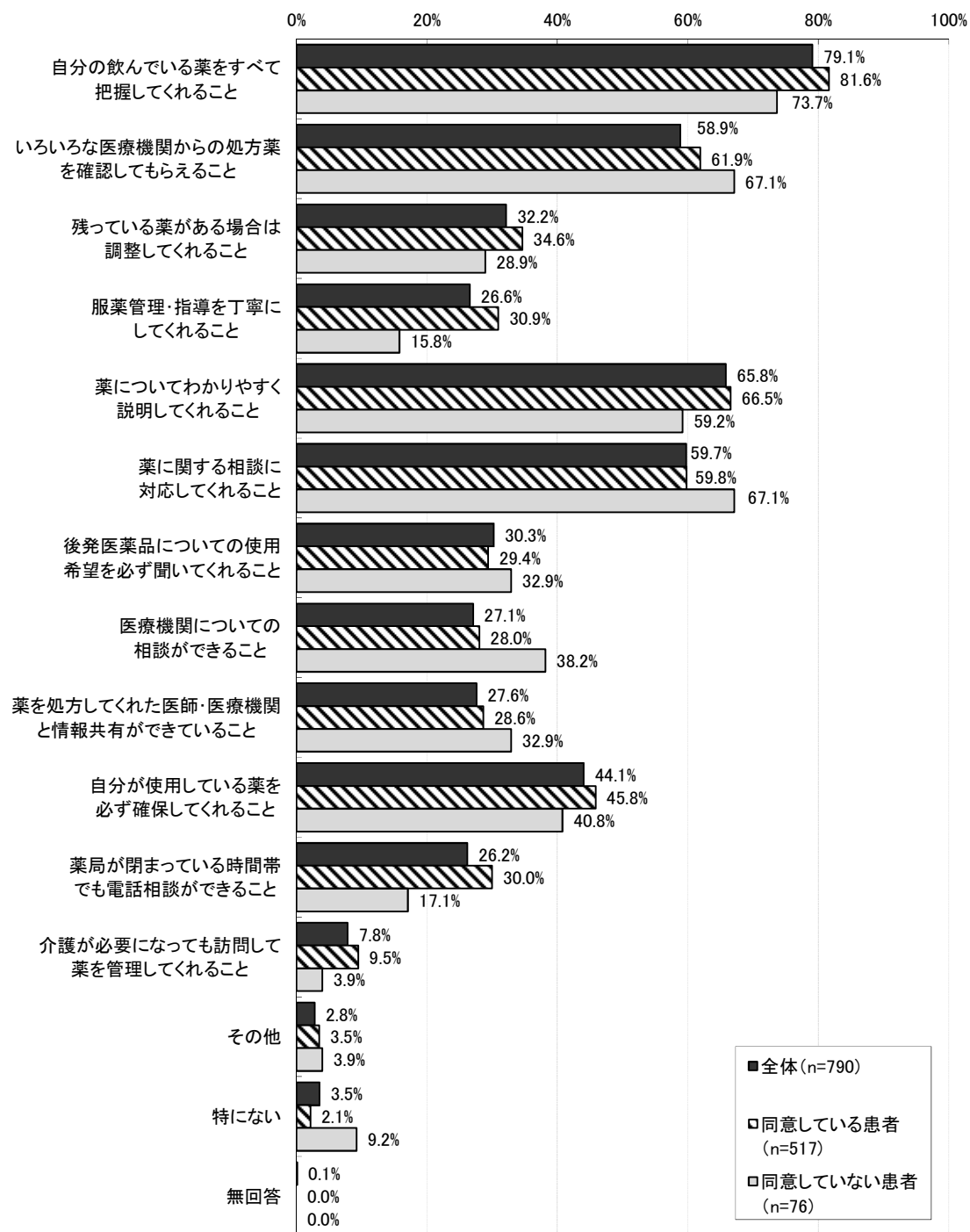
図表 273 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験
(年齢階級別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答) ②

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総 数	薬を処方してくれた医 師・医療機関と情報共 有ができていること	自分が使用している薬 を必ず確保してくれる こと	薬局が閉まっている時 間帯でも電話相談がで きること	介護が必要になっても 訪問して薬を管理して くれること	その他	特 に な い	無 回 答
全体	790 100.0	218 27.6	348 44.1	207 26.2	62 7.8	22 2.8	28 3.5	1 0.1
29 歳以下	44 100.0	10 22.7	17 38.6	13 29.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3	0 0.0
30～39 歳	23 100.0	4 17.4	9 39.1	3 13.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0
40～49 歳	54 100.0	13 24.1	25 46.3	17 31.5	3 5.6	2 3.7	2 3.7	0 0.0
50～59 歳	82 100.0	18 22.0	34 41.5	15 18.3	3 3.7	3 3.7	3 3.7	0 0.0
60～64 歳	67 100.0	15 22.4	31 46.3	17 25.4	1 1.5	1 1.5	1 1.5	0 0.0
65～69 歳	89 100.0	25 28.1	41 46.1	25 28.1	8 9.0	1 1.1	3 3.4	0 0.0
70～74 歳	105 100.0	35 33.3	49 46.7	22 21.0	7 6.7	3 2.9	6 5.7	0 0.0
75～79 歳	128 100.0	38 29.7	53 41.4	34 26.6	14 10.9	6 4.7	5 3.9	1 0.8
80 歳以上	181 100.0	57 31.5	84 46.4	58 32.0	24 13.3	5 2.8	5 2.8	0 0.0

(注)「全体」には、年齢について無回答の 17 人が含まれる。

図表 274 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答）

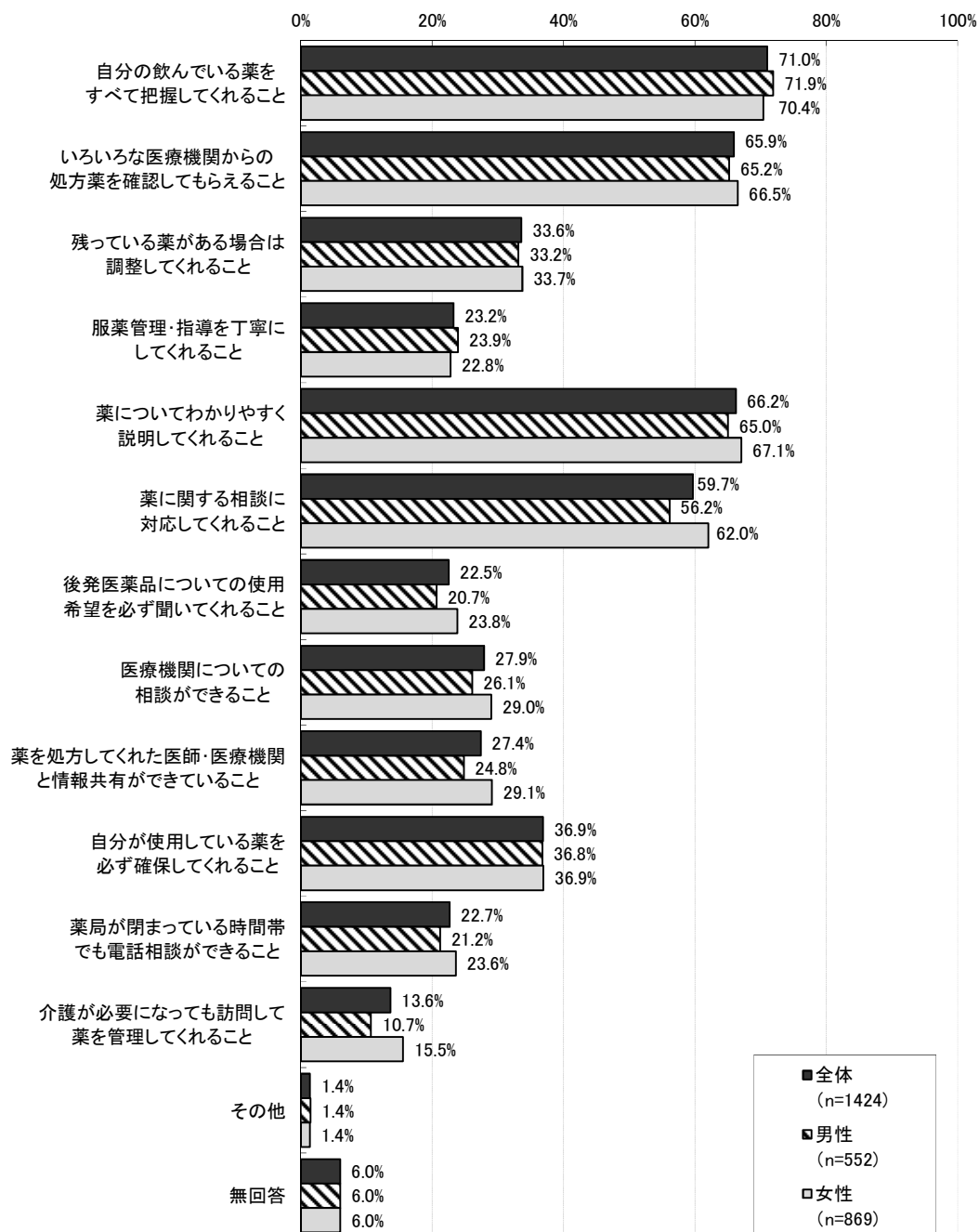


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 197 人が含まれる。

③かかりつけ薬剤師について重視すること

かかりつけ薬剤師について重視することを尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が 71.0%で最も高く、次いで「薬についてわかりやすく説明してくれること」(66.2%)、「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(65.9%)であった。

図表 275 かかりつけ薬剤師について重視すること（男女別、複数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・「その他」の内容として、「漢方の相談もできること」、「OTC 薬についてもアドバイスをしてくれること」、「副作用が出た時に相談にのってもらい、同じ系統の薬を教えてくれること」、「医師の出した薬の量を確認してくれること」等が挙げられた。

図表 276 かかりつけ薬剤師について重視すること（年齢階級別、複数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総 数	自分の飲んで いる薬をす べて把握して くれること	いろいろな医 療機関から の処方薬を 確認して もらえる こと	残っている 薬がある 場合 は調整し てくれる こと	服薬管理・ 指導を丁寧 にしてく れること	薬について わかりやす く説明し てくれる こと	薬に関する 相談に対 応してく れること	後発医薬 品について の使用希 望を必ず 聞いてく れること
全体	1424 100.0	1011 71.0	939 65.9	478 33.6	331 23.2	943 66.2	850 59.7	321 22.5
29 歳以下	106 100.0	74 69.8	71 67.0	33 31.1	19 17.9	69 65.1	71 67.0	26 24.5
30～39 歳	99 100.0	54 54.5	62 62.6	28 28.3	5 5.1	67 67.7	65 65.7	19 19.2
40～49 歳	147 100.0	98 66.7	101 68.7	49 33.3	30 20.4	100 68.0	92 62.6	39 26.5
50～59 歳	200 100.0	123 61.5	130 65.0	54 27.0	30 15.0	126 63.0	115 57.5	33 16.5
60～64 歳	113 100.0	92 81.4	78 69.0	33 29.2	19 16.8	80 70.8	74 65.5	25 22.1
65～69 歳	148 100.0	106 71.6	93 62.8	48 32.4	29 19.6	92 62.2	77 52.0	43 29.1
70～74 歳	149 100.0	121 81.2	99 66.4	45 30.2	38 25.5	104 69.8	90 60.4	37 24.8
75～79 歳	175 100.0	133 76.0	114 65.1	66 37.7	47 26.9	116 66.3	107 61.1	38 21.7
80 歳以上	264 100.0	195 73.9	176 66.7	114 43.2	109 41.3	172 65.2	149 56.4	59 22.3

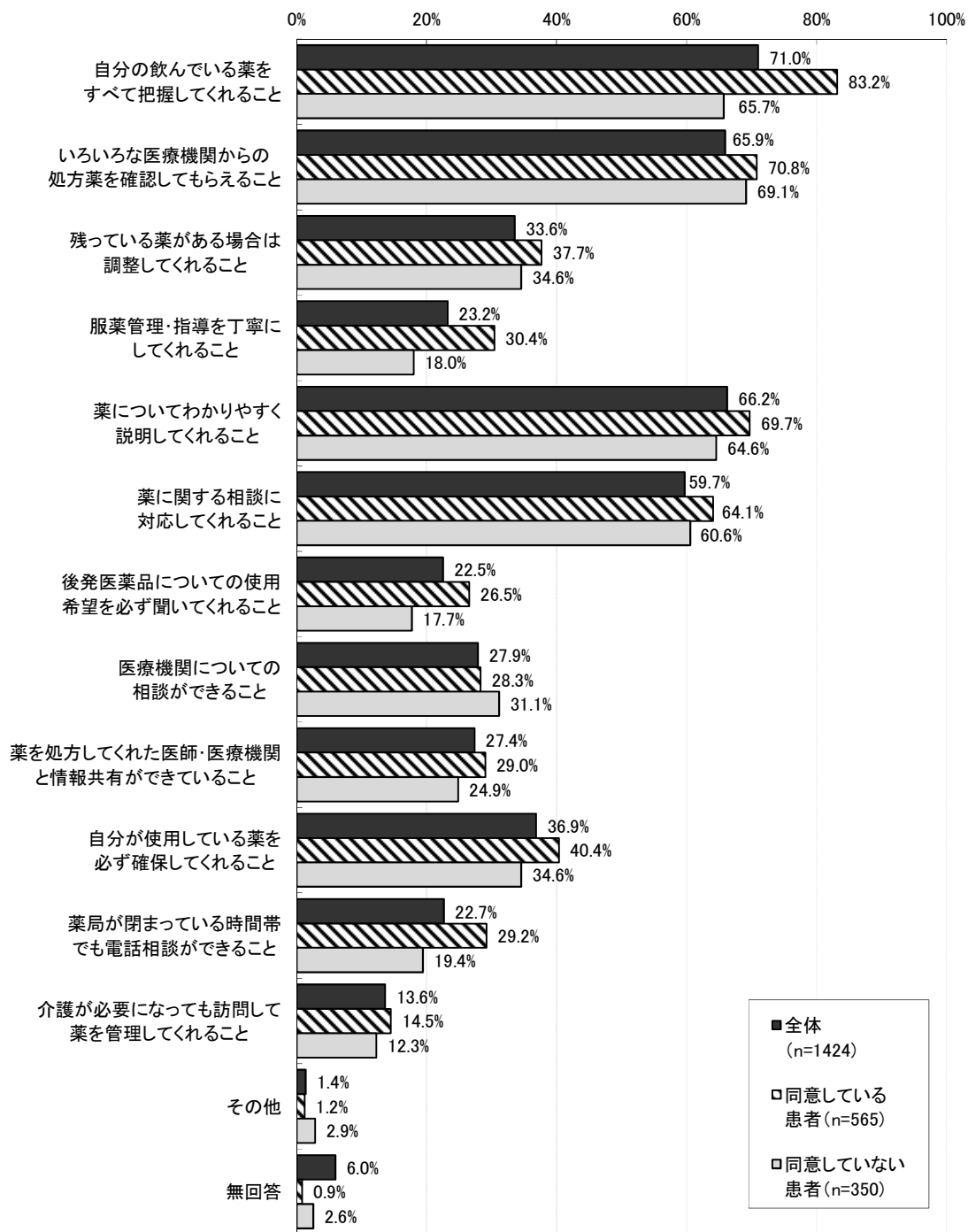
図表 277 かかりつけ薬剤師について重視すること（年齢階級別、複数回答）②

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	医療機関についての相談ができること	薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができること	自分が使用している薬を必ず確保してくれること	薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること	介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること	その他	無回答
全体	1424 100.0	397 27.9	390 27.4	525 36.9	323 22.7	194 13.6	20 1.4	85 6.0
29 歳以下	106 100.0	29 27.4	28 26.4	34 32.1	27 25.5	10 9.4	1 0.9	5 4.7
30～39 歳	99 100.0	24 24.2	16 16.2	28 28.3	21 21.2	6 6.1	2 2.0	4 4.0
40～49 歳	147 100.0	50 34.0	40 27.2	60 40.8	34 23.1	18 12.2	0 0.0	7 4.8
50～59 歳	200 100.0	55 27.5	49 24.5	60 30.0	23 11.5	16 8.0	4 2.0	14 7.0
60～64 歳	113 100.0	34 30.1	38 33.6	46 40.7	25 22.1	14 12.4	1 0.9	5 4.4
65～69 歳	148 100.0	39 26.4	38 25.7	60 40.5	36 24.3	24 16.2	3 2.0	16 10.8
70～74 歳	149 100.0	38 25.5	45 30.2	64 43.0	37 24.8	21 14.1	3 2.0	4 2.7
75～79 歳	175 100.0	47 26.9	60 34.3	66 37.7	43 24.6	34 19.4	3 1.7	10 5.7
80 歳以上	264 100.0	77 29.2	72 27.3	102 38.6	71 26.9	50 18.9	3 1.1	20 7.6

（注）「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 278 かかりつけ薬剤師について重視すること
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、複数回答)

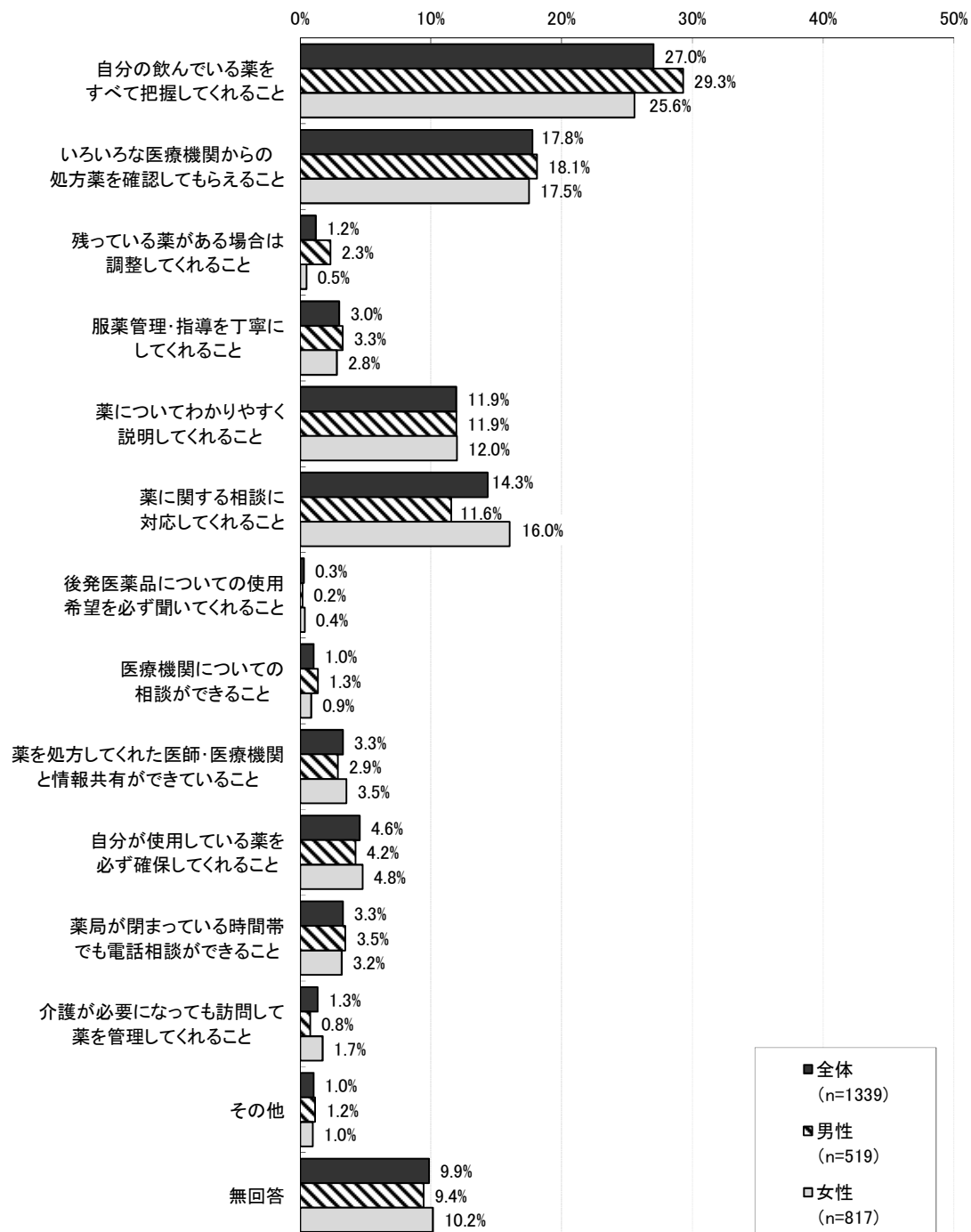


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

④かかりつけ薬剤師について最も重視すること

かかりつけ薬剤師について最も重視することを尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が 27.0%で最も高く、次いで「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(17.8%)、「薬に関する相談に対応してくれること」(14.3%)であった。

図表 279 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 280 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（年齢階級別、単数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総 数	自分の飲んでいる薬をす べて把握してくれること	いろいろな医療機関から の処方薬を確認してもら えること	残っている薬がある場合 は調整してくれること	服薬管理・指導を丁寧 にしてくれること	薬についてわかりやすく 説明してくれること	薬に関する相談に対応し てくれること	後発医薬品についての使 用希望を必ず聞いてくれ ること
全体	1339 100.0	362 27.0	238 17.8	16 1.2	40 3.0	160 11.9	192 14.3	4 0.3
29 歳以下	101 100.0	18 17.8	14 13.9	1 1.0	1 1.0	16 15.8	27 26.7	0 0.0
30～39 歳	95 100.0	16 16.8	25 26.3	2 2.1	0 0.0	16 16.8	16 16.8	0 0.0
40～49 歳	140 100.0	34 24.3	28 20.0	1 0.7	1 0.7	18 12.9	21 15.0	1 0.7
50～59 歳	186 100.0	41 22.0	43 23.1	1 0.5	2 1.1	26 14.0	32 17.2	1 0.5
60～64 歳	108 100.0	38 35.2	14 13.0	1 0.9	1 0.9	13 12.0	13 12.0	1 0.9
65～69 歳	132 100.0	41 31.1	21 15.9	2 1.5	2 1.5	15 11.4	15 11.4	0 0.0
70～74 歳	145 100.0	50 34.5	34 23.4	0 0.0	5 3.4	18 12.4	15 10.3	0 0.0
75～79 歳	165 100.0	44 26.7	30 18.2	1 0.6	9 5.5	11 6.7	25 15.2	1 0.6
80 歳以上	244 100.0	76 31.1	28 11.5	7 2.9	17 7.0	19 7.8	25 10.2	0 0.0

図表 281 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（年齢階級別、単数回答）②

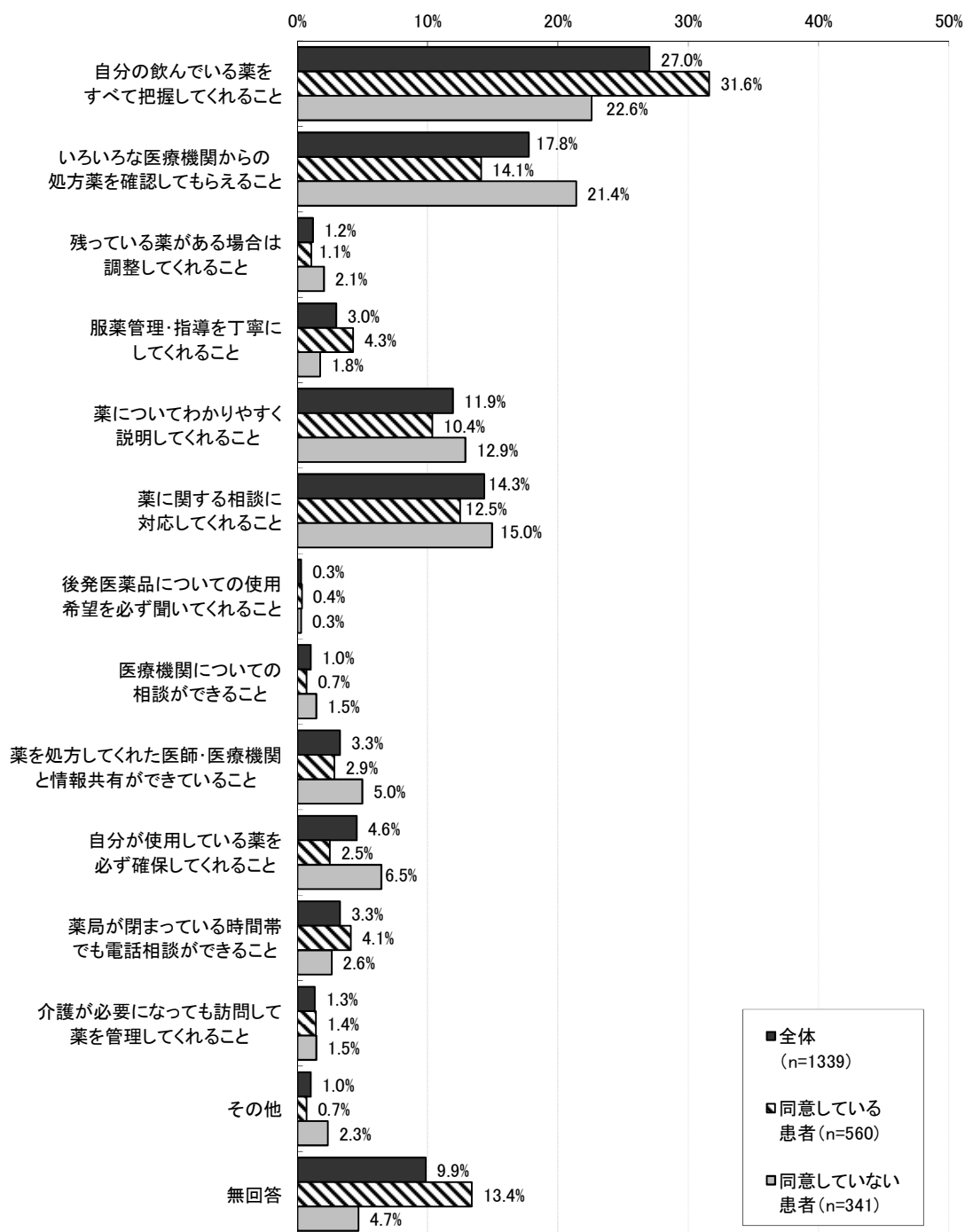
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総 数	医療機関についての 相談ができること	薬を処方してくれた 医師・医療機関と情 報共有ができてい ること	自分が使用している 薬を必ず確保して くれること	薬局が閉まっている 時間帯でも電話相談 ができること	介護が必要になっ ても訪問して薬を管理 してくれること	その他	無回 答
全体	1339 100.0	14 1.0	44 3.3	61 4.6	44 3.3	18 1.3	14 1.0	132 9.9
29 歳以下	101 100.0	1 1.0	2 2.0	4 4.0	10 9.9	2 2.0	1 1.0	4 4.0
30～39 歳	95 100.0	0 0.0	5 5.3	3 3.2	5 5.3	0 0.0	1 1.1	6 6.3
40～49 歳	140 100.0	1 0.7	5 3.6	12 8.6	4 2.9	2 1.4	0 0.0	12 8.6
50～59 歳	186 100.0	2 1.1	5 2.7	12 6.5	6 3.2	2 1.1	4 2.2	9 4.8
60～64 歳	108 100.0	3 2.8	4 3.7	5 4.6	3 2.8	0 0.0	0 0.0	12 11.1
65～69 歳	132 100.0	4 3.0	5 3.8	6 4.5	1 0.8	3 2.3	3 2.3	14 10.6
70～74 歳	145 100.0	0 0.0	3 2.1	6 4.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	12 8.3
75～79 歳	165 100.0	1 0.6	9 5.5	2 1.2	1 0.6	0 0.0	2 1.2	29 17.6
80 歳以上	244 100.0	2 0.8	6 2.5	10 4.1	12 4.9	8 3.3	3 1.2	31 12.7

（注）・「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 282 かかりつけ薬剤師について最も重視すること
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、単数回答)



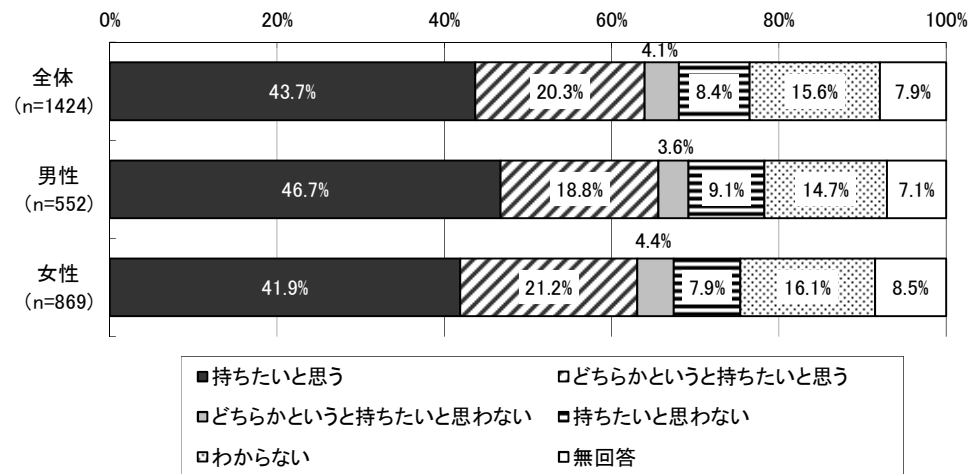
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 438 人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

⑤かかりつけ薬剤師についての意向

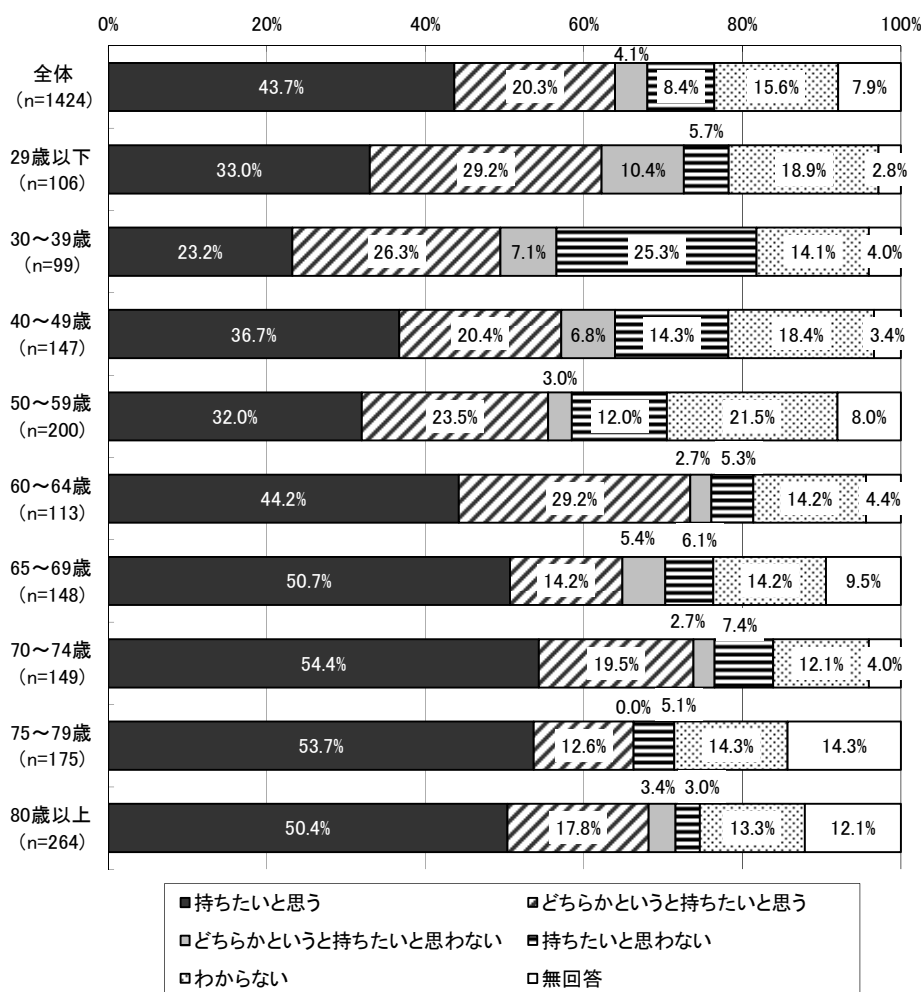
かかりつけ薬剤師についての意向を尋ねたところ、「持ちたいと思う」が 43.7%、「どちらかというを持ちたいと思う」が 20.3%で、両者を合わせると、意向のある人の割合は 64.0%となった。一方で、「どちらかというを持ちたいと思わない」が 4.1%、「持ちたいと思わない」が 8.4%で、両者を合わせると 12.5%であった。また、「わからない」が 15.6%であった。

図表 283 かかりつけ薬剤師についての意向（男女別）



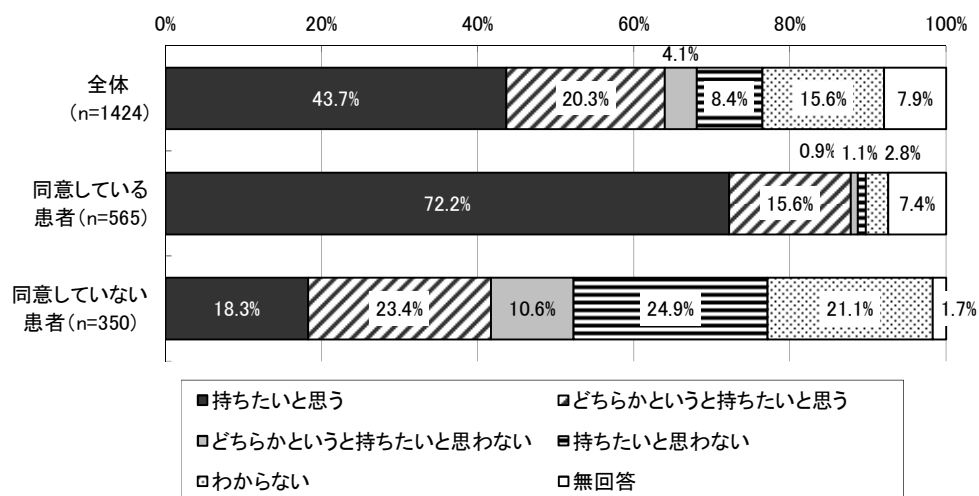
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 284 かかりつけ薬剤師についての意向（年齢階級別）



（注）「全体」には、年齢階級について無回答の3人が含まれる。

図表 285 かかりつけ薬剤師についての意向（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

NDB データを用いた集計

1. かかりつけ薬剤師指導料等の算定状況（平成 28 年 12 月審査分）

	算定薬局数	算定回数
かかりつけ薬剤師指導料	17,227	754,771
かかりつけ薬剤師包括管理料	119	1,098

2. 薬剤服用歴管理指導料の算定状況（平成 28 年 12 月審査分）

	算定回数
薬剤服用歴管理指導料（6 月以内に処方せんを持参した場合）	32,958,668
薬剤服用歴管理指導料（6 月以内に処方せんを持参した場合以外）	6,831,034
薬剤服用歴管理指導料（特別養護老人ホーム入所者の場合）	582,267
薬剤服用歴管理指導料（手帳持参なし・調剤基本料 1 又は 4 以外）	24,529,281

3. 外来服薬支援料の算定状況（平成 28 年 12 月審査分）

	算定薬局数	算定回数
外来服薬支援料	2,712	5,494

4. 服薬情報等提供料の算定状況（平成 28 年 12 月審査分）

	算定薬局数	算定回数
服薬情報等提供料	2,789	35,709

5. 重複投薬・相互作用等防止加算（平成 28 年 12 月審査分）

	算定薬局数	算定回数
重複投薬・相互作用等防止加算	37,309	318,041

6. 薬剤総合評価調整加算・調整管理料等の算定状況（平成 28 年 12 月審査分）

	算定施設数	算定回数
薬剤総合評価調整加算	795	1,642

	算定施設数	算定回数
薬剤総合評価調整管理料	1,870	3,814
連携管理加算	151	357

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査並びに
かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査

保険薬局票

※この「保険薬局票」は、医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬に関する取組、かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況、お考え等についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・ あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・ 「※○は1つだけ」という質問については、あてはまる番号を 1つだけ○で囲んでください。
- ・ （ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・ （ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ・ 特に断りのない限り、平成29年6月末現在の貴薬局の状況についてお答えください。

1. 貴薬局の概要等についてお伺いします。

①貴薬局名	()		
②所在地	() 都道府県 () 区市町村		
③開設者 ※○は1つだけ	1. 法人 ...▶ (1. 株式会社 2. 有限会社 3. 合資会社 4. 合名会社 5. その他) 2. 個人 3. その他 (具体的に)		
④同一法人等による薬局店舗数	() 店舗 ※当該店舗を含めてお答えください。		
⑤開設年	西暦 () 年 ※当該店舗の開設年をお答えください。		
⑥貴薬局はチェーン薬局(同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗)ですか。 ※○は1つだけ	1. はい 2. いいえ		
⑦貴薬局の処方せんの応需状況として最も近いものは、次のうちどれですか。 ※○は1つだけ ※「近隣」には同一敷地内も含まれる。	1. 主に近隣にある <u>特定の病院</u> の処方せンを応需している薬局 2. 主に近隣にある <u>特定の診療所</u> の処方せンを応需している薬局 3. 主に複数の近接する特定の <u>保険医療機関</u> (いわゆる医療モールやビル診療所など) の処方せンを応需している薬局 4. <u>様々な保険医療機関</u> からの処方せンを応需している薬局 5. その他 (具体的に)		
⑧貴薬局の売上高に占める保険調剤売上割合 ※平成 29 年 6 月	約 () % ※OTC医薬品等の販売がなく、保険調剤収入のみである場合は 100%とご記入ください。		
⑨調剤用医薬品の備蓄医薬品目数 ※平成 29 年 6 月	() 品目		
⑩後発医薬品調剤体制加算 ※○は1つだけ	1. 後発医薬品調剤体制加算 1 (18 点、調剤数量割合 65%以上) 2. 後発医薬品調剤体制加算 2 (22 点、調剤数量割合 75%以上) 3. 届出(算定)なし		

⑪後発医薬品調剤数量割合 ※平成 29 年 6 月		() % ※小数点以下第 1 位まで	
⑫調剤基本料 ※○は 1 つだけ		1. 調剤基本料 1 (41 点) 2. 調剤基本料 2 (25 点) 3. 調剤基本料 3 (20 点) 4. 調剤基本料 4 (31 点) 5. 調剤基本料 5 (19 点) 6. 特別調剤基本料 (15 点)	
⑫-1 全処方せんの受付回数(調剤基本料の根拠となる数字)		() 回/月	
⑫-2 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合(調剤基本料の根拠となる数字)		() % ※小数点以下第 1 位まで	
⑫-3 特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無(調剤基本料の根拠)		1. なし 2. あり	
⑫-4 調剤基本料の注 1 ただし書き※に該当する薬局ですか。 ※当該保険薬局に勤務している薬剤師の 5 割以上がかかりつけ薬剤師指導料等の施設基準に適合し、かつ、かかりつけ薬剤師指導料等にかかる業務について薬剤師 1 人あたり月 100 件以上算定していること		1. 非該当 2. 該当	
⑫-5 同一グループの保険薬局における処方せんの受付回数の合計が 1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局		1. 非該当 2. 該当	
⑬基準調剤加算 ※○は各 1 つだけ		平成 28 年 3 月末 【調剤報酬改定前】	1. 基準調剤加算 2 (36 点) 2. 基準調剤加算 1 (12 点) 3. 届出 (算定) なし
		平成 29 年 6 月末 【改定後】	1. 基準調剤加算 (32 点) 2. 届出 (算定) なし
⑭医薬品医療機器情報配信サービス(PMDA メディナビ)への登録 ※○は 1 つだけ		1. 登録している 2. 登録していない	
⑮患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造 ※○は 1 つだけ		1. あり 2. なし	

2. 貴薬局の体制等についてお伺いします (平成 29 年 6 月末現在)。

①貴薬局の管理薬剤師についてご記入ください。			
1) 貴薬局 (当該店舗) での勤務年数		() 年 () か月	
2) 上記 1) のうち、管理薬剤師としての在籍年数		() 年 () か月	
3) 保険薬剤師としての薬局勤務総年数		() 年 () か月	
4) 貴薬局 (当該店舗) における 1 週間の平均勤務時間		() 時間 () 分	

②職員数と 平均勤務時間 ※該当者がいない場合は「0」とご記入ください。		常勤 (実人数)	非常勤	
			実人数	平均勤務時間 ^{注 1}
1) 薬剤師 (管理薬剤師含む)		() 人	() 人	() 時間
2) その他 (事務職員等)		() 人	() 人	() 時間

注 1. 非常勤職員が複数名いる場合には、その全員の平均値 (非常勤職員の 1 週間の合計勤務時間 ÷ 非常勤職員数) をご記入ください。

③貴薬局(当該店舗)に勤務する薬剤師(上記質問②の「薬剤師」)について該当する人数をご記入ください。

※すべて「実人数」でご記入ください。該当者がいない場合は「0」とご記入ください。

	常勤(実人数)	非常勤(実人数)
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数(休職中の者も含む)	() 人	() 人
2) 保険薬剤師として 3 年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	() 人	() 人
3) 当該店舗に 6 月以上在籍している薬剤師数	() 人	() 人
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	() 人	() 人
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	() 人	() 人
6) 「かかりつけ薬剤師」 ^{注2} の要件を満たしている薬剤師数	() 人	() 人
7) 「かかりつけ薬剤師」 ^{注2} として届出している薬剤師数	() 人	() 人

注2. かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指します。

④貴薬局における土日の開局状況についてお答えください。

	平成 28 年 6 月	平成 29 年 6 月
1)土曜日の開局	1. 毎週開局している 2. 毎週ではないが、開局する日もある 3. 開局していない 4. その他（具体的に ）	1. 毎週開局している 2. 毎週ではないが、開局する日もある 3. 開局していない 4. その他（具体的に ）
2)日曜日の開局	1. 毎週開局している 2. 毎週ではないが、開局する日もある 3. 開局していない 4. その他（具体的に ）	1. 毎週開局している 2. 毎週ではないが、開局する日もある 3. 開局していない 4. その他（具体的に ）

⑤貴薬局における開局時間・日数についてお答えください。

	平成 28 年 6 月	平成 29 年 6 月
1) 平日(月～金曜日)の5日間における開局時間 ※最大、24時間×5=120時間となります。	(.) 時間／5日間	(.) 時間／5日間
2) 6月の土曜日の総開局時間	(.) 時間／月	(.) 時間／月
3) 6月の日曜日の総開局時間	(.) 時間／月	(.) 時間／月
4) 6月1か月間の開局日数 ※半日開局の場合「0.5」日としてください。	(.) 日／1か月間	(.) 日／1か月間

⑥貴薬局では、どのように24時間対応が可能な体制を整えていますか。 ※○は1つだけ

1. 自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている（→4ページの質問⑦へ）
2. 近隣の保険薬局と連携して24時間対応が可能な体制を整えている
→24時間対応のために連携している薬局数：（ ） 薬局 （→4ページの質問⑦へ）
3. 24時間対応が可能な体制を整えていない
4. その他（具体的に ）（→4ページの質問⑦へ）

【「3. 24時間対応が可能な体制を整えていない」と回答した薬局の方】

⑥-1 24時間対応が可能な体制を整えていない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 近隣に24時間対応をしている薬局があるため
2. 保険調剤をほとんどしていないため
3. 近隣に保険薬局がそもそも存在しないため
4. 24時間対応体制に必要な連携薬局を確保することが困難なため
5. 地域にニーズがないと考えるため
6. 24時間対応に必要な人員体制を確保できないため
7. その他（具体的に

)

⑦貴薬局のある地域では、24時間対応について地域薬剤師会等による当番制を実施していますか。 ※○は1つだけ

1. 実施している
2. 実施していない
3. その他（具体的に

)

3. 貴薬局の調剤状況等についてお伺いします。

①平成29年6月1か月間の算定回数をご記入ください。 ※算定実績がない場合は「0」とご記入ください。

1) 薬剤服用歴管理指導料(38点) (6か月以内に再来局した患者に行った場合)	() 回
2) 薬剤服用歴管理指導料(50点) (6か月以内に再来局した患者でない場合) ^{注3}	() 回
3) 薬剤服用歴管理指導料(50点) (上記以外の場合)	() 回
4) 薬剤服用歴管理指導料(38点) (特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	() 回
5) 重複投薬・相互作用等防止加算(30点)	() 回
6) 在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料(30点)	() 回
7) 外来服薬支援料	() 回
8) 上記7)のうち、ブラウンバッグ運動の取組によるものの算定回数	() 回
9) 服薬情報等提供料(20点)	() 回
10) 上記9)のうち、患者の服薬期間中に新たに知り得た安全性情報や服薬状況の確認及び必要な指導を患者に提供した場合の算定回数	() 回
11) 在宅患者訪問薬剤管理指導料	() 回
12) 【介護保険】居宅療養管理指導費(介護予防を含む)	() 回

注3. 6か月以内に再来局した患者でなく50点を算定した場合は、全てこちらに集計してご記入ください。

【重複投薬・相互作用等防止加算等の算定回数が改定前と比較して「減少」または「0」回だった薬局の方】

②重複投薬・相互作用等防止加算等の算定回数の実績が減少した、または、なかった最大の理由は何ですか。 ※○は1つだけ

1. 重複投薬・相互作用等について、医療機関で把握され既に処方変更対応済みであるため
2. 重複投薬・相互作用等について、薬局で把握した情報をあらかじめ医療機関に提供したことで、既に処方変更対応済みであるため
3. 患者がお薬手帳を持参しないなどのため、他の薬局で調剤された医薬品を把握できないため
4. 疑義照会をしたが、医師が処方変更不要と回答したため
5. その他（具体的に

)

③平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日の 1 年間の算定回数をご記入ください。

1)在宅患者訪問薬剤管理指導料	() 回
2)【介護保険】居宅療養管理指導費(介護予防を含む)	() 回

④平成 29 年 6 月 1 か月間に行った疑義照会の件数をご記入ください。

	かかりつけ薬剤師指導料等 注4を算定した患者に係る 件数	薬剤服用歴管理指導料 を算定した患者に係る 件数
1)疑義照会を行った件数	() 件	() 件
2)うち、薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	() 件	() 件
3)うち、重複投薬等防止加算 ^{注5} を算定した件数	() 件	() 件
4)うち、重複投薬等防止加算 ^{注5} を算定しなかった件数	() 件	() 件
5)うち、重複投薬に関する件数	() 件	() 件
6)うち、相互作用に関する件数	() 件	() 件
7)うち、残薬の処方日数調整に関する件数	() 件	() 件
8)うち、薬学的観点からの減薬に関する件数	() 件	() 件
9)その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	() 件	() 件
10)うち、薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	() 件	() 件

注 4. 「かかりつけ薬剤師指導料」、「かかりつけ薬剤師包括管理料」を指します。

注 5. 「重複投薬・相互作用等防止加算」、「在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料」を指します。

⑤平成 28 年 4 月以降、貴薬局では、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い、「服薬情報提供料」を算定したことがありますか。 ※○は 1 つだけ

1. ある	2. ない (→質問⑥へ)
-------	---------------

【「1.ある」と回答した薬局】

⑤-1 情報提供を行った内容は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

- | | | |
|-----------------------------------|------------|------------------|
| 1. 患者の服用薬 | 2. 患者の服薬状況 | 3. 患者に対する服薬指導の要点 |
| 4. 患者の状態等 | 5. 残薬 | |
| 6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための技術工夫等の調剤情報 | | |
| → 具体的に | | |
| 7. その他 (具体的に | | |

⑥貴薬局では、重複投薬や残薬を確認・削減するためにどのような取組を行っていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

- 患者に複数のお薬手帳を持っているか確認し、複数ある場合には一つにまとめるようにしている
- 患者にお薬手帳を持参するよう、説明している
- 患者に節約バッグ等を渡し、次回来局時に残薬を持参してもらっている
- 重複投薬や残薬等について医師に疑義照会や情報提供を積極的に行っている
- その他 (具体的に

4. かかりつけ薬剤師に関する取組状況等についてお伺いします。

①貴薬局では、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料(以下、「かかりつけ薬剤師指導料等」)の届出をしていますか。 ※○は1つだけ

1. 届出をしている
2. 届出をしていない (→7ページ質問⑨へ)

【届出をしている薬局】

②以下の処方せん受付回数・患者数についてご記入ください。

1)平成29年6月1か月間の処方せん受付回数	() 回
2)平成29年6月に処方せんを持参した患者のうち、平成29年5月までに、かかりつけ薬剤師指導料等 ^{注4} の同意を取得済の患者数	() 人
3)平成29年6月に処方せんを持参した患者のうち、平成29年6月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等 ^{注4} の同意を取得した患者数	() 人

【届出をしている薬局】

③平成29年6月1か月間における、かかりつけ薬剤師指導料等^{注4}の算定患者数と算定回数をご記入ください。

	算定した患者数(実人数 ^{注6})	算定回数
1)かかりつけ薬剤師指導料	() 人	() 回
2)かかりつけ薬剤師包括管理料	() 人	() 回

注6.「算定した患者数(実人数)」では、同一の患者に複数回算定しても算定患者数は「1人」とカウントしてください。

【届出をしている薬局】

④平成29年6月1か月間における、かかりつけ薬剤師指導料等^{注4}を算定した患者について、年齢別の患者数をご記入ください。

	「かかりつけ薬剤師指導料」算定患者	「かかりつけ薬剤師包括管理料」算定患者
0～15歳	() 人	() 人
15～64歳	() 人	() 人
65～74歳	() 人	() 人
75歳以上	() 人	() 人
年齢不明	() 人	() 人

【届出をしている薬局】

⑤「かかりつけ薬剤師包括管理料」を算定する上で連携している医療機関数
(地域包括診療加算・認知症地域包括診療加算・地域包括診療料・認知症地域包括診療料を算定している医療機関)

() 施設

【届出をしている薬局】

⑥貴薬局には、かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件(薬局勤務経験、勤務時間、在籍期間、研修受講、地域活動への参加)をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の方はいますか。 ※○は1つだけ

1. いる
2. いない (→7ページの質問⑦へ)

【該当の薬剤師がいる薬局】

⑥-1 届出を行っていない薬剤師がいる理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 24時間対応が難しいから
2. かかりつけ薬剤師指導料を算定するメリットを感じないから
3. かかりつけ薬剤師指導料の同意を取得する際に、患者に対しそのメリットを説明できないから
4. 経営的な判断から
5. その他（具体的に

【届出をしている薬局】

⑦かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等として、貴施設の状況に最も近いものにそれぞれ○をつけてください。 ※○はそれぞれ1つずつ

	あてはまる	どちらかというにあてはまる	どちらかというにあてはまらない	あてはまらない	わからない
1) 重複投薬・飲み合わせのチェックが行いやすくなった	1	2	3	4	5
2) 医師への疑義照会を積極的に行うようになった	1	2	3	4	5
3) 丁寧な服薬指導ができるようになった	1	2	3	4	5
4) 在宅訪問での薬学管理を積極的に行うようになった	1	2	3	4	5
5) 副作用・服薬状況を処方医に情報提供することが増えた	1	2	3	4	5
6) 医師への処方提案が増えた	1	2	3	4	5
7) 残薬解消を積極的に行うようになった	1	2	3	4	5
8) 残薬の削減・解消が進んだ	1	2	3	4	5
9) 電話等で服薬状況や体調の変化の把握などフォローをしっかりと行うようになった	1	2	3	4	5
10) 後発医薬品への切替が進んだ	1	2	3	4	5
11) 患者や家族等からの相談が増えた	1	2	3	4	5
12) 患者が他院の処方せんも含めて持ってくるようになった	1	2	3	4	5
13) 患者の服薬状況が改善した	1	2	3	4	5

⑧上記⑦以外に、診療報酬改定の影響・効果等がございましたら、ご記入ください。

(→この後は8ページの質問⑩へ)

【「かかりつけ薬剤師指導料等」の届出をしていない薬局】

⑨貴薬局では、かかりつけ薬剤師指導料等^{注4}の届出をしていないのはなぜですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 研修要件以外のすべての施設基準の要件を満たす薬剤師がいないため
2. 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修を受講していないため
3. 医療に係る地域活動の取組に参画している薬剤師がいないため
4. 経営上の判断による（具体的に
5. その他（具体的に

【「かかりつけ薬剤師指導料等」の届出をしていない薬局】

⑩貴薬局では、今後、かかりつけ薬剤師指導料等^{注4}の届出をする予定・意向がありますか。 ※○は1つだけ

1. 具体的な予定がある→予定時期：平成（ ）年（ ）月	
2. 時期は未定だが、届出を検討中	
3. 届出の予定はない	
4. その他（具体的に	）

【全ての薬局の方にお伺います。】

⑪「かかりつけ薬剤師」としての機能を強化する上での課題等がございましたら、ご記入ください。
--

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）

保険薬局の利用に関する実態及び意識調査 調査票

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

①性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	②年齢	() 歳
③お住まい	() 都道府県		
④お手持ちの健康保険証の種類 ※お手持ちの健康保険証の「保険者」名称をご確認ください。○は1つだけ			
1. 国民健康保険（国保） 2. 健康保険組合（健保組合） 3. 全国健康保険協会（協会けんぽ） 4. 共済組合（共済） 5. 後期高齢者医療広域連合（広域連合） 6. その他（具体的に ） 7. わからない			
⑤医療費の自己負担額（薬局の窓口で支払う金額のことで、お薬の容器代などは含まれません）がありますか。 ※○は1つだけ			
1. ある 2. ない			

2. 医療機関や保険薬局の利用状況等についておうかがいします。

①あなたご自身が、定期的に受診している医療機関（病院・診療所）はいくつありますか。	() 医療機関 ※ない場合は「0」とお書きください。
②あなたには、「かかりつけ医*」がいますか。 ※○は1つだけ *なんでも相談でき、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医・専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療・保健・福祉を担う総合的な能力を有する医師	
1. いる 2. いない	
③あなたは「お薬手帳」をお持ちですか。 ※○は1つだけ	
1. 持っている 2. 持っていない（→2ページの質問④へ）	
③-1 お薬手帳を何冊をお持ちですか。	
() 冊	

③-2 **医療機関**でお薬手帳をどのように活用していますか。※○は1つだけ

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 毎回、医師などに見せている | 2. 時々、医師などに見せている |
| 3. 持っていくが見せていない | |
| 4. 持っていない→ | その理由をお書きください |
| 5. その他（具体的に | |

③-3 **薬局**でお薬手帳をどのように活用していますか。※○は1つだけ

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 毎回、薬剤師に見せている | 2. 時々、薬剤師に見せている |
| 3. 持っていくが見せていない | |
| 4. 持っていない→ | その理由をお書きください |
| 5. その他（具体的に | |

【すべての方におうかがいします】

④保険薬局に「お薬手帳」を持っていくと支払額が安くなることをご存知でしたか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

⑤あなたはスマートフォンやタブレット端末を使った「電子お薬手帳」を利用したいと思いますか。
※○は1つだけ

- | | |
|----------------|----------|
| 1. 既に利用している | 2. 利用したい |
| 3. 利用しようとは思わない | 4. わからない |
| 5. その他（具体的に | |

⑥あなたには、定期的に、医療機関（病院・診療所）に行って処方してもらっているお薬がありますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-------|--------------|
| 1. ある | 2. ない（→質問⑦へ） |
|-------|--------------|

⑥-1 あなたは、現在、1日あたり何種類のお薬を飲んで（使って）いますか。

飲み薬：（ ）種類

飲み薬以外（貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬など）：（ ）種類

【すべての方におうかがいします】

⑦医療機関から出される処方せんを持っていく薬局をどのように決めていますか。 ※○は1つだけ

- | |
|--|
| 1. どの医療機関の処方せんも、いつも同じ1つの薬局に持っていく |
| 2. どの医療機関の処方せんも、できるだけ同じ1つの薬局に持っていくようにしているが、別の薬局に持っていくこともある |
| 3. 医療機関ごとに処方せんを持っていく薬局が異なる |
| 4. 処方せんをもっていく薬局を特に決めていない |
| 5. その他（具体的に |

3. 本日利用した薬局について伺います。

①本日利用した薬局に処方せんを持っていくようになってから、どのくらい経ちましたか。

※○は1つだけ

1. 初めて利用してから1年未満（今回が初めての場合を含む）
2. 初めて利用してから1年以上～3年未満
3. 初めて利用してから3年以上～5年未満
4. 初めて利用してから5年以上

②本日利用した薬局以外に、平成 29 年 4 月以降に処方せんを持っていった薬局はいくつありますか。

※○は1つだけ

1. この薬局以外にはない
2. この薬局以外にもある→ () 薬局くらい

③本日利用した薬局を選んだ理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

【薬局のサービス】

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれているから
2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが
大丈夫かなどを確認してもらえるから
3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に
問合せを行ってくれるなど、調整してくれるから
4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるから
5. 後発医薬品についてきちんと説明してくれるから
6. 自分が使用している薬を必ず確保してくれるから
7. 在宅にも取り組んでいる薬局だから
8. 地域の医療機関について情報をよく知っているから
9. 開局している時間が長いから
10. 薬局が閉まっている時間帯でも電話連絡ができるから
11. 市販薬の品揃えが良いから

【薬剤師】

12. いつも同じ薬剤師が対応してくれるから
13. 薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから
14. 薬剤師の対応が良いから

【立地】

15. 家の近くにあったから
16. 職場・学校の近くにあったから
17. 通勤経路・通学経路上にあったから
18. 医療機関の近くにあったから
19. その他（具体的に ）

④上記③の中で最大の理由は何ですか。

※あてはまる番号を1つだけお書きください。

⑤あなたはこの1年くらいの間に、本日利用した薬局で、投与されているお薬の重複や飲み合わせが悪いこと等がわかって、医師に薬を変更してもらったことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない 3. わからない

⑥あなたは、4月以降、本日利用した薬局に、残っている薬を持ってきて相談したことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない (→4. 質問①へ) 3. わからない (→4. 質問①へ)

⑥-1 その時、薬剤師が、処方した医師に相談してくれましたか。 ※○は1つだけ

1. 相談してくれた 2. 相談してくれなかった 3. わからない

⑥-2 結果的に、調剤してもらう薬を減らすことができましたか。 ※○は1つだけ

1. できた 2. できなかった 3. わからない

4. かかりつけ薬剤師についてのお考え等をおうかがいします。

①あなたには、「かかりつけ薬剤師*」がいますか。 ※○は1つだけ

*あなたが服用している薬をすべて知っていて、薬の飲み忘れがないか、複数の医療機関からの薬で重複しているものがないかなどをチェックしてくれる、薬のことをなんでも相談できる薬剤師

1. いる 2. いない (→5ページの質問②へ)

①-1「かかりつけ薬剤師」がいてよかったと実感した経験として、あてはまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

0. 特にない

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれること

2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが大丈夫かなどを確認してもらえること

3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に問合せを行ってくれるなど、調整してくれること

4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるなど、服薬管理・指導を丁寧にしてしてくれること

5. 薬についてわかりやすく説明してくれること

6. 薬に関する相談に対応してくれること

7. 後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること

8. 医療機関についての相談ができること

9. 薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていること

10. 自分が使用している薬を必ず確保してくれること

11. 薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること

12. 介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること

13. その他（具体的に ）

【すべての方におうかがいします】

②あなたは、「かかりつけ薬剤師指導料」に同意していますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 同意している | 2. 同意していない |
| 3. わからない | |

③あなたは、「かかりつけ薬剤師」について、どのようなことを重視しますか。「かかりつけ薬剤師」がいない場合については、仮に「かかりつけ薬剤師」を持つとしたらどのようなことを重視するかお答えください。※あてはまる番号すべてに○

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれること
2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが大丈夫かなどを確認してもらえること
3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に問合せを行ってくれるなど、調整してくれること
4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるなど、服薬管理・指導を丁寧にしてくれること
5. 薬についてわかりやすく説明してくれること
6. 薬に関する相談に対応してくれること
7. 後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること
8. 医療機関についての相談ができること
9. 薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていること
10. 自分が使用している薬を必ず確保してくれること
11. 薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること
12. 介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること
13. その他（具体的に

④上記③の中で最も重視することは何ですか。

※あてはまる番号を1つだけお書きください。

⑤あなたは、「かかりつけ薬剤師」を持ちたいと思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 持ちたいと思う | 2. どちらかというを持ちたいと思う |
| 3. どちらかというを持ちたいと思わない | 4. 持ちたいと思わない |
| 5. わからない | |

⑥かかりつけ薬剤師・薬局についてご意見等があればお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
8月11日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、
 お近くのポストに投函してください。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）
保険薬局の利用に関する実態及び意識調査 **調査票**

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。
 この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人（代筆の場合も含む）	2. 本人以外のご家族等（具体的に
--------------------	-------------------

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

①性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	②年齢	() 歳
③お住まい	() 都道府県		
④お手持ちの健康保険証の種類 ※お手持ちの健康保険証の「保険者」名称をご確認ください。○は1つだけ			
1. 国民健康保険（国保） 2. 健康保険組合（健保組合） 3. 全国健康保険協会（協会けんぽ） 4. 共済組合（共済） 5. 後期高齢者医療広域連合（広域連合） 6. その他（具体的に) 7. わからない			
⑤医療費の自己負担額（薬局の窓口で支払う金額のことで、お薬の容器代などは含まれません）がありますか。 ※○は1つだけ			
1. ある 2. ない			

2. 医療機関や保険薬局の利用状況等についておうかがいします。

①あなたご自身が、定期的に受診している医療機関（病院・診療所）はいくつありますか。	() 医療機関 ※ない場合は「0」とお書きください。
②あなたには、「かかりつけ医*」がいますか。 ※○は1つだけ *なんでも相談でき、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医・専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療・保健・福祉を担う総合的な能力を有する医師	
1. いる 2. いない	
③あなたは「お薬手帳」をお持ちですか。 ※○は1つだけ	
1. 持っている 2. 持っていない（→2ページの質問④へ）	
③-1 お薬手帳を何冊お持ちですか。	
() 冊	

③-2 医療機関でお薬手帳をどのように活用していますか。※○は1つだけ

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 毎回、医師などに見せている | 2. 時々、医師などに見せている |
| 3. 持っていくが見せていない | |
| 4. 持っていない→ | その理由をお書きください |
| 5. その他（具体的に | |

③-3 薬局でお薬手帳をどのように活用していますか。※○は1つだけ

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 毎回、薬剤師に見せている | 2. 時々、薬剤師に見せている |
| 3. 持っていくが見せていない | |
| 4. 持っていない→ | その理由をお書きください |
| 5. その他（具体的に | |

【すべての方におうかがいします】

④保険薬局に「お薬手帳」を持っていくと支払額が安くなることをご存知でしたか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

⑤あなたはスマートフォンやタブレット端末を使った「電子お薬手帳」を利用したいと思いますか。
※○は1つだけ

- | | |
|----------------|----------|
| 1. 既に利用している | 2. 利用したい |
| 3. 利用しようとは思わない | 4. わからない |
| 5. その他（具体的に | |

⑥あなたには、定期的に、医療機関（病院・診療所）に行って処方してもらっているお薬がありますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-------|--------------|
| 1. ある | 2. ない（→質問⑦へ） |
|-------|--------------|

⑥-1 あなたは、現在、1日あたり何種類のお薬を飲んで（使って）いますか。

飲み薬：（ ）種類

飲み薬以外（貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬など）：（ ）種類

【すべての方におうかがいします】

⑦医療機関から出される処方せんを持っていく薬局をどのように決めていますか。 ※○は1つだけ

- | |
|--|
| 1. どの医療機関の処方せんも、いつも同じ1つの薬局に持っていく |
| 2. どの医療機関の処方せんも、できるだけ同じ1つの薬局に持っていくようにしているが、別の薬局に持っていくこともある |
| 3. 医療機関ごとに処方せんを持っていく薬局が異なる |
| 4. 処方せんをもっていく薬局を特に決めていない |
| 5. その他（具体的に |

3. 本日利用した薬局についてお伺いします。

①本日利用した薬局に処方せんを持っていくようになってから、どのくらい経ちましたか。

※○は1つだけ

1. 初めて利用してから1年未満（今回が初めての場合を含む）
2. 初めて利用してから1年以上～3年未満
3. 初めて利用してから3年以上～5年未満
4. 初めて利用してから5年以上

②本日利用した薬局以外に、平成 29 年 4 月以降に処方せんを持っていった薬局はいくつありますか。

※○は1つだけ

1. この薬局以外にはない
2. この薬局以外にもある→ () 薬局くらい

③本日利用した薬局を選んだ理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

【薬局のサービス】

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれているから
2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが
大丈夫かなどを確認してもらえるから
3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に
問合せを行ってくれるなど、調整してくれるから
4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるから
5. 後発医薬品についてきちんと説明してくれるから
6. 自分が使用している薬を必ず確保してくれるから
7. 在宅にも取り組んでいる薬局だから
8. 地域の医療機関について情報をよく知っているから
9. 開局している時間が長いから
10. 薬局が閉まっている時間帯でも電話連絡ができるから
11. 市販薬の品揃えが良いから

【薬剤師】

12. いつも同じ薬剤師が対応してくれるから
13. 薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから
14. 薬剤師の対応が良いから

【立地】

15. 家の近くにあったから
16. 職場・学校の近くにあったから
17. 通勤経路・通学経路上にあったから
18. 医療機関の近くにあったから
19. その他（具体的に ）

④上記③の中で最大の理由は何ですか。

※あてはまる番号を1つだけお書きください。

⑤あなたはこの1年くらいの間に、本日利用した薬局で、投与されているお薬の重複や飲み合わせが悪いこと等がわかって、医師に薬を変更してもらったことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない 3. わからない

⑥あなたは、4月以降、本日利用した薬局に、残っている薬を持ってきて相談したことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない (→4. 質問①へ) 3. わからない (→4. 質問①へ)

⑥-1 その時、薬剤師が、処方した医師に相談してくれましたか。 ※○は1つだけ

1. 相談してくれた 2. 相談してくれなかった 3. わからない

⑥-2 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができましたか。 ※○は1つだけ

1. できた 2. できなかった 3. わからない

4. かかりつけ薬剤師についてのお考え等をおうかがいします。

①あなたには、「かかりつけ薬剤師*」がいますか。 ※○は1つだけ

*あなたが服用している薬をすべて知っていて、薬の飲み忘れがないか、複数の医療機関からの薬で重複しているものがないかなどをチェックしてくれる、薬のことをなんでも相談できる薬剤師

1. いる 2. いない (→5ページの質問②へ)

①-1「かかりつけ薬剤師」がいてよかったと実感した経験として、あてはまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

0. 特にない

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれること

2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが大丈夫かなどを確認してもらえること

3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に問合せを行ってくれるなど、調整してくれること

4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるなど、服薬管理・指導を丁寧にしてくれること

5. 薬についてわかりやすく説明してくれること

6. 薬に関する相談に対応してくれること

7. 後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること

8. 医療機関についての相談ができること

9. 薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていること

10. 自分が使用している薬を必ず確保してくれること

11. 薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること

12. 介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること

13. その他（具体的に ）

【すべての方におうかがいします】

②あなたは、「かかりつけ薬剤師指導料」に同意していますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 同意している | 2. 同意していない |
| 3. わからない | |

③あなたは、「かかりつけ薬剤師」について、どのようなことを重視しますか。「かかりつけ薬剤師」がいない場合については、仮に「かかりつけ薬剤師」を持つとしたらどのようなことを重視するかお答えください。※あてはまる番号すべてに○

1. 自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれること
2. いろいろな医療機関で出される薬について重複しているものがないか、飲み合わせが大丈夫かなどを確認してもらえること
3. 残っている薬がないかなどを確認してくれて、残っている薬がある場合は処方医に問合せを行ってくれるなど、調整してくれること
4. 飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋（一包化）に入れて渡してくれるなど、服薬管理・指導を丁寧にしてくれること
5. 薬についてわかりやすく説明してくれること
6. 薬に関する相談に対応してくれること
7. 後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること
8. 医療機関についての相談ができること
9. 薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていること
10. 自分が使用している薬を必ず確保してくれること
11. 薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること
12. 介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること
13. その他（具体的に

④上記③の中で最も重視することは何ですか。

※あてはまる番号を1つだけお書きください。

⑤あなたは、「かかりつけ薬剤師」を持ちたいと思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 持ちたいと思う | 2. どちらかというを持ちたいと思う |
| 3. どちらかというを持ちたいと思わない | 4. 持ちたいと思わない |
| 5. わからない | |

⑥かかりつけ薬剤師・薬局についてご意見等があればお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
8月11日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、
 お近くのポストに投函してください。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

**医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査並びに
かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査**

診療所票

※この「診療所票」は、医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬に関する取組、保険薬局との連携状況、お考え等についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・「※○は1つだけ」という質問については、あてはまる番号を 1つだけ ○で囲んでください。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、平成 29 年 6 月末現在の貴施設の状況についてお答えください。

1. 貴施設の概要についてお伺いします。

①医療機関名	()									
②所在地	() 都道府県 () 区市町村									
③開設者 ※○は1つだけ	01. 国 02. 公立・公的 03. 社会保険関係団体 04. 医療法人 05. 個人 06. その他の法人									
④標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	01. 内科 02. 外科 03. 整形外科 04. 脳神経外科 05. 小児科 06. 呼吸器科 07. 消化器科 08. 循環器科 09. 精神科 10. 眼科 11. 皮膚科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. リハビリテーション科 15. 歯科（歯科口腔外科等含む） 16. その他（具体的に)									
⑤医療機関の種別 ※○は1つだけ	01. 有床診療所 02. 無床診療所									
⑥【有床診療所の場合】許可病床数をご記入ください。										
一般病床	療養病床	(うち) 介護療養病床	精神病床	感染症病床	結核病床	全体				
床	床	床	床	床	床	床	床			
⑦全職員数（常勤換算*1）をご記入ください。※小数点以下第1位まで										
医師	歯科 医師	保健師 助産師 看護師	准看 護師	薬剤師	リハビ リ職 *2	管理 栄養士	その他 の医療 職*3	社会 福祉士	その他 の職員	計
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
*1 非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■1 週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間） ■1 か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4） *2 リハビリ職とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を指します。 *3 その他の医療職とは、臨床工学技士、臨床検査技師等、その他の医療系資格を有する者を指します。										
⑧日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無 ※○は1つだけ							01. あり 02. なし			

⑨日本医師会の認知症に係る研修*4を受講した医師の有無 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし
-------------------------------------	--------	--------

*4 都道府県及び指定都市が認知症地域医療支援事業として実施する研修事業で「認知症サポート医養成研修事業」と「かかりつけ医認知症対応力向上研修事業」があります。

⑩慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無 ※○は1つだけ	01. あり→ () 人	02. なし
⑪在宅療養支援診療所の届出状況 ※○は1つだけ	01. 機能強化型（単独型）在支診 02. 機能強化型（連携型）在支診 03. 機能強化型以外の在支診 04. 在支診ではない	
⑫施設基準の届出のあるもの ※あてはまる番号すべてに○	01. 地域包括診療料 02. 地域包括診療加算 03. 小児かかりつけ診療料 04. 特になし	
⑬時間外対応加算の種類 ※○は1つだけ	01. 時間外対応加算 1 02. 時間外対応加算 2 03. 時間外対応加算 3 04. 届出なし	
⑭現在の夜間救急対応の可否（外来） ※○は1つだけ	01. ほぼ毎日可能 02. 週3～5日可能 03. 週1～2日可能 04. ほとんど不可能	
⑮在宅医療の実施状況 ※○は1つだけ	01. 実施している →平成29年6月1か月間の在宅医療患者数（実人数）：() 人 02. 実施していない	
⑯診療報酬 1,000 点以上の手術の有無 ※○は1つだけ	01. あり →平成29年6月1か月間の1,000点以上の手術件数：() 件 02. なし	

2. 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等についてお伺いします。

	初診患者数	再診延べ患者数
①外来患者数 ※平成29年6月1か月間	() 人	() 人
②外来の院内・院外処方の割合	院内処方 () % + 院外処方 () % = 100% ※算定回数ベース	
③いわゆる門前薬局*5の有無 ※○は1つだけ	01. あり 02. なし	
④地域における、24時間対応の薬局の有無 ※○は1つだけ	01. あり 02. なし 03. 不明	
⑤連携している24時間対応の薬局*6の有無 ※○は1つだけ	01. あり→ () 薬局 02. なし	
⑥診療時間外の外来患者に対する処方について、どのように対応することが多いですか。 ※○は1つだけ	01. 院外処方になっている 02. 救急用の医薬品を備蓄し院内処方にしている 03. 診療時間外の患者はいない 04. その他（具体的に)	

*5 同一敷地内にある薬局を含みます。

*6 地域包括診療料等の算定にあたって連携している薬局を指します。

⑦平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数(実人数)と算定回数をご記入ください。 ※算定実績がない場合は「0」とご記入ください。		
	算定患者数(実人数)	算定回数
1) 地域包括診療料	() 人	() 回
2) 地域包括診療加算	() 人	() 回
3) 認知症地域包括診療料	() 人	() 回
4) 認知症地域包括診療加算	() 人	() 回
5) 小児かかりつけ診療料	() 人	() 回
6) 薬剤総合評価調整加算(250点、入院)	() 人	() 回
7) 薬剤総合評価調整管理料(250点、入院以外)	() 人	() 回
8) 連携管理加算(50点)	() 人	() 回
9) 在宅患者訪問薬剤管理指導料	() 人	() 回

⑧平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ

01. ある		02. ない (→質問⑨へ)	
▶ ⑧-1 「レ」又は「×」を記した処方せんは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚		
▶ ⑧-2 当該処方せんについて、残薬確認の結果、処方日数調整を行ったものは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚		

⑨平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ

01. ある		02. ない (→4 ページの質問⑩へ)	
▶ ⑨-1 上記に該当する処方せんは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚		
▶ ⑨-2 上記に該当する処方せんのうち、分割指示を行ったものはありますか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間 ※○は1つだけ	01. ある	02. ない	
▶ ⑨-3 分割調剤を行ってよかったことがあれば、その内容を具体的にお書きください。			
▶ ⑨-4 分割調剤を行ったことで、問題がありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間 ※○は1つだけ	01. あった	02. なかった	
▶ ⑨-5 問題が発生した場合、その内容を具体的にお書きください。			

⑩湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	01. 特に支障はない 02. やむを得ず、必要な場合には、処方せん等に理由を記載することで対応できる 03. 支障が生じている → 具体的な内容
--	---

⑪残薬、重複投薬・多剤投薬の改善など薬剤の適正使用を進めるにあたり、どのような薬局薬剤師であれば、連携を図りたいと考えますか。 ※あてはまる番号すべてに○	01. 患者が服用している薬を全て把握している薬剤師 02. 服用期間中に患者の状態を定期的にフォローしている薬剤師 03. 自分の処方意図や患者の疾患背景をある程度理解している薬剤師 04. 日常的に連携がとれている薬剤師 05. その他（具体的に
---	--

⑫平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等として、貴施設の状況に最も近いものにそれぞれ○をつけてください。 ※○はそれぞれ 1 つずつ						
	あてはまる	どちらかというにあてはまる	どちらかというにあてはまらない	あてはまらない	わからない	実施していない
1) 連携する保険薬局数が増えた	01	02	03	04	05	
2) 近隣に 24 時間対応の保険薬局が増えた	01	02	03	04	05	
3) 保険薬局からの疑義照会件数が増えた	01	02	03	04	05	
4) 保険薬局からの処方提案が増えた	01	02	03	04	05	
5) お薬手帳により定期的に受診している患者の、他院・他科での処方薬を把握しやすくなった	01	02	03	04	05	06
6) 保険薬局を通じて、定期的に受診している患者の、他院・他科での処方薬を把握しやすくなった	01	02	03	04	05	06
7) 保険薬局から重複投薬・相互作用に関する疑義照会が増え、処方変更することが増えた	01	02	03	04	05	06
8) 保険薬局から情報提供が増えた	01	02	03	04	05	06
9) 患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した	01	02	03	04	05	06
10) 残薬の削減・解消が進んだ	01	02	03	04	05	06
11) 患者の服薬状況が改善した	01	02	03	04	05	06
12) かかりつけ薬剤師がいる患者について、入退院時の連携がしやすくなった	01	02	03	04	05	06

⑬上記⑫以外に、診療報酬改定の影響・効果等がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

**医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査並びに
かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査**

病院票

※この病院票は、薬剤部責任者の方に、医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬に関する取組、保険薬局との連携状況、お考え等についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・「※○は1つだけ」という質問については、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、平成 29 年 6 月末現在の貴施設の状況についてお答えください。

1. 貴施設の概要についてお伺いします。

①医療機関名	()
②所在地	() 都道府県 () 区市町村
③開設者 *1 ※○は1つだけ	01. 国 02. 公立・公的 03. 社会保険関係団体 04. 医療法人 05. 個人 06. その他の法人

*1 開設者による分類は下記の通りです。

国 : 厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他（国）

公 立 : 都道府県、市町村、地方独立行政法人

公 的 : 日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体 : 健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

医療法人 : 医療法人、社会医療法人

その他の法人 : 公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、学校法人、その他の法人

④標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	01. 内科	02. 外科	03. 整形外科	04. 脳神経外科
	05. 小児科	06. 呼吸器科	07. 消化器科	08. 循環器科
	09. 精神科	10. 眼科	11. 皮膚科	12. 耳鼻咽喉科
	13. 泌尿器科	14. リハビリテーション科		
	15. 歯科（歯科口腔外科等含む）	16. その他（具体的に		

⑤許可病床数をご記入ください。

一般病床	療養病床	(うち) 介護療養病床	精神病床	感染症病床	結核病床	全体
床	床	床	床	床	床	床

⑥全職員数（常勤換算 *2）をご記入ください。※小数点以下第 1 位まで

医師	歯科 医師	保健師 助産師 看護師	准看 護師	薬剤師	リハビ リ職	管理 栄養士	その他 の医療 職	社会 福祉士	その他 の職員	計
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.

*2 非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。

■1 週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）

■1 か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4）

⑦日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし
⑧日本医師会の認知症に係る研修*3を受講した医師の有無 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし

*3 都道府県及び指定都市が認知症地域医療支援事業として実施する研修事業で「認知症サポート医養成研修事業」と「かかりつけ医認知症対応力向上研修事業」があります。

⑨慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無 ※○は1つだけ	01. あり→ () 人	02. なし
⑩承認等の状況 ※あてはまる番号すべてに○	01. 高度救命救急センター 02. 救命救急センター 03. 災害拠点病院 04. へき地医療拠点病院 05. 総合周産期母子医療センター 06. 地域周産期母子医療センター 07. 小児救急医療拠点病院 08. 地域医療支援病院 09. 特定機能病院 10. エイズ拠点病院 11. 専門病院（主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たもの） 12. 上記のいずれも該当しない	
⑪在宅療養支援病院の届出状況 ※○は1つだけ	01. 機能強化型（単独型）在支病 03. 機能強化型以外の在支病	02. 機能強化型（連携型）在支病 04. 在支病ではない
⑫地域包括診療料の施設基準の届出状況 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし
⑬救急医療体制 ※あてはまる番号すべてに○	01. 初期（軽度の救急患者への夜間・休日における診療を行う医療施設） 02. 二次（入院を要する救急医療施設） 03. 三次（救命救急センター） 04. 体制なし	

2. 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等についてお伺いします。

	初診患者数	再診延べ患者数
①外来患者数 ※平成29年6月1か月間	() 人	() 人
②外来の院内・院外処方の割合	院内処方 () % + 院外処方 () % = 100% ※算定回数ベース	
③いわゆる門前薬局*4の有無 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし
④地域における、24時間対応の薬局の有無 ※○は1つだけ	01. あり	02. なし 03. 不明
⑤連携している24時間対応の薬局*5の有無 ※○は1つだけ	01. あり→ () 薬局	02. なし
⑥診療時間外の外来患者に対する処方について、どのように対応することが多いですか。 ※○は1つだけ	01. 院外処方になっている 02. 救急用の医薬品を備蓄し院内処方にしている 03. 診療時間外の患者はいない 04. その他（具体的に)	

*4 同一敷地内にある薬局を含みます。

*5 地域包括診療料等の算定にあたって連携している薬局を指します。

⑦平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数(実人数)と算定回数をご記入ください。 ※算定実績がない場合は「0」とご記入ください。		
	算定患者数(実人数)	算定回数
1) 地域包括診療料	() 人	() 回
2) 認知症地域包括診療料	() 人	() 回
3) 薬剤総合評価調整加算(250点、入院)	() 人	() 回
4) 薬剤総合評価調整管理料(250点、入院以外)	() 人	() 回
5) 連携管理加算(50点)	() 人	() 回
6) 在宅患者訪問薬剤管理指導料	() 人	() 回

⑧平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ		
01. ある	02. ない (→質問⑨へ)	
➡ ⑧-1 「レ」又は「×」を記した処方せんは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚	
➡ ⑧-2 当該処方せんについて、残薬確認の結果、処方日数調整を行ったものは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚	

⑨平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ		
01. ある	02. ない (→質問⑩へ)	
➡ ⑨-1 上記に該当する処方せんは何枚くらいありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間	約 () 枚	
➡ ⑨-2 上記に該当する処方せんのうち、分割指示を行ったものはありますか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間 ※○は1つだけ	01. ある 02. ない	
➡ ⑨-3 分割調剤を行ってよかったことがあれば、その内容を具体的にお書きください。		
➡ ⑨-4 分割調剤を行ったことで、問題がありましたか。 ※平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間 ※○は1つだけ	01. あった 02. なかった	
➡ ⑨-5 問題が発生した場合、その内容を具体的にお書きください。		

⑩湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	01. 特に支障はない 02. やむを得ず、必要な場合には、処方せん等に理由を記載することで対応できる 03. 支障が生じている → 〔 具体的な内容 〕
---	--

⑪残薬、重複投薬・多剤投薬の改善など薬剤の適正使用を進めるにあたり、どのような薬局薬剤師であれば、連携を図りたいと考えますか。 ※あてはまる番号すべてに○	01. 患者が服用している薬を全て把握している薬剤師 02. 服用期間中に患者の状態を定期的にフォローしている薬剤師 03. 自分の処方意図や患者の疾患背景をある程度理解している薬剤師 04. 日常的に連携がとれている薬剤師 05. その他（具体的に
---	--

⑫平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等として、貴施設の状況に最も近いものにそれぞれ○をつけてください。 ※○はそれぞれ1つずつ						
	あてはまる	どちらかというにあてはまる	どちらかというにあてはまらない	あてはまらない	わからない	実施していない
1) 連携する保険薬局数が増えた	01	02	03	04	05	
2) 近隣に 24 時間対応の保険薬局が増えた	01	02	03	04	05	
3) 保険薬局からの疑義照会件数が増えた	01	02	03	04	05	
4) 保険薬局からの処方提案が増えた	01	02	03	04	05	
5) お薬手帳により定期的に受診している患者の、他院・他科での処方薬を把握しやすくなった	01	02	03	04	05	06
6) 保険薬局を通じて、定期的に受診している患者の、他院・他科での処方薬を把握しやすくなった	01	02	03	04	05	06
7) 保険薬局から重複投薬・相互作用に関する疑義照会が増え、処方変更することが増えた	01	02	03	04	05	06
8) 保険薬局から情報提供が増えた	01	02	03	04	05	06
9) 患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した	01	02	03	04	05	06
10) 残薬の削減・解消が進んだ	01	02	03	04	05	06
11) 患者の服薬状況が改善した	01	02	03	04	05	06
12) かかりつけ薬剤師がいる患者について、入退院時の連携がしやすくなった	01	02	03	04	05	06

⑬上記⑫以外に、診療報酬改定の影響・効果等がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。